

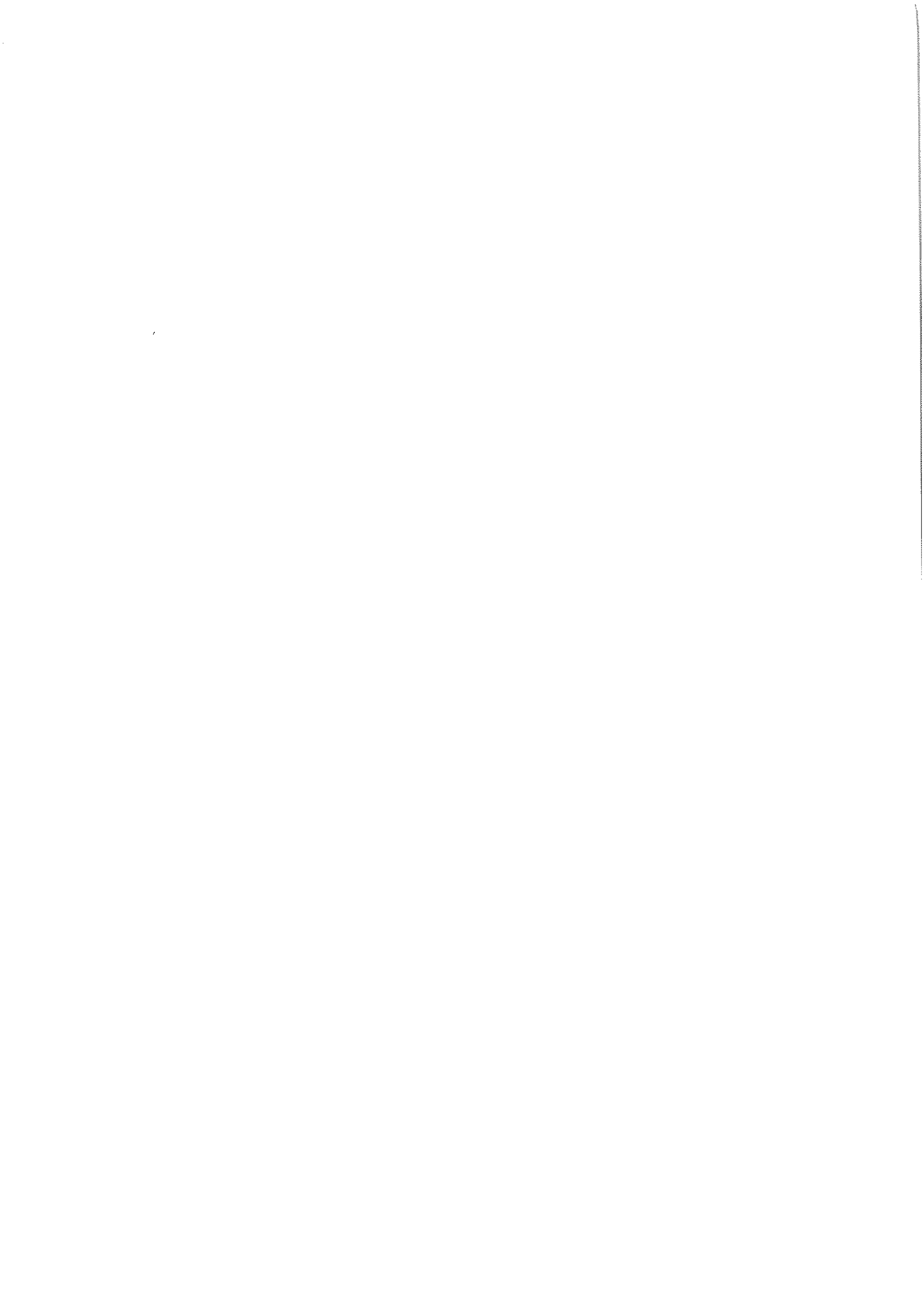
(注意)

授業進度予定は、皆さん方の理解度により、変更になることもあります。

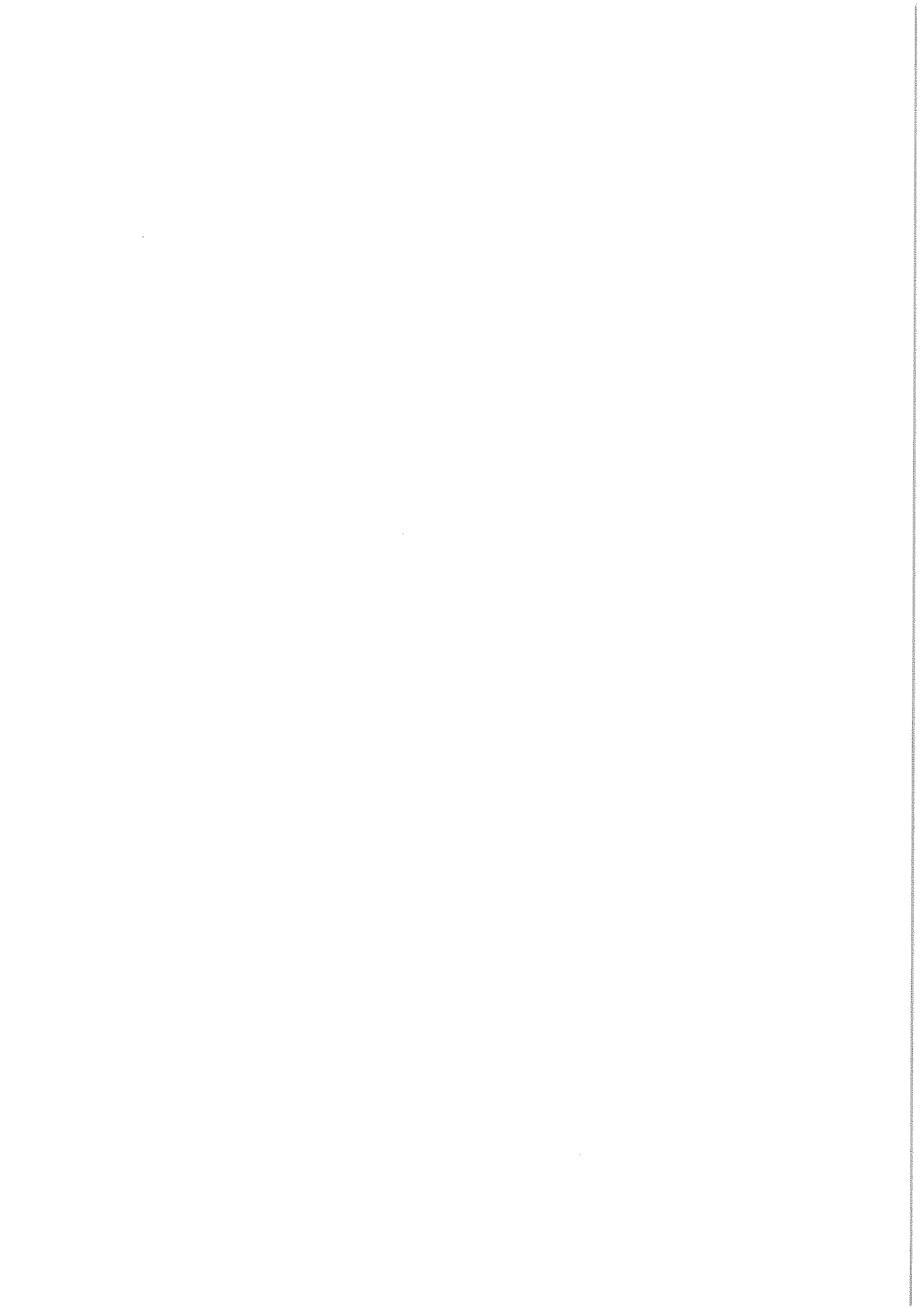


Kumamoto, D.H

熊本歯科衛生士専門学院



講師名	高宮正之	実務経験	理学博士。熊本大学大学院先端科学研究部教授、熊本大学理学部学部長、熊本大学名誉教授、現在は熊本大学大学教育統括管理運営機構シニア教授。研究専門分野は植物系統分類学。
授業との関連性	理学博士としての研究や大学での教授を踏まえ、生物の細胞構造や機能などの基礎知識や生命の連続性について講義・演習する。		
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義・実験
		単位数	2単位(30時間)
		授業回数	15
授業目標	生物の基本的な単位である細胞の構造と機能、代謝、細胞分裂、遺伝の法則や分子遺伝学を理解した上で、生命の連続性を学びとる。生物学の基本を習得し、専門科目学習のための基礎を作る。iPS細胞、ヒトゲノム、クローン動物、ゲノム編集など、日常の生物学的話題を理解する基礎的能力を習得する。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新「生物学」 川合進二郎著 医歯薬出版KK		
参考文献	高校での生物基礎や生物で使用した生物資料集。その他、授業中に紹介する。		
履修上の注意	プリントを毎時間配るので、プリント用のファイルを用意し、毎時間前回のものを含めて持ってくること。板書量が多いので専用のノートを用意し、ノートをきちんととること。		
回	授業計画	到達目標	
1	導入。生物知識の必要性。生命の起源からヒトの進化までを概説する。	毎日の生活において、生物の知識がいかに必要かを導入する。今日の生命がどのように誕生し、進化してきたのか。35億年の流れと現在のヒトの在り方について、概要を知り、生命の連続性の意味を知る。生物学について必要性を感じ興味を持つようになる。	
2	生命の単位 生命とは何か、細胞の大きさはどのくらいか、生命と細胞との関係を知る。	生命とは何かを述べる事ができる。細胞の大きさの範囲を知り、述べる事ができる。顕微鏡の種類による写真の違いを類別できる。原核生物と真核生物、単細胞生物と多細胞生物を類別できる。	
3	細胞の構造と機能(1) 細胞の基本的構造、細胞小器官とは、生体膜、核、ミトコンドリア、小胞体、ゴルジ体、リボソームなどの構造と機能などを理解する。	細胞とは、細胞小器官とは何かを説明することができる。生体膜、核、ミトコンドリア、小胞体、ゴルジ体、リボソームの構造と機能を列記できる。	
4	細胞の構造と機能(2) リソソーム、色素体、細胞質基質、細胞骨格などの構造と機能、原核細胞と真核細胞、ウイルスなどを理解する。	リソソーム、色素体、細胞質基質、細胞骨格などの構造と機能を列記できる。細胞内のさまざまな小器官の係り合いを理解することができる。原核細胞と真核細胞の違いを列記し、真核細胞の起源について述べる事ができる。ウイルスと細胞との違いを類別し、列記することができる。	
5	細胞の構造と機能(3) 細胞の活動(生物とエネルギー、代謝)について理解する。	生物にとってエネルギーとは何かを理解し、エネルギーを受け渡す物質であるATPについて述べる事ができる。代謝、異化、好気呼吸と嫌気呼吸との違いについて述べる事ができる。	
6	生命の連続性(1) 細胞分裂(体細胞分裂)、染色体について理解する。	生命の連続性の基礎となる細胞分裂を理解し、体細胞分裂の各期の特徴を説明できる。染色体、紡錘体、中心体などの専門用語の意味を述べる事ができる。	
7	生命の連続性(2) 細胞周期、減数分裂について理解する。	細胞周期と減数分裂の各期の特徴を説明できる。相同染色体、対合、組み換えなどの専門用語の意味を述べる事ができる。体細胞分裂と減数分裂の共通点や差異を列記できる。	
8	生命の連続性(3) 配偶子とは何かを知り、ヒトの卵と精子の形成について理解する。	配偶子、卵、精子などの意味を述べる事ができる。ヒトの卵と精子の形成過程を理解し、共通点や差異を列記できる。	
9	生命の連続性(4) ヒトでの受精と発生の基礎的知識を身につけ、幹細胞やiPS細胞とは何かを知る。	受精と発生の概要について述べる事ができる。減数分裂・配偶子形成・受精・体細胞分裂・発生の一連の流れを理解できる。幹細胞やiPS細胞について述べる事ができる。	
10	(実際にはクラスを半分に分け、10と11を交互に行う。) ビデオ学習、ヒトの受精と発生について総括し、遺伝的意味を理解する。	授業で習った受精と発生の概要の基礎知識をもとにして、ビデオ学習により理解を深める。一連の流れを述べる事ができる。	
11	顕微鏡実験。授業での知識を深めるため、顕微鏡を操作し、細胞と核の基礎構造や原形質流動を観察する。	顕微鏡を扱うことができる。観察している細胞の基本構造を説明できる。	
12	遺伝と変異(1) 遺伝の法則、遺伝の基礎的用語を理解する。	メンデル遺伝の法則について、列記できる。対立遺伝子、遺伝子型、対立形質、劣性形質などの用語の意味を、述べる事ができる。	
13	遺伝と変異(2) ヒトの遺伝(耳垢、血液型など)、遺伝子と染色体(染色体異常、判性遺伝など)を理解する。	耳垢、血液型などの遺伝子型や表現型について理解し、説明できる。染色体異常について述べる事ができる。判性遺伝について、理解し、説明できる。	
14	遺伝と変異(3) DNA、RNA、タンパク質合成、セントラルドグマなどについて理解する。	DNAとRNAについて、構造と機能を列記できる。DNAからタンパク質合成までの一連の流れを理解し、遺伝子発現のセントラルドグマについて述べる事ができる。	
15	遺伝と変異(4) 遺伝子から細胞、個体までの一連の流れを理解する。遺伝子工学、遺伝的変異などについて理解する。 全体のまとめ。	遺伝子から細胞、細胞分裂、形質発現、個体発生などの一連の流れを説明することができる。遺伝子工学や遺伝的変異のしくみについて述べる事ができる。	



# 【 化学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	澤村精昭	実務経験	熊本学園大学付属高等学校理科(化学)教諭。
授業との関連性	化学の教諭として長年の経験をとおり、科学的思考の基盤となる物質の性質や構造、変化を知り、歯科医療に用いる関連物質の組成構造や使用時の注意点について講義・演習する。		

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義・実験	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	化学は、物質の性質・構造、変化に関する学問である。本学院の学生が志す歯科衛生士は、医療の現場で、種々雑多な歯科材料などの物質に日常的に接する立場にあり、化学の基礎知識が必要不可欠である。高等学校で化学を履修した学生も履修しなかった学生もいるであろう。講義時間数が限られている中、学生に理解できるよう、平易に効率よく授業に取り組む予定である。
------	--

評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	最新「化学」 鶴房繁和著 医歯薬出版KK
------	----------------------

参考文献	講談社ブルーバックスシリーズ(化学、医療関係)平易にわかりやすく解説した本が多い。
------	---

履修上の注意	本講義では、教科書を基にできるだけ分かりやすく解説し、化学の基礎を重点的に授業で取り組みます。授業時間に制約がありますので、授業で理解できないことはどんな些細なことでも、授業中あるいは、授業時間外に気軽にどンドン質問して下さい。また、化学専門の授業内容のノートを作って下さい。テスト時の見返して役に立つと思います。どうしても理解できないときは補講をしますので、遠慮なく申し出て下さい。
--------	--

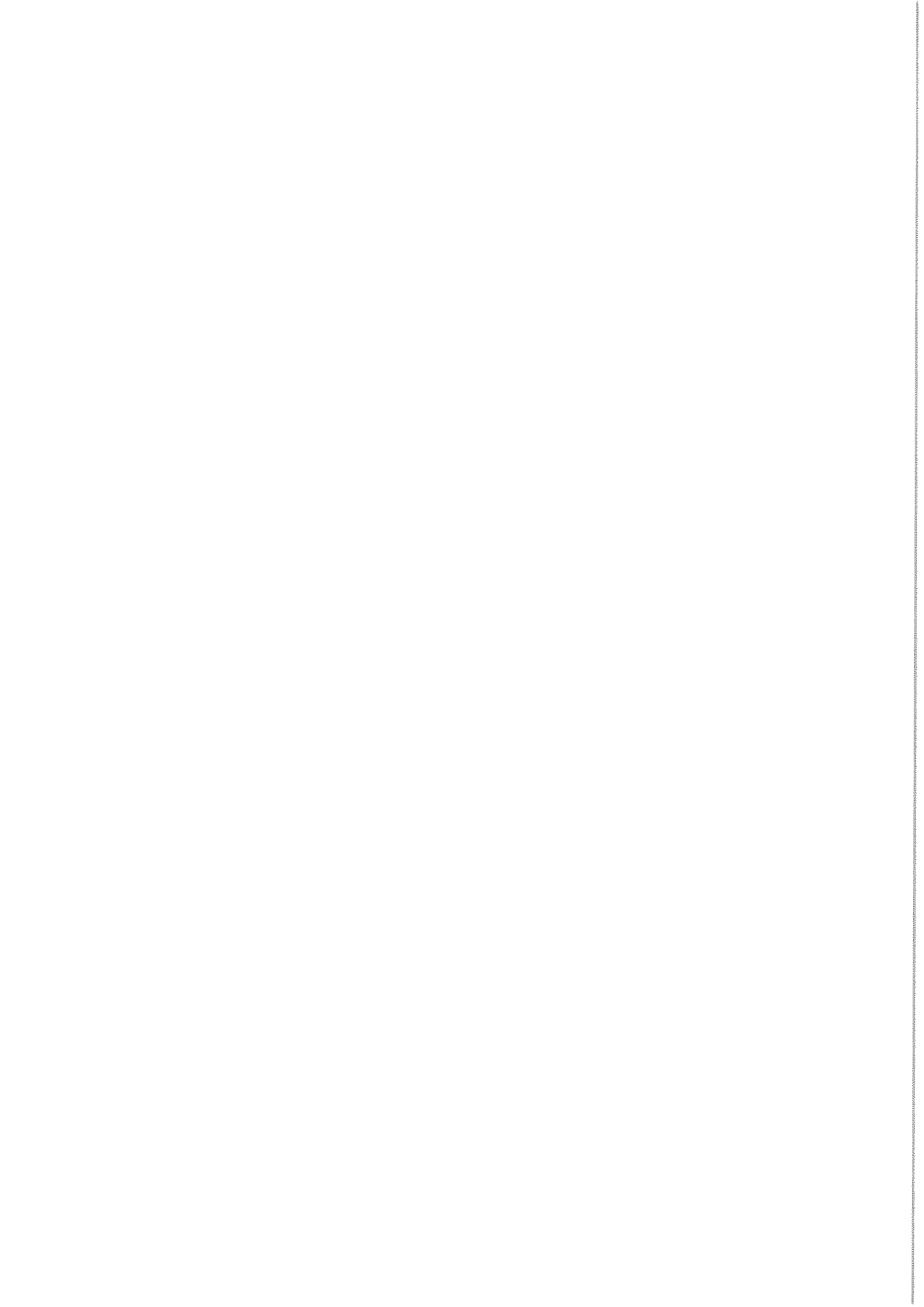
回	授業計画	到達目標
1	化学(chemistry)とはどのような学問か。 物質の基礎(その1) 物質の分類 物質を構成する基本粒子 物質を表す化学式	①化学で取り扱う内容について理解すること。 ②元素と原子の概念を説明し、主な元素記号を書く。 ③具体例から、混合物と純物質の違いを理解する。 ④純物質には化合物と単体があることを理解する。 ⑤元素記号や物質の化学式(電子式・構造式を含め)が書ける。
2	物質の基礎(その2) 物質を構成する原子 原子番号と質量数 原子の電子配置 原子と分子・イオン 同位体 元素の周期律と周期表	①原子を構成している基本粒子である陽子、中性子、電子を説明し、それらの概念を理解する。 ②原子番号、質量数を説明し、元素記号とともにそれらを表示する。 ③電子殻における電子配置を軌道のエネルギー順位から説明する。 ④分子のでき方、イオンのでき方を理解する。 ⑤周期律発見の歴史を理解し、周期表の概略を理解する。
3	物質の基礎(その3) 原子量と分子量・式量 物質質量(mol)について モルの応用 化学結合の種類と結晶	①化学で用いる相対質量概念を理解し、説明する。そして原子量と分子量・式量について習熟する。 ②アボガドロ数とモルの概念について理解する。 ③モルを使った計算について習熟する。 ④物質を構成する粒子の結合であるイオン結合、共有結合、金属結合について理解する。結晶が分類できる。
4	気体(その1) アボガドロの法則やボイルの法則 とシャルルの法則 理想気体の状態方程式 ヘンリーの法則と気体の溶解	①アボガドロの法則、ボイルの法則とシャルルの法則、ボイル・シャルルの法則について理解する。 ②気体の状態方程式や分圧の法則について理解する。 ③ヘンリーの法則とは何か。水への気体の溶解について理解する。
5	気体(その2) さまざまな気体とその性質 空気、二酸化炭素、酸素、オゾンについて 気体を使う(医療・生活への応用)	①身近な気体(ガス)についての知識を身につける。 ②大気成分と地球環境について理解する。 ③二酸化炭素の性質・特徴と温室効果について理解する。 ④発生器の酸素、オゾンの殺菌作用を説明する。
6	物質の水への溶解(その1) 液体としての水 質量パーセント濃度 モル濃度・ppm 希釈液の作り方について	①砂糖水を例に、溶質・溶媒・溶体を説明し、理解する。 ②水の特異な性質(物理・化学的性質)を理解する。 ③質量パーセント濃度を理解し、計算ができるようになる。 ④モル濃度やppmを理解し、計算ができるようになる。 ⑤希釈液の作り方について理解を深める。
7	物質の水への溶解(その2) 希薄水溶液の性質 気体・液体・固体の溶解 浸透圧について コロイドについて	①水に気体、液体、固体が溶けるという現象を、身近な例を通して理解する。 ②蒸気圧降下、沸点上昇・凝固点降下について理解する。 ③気体、液体、固体の溶解度の計算法を習得する。 ④浸透圧について理解する。 ⑤身の回りのコロイドとその性質について理解する。
8	物質の水への溶解(その3) 酸とアルカリの反応 水素イオン濃度とPH 中和反応	①酸とアルカリの性質を比較し、アレニウスの定義が理解できる。 ②主な酸とアルカリ、その強弱について理解する。 ③水素イオン濃度とPHについて理解する。 ④中和反応の化学反応式の表し方ができる。
9	酸化と還元(その1) 酸化還元 酸化還元反応の例 酸化剤と還元剤 酸化還元反応について 金属のイオン化傾向	①酸化・還元反応の定義を理解する。 ②酸化数の表記、酸化数の計算ができる。 ③酸化剤と還元剤の定義を理解する。 ④酸化還元反応の化学反応式が理解できる。 ⑤金属のイオン化傾向と金属の反応について理解する。

回	授業計画	到達目標
10	化学反応(その1) 物理変化と化学変化 化学反応式とは 反応速度と触媒 化学反応と熱	①物質の状態変化と化学反応との違いを理解する。 ②水ができる変化など化学反応式の表し方が理解できる。 ③化学反応の速さを変える要因(触媒等)が理解できる。 ④身近な発熱反応の例と吸熱反応の例に関する知識。 ⑤活性化エネルギーの意義について学ぶ。
11	化学反応(その2) 化学反応と化学平衡 化学平衡の法則 ルシャトリエの原理	①化学平衡とは何かを理解する。 ②化学平衡の法則が理解できる。 ③ルシャトリエの原理の一般則を理解する。 ④身近な化学反応について考える。
12	有機化合物(その1) 有機化学物の成り立ち 有機化合物の名前の付け方 異性体について	①有機化合物の特徴を理解する。 ②単結合、二重結合、ベンゼン環の構造を理解する。 ③官能基の特徴を説明し、化学式(示性式)を書く。 ④構造異性体、立体異性体、光学異性体について理解する。
13	有機化合物(その2) 有機化合物の反応 炭化水素の分類 代表的な化合物とその性質 高分子化合物	①イオン反応とラジカル反応の反応機構の違いを理解する。 ②置換反応、付加反応、脱離反応、転移反応を説明する。 ③飽和炭化水素と不飽和炭化水素の違いについての知識。 ④代表的な有機化合物とその性質を知る。 ⑤高分子化合物とは何か。また、その生成反応について理解する。
14	物質と人間 糖質 アミノ酸とタンパク質 脂質 核酸と核酸関連物質 医療と人間	①ヒトにおける水の重要性、ヒトを形づくる元素を理解する。 ②具体的な単糖類、二糖類、多糖類を理解する。 ③タンパク質合成に関わるアミノ酸と構造、その性質を理解する。 ④脂肪酸と脂質について理解する。 ⑤核酸(ヌクレオシドとヌクレオチド)やDNA・RNAについて理解する。 ⑥医療技術の進歩についての基礎知識を学ぶ。
15	まとめ この講義の総集編と化学実験	①重要な事項の再確認と期末試験への対策 ②簡単な化学実験の実習

【心理学】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	宮部修一	実務経験	中学・高等学校社会科教諭第一種。養護学校教諭第一種。国際実在療法士。熊本大学教育学部養護学校教員養成課程熊本大学特殊教育特別専攻科非常勤講師障害児発達学担当、熊本学園大学非常勤講師心理学障害児保育論講師。
授業との関連性	大学等における心理学の教授をとおして、患者との良好なコミュニケーションを築くためにこの在り方や捉え方の技法について講義する。		
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義
		単位数	2単位(30時間)
		授業回数	15
授業目標	この講義は、医療臨床の場で必要となる治療者を養成するのを目的とする。治療者はすべての患者の苦しみに共感し、その持てる職能を活かして患者の問題解決に力を尽くしていかなければならない。その際に最も大切なことは、全人的(身体、心、環境、実在的)に患者を病をもつ一人の人間として理解することである。この講義では、その中の心理的理解に焦点を当て、実際の歯科衛生の現場で患者の相談や心理的支援を実践してゆくにあたって基本となる姿勢を学ぶとともに、将来、活用できる心理学の理論と技法を修得するための心理学の基礎知識を習得するのを到達点としたい。心理臨床の場で活用されている援助法を学び、良好な患者—治療者関係を構築するために必要となるコミュニケーションスキルについても取り上げる。		
評価方法	講義中の参加態度(45%:配布用紙に授業成果を自己点検し毎回提出した内容から評価する。)、夏季休暇中に課題図書を読みレポート提出(25%)、試験(30%:四肢択一30問)の結果から評価する。		
教科書名	最新「心理学」二宮克美著 医歯薬出版KK		
参考文献	「ヒルガードの心理学 第15版」スーザン、ホークセマ他(金剛出版・学院図書室所蔵) 「新・心理学の基礎知識」中島義明他(有斐閣・学院図書室所蔵) 「夜と霧(旧訳・新訳)」V. E. フランクル(みすず書房・学院図書室所蔵) 「心理学大図鑑」キャサリン・コーリン(三省堂)		
履修上の注意	講義内容は、毎回プリントで配布する。回毎に配ったものは整理保存すること。受講に際しては、回毎の講義予定内容を前もってテキストで予習し、講義後は用語集と参考文献で復習を心掛ける。社会学、生物学、生理学、化学など人間に関係する学問は関連科目である。積極的に受講し学際性を養うことが求められる。また、絵画、純文学、音楽、映画も人間理解を深める窓口である。医療臨床職のための心理学の100冊を毎回テーマごとに紹介する。心の臨床に必要な学問を深く広く学んで人間理解に努めて欲しい。		
回	授業計画	到達目標	
1	自己紹介、オリエンテーション	歯科衛生臨床の場で対人支援職に求められている倫理、基本姿勢を学ぶ。心理学をこれから学ぶにあたっての心構えをつくる。	
2	心理学の歩みと方法 (テキスト15章、p200~208)	心理学がどのように成立してきたかを学ぶ。心理学は心をどのようなものとしてとらえ、心はどのように研究するかを理解する。	
3	見る・聞く・感じるころ (テキスト1章 p2~14)	感覚と知覚にどんな特徴があるか、知覚はどのように成立しているかを学ぶ。	
4	学ぶ・覚えるころ (テキスト2章 p16~26)	経験によって行動が変わる仕組みを知る。覚えること、忘れること、思い出すことの種類と仕組みを理解する。	
5	やる気の心理 (テキスト3章 p28~37)	人を動かすコントロールする動機づけの種類と仕組みにどのようなものがあるかを学ぶ。動機づけの基礎として働いている欲求の特徴を理解する。	
6	喜怒哀楽のころ (テキスト4章 p40~51)	情動の種類と仕組みを理解する。コンフリクトとは何か、フラストレーション、ストレスの対処について学ぶ。	
7	その人らしさの心理—パーソナリティ (テキスト5章 p54~66)	人間のパーソナリティを調べる試みにはどのようなアプローチや方法があるかを理解する。パーソナリティの不適応とはどのようなものかを理解する。	
8	かしこさの心理 (テキスト6章 p68~80)	人間の知能を測定する方法でどの程度のことかわかるかを知り、今後の知能の捉え方で重要と思われる課題について考察する。	
9	考えるころ (テキスト7章 p82~91)	考えるとどういうことか、問題解決にはどのような方法があるかを理解する。	
10	発達するころ(1) (テキスト8章 p94~110)	発達に影響を及ぼす要因を理解する。生涯にわたる発達の段階(特に乳幼児期のころの発達)で果たさなければならない課題について学ぶ。	
11	発達するころ(2) (テキスト9章 p112~124)	子どもから大人への成長していく思春期青年期の過程を理解する。中年期また老年期のころの特徴を理解する。	
12	人と関わる心理 (テキスト10章 p126~134)	他者の印象をどのように形成するか、行動の原因をどのように捉えるか、人を好き嫌いになったりするかなど、対人関係の手掛かりの要因を学ぶ。	
13	人と集う心理 (テキスト11章 p136~148)	集団が人の行動に及ぼす影響を学ぶ。人の態度が変わる要因を学ぶ。リーダーシップと、効果的なリーダーシップについて理解する。	
14	医療現場で求められるコミュニケーション技能「聞き上手のレッスン—人間関係をよくするヒント」視聴後コメント提出	相手の聞き役になるにはどうすればよいか。いかに共感と信頼関係を構築していくか、対人支援職に求められているコミュニケーションスキルと姿勢を学ぶ。	
15	映像「グロリアと3人のセラピスト—ロジャース来談者中心療法」視聴後コメント提出、レポート提出のプレゼンテーション	対人支援のコミュニケーションの考え方としてロジャースの基本姿勢を理解する。全人的医療の核としてのフランクルの実存分析を理解する。	





# 【 社会学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	松田裕一郎	実務経験	(株)熊本放送報道制作局次長、(株)熊本放送キャリアスタッフ報道部デスクとして勤務。人権擁護委員(法務大臣委嘱)、熊本民事調停委員も務めている。
授業との関連性	報道製作での実績を活かし多様な現代社会について講義を行う。		

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	---

授業目標	社会はどのような法則や仕組みで動いているのか。講師が解説するジャーナリズムの視点から地域社会の課題、震災からの復興等について学び、自立した歯科衛生士になることをめざす。
------	--

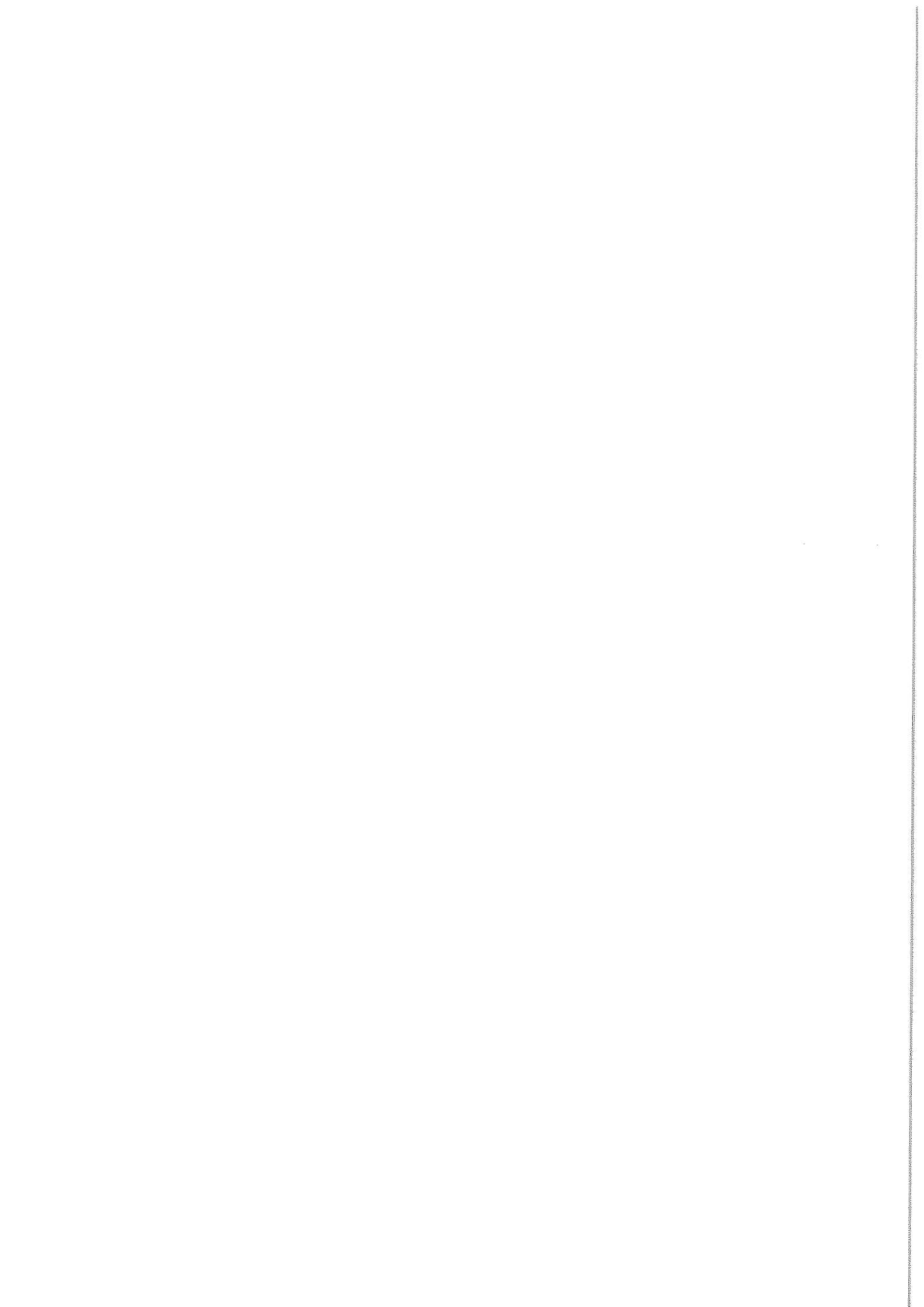
評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	講師資料
------	------

参考文献	
------	--

履修上の注意	報道資料を多用するので可能な限り、テレビニュース等報道系番組を視聴し、また新聞の解説記事、コラム等にも目を通す習慣をつけてください。
--------	--

回	授業計画	到達目標
1	オリエンテーション 自己紹介 地震アンケート作成	テレビニュース等、報道の仕組みや前期講義計画の概要について理解を深める。
2	熊本地震から3年、震災体験を踏まえ、これからの地域社会のあり方を考える。	学生アンケート結果などを踏まえ、現状への理解を深めるとともに今後の復興、地域社会のありかたについて考える。
3	SNS、ネット社会について考える。	情報化社会が急速に進展する中、ネット、SNS社会を賢く生きるために何が必要か、学生アンケート結果など踏まえ社会人としての対応等を学ぶ。
4	人権と差別を考える ①ハンセン病問題から	ハンセン病に関する報道番組等を視聴、熊本の地域社会の大きな課題という視点からこの問題への理解を深め、人権について学ぶ。
5	人権と差別を考える ②水俣病問題	熊本県政の重要課題で、地域社会の課題でもある水俣病問題について報道番組の視聴等を通じて理解を深める。
6	危険から身を守るために～社会人としてのリスク管理	多発するストーカー犯罪、日常的に発生する交通事故等、現状について学び、自分の身を守るためどう行動すべきか等学ぶ。
7	前期講義のまとめ	前期講義について復習する
8	前期定期テスト	前期講義の総括と試験を実施



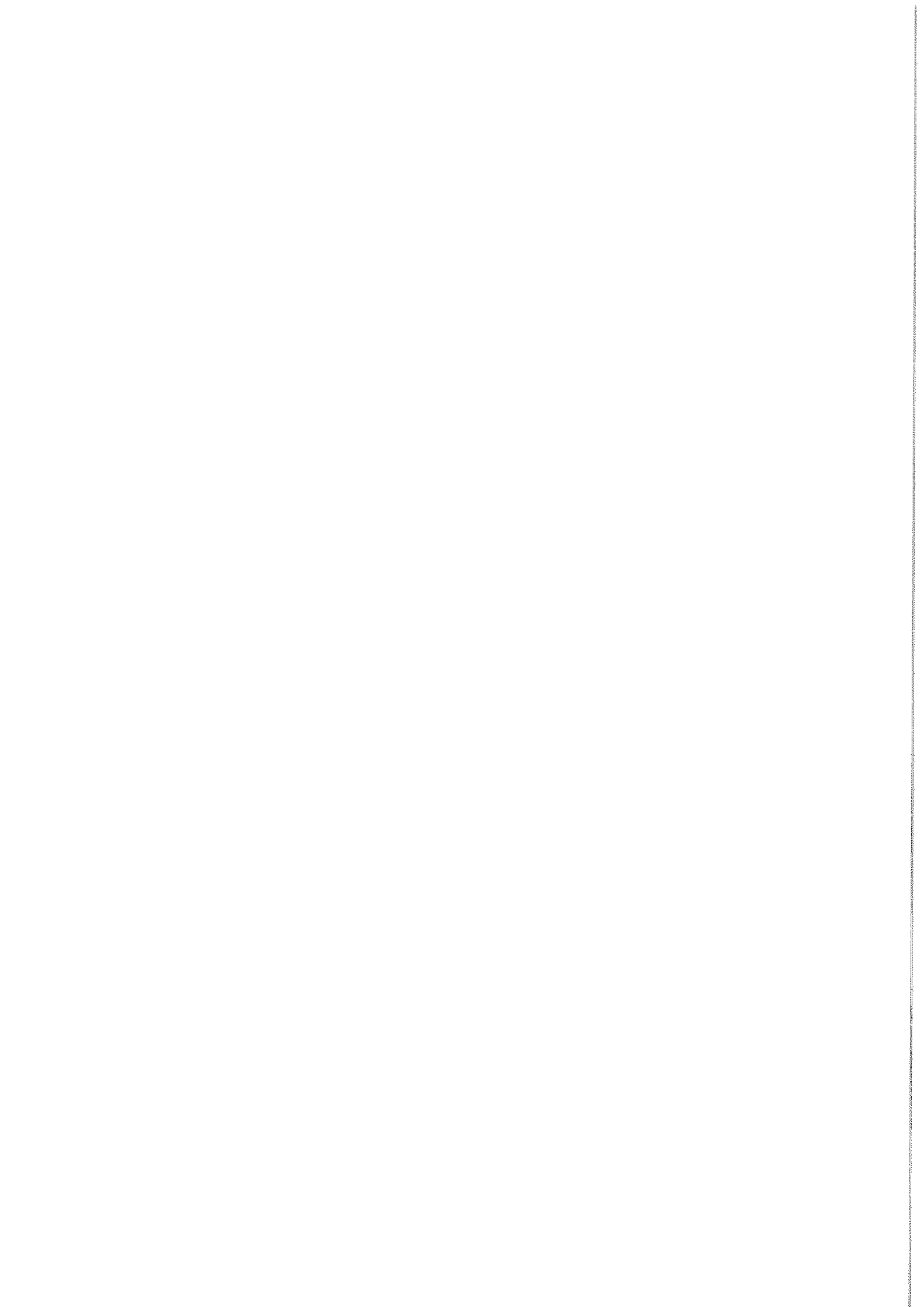
# 【 行動科学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	松田裕一郎	実務経験	(株)熊本放送報道制作局次長、(株)熊本放送キャリアスタッフ報道部デスクとして勤務。人権擁護委員(法務大臣委嘱)、熊本民事調停委員。
授業との関連性	報道製作や人権擁護委員、民事調停委員としての実績を活かし、多様化する社会と、人間と行動の関係を科学的視点から探り豊かな人間性の確立を目指し講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	---

授業目標	LGBT、多分化共生等、多様化する社会状況について正しく理解を深めるとともに将来の医療人としての人格形成を確立すべく、学習する。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	講師資料		
参考文献			
履修上の注意	前期で学んだ地域の課題等を踏まえ、日頃から問題意識を持って、ニュース等に接し、批評眼を養うよう心がけてください。後半のカリキュラムでは100人アンケート調査で実際に街頭に出て取材、調査を体験、結果をまとめるという作業を通して社会人としての洞察力を養う。		
回	授業計画	到達目標	
1	LGBTについて考える。	法務局作成のDVD、RKK制作のニュース番組等を視聴、自治体のパートナーシップの導入等、社会の動きに注目しつつ、理解を深める。	
2	選挙制度について学び、有権者としての意識を高める	18歳に選挙権が引き下げられ、選挙に参加する機会が増える中、民主主義の根幹となる選挙全般について学ぶとともに制度の歴史なども踏まえ理解を深める。	
3	多分化共生について(外国人の人権等)	法務局作成のDVDなどを視聴、技能実習生の問題等喫緊の課題について考える。	
4	戦争と家族	RKK制作のドキュメンタリー「祖父の日記」を視聴、戦争とは何か、戦争がもたらすものと平和について考察する。	
5	熊本県民の行動(演習) 100人アンケートから	熊本県民はどんな時、いかなる行動を取るのか、学生自らテーマを設定し、次回まで調査する。	
6	熊本県民の行動(演習) アンケート調査～	～	前回講義の集計と分析、および次回用の大判表を作成する。
7	熊本県民アンケート調査から(最終回)と後期まとめ	前回作成した大判表をボードに掲示し、班のリーダーが発表する。	
8	定期試験	講義まとめと定期試験	



# 【 英語 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	浦島有希	実務経験	歯科診療所勤務後、英会話講師。
授業との関連性	英会話講師や歯科診療所での受付業務の経験を活かし、英会話を用いた患者対応ができるよう講義する。		

講師名	山本幹樹	実務経験	中学校教諭専修免許状外国語(英語)。高等学校教諭専修免許状外国語(英語)。大学など4校の非常勤講師。
授業との関連性	英語講師としての長年の経験を活かし、英会話を用いた患者対応ができるよう講義する。		

履修学年・学期	1年前期・後期	授業方式	講義	単位数	4単位(60時間)	授業回数	30
---------	---------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	(浦島有希)英語を使って楽しくコミュニケーションをとる。 (山本幹樹) 基本的な英語の力及び身の回りや日常生活に必要な表現を身につける。更には、歯科衛生士として着任後に役に立つような、基本的な歯科英語や、現場で実際に起こりうる場面で必要な英語表現について学習し習得する。チームワークが重要となる職種なので、英語の学習活動を通して、チームワークも養う。
------	--

評価方法	(浦島有希)本試験(90%) 中間試験、出席日数、宿題、授業の積極的な姿勢・態度など(10%) (履修上の注意を必ず守ること) (山本幹樹)定期試験40%、中間試験30%、平常点(小テスト、宿題、レポート)30%
------	--

教科書名	「歯科医院での実用英会話」(第2版) 土田和範著 医歯薬出版KK
------	----------------------------------

参考文献	(浦島有希)適宜準備する (山本幹樹)『最新歯科衛生士教本 歯科英語』川口陽子 医歯薬出版KK
------	--

履修上の注意	(浦島有希) 1. 私語と居眠りを禁止する 2. 携帯電話やスマートフォンの使用を禁止する 3. 板書や授業風景を無断で撮影することを禁止する 4. 各章の治療内容を予習して授業に臨むこと(山本幹樹) (山本幹樹) 1. 毎回小テストを行う。範囲は指定するので、しっかり準備しておくこと。 2. 教科書の音声ダウンロードし、事前・事後学習を行うこと(ダウンロードの方法は初回の授業で紹介)。 3. 必要に応じて別途資料を配布する。試験範囲にも入るので、しっかり見ておくこと。
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	<前期> シラバスの内容確認 授業内のルール確認 自己紹介シートの記入 英語で自己紹介(グループワーク、発表)	【文法】 品詞、be動詞 【表現】 My name is ~. I would like to ~.
2	1. Handling Calls at Reception	【文法】 一般動詞(現在形)、This is ~. 【表現】 make an appointment have a toothache How about ~ing.
3	2. Service at Reception	【文法】 一般動詞(過去形)、I'm ~. 【表現】 Do you have ~? Please have a seat. Please come in.
4	3. Consultation (前半~中盤)	【文法】 疑問形 【表現】 What brought you here? Have you ever ~? Are you on ~?
5	3. Consultation (中盤~後半)	【文法】 未来形 be going to 【表現】 I'm going to ~. Let me ~. Put your seat back. take an X-ray
6	4. In the X-ray Room 6. Dental Extraction (p.11. I'll use surface anesthesia. ~ Please hold ...take effect.)	【文法】 未来形 will 【表現】 I'll ~. Please hold ~. 【表現】 抜歯の会話に出てくる麻酔を打つ場面
7	5. Pulpectomy	【文法】 受動態 【表現】 It seems that ~. I think ~.
8	中間試験 映画鑑賞	中間試験で6割以上とる
9	中間試験返却、解説 映画鑑賞 感想の記入	中間試験で間違えた箇所を復習し理解する 映画に出てきた表現を理解する
10	6. Dental Extraction p11. 麻酔を打ち会話は第4回の授業で学ぶ	【文法】 because / because of ~ 【表現】 Since yeaterday, my upper ~. As you can see, ~. have no ~

回	授業計画	到達目標
11	7. At the Reception Counter	【文法】 These are ~ / Those are ~. 【表現】 today's fee is ~. Here is ~. three times a day Take care.
12	8. Explanations on Dental Cavities	【文法】 前置詞 by / without 【表現】 What makes cavities? Cavity-causing bacteria makes cavities. It's preferable ~.
13	9. Insertion of Dental Composite	【単語】 新出単語を授業内で覚える 【リスニング】 覚えた単語を使ってディクテーションする
14	10. Treatment of the Infected Root Canal	【文法】 現在進行形 【表現】 ~, the one Especially ~. ~, you may leave it.
15	11. Disease of the Gums 本試験対策	【文法】 There is ~. 【表現】 there is an 8mm long ~. Please click your teeth.
16	<後期> 授業案内: 自己紹介、スケジュールの確認、自己評価チェックリストの作成、身近な表現を使った英語の使用、音声ダウンロードの案内	現時点での自分の英語の力を把握し、各々個別の目標を設定する。
17	教科書12: Periodontal Examination 歯周検査	歯周検査の場面で必要な英語表現を身に付ける。
18	教科書13: Tooth Brushing Instructions ブラッシング指導	ブラッシングを英語で指導できるようになる。また、患者とのやり取りを想定して、必要な英語表現を身に付ける。
19	教科書14: Scaling スケーリング	スケーリングについて英語で説明できるようになる。また、患者とのやり取りを想定して、必要な英語表現を身に付ける。
20	教科書15: Crown Restroration 1 歯冠修復	各々の英語表現を身に付ける。また、テキストにないが必要と思われる表現をリストアップし、英語表現に加える。
21	教科書15: Crown Restroration 2 歯冠修復	各々の英語表現を身に付ける。また、テキストにないが必要と思われる表現をリストアップし、英語表現に加える。
22	教科書16: Bridge ブリッジ	ブリッジの手順について英語で説明できるようになる。場面で必要な会話表現を身に付ける。
23	中間試験及び前半のまとめ、自己チェックリストの確認	中間試験の実施。自己チェックリストで、到達度を確認し、今後の目標を独自に設定する。
24	教科書17: False Teeth 義歯	義歯の装着手順について英語で説明できるようになる。患者とのやり取りにおいて必要な英語表現を身に付ける。
25	教科書18: Orthodontic Treatment 矯正治療	矯正治療について英語で大まかに説明できるようになる。また、必要な英語表現を身に付ける。
26	教科書19: Dental Implant Treatment インプラント	インプラントについて英語で説明できるようになる。また、必要な英語表現を身に付ける。
27	教科書20: Stomatitis 口内炎	口内炎について英語で説明できるようになる。また、必要な英語表現を身に付ける。
28	教科書21: Bad Breath 口臭	口臭について、またその原因や対処方法について英語で説明できるようになる。また、必要な英語表現を身に付ける。
29	教科書22: Temporomandibular Joint Disorders 顎関節症	顎関節症の患者とのやり取りに必要な英語表現を身に付ける。
30	まとめ、自己チェックリストの確認	これまでの学習を振り返り、自分の到達度を確認する。期末テストに向けて復習を行う。

# 【 解剖生理学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	西村 慈子	実務経験	歯科医師。福岡歯科大学小児歯科勤務。熊本歯科技術専門学校歯科技工士科解剖学非常勤講師。		
授業との関連性	歯科医師としての臨床を踏まえ、人体の構造や生体のメカニズムについて講義する。				
履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義	単位数	3単位(45時間)
授業回数	23				
授業目標	医療を修める上で、最初に学ぶ学問が解剖と生理である。この教科の理解なくして他教科の正確な理解は困難であると思われる。歯科衛生士教育でも全身との関わりのなかで、医療を実践していく姿勢が求められる。さらに近年の高齢化の進展により全身疾患をもつ患者が増加し、全身の理解は不可欠であることをよく考え理解を深めてもらいたい。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	歯科衛生士教本「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」前田健康著 医歯薬出版株式会社 ポイントチェック 歯科衛生士国家試験対策① 医歯薬出版株式会社				
参考文献	○「解剖生理をおもしろく学ぶ」 増田敦子著 サイオ出版 ○「いちばんやさしい生理学」 南沢 享、加藤 尚志著 成美堂出版 ○「読んでわかる解剖生理学」 竹内修二著 医学教育出版社				
履修上の注意	国家試験対策は重要な課題であり、履修の必要性の高い分野は、重点的に学習してもらいたい。この学科では、解剖と生理を1セットとし、1単元ごとに学習し理解することを基本としてほしい。また、量的に多いので、後でまとめて勉強しようとしても無理であるということに注意点としたい。				
回	授業計画			到達目標	
1	解剖・生理学概論 ・人体の区分 ・身体の方向用語 生理学概論 ・生理学とは何か			<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の一部と方向用語・解剖学的名称を理解できる</li> <li>・解剖学・生理学の基本的な学習を理解する</li> <li>・生物が生命を維持するメカニズムの概要を知る</li> </ul>	
2	〈骨格系〉			<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨の基本構造と骨の形態、連結様式、骨の改造について概説できる</li> <li>・主な骨格と解剖学的名称を理解できる</li> <li>・骨の成長のメカニズムを概説できる</li> </ul>	
3	〈筋と運動 1〉			<ul style="list-style-type: none"> <li>・筋の形状と分類、筋の構造を説明できる</li> <li>・体の各部位の筋系について概説できる</li> <li>・骨格筋の収縮の特徴と筋収縮の機序を概説できる</li> </ul>	
4	〈筋と運動 2〉			<ul style="list-style-type: none"> <li>・心筋の構造と収縮のメカニズムを説明できる</li> <li>・運動ニューロンの構成、反射、姿勢調節について理解し概説できる</li> <li>・反射のメカニズムについて理解し概説できる</li> </ul>	
5	〈消化器系〉 消化・吸収 1			<ul style="list-style-type: none"> <li>・消化器のそれぞれの解剖的位置と基本構造を理解し説明できる</li> <li>・小腸壁の組織学的な理解ができる</li> <li>・それぞれの器官の分泌物の機能を理解できる</li> </ul>	
6	〈消化器系〉 消化・吸収 2			<ul style="list-style-type: none"> <li>・消化器運動とその調節機能を説明できる</li> <li>・それぞれの消化器・臓器の機能について説明できる</li> <li>・それぞれの器官の消化酵素の働きと栄養素の吸収について理解し説明できる</li> </ul>	
7	〈循環〉 血液 1			<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な動脈・静脈の走行と解剖学的名称を理解し説明できる</li> <li>・動脈・静脈及び毛細血管の構造を理解し説明できる</li> <li>・肺循環・体循環における血管系を説明できる</li> </ul>	
8	〈循環〉 血液 2			<ul style="list-style-type: none"> <li>・血管の機能、血圧の調整を理解し説明できる</li> <li>・血液成分の組成とその機能を説明できる</li> <li>・血液の凝固の機序を理解し説明できる</li> </ul>	
9	〈循環〉 心臓の構造と機能			<ul style="list-style-type: none"> <li>・心臓の解剖学的構造について理解できる</li> <li>・心臓の血管について理解できる</li> <li>・心筋の拍動のコントロールを理解できる</li> </ul>	
10	〈循環〉 動脈系・静脈系 胎児循環 リンパ系			<ul style="list-style-type: none"> <li>・主な動脈・静脈の走行を理解できる</li> <li>・門脈系とその機能が説明できる</li> <li>・リンパ系の概要とその機能を説明できる</li> <li>・胎児循環の特徴を理解できる</li> </ul>	
11	〈循環〉 心臓の活動と心電図			<ul style="list-style-type: none"> <li>・心電図の波形の意味を理解できる</li> <li>・刺激伝導系と心電図、心臓の筋肉の活動について理解できる</li> </ul>	
12	〈神経系〉 神経系の構成と機能			<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経系の構成を理解できる</li> <li>・神経系の基本的機能について理解し説明できる</li> </ul>	

回	授業計画	到達目標
13	〈神経系〉 脳と脊髄 中枢神経系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳(大脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳)と脊髄の解剖学的位置を理解し説明できる</li> <li>・大脳の機能局在について説明できる</li> <li>・それぞれの器官における中枢の機能を理解できる</li> <li>・脳脊髄膜の構造と機能について理解できる</li> </ul>
14	〈神経系〉 末梢神経系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・末梢神経系の分類と解剖学的分布を理解し説明できる</li> </ul>
15	〈神経系〉 自律神経 求心性、遠心性伝導路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自律神経の特徴を理解できる</li> <li>・上行性、下行性の伝導路の意味を理解できる</li> </ul>
16	〈呼吸器系〉 呼吸器系の解剖と構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器の構成と構造を理解できる</li> <li>・胸郭の構造を理解できる</li> <li>・呼吸の中枢と調節について理解し説明できる</li> </ul>
17	〈呼吸器系〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸器系の生理学的意味について理解できる</li> <li>・血液中のO<sub>2</sub>とCO<sub>2</sub>の運搬について理解できる</li> <li>・呼吸の調節のしくみを理解し説明できる</li> </ul>
18	〈感覚〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚の基本的性質について理解できる</li> <li>・皮膚の感覚装置について概説できる</li> <li>・特殊感覚器(視覚器・平衡調節器、味覚器、嗅覚器)の構造を概説できる</li> </ul>
19	〈排泄〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・汗腺、泌尿器、腎臓の解剖学的構造などについて理解し説明できる</li> <li>・尿生成のメカニズムについて理解し説明できる</li> <li>・排尿のしくみを理解できる</li> </ul>
20	〈体温〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体熱の産生機序、体温放散などの調節メカニズムを理解できる</li> <li>・体温の調節を理解できる</li> <li>・体温の変動について理解できる</li> </ul>
21	〈内分泌〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内分泌器官の名称と解剖学的位置について理解できる</li> <li>・内分泌器官から分泌されるホルモン、その作用機序について理解できる</li> <li>・血中カルシウムや血糖値を調節するしくみを理解できる</li> </ul>
22	〈生殖〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性、女性 生殖器の構造と生殖に関わるホルモンについて理解できる</li> <li>・分娩と乳汁分泌に関わるホルモンについて理解できる</li> <li>・性周期と体温変化について説明できる</li> </ul>
23	〈老化〉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老化の特徴について理解できる</li> <li>・老化に伴う機能変化について理解できる</li> <li>・老化と生体の機能(生理的)について理解できる</li> </ul>



# 【 組織発生学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	山名啓介	実務経験	歯科医師。熊本大学医学部付属病院歯科口腔外科勤務。
授業との関連性	臨床における歯科口腔外科医として手術等の経験から細胞の性質や組織の機能について講義する。		

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	組織・発生学を学ぶことにより、正常組織・構造を理解し、臨床の場で正常、異常を判断し患者様やスタッフに説明できるようになる。
------	---

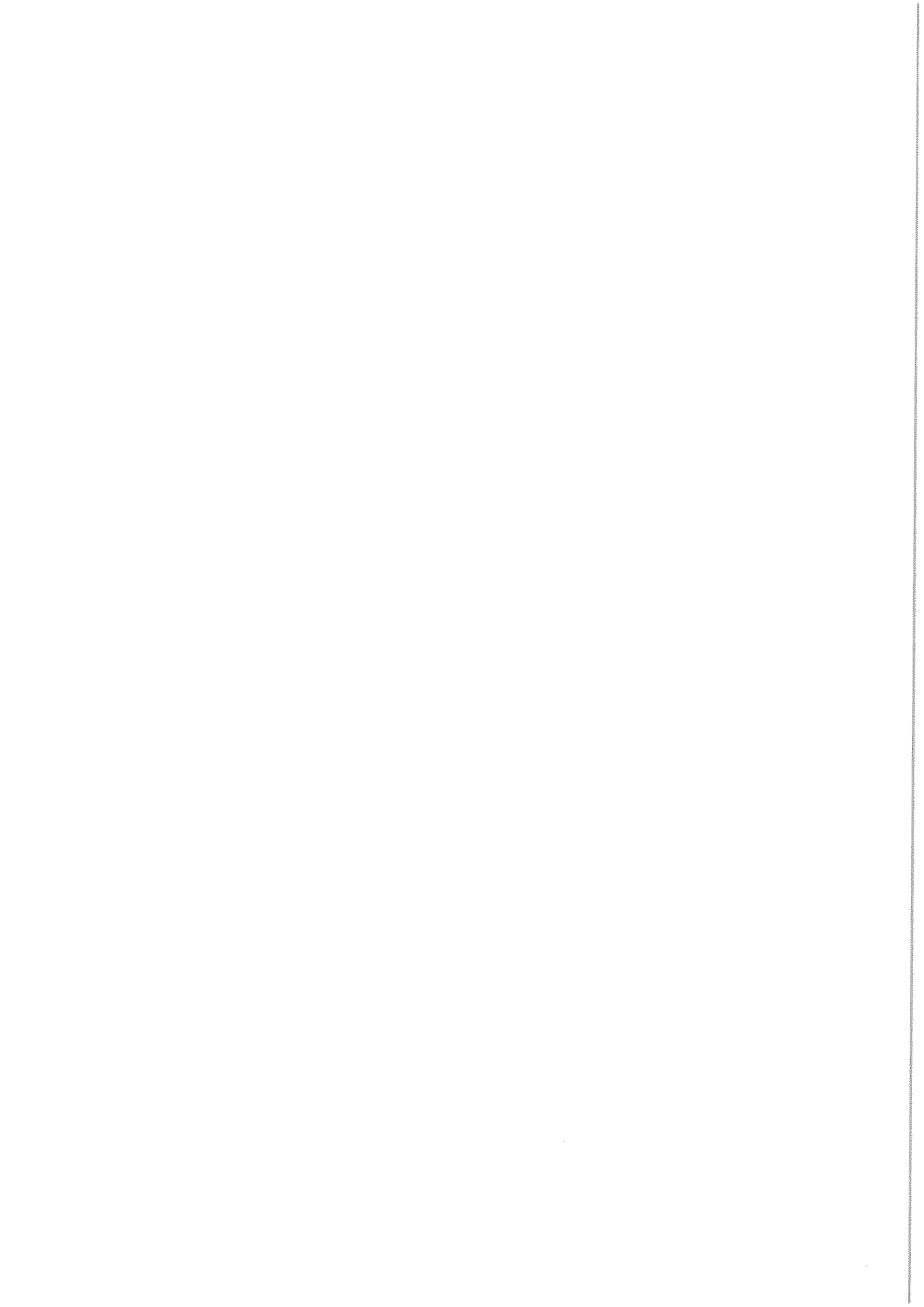
評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 前田健康著 医歯薬出版KK
------	---

参考文献	「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」 井出吉信著 医歯薬出版KK
------	---------------------------------

履修上の注意	なるべく欠席しないで全出席を目指して下さい。 各授業の確認テスト(小テスト)を次週の授業に行いますので、しっかりと復習して下さい。
--------	--

回	授業計画	到達目標
1	細胞①	①細胞の基本構造を説明することができる。 ②細胞の構成体の各機能を説明することができる。
2	細胞②	細胞の増殖と寿命について理解し、説明することができる。
3	組織①	組織を4つに分類し、それぞれの特徴を説明することができる。
4	組織②	それぞれの組織の特徴を説明することができる。
5	発生①	①染色体と減数分裂を説明することができる。 ②精子と卵子の発生を説明することができる。 ③受精と着床について説明することができる。
6	発生②	胚葉の形成とそれぞれの胚葉から分化する主な器官と組織について、説明することができる。
7	発生③	①歯の発生について説明することができる。 ②胎児の成長と発育について説明することができる。
8	発生④ まとめ	①顎裂など先天性奇形について説明することができる。 ②鰓弓について説明することができる。 ③まとめ。



【 口腔解剖口腔生理学 】 令和2年度 授業シラバス

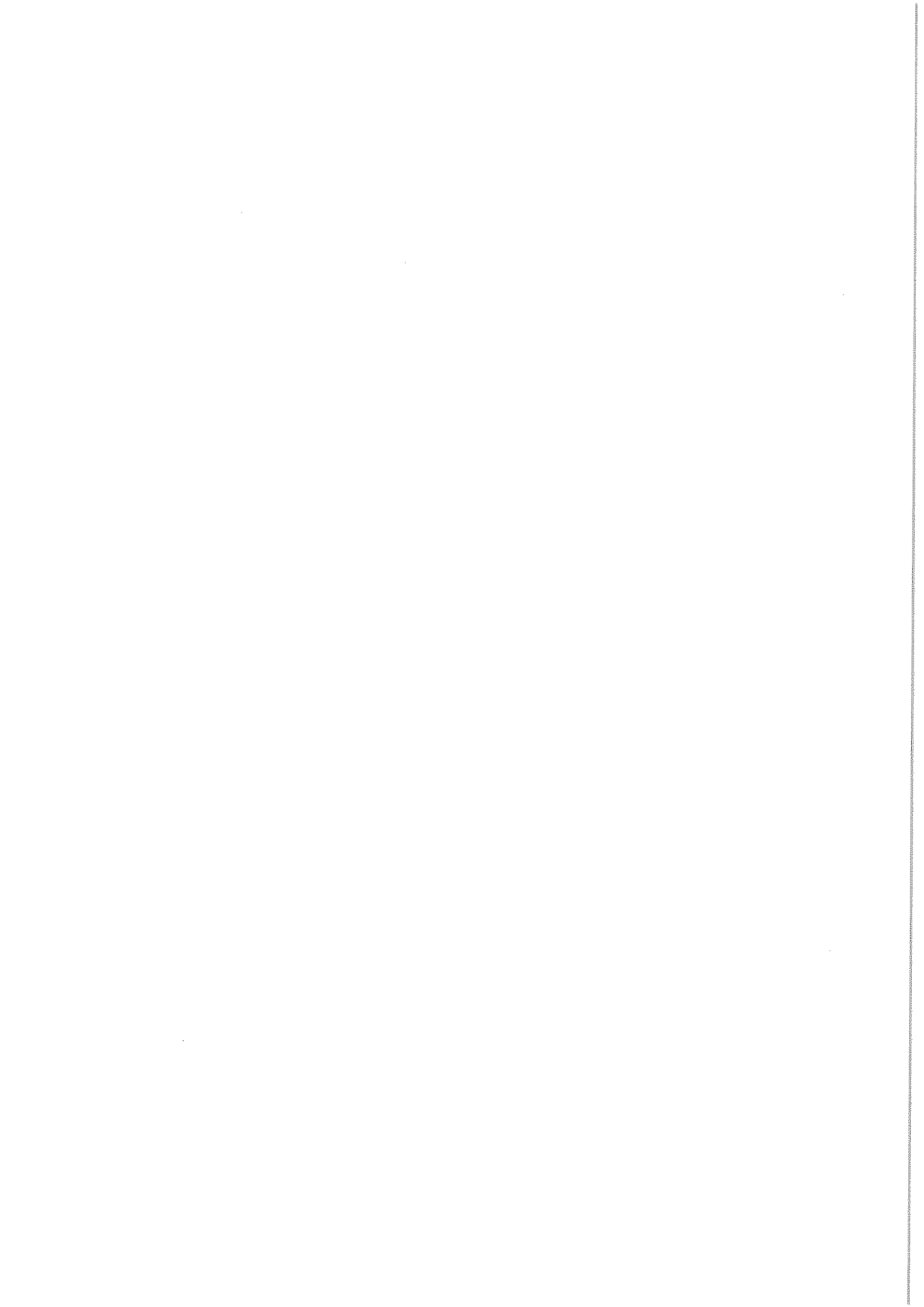
熊本歯科衛生士専門学校

講師名	矢毛石 玲	実務経歴	歯科医師。久留米大学医学部解剖学講座・肉眼・臨床解剖学部門入局、歯科診療所院長。
授業との関連性	大学医学部解剖学講座での研究や臨床歯科医としての経験を踏まえ、口腔の解剖やしきみについて講義する。		

履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義	単位数	3単位(45時間)	授業回数	23
---------	-------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	口腔とその周囲組織の基本的な構造と機能を理解し説明できる。
行動目標	口腔は全身の一部である事を忘れずに系統立てて理解する。
評価方法	定期試験(100点満点)
教科書名	「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 天野修 著 医歯薬出版
参考文献	
履修上の注意	

回	授業計画	到達目標
1	口腔解剖総論 顔面と口腔の発生(1)	消化器系の入り口としての口腔およびその周囲の解剖学的構造の概要を理解し説明できる。 同時に口腔解剖を学ぶ意義を理解し説明できる。 鰓弓について説明できる。
2	口腔付近の解剖	口腔の範囲と機能および各部の名称を説明できる。
3	口腔を構成する骨	頭蓋を構成する骨を説明できる。
4	口腔を構成する骨	口腔を構成する骨を説明できる。
5	頭頸部の筋と作用	表情筋の働きと構成を説明できる。
6	頭頸部の筋と作用	咀嚼筋の働きと構成を説明できる。
7	頭頸部の筋と作用	頸部の筋について説明できる。 顎関節について説明できる。
8	口腔付近に分布する脈管系	口腔付近に分布する動脈系について説明できる。
9	口腔付近に分布する脈管系	口腔付近に分布する静脈系およびリンパ系について説明できる。
10	神経系	脳神経の働きと名称および分布について説明できる。 三叉神経の分布と機能について説明できる。
11	神経系	顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経の分布と働きについて説明できる。
12	神経系	頭頸部に分布する脊髄神経について説明できる。 自律神経について説明できる。
13	顔面と口腔の発生(2)	顔面、鼻腔、口腔の発生を説明できる。 舌、唾液腺の発生を説明できる。
14	歯と口腔の感覚	歯と口腔粘膜の感覚について説明できる。
15	味覚と嗅覚	味覚について説明できる。
16	味覚と嗅覚	嗅覚について説明できる。
17	咬合と咀嚼・吸嚙	下顎位と下顎の運動について説明できる。
18	咬合と咀嚼・吸嚙	顎反射、摂食行動、咀嚼能力、吸嚙について説明できる。
19	嚥下と嘔吐	嚥下と嘔吐に関わる構造について説明できる。
20	嚥下と嘔吐	摂食嚥下の流れとその概要について説明できる。 嘔吐について説明できる
21	発声	発声と発声に関わる構造および仕組みについて説明できる。
22	唾液	唾液腺の種類と解剖学的な位置および機能について説明できる。
23	まとめ	口腔解剖生理学の理解を深めることができる。



# 【 歯牙解剖学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	河端憲彦	実務経験	歯科医師。福岡大学病院歯科口腔外科入局、歯科診療所院長。
授業との関連性	大学病院歯科口腔外科など臨床歯科医としての様々な経験を踏まえ、歯牙の構造や特徴、役割について講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	何が基礎なのかを理解し、応用力を身につける。
------	------------------------

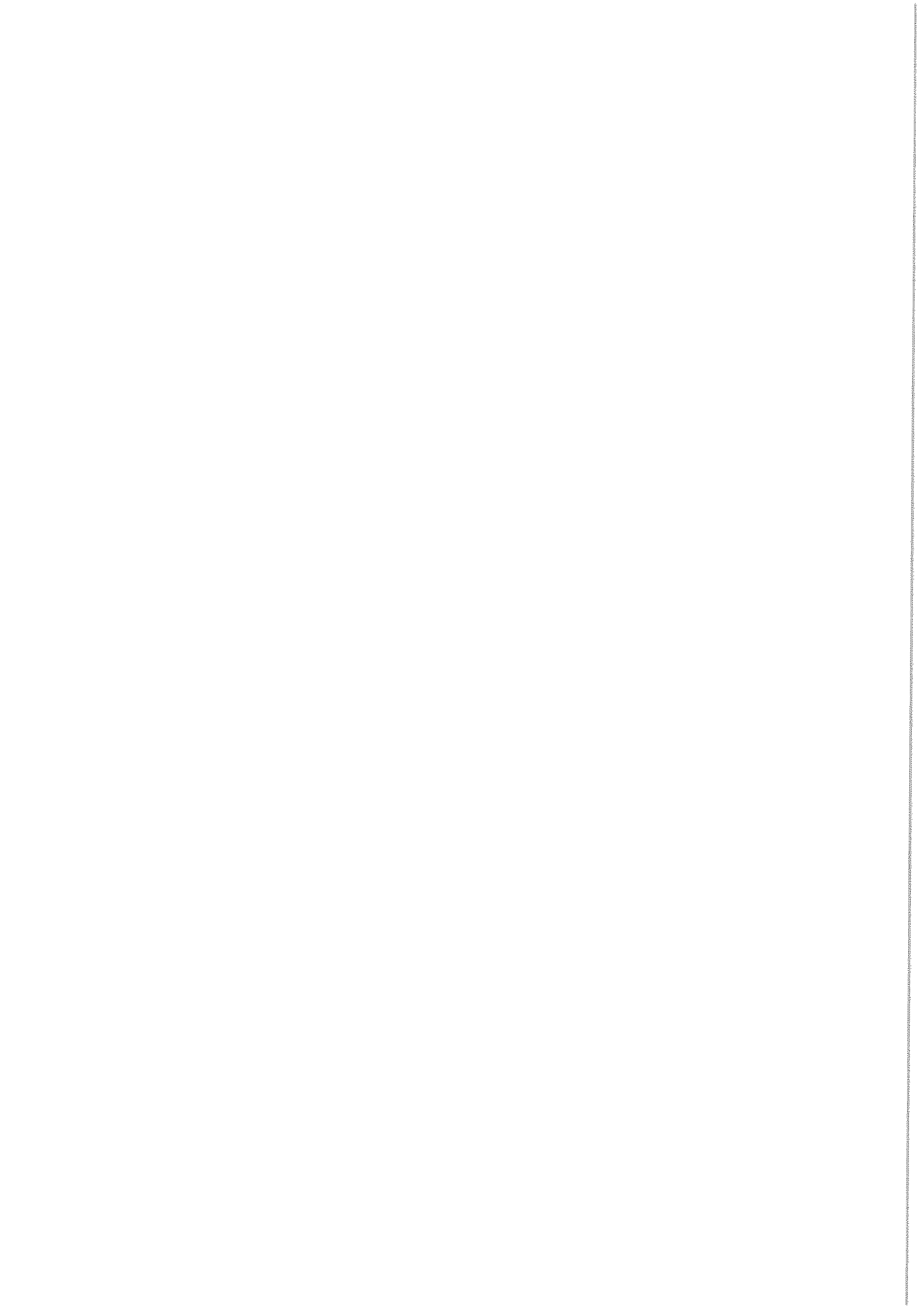
評価方法	小テスト30点・定期試験70点(計100点満点)・出席状況 *小テスト[当日授業内容が対象の小テストを各回ごとに行う。6～8割[平均点による]以上で1回につき2点を定期試験に加算]
------	---

教科書名	「歯・口腔の機能と構造 口腔解剖・口腔組織発生学・口腔生理学」 山田好秋著 医歯薬出版
------	---

参考文献	
------	--

履修上の注意	授業中は私語を慎み、他人に迷惑をかけない。
--------	-----------------------

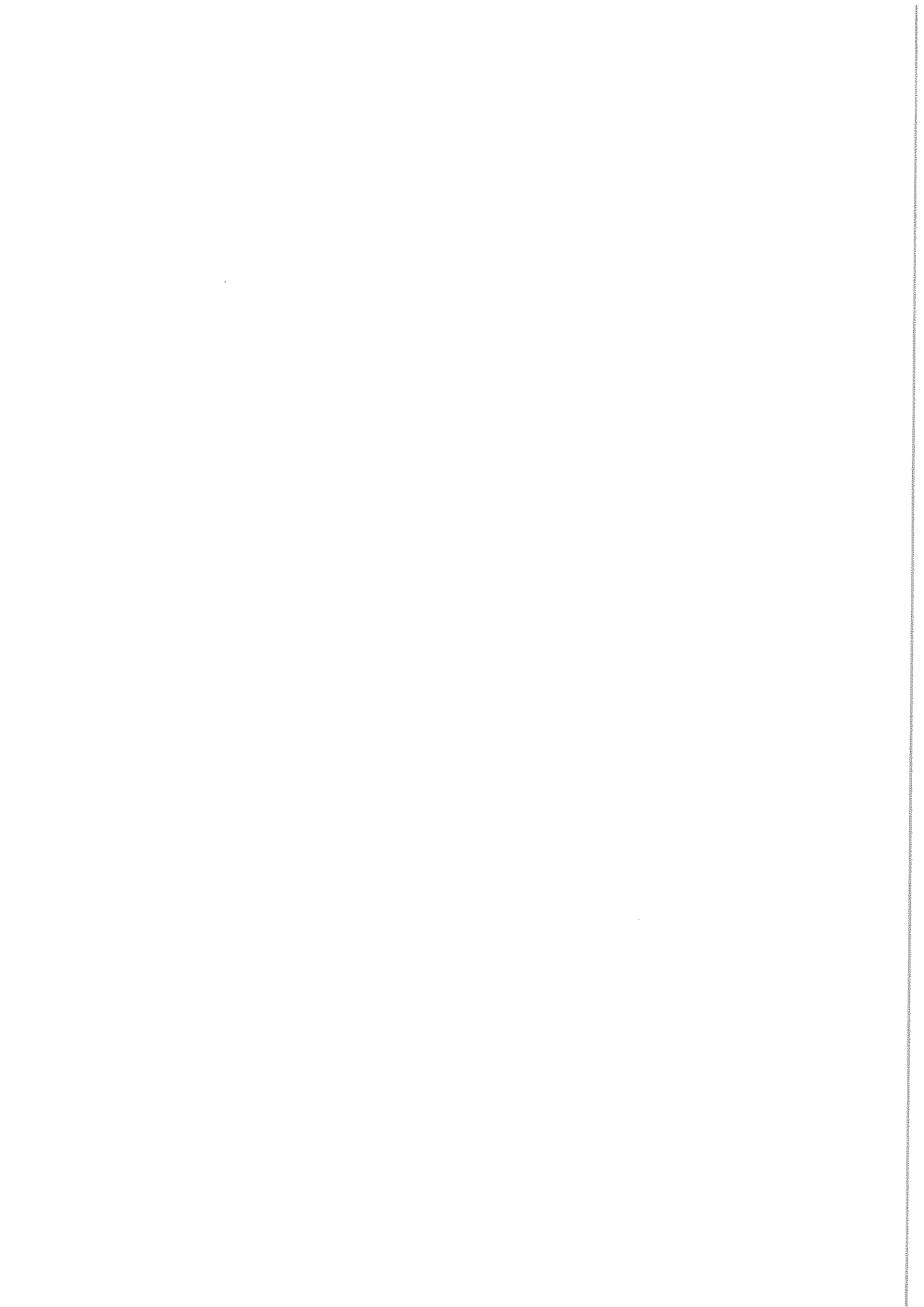
回	授業計画	到達目標
1	歯の各部の名称 歯の表示法	歯の表示法や記号について説明できる。
2	歯の用語 根管の形態 ミュールライターの三徴候	歯の専門用語が使える。 歯の左右、近遠心、頬舌の識別が出来る。
3	永久歯の形態学特徴 上顎中切歯・上顎側切歯 下顎中切歯・下顎側切歯	歯種を鑑別できる。 歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。
4	永久歯の形態学特徴 上顎犬歯・下顎犬歯 上顎第一小臼歯・上顎第二小臼歯 下顎第一小臼歯・下顎第二小臼歯	歯種を鑑別できる。 歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。
5	永久歯の形態学特徴 上顎第一大臼歯 下顎第一大臼歯	歯種を鑑別できる。 歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。
6	永久歯の形態学特徴 上顎第二大臼歯・下顎第二大臼歯 上顎第三大臼歯・下顎第三大臼歯	歯種を鑑別できる。 歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。
7	永久歯との比較による乳歯の形態学特徴 乳歯の形態学特徴 上顎乳中切歯・上顎乳側切歯 下顎乳中切歯・下顎乳側切歯	乳歯と永久歯の違いを説明できる。 歯種の鑑別、歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。
8	乳歯の形態学特徴 上顎乳犬歯・下顎乳犬歯 上顎第一乳臼歯・下顎第一乳臼歯 上顎第二乳臼歯・下顎第二乳臼歯	歯種を鑑別できる。 歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。 図で示し、各部の名称が説明できる。
9	特色のある歯の形態	歯の形態を歯種別に説明できる。 歯の形態異常について説明できる。
10	歯列と咬合	歯列と咬合について説明できる。 歯の萌出と交換を説明できる。
11	歯と歯周組織の発生	歯の発生の概要を概説できる。 エナメル質・象牙質・セメント質の形成の違いを説明できる。 歯の萌出過程とその機序を説明できる。 歯胚の形成時期、歯の萌出時期を説明できる。
12	歯および歯周組織の構造と機能 エナメル質	エナメル質の物理化学的性状、構造物について説明できる。
13	歯および歯周組織の構造と機能 象牙質・歯髄	象牙質の物理化学的性状、構造物について説明できる。 歯髄の構成要素、機能について説明できる。
14	歯および歯周組織の構造と機能 歯根膜 セメント質 歯肉・歯槽骨歯と	歯周組織について説明ができる。 セメント質の物理化学的性状、構造物について説明できる。 口腔粘膜の分類と組織学的相違について説明できる。
15	口腔粘膜の感覚 口腔の加齢変化	口腔粘膜の感覚の変化を概説できる。 口腔・顎顔面の老化と歯の喪失に伴う変化を説明できる。



# 【 生化学口腔生化学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学院

講師名	平山真弓	実務経験	歯科医師。熊本大学医学部附属病院歯科口腔外科勤務。		
授業との関連性	大学病院歯科口腔外科での様々な研究や治療を踏まえ、生体やう蝕、歯周病のしくみについて講義する。				
履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)
授業回数	8				
授業目標	口腔内を中心に生体内の生命現象を生化学的に理解する。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	「栄養と代謝」 高橋信博著 医歯薬出版KK				
参考文献					
履修上の注意					
回	授業計画			到達目標	
1	生命活動の概要①			生体の構成要素を理解する。	
2	生命活動の概要②			生体内でおこる化学反応を理解する。	
3	口腔組織の生化学 -歯周組織-			歯周組織について生化学的に理解する。	
4	口腔組織の生化学 -歯・骨-			歯と骨について生化学的に理解する。	
5	口腔組織の生化学 -唾液-			唾液について生化学的に理解する。	
6	口腔組織の生化学 -う蝕-			う蝕について生化学的に理解する。	
7	口腔組織の生化学 -歯周病-			歯周病について生化学的に理解する。	
8	総復習			今まで学習したことを整理する。	





# 【 病理学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	古田洋介	実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。
授業との関連性	臨床歯科医師としての様々な診察、治療の経験から病的な機能変化について講義する。		

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

**授業目標** 病理学の基本的な考え方や要点を国家試験及び実際の臨床現場に活かせることを目標とする。

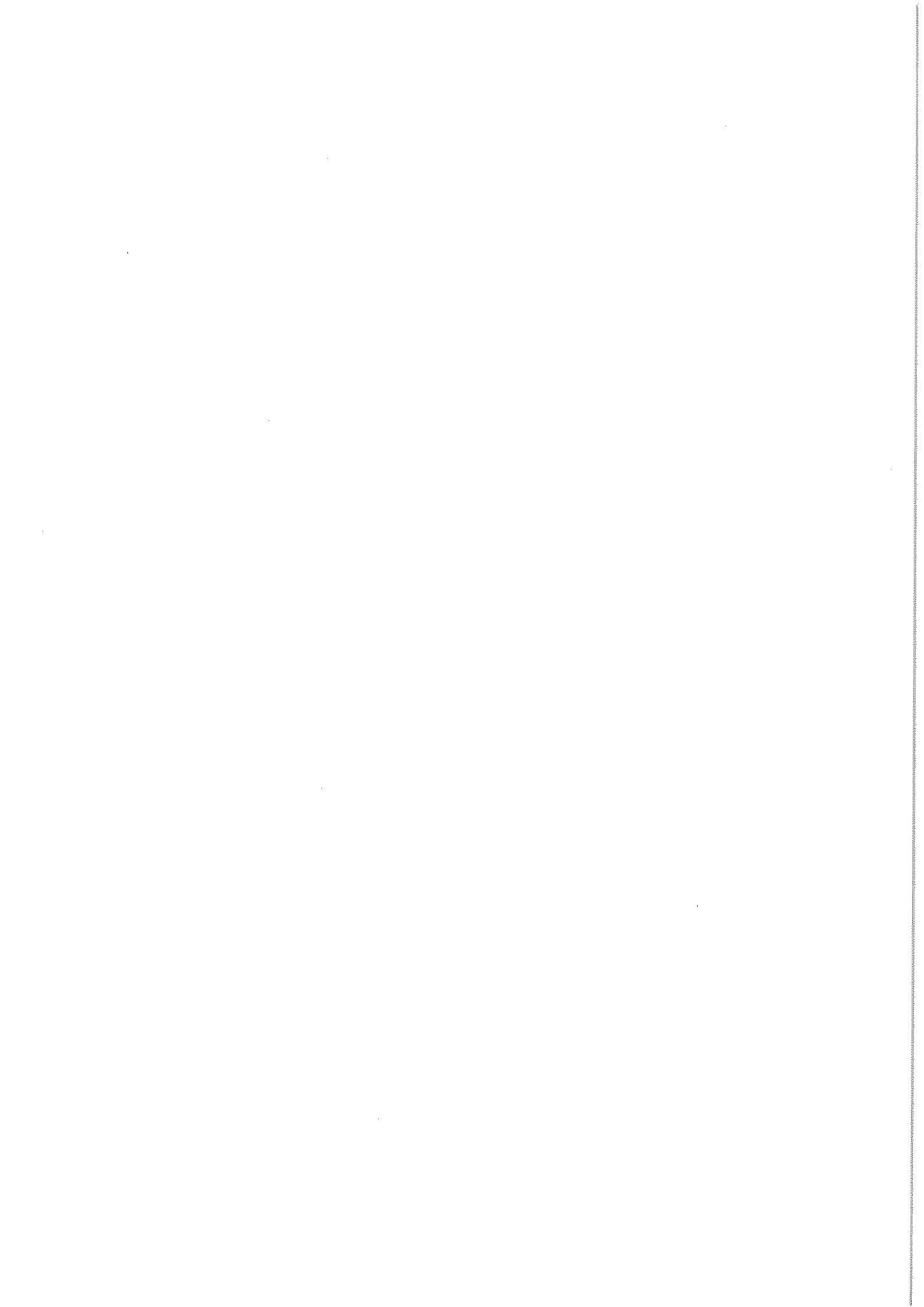
**評価方法** 定期試験(100点満点)

**教科書名** 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1  
病理学・口腔病理学 前田健康 医歯薬出版KK

**参考文献** 新歯科衛生士教本(第2版)病理学 (医歯薬出版)

**履修上の注意** 授業に集中し、しっかりノートを取り、試験前に見てすぐ理解できるようにしておくこと。  
専門用語は覚えるしかない。

回	授業計画	到達目標
1	病理学序論と病因論	①疾病の経過について説明できる。 ②脳死について説明できる。 ③内分泌疾患の代表例について説明できる。
2	遺伝性疾患と奇形	①染色体、テロメアについて概説できる。 ②遺伝性疾患の代表例について説明できる。 ③染色体異常の代表例について説明できる。 ④奇形の発症と原因について説明できる。
3	循環障害	①循環障害についてその種類と各々の定義について概説できる。 ②血栓症、塞栓症について説明できる。 ③動脈硬化症について概説できる。 ④側副循環について説明できる。
4	代謝障害と退行性病変	①細胞傷害の転帰とその種類について各々列記できる。 ②変性の各種について列記できる。 ③萎縮の各種について列記できる。 ④壊死とアポトーシスの違いを説明できる。
5	増殖と修復	①肥大の種類について概説できる。 ②化生の定義と代表例について説明できる。 ③細胞の再生能について列記でき代表例について説明できる。 ④創傷治癒、異物処理について分類、説明できる。
6	炎症	①炎症の定義について説明できる。 ②炎症の経過について説明できる。 ③炎症に関連する細胞を列記、各々を説明できる。 ④急性と慢性の炎症の経過について特徴を説明できる。 ⑤炎症の分類とそれぞれの状態について説明できる。
7	免疫応答異常	①免疫応答について説明できる。 ②液性免疫と細胞性免疫について説明できる。 ③免疫応答の経時的変化について説明できる。 ④アレルギーの分類と各々について概説できその各々の代表例を列挙できる。
8	腫瘍	①腫瘍の定義について説明できる。 ②腫瘍の原因、発声機序について説明できる。 ③腫瘍の種類とその代表例を列記できる。 ④良性と悪性の違いを列記できる。 ⑤前がん病変について説明できる。



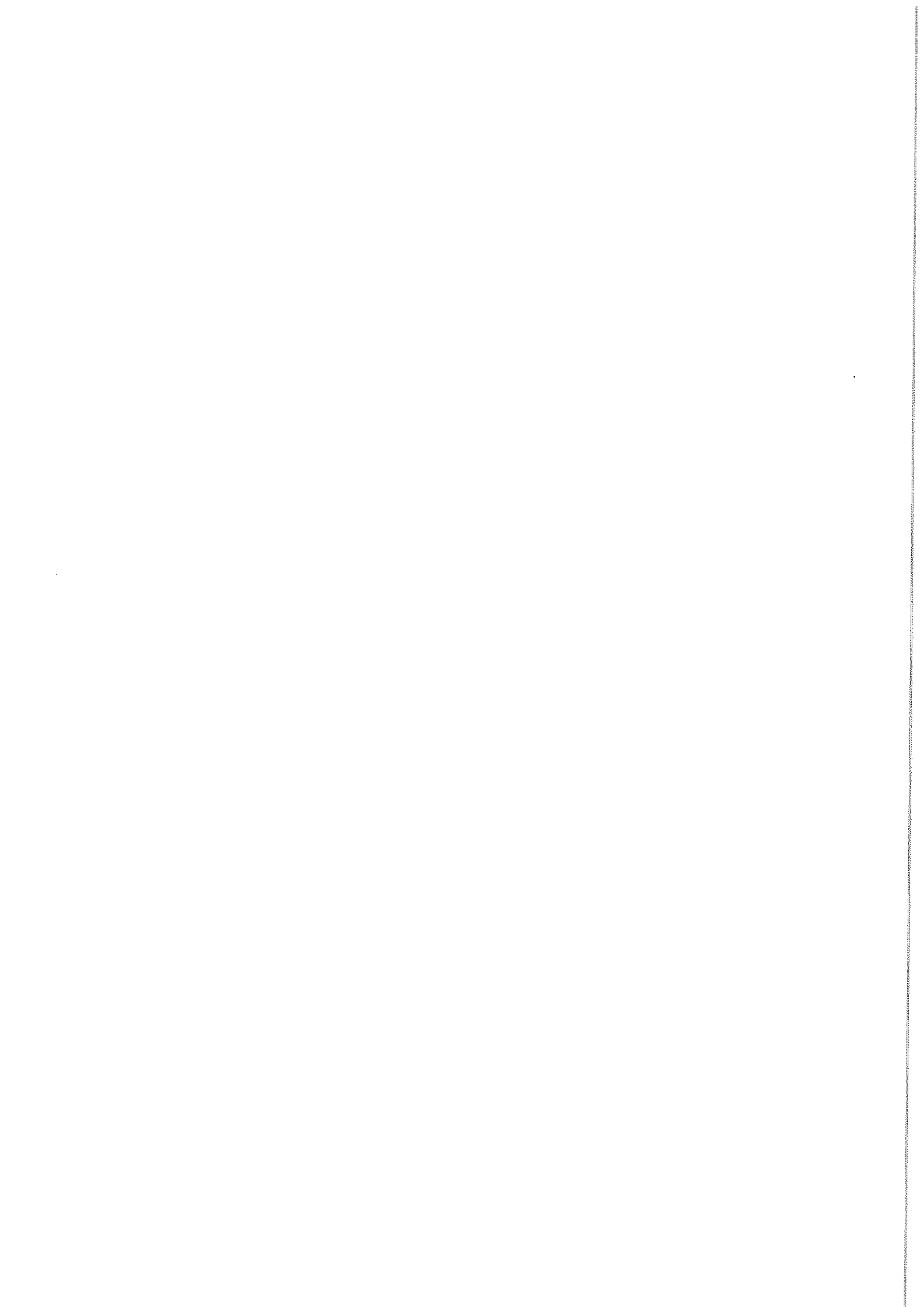
# 【 口腔病理学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	古川猛士	実務経験	歯科医師。九州大学歯学部文部教官助手(口腔病理)。歯科診療所院長。
授業との関連性	大学歯学部での口腔病理の研究を踏まえ、顎口腔領域疾患の原因、機能の変化などについて講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	口腔病理学は、口腔組織の病気の原因、発生機序、経過及び転帰など、病気の本態について学ぶものである。発病のしくみを知り、判断能力を高めることを目標とする。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学 病理学 前田健康 医歯薬出版KK		
参考文献	1. 口腔病理学 I、II (永末書店) 2. 独自のパワーポイント		
履修上の注意	カラー写真となり、慣れるまでは大変でしょうが、極端な例を目にしておくと臨床についてから大抵のことに対応できますので、しっかり学習して下さい。		
回	授業計画	到達目標	
1	1章 歯の発育異常	①大きさ、形、数、構造、色、萌出、位置、咬合などの異常について述べることができる。	
2	2章 歯の損傷と着色・付着物 3章 う蝕	①機械的損傷と化学的損傷の違いについて述べるができる。 ②プラーク、歯石、着色について述べるができる。 ③う蝕の病因、臨床的特徴と分類、病理組織的特徴などについて述べるができる。	
3	4章 象牙質、歯髄複合体の病態 5章 歯周組織の病態 ①根尖部歯周組織の病態	①象牙質、歯髄複合体の概念、特徴を理解する。 ②歯髄炎、退行性病変、進行性病変、創傷治癒などについて列記し説明できる。 ③根尖性歯周炎の原因、病理発生、分類について述べるができる。	
4	5章 歯周組織の病態 ②辺縁部歯周組織の病変 ③エプーリス ④セメント質増生・セメント粒	①歯周病の概念、分類、疫学について理解する。 ②歯肉病変、歯周炎について説明できる。 ③エプーリスについて説明できる。	
5	6章 口腔粘膜の病変 7章 口腔領域のう胞と腫瘍 ①口腔領域のう胞	①色調、物理化学的傷害、感染症、免疫異常、血液疾患、義歯装着に関する疾患、舌の病気などについて特徴あるものを理解する。 ②歯原性のう胞、非歯原性のう胞について列記し説明できる。	
6	7章 口腔領域のう胞と腫瘍 ②口腔領域の腫瘍 歯原性 ③口腔領域の腫瘍 非歯原性 8章 口腔癌	①歯原性腫瘍、非歯原性腫瘍について分類し説明できる。 ②前癌病変、口腔癌について列挙し説明できる。	
7	9章 顎骨の病変 10章 唾液腺の病変	①顎骨の病変、創傷、顎関節などについて理解する。 ②退行性病変、唾石症、唾液腺炎、シェーグレン症候群について理解する。	
8	11章 口腔領域の奇形 12章 口腔領域の加齢変化	①顔面及び口腔の発生、披裂について簡単に説明できる。 ②口腔、舌、顎、顎関節、唾液腺の発育異常について簡単に説明できる。 ③加齢的变化について理解する。	



# 【 薬理入門 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	石塚忠男	実務経験	薬学博士(東京大学)。熊本大学大学院生命科学研究部(薬学系)教授。
授業との関連性	薬学博士としての見識から薬物の組成や生体内での作用、取り扱いについて講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	薬物の作用を理解するための薬理学の基本概念を理解する。
------	-----------------------------

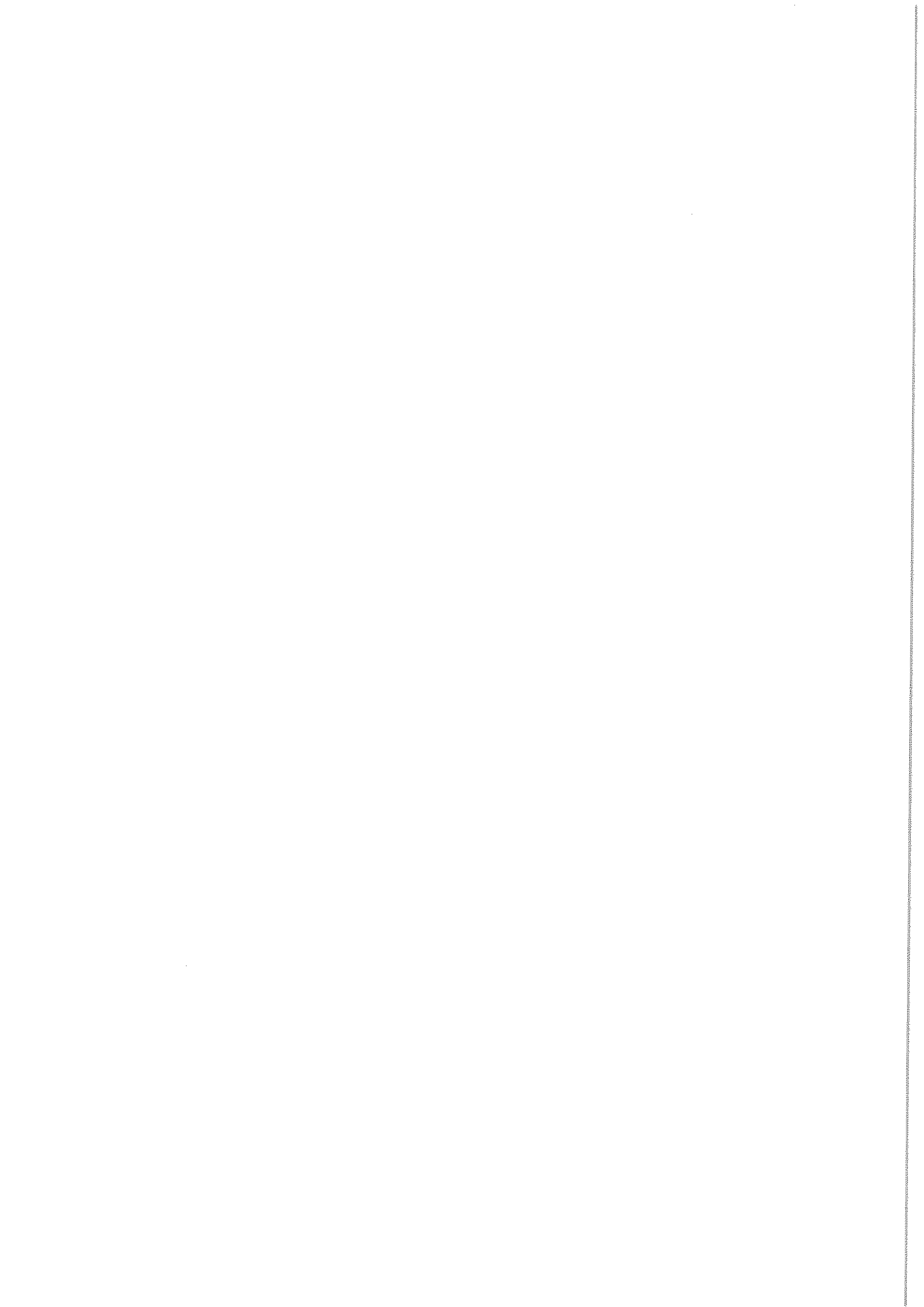
評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	最新「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」 王宝禮著 医歯薬出版KK
------	--

参考文献	授業用にプリントを配布しますので、利用して下さい。
------	---------------------------

履修上の注意	①予習・復習をきちんとして下さい。 ②医療用医薬品に関しては添付文書を調べる習慣をつけて下さい。
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	総論1. 薬物の作用	薬物の作用について理解する。
2	総論2. 薬物動態	薬物が体内でどのように吸収・分布し排泄されるかを理解する。
3	総論3. 薬物の適用方法の種類と特徴	薬物の適用方法にどのようなものがあるかを知り、適用方法による違いを理解する。
4	総論4. 薬物の作用に影響を与える要因	薬物の作用に影響する要因を知り、連用・併用による影響を理解する。
5	総論5. 薬物の副作用、有害作用	薬物の有害作用の種類を知り、その原因を理解する
6	総論6. 医薬品を適用する際の注意	患者の状態による医薬品の適用法の違いを理解し、適切な服薬指導が出来るようになる。
7	総論7. 薬物の取り扱い	医薬品の剤形、保存方法を知り、処方せんにしたがった調剤について理解する。
8	総論8. 薬物と法律・薬物と医薬品	医薬品等に関わる法律について理解する。



# 【 薬理学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	石塚忠男	実務経験	薬学博士(東京大学)。熊本大学大学院生命科学研究部(薬学系)教授。
授業との関連性	薬学博士としての見識から疾病に対する各種薬物の作用機序について講義する。		

履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	①薬物の作用機序、効果、薬物動態、副作用などを勉強することにより、クスリを正しく使うことが出来るようになる。また、患者への、わかりやすい服薬指導が出来るようになる。 ②さまざまな疾病に対する治療薬とその作用機序が理解出来るようになる。
------	--

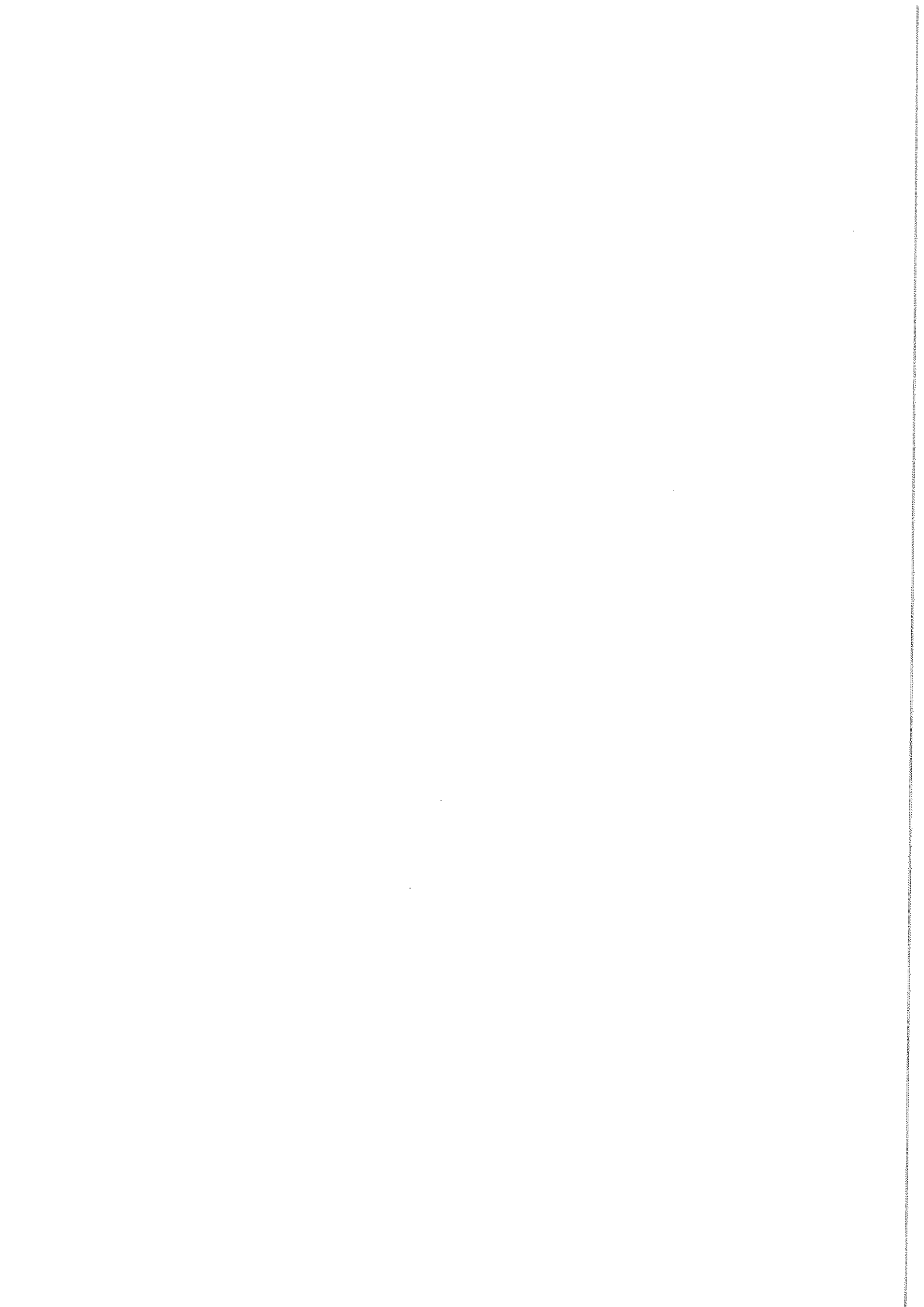
評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	最新「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学」 王宝禮著 医歯薬出版KK
------	--

参考文献	授業用にプリントを配布しますので、利用して下さい。
------	---------------------------

履修上の注意	①予習・復習をきちんとして下さい。 ②医療用医薬品に関しては添付文書を調べる習慣をつけて下さい。
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	総論の総復習	薬理入門、で学習した薬理学の概念・用語を思い出し、各論を理解する準備を行う。
2	各論1. ビタミンとホルモン	ビタミン、ホルモンの種類、働き、欠乏症などについて理解する。
3	各論2. 末梢神経系に作用する薬物	末梢神経系の受容体と神経伝達物質について知り、それら受容体に関する作動薬と遮断薬について理解する
4	各論3. 中枢神経系に作用する薬物	中枢神経系に作用する薬物として、全身麻酔薬、アルコール類、催眠薬・抗不安薬、抗痙攣薬、向精神薬などについて理解する。
5	各論4. 循環器系に作用する薬物	高血圧、不整脈、心不全、狭心症、脂質異常症の治療薬について理解する。
6	各論5. 腎臓、呼吸器系、消化器系に作用する薬物	腎臓の機能と利尿薬について理解する。気管支喘息治療薬、鎮咳薬、去痰薬について理解する。消化性潰瘍治療薬について理解する。
7	各論6. 血液に作用する薬物	止血機構について理解する。止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬について理解する。
8	各論7. 免疫と薬	免疫応答について理解する。免疫抑制薬、免疫増強薬、抗アレルギー薬、ワクチンについて理解する。
9	各論8. 抗悪性腫瘍薬、代謝性疾患治療薬	悪性腫瘍について知り、抗悪性腫瘍薬について理解する。糖尿病、骨粗鬆症治療薬について理解する。
10	各論9. 炎症と薬	炎症について理解する。抗炎症薬、解熱鎮痛薬について理解する。
11	各論10. 痛みと薬	痛みについて理解する。鎮痛薬について理解する。
12	各論11. 局所麻酔薬	局所麻酔薬について知り、作用機序を理解する。
13	各論12. 抗感染症薬1	感染症と感染症治療について理解する。
14	各論13. 抗感染症薬2	抗感染症薬について、分類と作用を理解する。
15	各論14. 消毒に使用する薬	消毒薬の作用機序を知り、主な消毒薬を種類別に理解する。

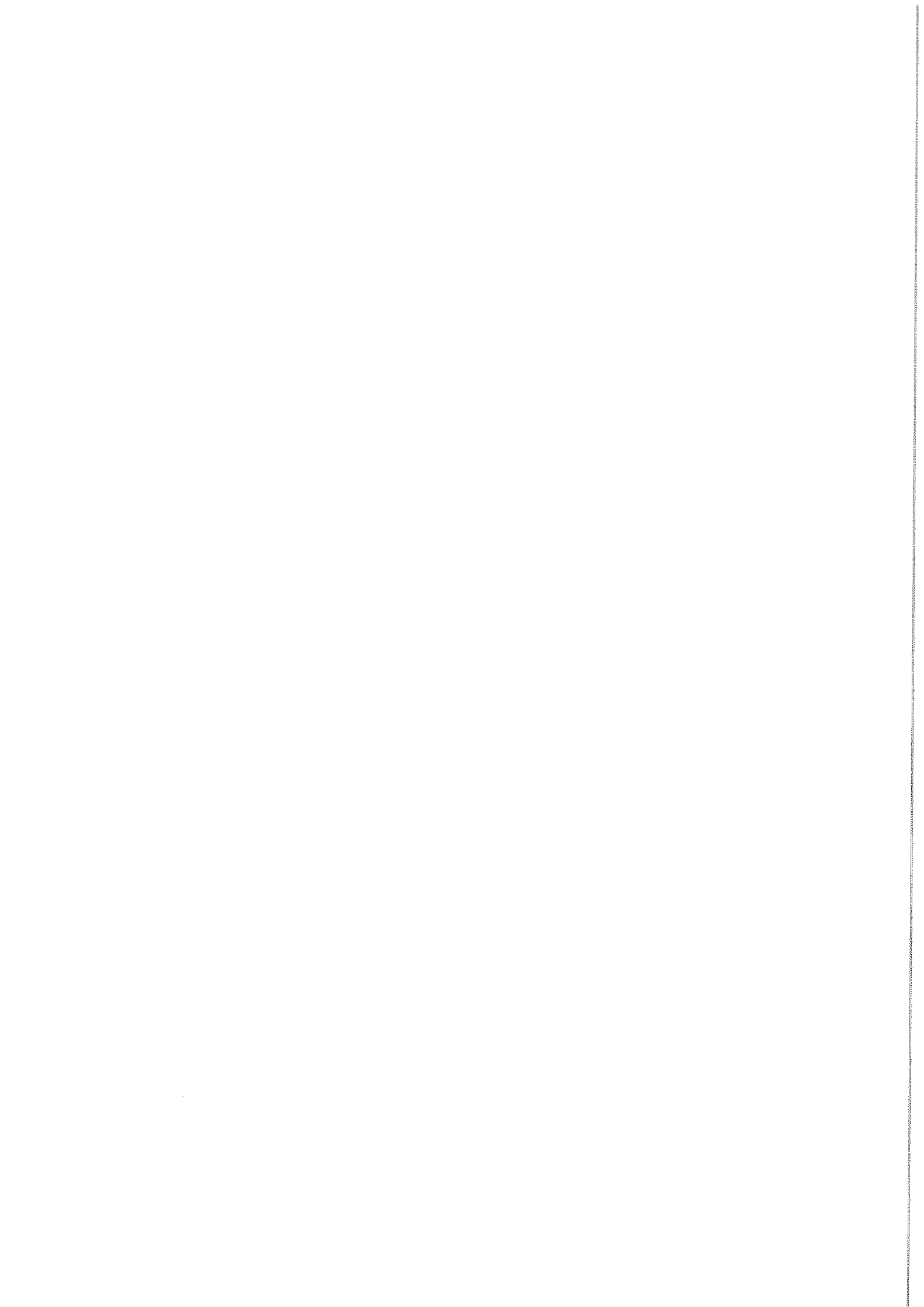




# 【 微生物学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

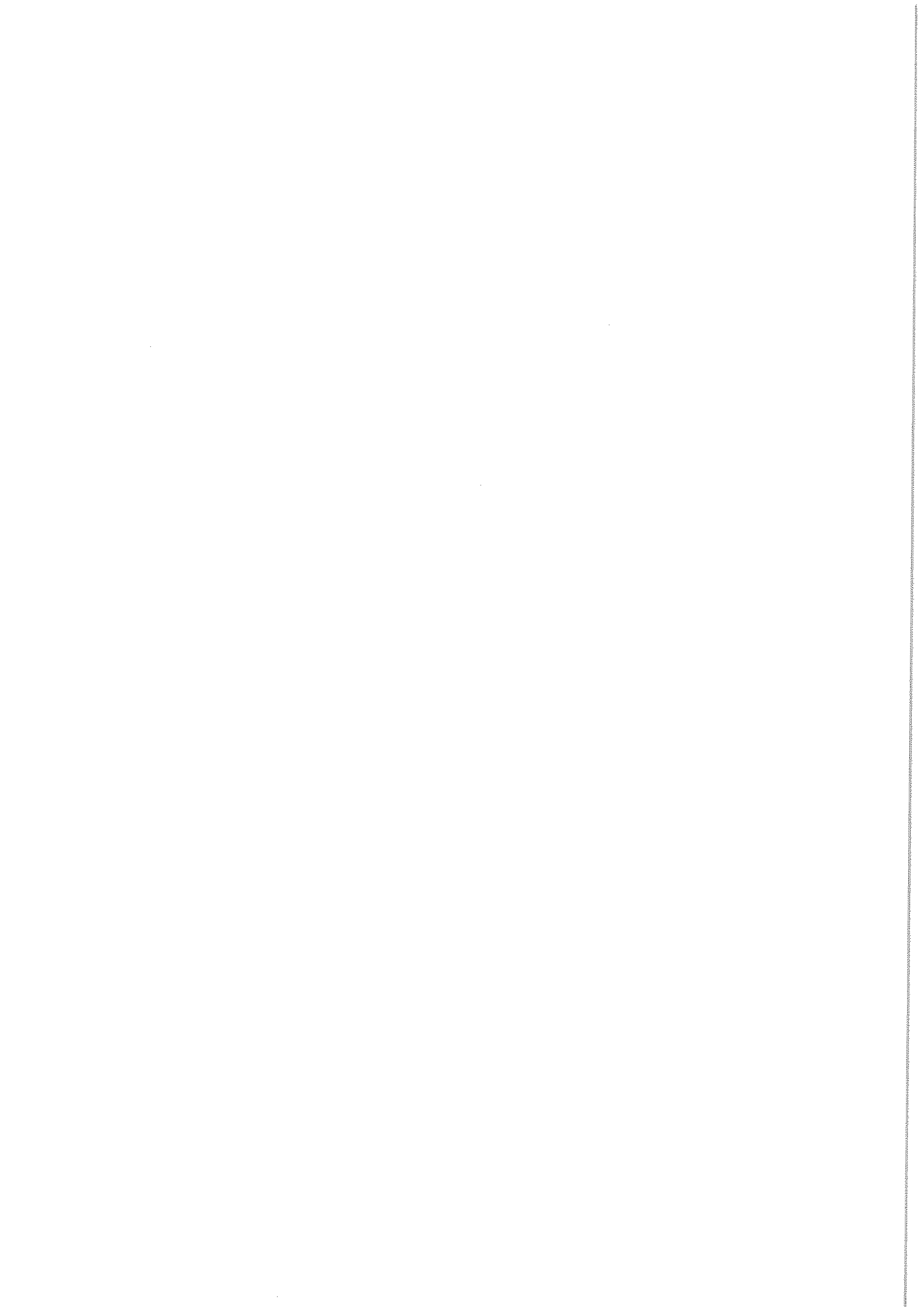
講師名	劉 隣	実務経歴	歯科医師。熊本大学医学部付属病院勤務。		
授業との関連性	大学病院歯科口腔外科医としての研究や治療経験を踏まえ、感染症の原因となる病原菌の性状や発達について講義する。				
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)
授業回数	15				
授業目標	う蝕や歯周病などの歯科疾患の多くは微生物による感染症である。微生物の概念、生態との関係について学び、微生物学的観点から各疾患を捉える知識を習得する。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	疾病の成り立ち及び回復過程の促進2「微生物学」 木村重信著 医歯薬出版KK				
参考文献	1. 戸田新細菌学 南山堂 2. 口腔微生物学 免疫学 医歯薬出版				
履修上の注意	教本、授業プリントを持参してください。				
回	授業予定			到達目標	
1	微生物学概論 —微生物学の発達と歴史—			微生物の概念と微生物学発展の歴史を理解する。	
2	微生物の一般的性状 (細菌とウイルスの違いについて)			微生物の種類を知り、その違いを理解する。	
3	微生物の培養法と観察方法 (各種培養法および顕微鏡の種類・使い分け)			微生物学における実験的手技を理解する。	
4	感染と発症 (微生物VS宿主、感染経路と感染症の種類)			感染の概念を理解する。	
5	免疫① (免疫のしくみとその種類)			免疫の概念を理解する。	
6	免疫② (免疫機構のバランスについて —アレルギーや自己免疫疾患を中心として—)			生体がどのような機構で免疫のバランスを保ち、それがくずれるとどうなるかを理解する。	
7	病原微生物各論① (グラム陽性、陰性菌)			一般病原菌について、その種類と違い、特徴を理解する。	
8	病原微生物各論② (ウイルス、その他の微生物)			ウイルスやその他の微生物について、その種類と違い、特徴を理解する。	
9	化学療法 (各微生物に対する化学療法とその作用機序)			化学療法の種類、使い分けとその作用機序を理解する。	
10	滅菌と消毒 (各種滅菌法について)			滅菌・消毒の概念と違いを理解し、臨床現場で用いられている各種滅菌法を身につける。	
11	口腔内常在微生物 (口腔内の微生物と感染防御機構)			口腔内環境について知り、常在微生物と感染防御機構の関係について理解する。	
12	う蝕症(微生物学的観点からみたう蝕症)			う蝕症が細菌感染症であることを理解し、う蝕関連の感染症についても理解を深める。	
13	歯周病 (歯周病の種類と病原菌)			歯周病の病態と病原菌の関わりについて知り、その予防法についてまで知識を広げる。	
14	全身の感染症と口腔内症状 (感染症と口腔症状の関係)			全身における感染症が口腔内症状にどのような影響を与えるか、その原因と実際の症状を知る。	
15	総まとめ (過去14回の講義の補足と試験対策)			国家試験対策も視野に入れた総まとめ。	



【 口腔衛生学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	山口 治利	実務経験	歯科医師。九州大学歯学部歯科放射線学講座助手。歯科診療所院長。		
授業との関連性	臨床歯科医師としての経験を踏まえ、歯・口腔の健康と予防の基礎、う蝕・歯周疾患の発生機序、予防手段について講義する。				
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)
					授業回数 15
授業目標	国家試験に合格する学力を身につける。卒業後の臨床現場で戸惑わない基礎学力を修得する。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	「保健生態学」 可児徳子著 医歯薬出版KK				
参考文献	「歯科衛生士国家試験問題集」				
履修上の注意					
回	授業計画			到達目標	
1	1章 1-1「歯・口腔の健康と予防」の定義 1-2「歯・口腔の健康と予防」の基礎 1-3「歯・口腔の健康と予防」の方法 1-4「歯・口腔の健康と予防」と健康づくり			①健康の根源である命について理解を深める。 ②健康の定義を知る。 ③健康増進と疾病予防の3つの場を覚える。 ④1～3次予防の概念を理解する。 ⑤8020運動を理解する。	
2	1章 2-1 歯・口腔の構造 2-2 歯・口腔の発生と成長・発育 1)-2)			①歯及び口腔組織の構造と名称を覚える。 ②唾液の機能を理解する。 ③外胚葉、内胚葉、中胚葉及び間葉に由来する組織を知る。	
3	1章 2-2歯・口腔の発生と成長・発育 3)～9)			①歯の石灰化及び萌出時期を覚える。 ②五大栄養素やホルモンが口腔形成に及ぼす影響を理解する。 ③口腔の形成異常について理解する。	
4	1章 2-3歯・口腔の機能 2-4口腔の健康と全身の健康			①咀嚼・嚥下について理解する。 ②誤嚥性肺炎について理解する。 ③口腔と全身の健康(歯周病と糖尿病、早産)について理解する。	
5	1章 3-1 ペリクル 3-2 プラーク 3-3 歯石 3-4 舌苔 3-5 外来性色素沈着物			①プラークの生態について深く理解する。 ②ペリクルと細菌の付着機構について理解する。 ③バイオフィルムの概念を十分に理解する。 ④歯石について理解する。 ⑤S.mutansとGTFの関係を理解する。	
6	2章 1 口腔清掃の意義 2-1. 2. 3 口腔清掃法 3-1. 2. 3 人工的清掃法の分類と用具 4 不適切な口腔清掃法による有害作用 5 歯磨剤と洗口剤			①刷掃用具の種類と使用法を習熟する。 ②染め出し剤の色素名を覚える。 ③不適切な刷掃法の有害作用を理解する。 ④歯磨剤と洗口剤の組成とその効能を覚える。	
7	3章 歯科疾患の疫学 4章 1 う蝕発生のメカニズム 2-1. 2 う蝕の発生要因			①う蝕、歯周病等の疫学を概説する。 ②う蝕発生のメカニズムを脱灰のキーワードで理解する。 ③う蝕発生要因の宿主と歯、口腔細菌、発酵性糖質の関係性を理解する。	
8	4章 2-3 う蝕発生に関わる要因 2-4 う蝕発生機序			①う蝕感受性が高い年齢と性別、歯種と歯面、唾液の緩衝能について理解する。 ②ミュータンスレンサ球菌のう蝕誘発性を3つ挙げられる。 ③ステファンカーブを理解する。	
9	4章 3 う蝕活動性 4 う蝕の予防法			①各う蝕活動性試験の検体と評価内容を覚える。 ②う蝕発生の第1～3次予防を理解する。 ③発生要因に対する予防法を理解する。 ④MI(Minimal Intervention)について理解する。	
10	5章 1 我が国のフッ化物応用 2 フッ化物の一般性状と用語 3 人間生態系におけるフッ化物 4 フッ化物摂取量とその基準 5 フッ素の代謝			①日本のフッ化物応用の歴史と現状を理解する。 ②フッ化物の摂取量とその基準をはっきりと覚える。 ③フッ素の代謝を理解する。	
11	5章 6 フッ化物の毒性 7 フッ化物応用によるう蝕予防法			①急性毒性、致死量をはっきりと覚える。 ②慢性毒性を理解する。 ③ppmと%の関係、フッ素濃度に関する基礎を学ぶ。 ④フッ化物歯面塗布の手法と溶液の種類を理解する。 ⑤フッ化物洗口について習熟する。	
12	5章 7 フッ化物応用によるう蝕予防法 8 フッ化物のう蝕予防メカニズム 9 ライフステージに応じたフッ化物応用法			①フッ化物の局所と全身応用の方法について理解する。 ②フッ化物のう蝕予防機序を理解する。 ③ライフステージ別の新しいフッ化物応用法を学ぶ。 ④フッ化物配合歯磨剤に対する新しい考え方を学習する。	
13	6章 1 歯周疾患の症状と分類 2 歯周疾患の発生機序			①歯周組織の構造を覚える。 ②歯肉炎と歯周炎の定義と分類を覚える。 ③歯周疾患の症状を知る。 ④歯周疾患の発生機序を理解する。	
14	6章 3 歯周疾患の全身に与える影響 4 歯周疾患の予防手段と処置			①ペリオドンタルメディスンを理解する。 ②歯周疾患の予防手段と処置を理解する。 ③歯周疾患のリスクファクターについて理解する。 ④定期的予防処置の重要性について理解する。	
15	7章 1 口内炎 2 口腔癌 3 不正咬合 4 顎関節症 5 歯の形成不全 6 口臭症 7 口腔乾燥症			口内炎、口腔癌、不正咬合、顎関節症、歯の形成不全、口臭、口腔乾燥症について分類、要因、予防について概説する。	



# 【 公衆歯科衛生学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学院

講師名	正清義朗	実務経歴	歯学博士。口腔衛生学会認定予防歯科医。九州環境福祉医療専門学校歯科衛生士科非常勤講師。歯科診療所院長。
授業との関連性	口腔衛生学会認定予防歯科医師としての様々な研究や経験を踏まえ、地域歯科保健活動の枠組みや集団や行政レベルでの予防対策について講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域社会で集団歯科保健指導をするうえで対象集団の特性を把握する。</li> <li>2. 現在の日本と世界における地域歯科保健活動の枠組みと内容を知る。</li> <li>3. 地域社会で活躍、貢献できる歯科衛生士となる知識を習得する。</li> <li>4. 口腔の健康を損なわせる疾病について原因と病態を知り、集団や行政レベルでの予防について考え学ぶ。</li> <li>5. 国家試験に合格できるだけ知識を習得する。</li> </ol>
------	--

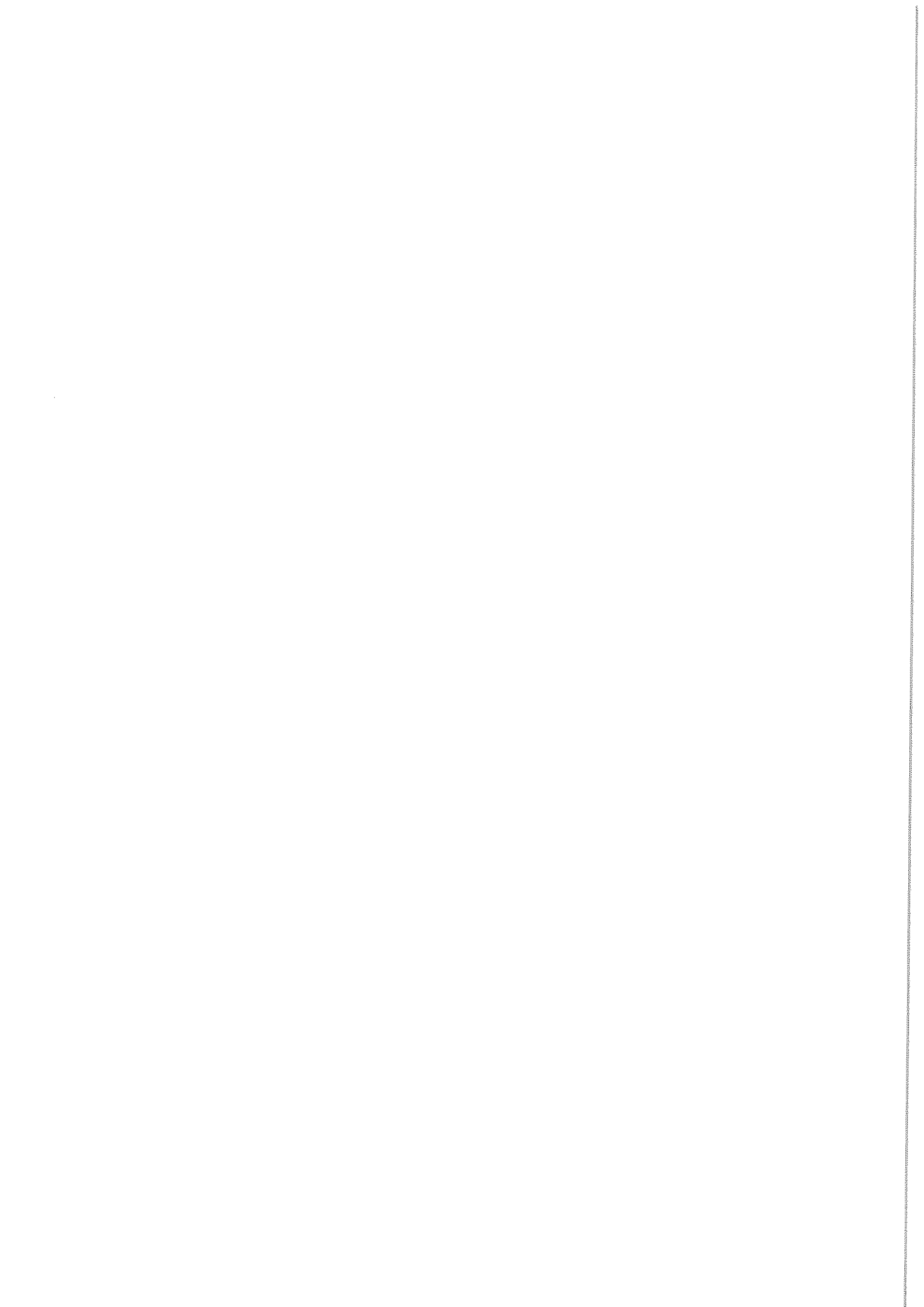
評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	最新「保健生態学」 可児徳子著 医歯薬出版
------	-----------------------

参考文献	厚生統計協会 編「国民衛生の動向」(厚生統計協会)
------	---------------------------

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞をよく読み、現在、身の回りや世界で起きている出来事が、自分や家族の生活と健康に与えている影響を考えること。</li> <li>・配布された資料はファイリングして、整理し、毎回持参すること。</li> </ul>
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	第1章: 地域保健・公衆衛生	①地域保健
2	第1章: 地域保健・公衆衛生	①ヘルスプロモーション ②ソーシャルキャピタル
3	第1章: 地域保健・公衆衛生	①地域保健活動の進め方 ②ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ
4	第1章: 地域保健・公衆衛生	①地域歯科保健 ②保健福祉関係の施策 ③厚労省の健康づくり政策
5	第2章: 母子保健	①母子保健の用語 ②母子保健の制度と政策 ③出生と死亡から考える母子保健の現状と課題
6	第2章: 母子歯科保健	①妊娠期 ②幼児期 1歳6か月健診と3歳児健診
7	第3章: 学校保健	①学校病と学校における感染症 ②学校保健の行政における位置づけを知る。 ③学校保健の活動を組織を理解する。 ④学校保健の疫学と意義を理解する。
8	第3章: 学校歯科保健	①学校歯科健診
9	第4章: 成人保健 第4章: 成人歯科保健	①生活習慣病 ②悪性新生物 ③成人保健対策 ④特定健康診査の項目と標準値 ⑤成人期の歯科保健の現状 ⑥8020運動 ⑦歯周疾患検診
10	第5章: 産業保健 第5章: 産業歯科保健	①産業衛生法規 ②職業性疾病 ③産業保健活動 ④健康診断の実施 ⑤職業性歯科疾患 ⑥特殊健康診断
11	第6章: 老人保健	①老化とは ②老化に伴う病態 ③老人保健対策 ④介護保険 ⑤老人歯科保健
12	第7章: 精神保健	①精神保健とは ②精神障害者福祉
13	第8章: 国際保健	①世界における健康問題 ②国際協力 ③国際歯科保健
14	復習	地域保健～学校保健
15	復習	成人保健～国際保健



# 【保健情報統計学】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	郷原賢次郎	実務経験	歯科医師。九州歯科大学大学院歯学研究科。歯科診療所院長。
授業との関連性	口腔衛生学に係る様々な研究を踏まえ、口腔健康管理に必要な評価のし方と管理について講義する。		
講師名	山川摩利子	実務経験	歯科医師。歯学博士。日本障害者歯科学会指導医。東京医科歯科大学障害者歯科治療部医員、熊本市立熊本市市民病院歯科を経て熊本市東区保健子ども課に勤務。
授業との関連性	熊本市に勤務する歯科医師としての経験を踏まえ、統計から地域集団の動向を探り県民の健康維持への介入の在り方を講義をする。		

履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	国家試験担当範囲の習熟を最優先に、近年の歯科衛生士に求められる業務範囲の広がりに対して、その意義等を伝える。統計の意義について学び、歯科衛生士の仕事が国家各種行政機関が行う統計調査とどのように関わっているのかを知る。
------	--

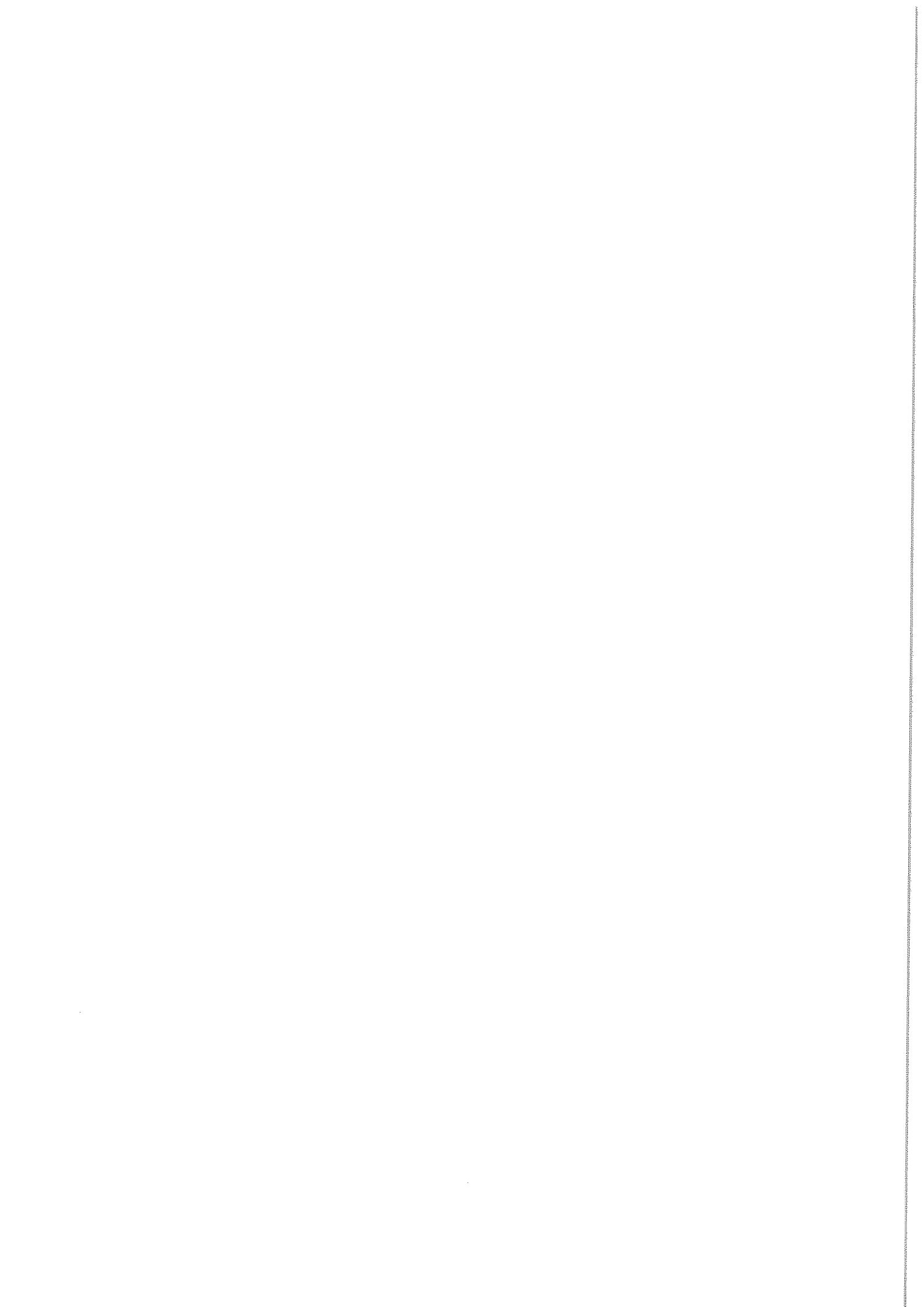
評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	「保健情報統計学」 佐々木好幸著 医歯薬出版KK
------	--------------------------

参考文献	1. 歯科疾患実態調査 2. 地域保健事業・健康増進事業報告書 3. 各種統計報告書
------	--

履修上の注意	PC使用によるスライド形式で行う
--------	------------------

回	授業計画	到達目標
1	(山川摩利子) ①行政歯科衛生士業務について ②自治体から国への事業報告としての「地域保健事業・健康増進事業報告」を理解する。 ③「歯科疾患実態調査」について概要を理解する。	①行政歯科衛生士の果たす役割を説明できる。 ②「地域保健事業・健康増進事業報告」の概略を説明できる。 ③「歯科疾患実態調査」について説明できる。
2	<郷原賢次郎> 歯科衛生統計総論	疫学概論 疫学の歴史 スクリーニング
3	<郷原賢次郎> 歯科疾患の疫学 (カリエスについて)	各種指標の説明
4	<郷原賢次郎> 歯科疾患の疫学 (歯周疾患について)	各種指標の説明
5	<郷原賢次郎> 歯科疾患の疫学 (口腔清掃状態について)	各種指標の説明
6	<郷原賢次郎> 歯科疾患の疫学 (不正咬合、フッ素症、その他)	各種指標の説明
7	<郷原賢次郎> 統計総論	統計の分類 各種統計指標 代表値について
8	<郷原賢次郎> 検定	各種統計指標に適した検定法 検定の重要性和その意義について





【 衛生公衆衛生学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学院

講師名	弘中美貴子	実務経験	歯科医師。歯学博士。日本口腔衛生学会認定医。日本抗加齢医学会専門医。九州歯科大学口腔衛生学講座臨床研修医、国立予防衛生研究所歯科衛生部、歯科診療所副院長。
授業との関連性	口腔衛生学会認定医、また抗加齢医学専門医としての様々な臨床経験を踏まえ、健康を守るための基礎的な知識や社会制度と社会の出来事が健康に与える影響について講義する。		

履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義・演習	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康とは何か。日本人と世界の健康の現状を知る。</li> <li>2. 健康を損なわせる疾病について原因と病態を知り、個人レベルでの予防と集団や行政レベルでの予防について考え学ぶ。</li> <li>3. 将来、自分と家族の健康をまもっていくための基本的知識と社会制度を習得する。</li> <li>4. 国家試験に合格できるだけだけの知識を習得する。</li> </ol>
------	---

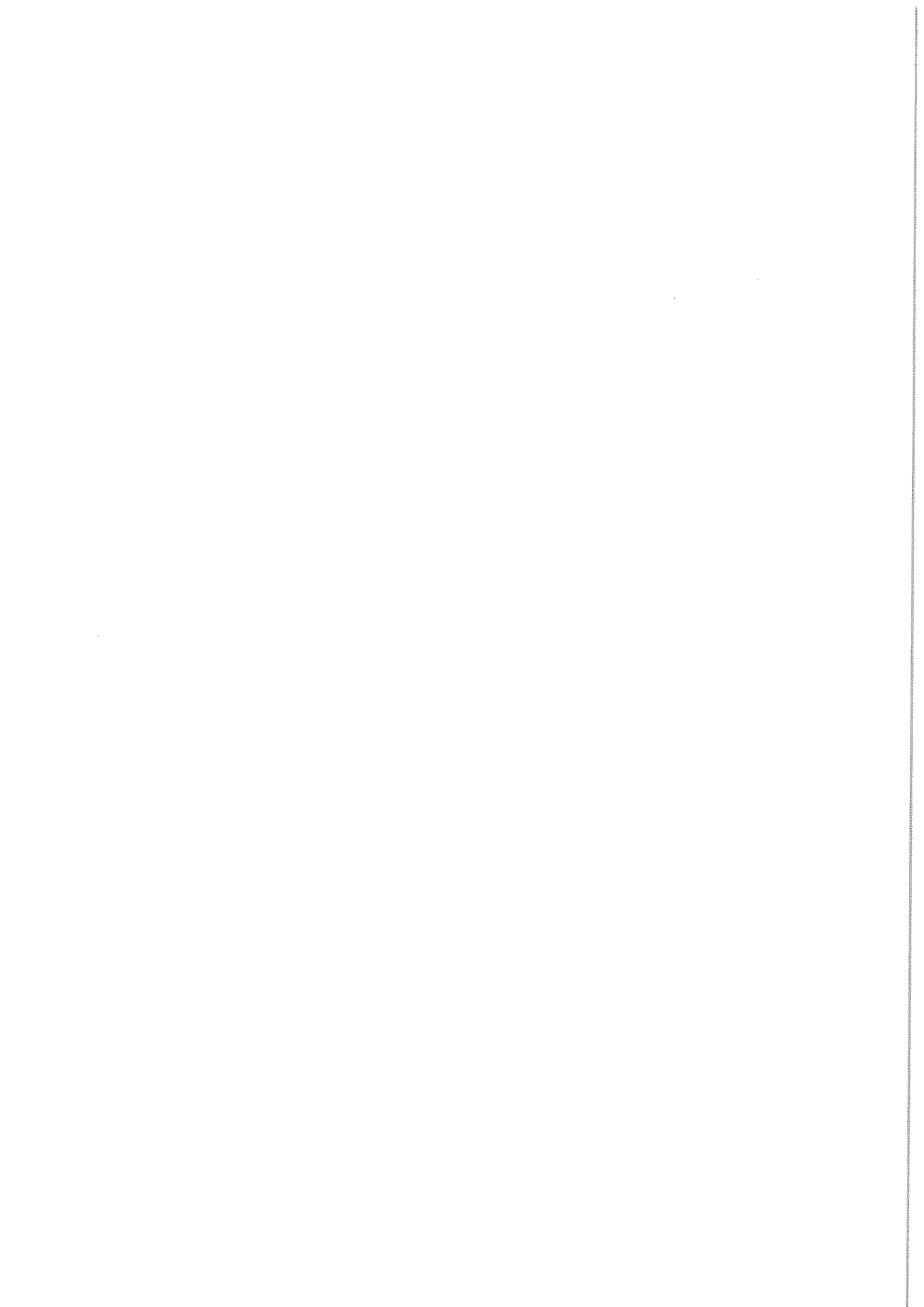
評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	最新「保健生態学」 可児徳子著 医歯薬出版
------	-----------------------

参考文献	厚生統計協会 編「国民衛生の動向」(厚生統計協会)
------	---------------------------

履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞をよく読み、現在、身の回りや世界で起きている出来事が、自分や家族の生活と健康に与えている影響を考えること。</li> <li>・配布された資料はファイリングして、整理し、毎回持参すること。</li> </ul>
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	第1章:総論 宿題:難病	①健康の概念 ②プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーション ③予防医学と予防の段階
2	小テスト(1) 第2章:疫学	①疫学とは何か ②難病といわれる疾病を覚える。
3	小テスト(2) 第2章:疫学(2)	①罹患率と有病率 ②疫学の方法と倫理
4	第3章:人口(1)	①動態統計と静態統計の違いを理解する。 ②人口統計と統計用語 ③出生・死亡の統計
5	第3章:人口(2)	①平均寿命 ②世界の人口 ③まとめ
6	小テスト(3) 第4章:環境(1) 宿題:グループ学習(環境)	①概念 ②空気と水 ③放射線
7	第4章:環境(2)グループ学習の発表	地球環境と公害
8	第4章:環境(3)グループ学習の発表	①まとめ ②廃棄物処理
9	小テスト(4) 第5章:感染症(1)	①感染症の用語を覚える ②感染症の分類と分類された感染症を覚える。 ③感染症の予防と対策を知る。
10	第5章:感染症(2) パワーポイント	①感染症に分類された病気について詳しく理解する。
11	第5章:感染症(3) まとめ 小テスト(5)	①ニュースになった感染症を新聞記事で履修する ②予防接種 ③感染症についての理解を深める
12	小テスト(6) 第6章:食品と健康(1) 計算機持参	①メタボリックシンドロームについて理解する。 ②BMIが計算できる。 ③食中毒の疫学、分類、原因を理解する。
13	第6章:食品と健康(2) Ⅲ. 第7章:精神保健(1) 宿題:グループ学習(精神保健)	①食中毒の小テスト ②精神保健の意義を知る。 ③心の健康と行動を理解する。 ④精神保健対策の法律を理解する。 ⑤虐待について知る。
14	Ⅲ. 第7章:精神保健 グループ学習の発表 全体の総括	①精神障害の分類と特性、病態を理解する。 ②発達障害の分類と特性を理解し、対応を考える。 ③最重要ポイントを再確認する。
15	まとめ学習 わかりにくかったところを重点的に	①疫学 ②人口統計 ③感染症の分類などを予定



【 衛生行政社会福祉 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	森枝敏郎	実務経験	社会福祉主事(任用資格)。熊本県入庁。大学非常勤講師にて勤務。社会福祉法人さかえの杜理事長。
授業との関連性	県庁職員また様々な社会福祉に係る研究や活動を通して、社会制度の概要や福祉のまちづくりについて講義する。		
講師名	城戸禎子	実務経験	社会福祉士。介護支援専門員。総合病院地域医療連携室勤務、九州医療専門学校社会福祉士通信学科非常勤講師、熊本総合医療リハビリテーション学院非常勤講師。
授業との関連性	病院に勤務する社会福祉士、介護支援専門員としての様々な経験わ踏まえ、社会保険や社会福祉について講義する。		
履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義
		単位数	2単位(30時間)
		授業回数	15
授業目標	衛生行政の分野においては、歯科衛生士の業務に関連する行政組織や歯科四法等の関係法規について理解し、遵法精神の下で業務を行うことができるようにする。社会福祉の分野においては、社会保障の目的や機能を理解した上で、社会保険や福祉サービスを具体的に学び、患者や利用者を取り巻く社会制度を深く理解した専門職になることを目指す。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	「歯科衛生士のための衛生行政社会福祉社会保険 第9版」末高武彦著 医歯薬出版KK		
参考文献	第4次熊本県歯科保健医療計画(概要版)		
履修上の注意	①板書されたことしかノートをとれない学生さんが増えています。聴く力、考える力、まとめる力の向上を目指して下さい。必ず業務で役に立ちます。 ②適宜行う確認テストで各授業のポイントを確認し復習に活かして下さい。		
回	授業計画	到達目標	
1	森枝敏郎 2章 衛生行政 I 衛生行政の目的 II 衛生行政の沿革 III 衛生行政の組織	①行政とは何かを理解しつつ、衛生行政の目的・特色について述べる事ができる。 ②国民皆保険や厚生労働省、医療制度、歯科衛生行政の沿革について理解する。 ③国や地方公共団体、地方自治体等、行政組織の概要について述べる事ができる。	
2	森枝敏郎 3章 衛生関係法 I 法制概論 II 医師法、歯科医師法 III 歯科衛生士法	①法の意義や分類・衛生関係法について理解する。 ②医師、歯科医師の業務や担当領域について述べる事ができる。 ③歯科衛生士法の目的や歯科衛生士の身分、業務内容、範囲について述べる事ができる。	
3	森枝敏郎 3章 衛生関係法 IV 関連する医療関係者の身分に関する法 V 医療に関する法(医療法)	④歯科技工士など、関係する医療関係者の分類と業務内容について説明ができる。 ⑤医療施設の分類と業務概要について、また医療安全管理や病院等の広告について述べる事ができる。	
4	森枝敏郎 3章 衛生関係法 VI 薬事に関する法 VII 地域保健に関する法 VIII 食品安全、食育に関する法	⑥薬事法で定められた医薬品などの分類について理解し、実際の製品を分類することができる。 ⑦保健所と市町村保健センターの業務の区分について述べる事ができる。 ⑧食品衛生、食品表示および食育について説明ができる。	
5	森枝敏郎 4章 保健医療の動向 I 厚生関係統計調査 II 国民の健康状態と受療状況	①統計制度や保健関係統計調査、統計資料の利用法について理解する。 ②口腔の状況など、国民の健康状況について述べる事ができる。	
6	森枝敏郎 4章 保健医療の動向 III 医療施設 IV 医療関係者 V 国民医療費	①歯科診療所の施設数、従事者、業務状況について理解することができる。 ②歯科医師、歯科衛生士及び歯科技工士等の就業者等について述べる事ができる。	
7	城戸禎子 6章 ①社会福祉の沿革 ②社会福祉の組織と担い手	①日本の社会福祉の流れを掴むことができる。 ②日本の社会福祉を行なう行政機関や専門職について理解を深める。	
8	城戸禎子 1章 ①日本の社会保障制度とその目標と機能 ②ライフステージ別の社会保障制度 ③世界の社会保障制度	①日本の社会保障制度とその目標や機能を掴むことができる。 ②ライフステージ別の社会保障制度について理解できる。 ③世界の社会保障制度について理解できる。	
9	城戸禎子 6章 ①障害者の福祉制度と法	①障害者福祉の概要や、障害者福祉サービスについて理解できる。	
10	城戸禎子 6章 ①児童と家庭の福祉制度と法	①児童福祉の概要や、子育て支援施策等について理解することができる。	

回	授業計画	到達目標
11	城戸禎子 5章 ①社会保険の沿革 ②社会保険行政の組織 ③医療保険制度と法	①社会保険の沿革について理解できる。 ②社会保険行政の組織について理解できる。 ③医療保健の概要と給付や費用負担について理解できる。
12	城戸禎子 5章 ①年金制度と法 ②雇用保険 労働者災害補償保険制度と法	①年金制度の概要について理解できる。 ②雇用保険および労働者災害補償保険制度について理解できる。
13	城戸禎子 6章 IV 生活保護制度と法	①公的扶助の意義や原理原則について理解する。 ②生活保護の種類や方法を理解することができる。
14	城戸禎子 5章 VI 介護保険制度と法 6章 VII 高齢者の福祉制度	①介護保険制度の概要について理解する。 ②介護サービスの利用について知る。 ③高齢者の福祉と保健について理解する。
15	城戸禎子 まとめ	多領域にまたがった横断的な課題に取り組み、学習内容を総合的に理解し、国家試験問題を解くことができる力を身につける。

# 【 歯科衛生学Ⅰ 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	岩切恵子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務主任。
授業との関連性	全衛協認定歯科衛生士専任教員として、歯科衛生士法における法的業務と歯科衛生士の社会的使命や活躍の場面について講義や演習を行う。		
講師名	野中友紀子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。本学院専任教員。
授業との関連性	歯科衛生士としての臨床経験や全国歯科衛生士教育協議会認定歯科衛生士専任教員、また教育委員としての指導経験をとおり、歯科衛生活動を展開するための歯科衛生過程の講義と演習を行う。		
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義・演習
		単位数	1単位(30時間)
		授業回数	15
授業目標	歯科衛生士の系統専門学問である歯科衛生学について理解を深め、医療専門職としての認識を持つ。また、歯科衛生士法における法的業務の解釈を理解し、国家資格である歯科衛生士の社会における役割を理解する。 科学的根拠をもって歯科衛生活動を展開するためのツールである歯科衛生過程の概要を理解することができる。		
評価方法	定期試験(100点満点) 提出物×切厳守。減点対象になることもあります。		
教科書名	①最新「歯科衛生学総論」 遠藤圭子著 医歯薬出版KK ②最新「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版株式会社 ③「よくわかる歯科衛生過程」医歯薬出版KK		
参考文献	1. 新歯科衛生士教本「歯科衛生学概論」 江島房子著 医歯薬出版 2. 「歯科衛生士のための高齢者とのグッドコミュニケーション」中村千賀子著 医歯薬出版 3. 「生活の医療」大久保満男著 中央公論新社 4. 「いのちと食」大久保満男著 中央公論新社 ※その他は授業中に紹介します。 5. 最新歯科衛生士教本「心理学」医歯薬出版		
履修上の注意	授業中は話している内容を聞きながら記録をとるようにしてください。 配布資料は毎回持参し綴しておくこと。		
回	授業計画	到達目標	
1	医療専門職になるにあたって 1章 「歯科衛生学」とは何か 健康とは何か 健康と疾病、病気の捉え方 5章 歯科衛生士とは何か。 歯科衛生士法の性格と業務内容 歯科衛生士の定義	1. 歯科衛生士になるための心構えが理解でき今後実践することができる。 2. 「歯科衛生学」とは何か、簡単に述べることができる。 3. 「健康」とは何か、説明することができる。 4. 「疾病」と「病気」の違いを医療専門職の観点から説明できる。 5. 歯科衛生士とはどのような医療専門職か説明できる。 6. 歯科衛生士の社会的責任について説明できる。 7. 歯科衛生士の定義について説明できる。	
2	5章 歯科衛生士業務の法的性格 (1)歯科予防処置 (2)歯科診療の補助 (3)歯科保健指導 歯科衛生士の義務	1. 歯科衛生士法の要点を説明できる。 2. 「歯科医師の指導の下に」の意味が説明できる。 3. 独占業務(第2条)について説明できる。 4. 歯科予防処置としての歯石除去と歯科診療補助業務としての歯石除去の違いが説明できる。 5. 歯科診療「補助」と「介助」の違いが説明できる。 6. 絶対的歯科医行為と相対的歯科医行為が説明できる。 7. 歯科診療の補助業務としての妥当性について説明できる。 8. 歯科衛生士の義務を説明できる。	
3	歯科衛生士法の復習 5章 安全管理 2章 歯科衛生の歴史と発展	1. 前回学んだ歯科衛生士法の重要な事項を再確認することができる。 2. 医療事故とは何か定義を説明できる。 3. リスクマネジメントについて歯科衛生士の対応を説明できる。 4. 歯科衛生士の教育、発展について年次を追って簡単に説明できる。	
4	7章 歯科衛生士の活動と組織 (1)歯科衛生士の動向 (2)歯科衛生士の就職先 歯科医療保健に携わる人(マンパワー)と多職種連携	1. 全国の就業歯科衛生士数を知り自身の役割を考える。 2. 全国の就業歯科衛生士数と就業先分布を把握する。 3. 行政が関わる国民健康増進のための施策を列記し、簡単に説明することができる。 4. 歯科医療に関わるマンパワーを列記できる。 5. 多職種の名称と法的業務や役割を簡単に説明できる。	
5	7章 歯科衛生士と組織 8章 諸外国の歯科衛生士 これからの歯科衛生士	1. 歯科衛生士の能力向上のための組織や各種認定制度を知る。 2. 諸外国の歯科衛生士の業務について知る。	
6	4章 歯科衛生過程(教本①P32~40) 歯科衛生過程の概要1 歯科衛生過程の必要性とは 3章 歯科衛生活動のための理論 (教本①P20~31) 資料 1. 歯科衛生過程の概要1要綱 2. スライド ※スライドと教本に沿って要綱にポイントを記入	1. 歯科衛生過程を活用する意義を説明することができる。 2. 歯科衛生過程の概要を説明できる。 3. 歯科衛生過程のプロセスと構成要素を列挙できる。 4. クリティカルシンキングについて説明できる。 5. ヒューマンニーズ理論について説明できる。 6. DarbyとWalshのヒューマンニーズ概念モデルについて説明できる。	

回	授業計画	到達目標
7	4章 歯科衛生過程(教本①P32~40) 歯科衛生過程の概要2 歯科衛生過程の構成 資料 1. 歯科衛生過程の概要2要綱 2. スライド ※スライドと教本に沿って要綱にポイントを記入	1. 歯科衛生アセスメントおよび歯科衛生診断の概要を説明できる。 2. 歯科衛生計画立案の概要を説明できる。 3. 歯科衛生介入の概要を説明できる。 4. 歯科衛生評価の概要を説明できる。
8	4章 歯科衛生過程(教本①) 書面化の意義とは POS理論の概要 資料 1. 歯科衛生過程の概要2要綱 2. スライド ※スライドと教本に沿って要綱にポイントを記入	1. POS理論について概説できる。 2. SOAPについて概説できる。
9	4章 歯科衛生過程(教本①②③) 書面化の導入問題提示、説明	1. SOデータの基本的な分類法を説明できる。 2. 練習問題のSデータを抽出することができる。 3. 練習問題のOデータを抽出することができる。 4. 模擬症例の情報を読み込むことができる。
10	情報収集と分析方法1(教本①②③) POS理論とその応用 模擬症例を用いSOAPを実施 症例:佐藤詩音 資料1~3 症例を読み込み個人ワーク	1. 模擬症例のSOデータを読み込むことができる。 2. 模擬症例のSデータを抽出することができる。 3. 模擬症例のOデータを抽出することができる。 4. 模擬症例のSOデータよりアセスメント内容を記録することができる。 5. 模擬症例の歯科衛生介入計画を立案することができる。
11	情報収集と分析方法1(教本①②③) POS理論とその応用 SOAP内容の再計画 症例:佐藤詩音 資料1~3	1. SOAPに対する指導事項に沿って、情報を見直すことができる。 2. SOAPを再検討し書面化することができる。 3. 自身の考えを発表する準備ができる。
12	ヒューマンニーズ分類とクリティカルシンキング 症例発表①	1. 模擬症例の情報と問題点、その原因を自身の考えで発表することができる。 2. 他者の発表を聞き、改善点を検討することができる。 3. 他者の発表を聞き自己のアセスメント内容の振り返りができ
13	情報収集と分析方法2 POS理論とその応用 相互演習	1. 学生相互のSOデータを読み込むことができる。 2. 学生相互のSデータを抽出することができる。 3. 学生相互のOデータを抽出することができる。 4. 学生相互のSOデータよりアセスメント内容を記録することができる。 5. 学生相互の歯科衛生介入計画を立案することができる。
14	情報収集と分析方法2(教本①②③) POS理論とその応用 相互演習にてSOAP分類	1. SOAPに対する指導事項に沿って、情報を見直すことができる。 2. SOAPを再検討し書面化することができる。 3. 自身の考えを発表する準備ができる。
15	ヒューマンニーズ分類とクリティカルシンキング 症例発表②	1. 学生相互の情報をもとに、SOデータ、問題点、その原因を自身の考え で発表することができる。 2. 他者の発表を聞き、改善点を検討することができる。 3. 他者の発表を聞き自己のアセスメント内容の振り返りができ る。 4. 歯科衛生評価までの流れを説明することができる。

# 【 歯科衛生学Ⅱ 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	野中友紀子	実務経歴	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。本学院専任教員。
授業との関連性	歯科衛生士としての臨床経験や全国歯科衛生士教育協議会認定歯科衛生士専任教員、また教育委員としての指導経験をとおり、歯科衛生活動を展開するための歯科衛生過程の講義と演習を行う。		

履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科衛生士として、生涯を通じた口腔保健管理を行う専門職となるために、科学的根拠に基づいた知識や技術を実践するために、情報の収集・分析を行い、問題を解決していく能力を「歯科衛生過程」の考えを基に身につける。また、書面化の意義を理解し、歯科衛生活動の記録法を演習を交え修得する。
------	---

評価方法	定期試験(課題レポート 配点約10点) 提出物(記録方法)・出席状況・・・減点対象とすることもある。
------	---

教科書名	①医歯薬出版KK「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 ②医歯薬出版KK「よくわかる歯科衛生過程」 ③医歯薬出版KK「保健生態学」
------	---

参考文献	医歯薬出版KK「口腔保健管理」「歯科衛生ケアプロセス実践ガイド」 日経研出版「ベストティーチャーが教える！看護過程目からウロコの教え方&学び方」
------	---

履修上の注意	1. 持参する教本などは、その都度指示をします。 2. 継続的指導管理を行うために、歯科予防処置法、保健指導法、歯科診療補助法など今までに学んだ項目について理解しておくことが必須であるため復習しておく。 3. ライフステージ別のレポート課題 〆切 夏季休暇中登院日・調べ学習 OR 穴埋め問題 4. 演習の前は、必ず各自で調べ提出する。(提出後に演習とする) 5. グループワークでは積極的に発言し協調を保つこと。 6. 学科目「地域歯科保健」と連携しながら進めます。時間割の確認を徹底してください。
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	1章 歯科衛生過程の基礎(教本②) 1年次流れ復習(スライド等)	1. 歯科衛生過程の概要を説明できる。 2. 歯科衛生アセスメントについて説明できる。 3. 歯科衛生診断について説明できる。
2	1章 歯科衛生過程の基礎(教本②) 歯科衛生過程の各構成要素	1. 歯科衛生計画立案について説明できる。 2. 歯科衛生介入について説明できる。 3. 歯科衛生評価について説明できる。 4. 歯科衛生過程における書面化の意義について説明できる。
3	ライフステージ別の口腔保健管理1 (妊産婦・乳幼児期・学齢期) 教本③ 配布資料 レポート課題	1. ライフステージ別の関連法規を説明できる。 2. ライフステージ別の口腔内の特徴を説明できる。 3. ライフステージ別の生活習慣・健康状態に応じた口腔保健管理の受け方のアドバイスができる。 4. 学校歯科保健法に基づく健診内容を説明できる。 5. COの定義を説明できる。 6. GOの定義を説明できる。
4	ライフステージ別の口腔保健管理2 (思春期・成人期・老年期・特別に配慮が必要な方) 教本③ 配布資料 レポート課題	1. ライフステージ別の関連法規を説明できる。 2. ライフステージ別の口腔内の特徴を説明できる。 3. ライフステージ別の生活習慣・健康状態に応じた口腔保健管理の受け方のアドバイスができる。 4. 歯周炎の原因菌を説明できる。 5. フレイル予防について説明できる。 6. 専門的口腔健康管理法について説明できる。
5	POS理論とその応用 歯科衛生過程を応用した学生相互演習① (口腔内精密検査表・カリオグラム・スタディモデル・口腔内写真)	1. 対象者の口腔保健管理を行うために役立つ情報を収集することができる。 2. 収集した情報を分析し、問題点を抽出できる。 3. POS理論の説明ができる。
6	POS理論とその応用 歯科衛生過程を応用した学生相互演習② 強み・データ不足→提出	1. 対象者の主観的情報と客観的情報から問題点を抽出できる。 ※すでに履修済資料から読み取り(精密検査表2枚、模型、臼歯部標準型、PCR結果、カリエスリスク検査表) 2. 指導計画を立て、目標設定ができる。
7	POS理論とその応用 歯科衛生過程を応用した学生相互演習③ (追加訂正指導後)	1. 歯科衛生計画を歯科衛生士業務記録に、SOAP形式で記録することができる。(SOAP記入練習) 口腔内観察・ミラー、エキスポローラー、ピンセットを紙パックにて滅菌、染め出しセット・対象者資料一式準備 服装:制服+エプロン

回	授業計画	到達目標
8	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ①症例検討 歯科衛生アセスメント(SO分類～解釈分析) 個人ワーク	1. 対象者の情報を収集し、自身の考えで主観的情報と客観的情報に分類することができる。 2. 問題点とその原因に分類することができる。 3. ヒューマンニーズ概念に基づき分類することができる。 (※1～3事前学習含む)
9	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ②症例検討 歯科衛生アセスメント(SO分類～解釈分析) グループワーク	1. 収集した情報をもとに、自身の考えで主観的情報と客観的情報に分類し、他者へ説明することができる。 2. 問題点とその原因を分類することができる。 3. ヒューマンニーズ概念に基づき分類することができる。 4. 発表に備え、配布資料を作成することができる。
10	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ③ 発表 歯科衛生アセスメント(SO分類～解釈分析)	1. 対象者の情報と問題点をヒューマンニーズ概念に基づき分類し、発表できる。 2. グループの発表を聴き、クリティカル思考で疑問点などを指摘できる。 3. 他者の意見を聞き、自己の評価ができる。
11	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ④症例検討 歯科衛生診断～歯科衛生計画立案 個人ワーク	1. 統合した情報から歯科衛生診断ができる。 2. 歯科衛生診断を「原因句」と「診断句」で表すことができる。 3. 問題点より、優先順位を根拠に基づき決定できる。 4. 問題解決に向けて「長期目標」を設定できる。 5. 対象者の情報より問題解決に向けて、「短期目標」を設定することができる。 6. 歯科衛生介入(CP、EP、OP)を検討することができる。
12	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ⑤症例検討 歯科衛生診断～歯科衛生計画立案 グループワーク	1. 統合した情報から歯科衛生診断ができる。 2. 歯科衛生診断を「原因句」と「診断句」で表すことができる。 3. 問題点より、優先順位を根拠に基づき決定できる。 4. 問題解決に向けて「長期目標」を設定できる。 5. 対象者の情報より問題解決に向けて、「短期目標」を設定することができる。 6. 歯科衛生介入(CP、EP、OP)を検討することができる。 7. 発表に備え、配布資料を作成することができる。
13	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ⑥症例検討 歯科衛生診断～歯科衛生計画立案 グループワーク	1. 統合した情報から歯科衛生診断ができる。 2. 歯科衛生診断を「原因句」と「診断句」で表すことができる。 3. 問題点より、優先順位を根拠に基づき決定できる。 4. 問題解決に向けて「長期目標」を設定できる。 5. 対象者の情報より問題解決に向けて、「短期目標」を設定することができる。 6. 歯科衛生介入(CP、EP、OP)を検討することができる。 7. 発表に備え、配布資料を作成することができる。
14	2章 歯科衛生過程の進めかた(教本①②) 吉田あきこ⑦発表 歯科衛生診断～歯科衛生計画立案	1. 対象者の情報より問題解決に向けて、「短期目標」を設定し発表できる。 2. グループの発表を聴き、改善点などを指摘できる。 3. 他者の意見を聞き、自己の評価ができる。 4. 発表のための資料を作成することができる。
15	歯科衛生過程のまとめ 「事例でわかる歯科衛生過程5章」 臨床での実践	1. 歯科衛生過程を学ぶ理由を自身の考えで説明できる 2. 歯科保健医療と歯科衛生過程について説明できる 3. 多職種連携における歯科衛生過程の概要を説明できる 4. 歯科衛生士の記録(書面化)内容の4原則【目的・方法・結果・方針】を説明することができる。



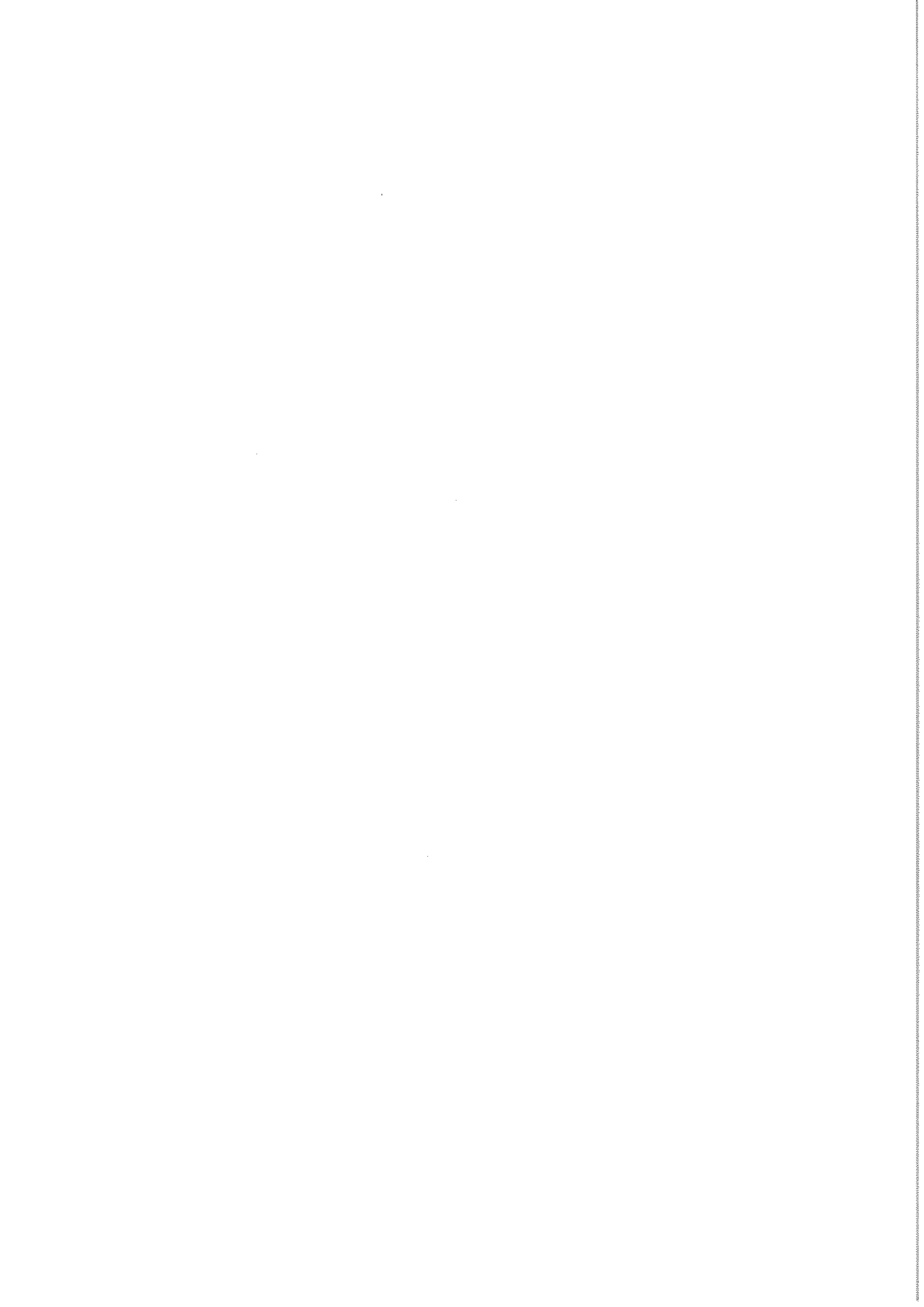
# 【 歯科衛生学Ⅲ 】 令和3年度予定 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	野中友紀子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。同教育委員。本学院専任教員。
授業との関連性	歯科衛生士としての臨床経験や全国歯科衛生士教育協議会認定歯科衛生士専任教員、また教育委員としての指導経験をとおして、歯科衛生活動を展開するための歯科衛生過程の講義と演習を行う。		

履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科衛生士として、生涯を通じた口腔保健管理を行う専門職となるために、科学的根拠に基づいた知識や技術を実践するために、情報の収集・分析を行い、問題を解決していく能力を「歯科衛生過程」の考えを基に身につける。また、書面化の意義を理解し、歯科衛生活動の記録法を演習を交え修得する。		
評価方法	定期試験(課題レポート 配点約10点) 提出物(記録方法)・出席状況・・・減点対象とすることもある。		
教科書名	①医歯薬出版KK「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 ②医歯薬出版KK「よくわかる歯科衛生過程」 ③医歯薬出版KK「保健生態学」		
参考文献	医歯薬出版KK「口腔保健管理」「歯科衛生ケアプロセス実践ガイド」 日総研出版「ベストティーチャーが教える！看護過程目からウロコの教え方&学び方」		
履修上の注意	1. 持参する教本などは、その都度指示をします。 2. 継続的指導管理を行うために、歯科予防処置法、保健指導法、歯科診療補助法、など今までに学んだ項目について理解しておくことが必須であるため復習しておく。 3. 演習の前は、必ず各自で調べ提出する。(提出後に演習とする) 4. グループワークでは積極的に発言し協調を保つこと。 5. 学科目「地域歯科保健」と連携しながら進めます。時間割の確認を徹底してください。		
回	授業計画	到達目標	
1	保護者対面実習9 歯科衛生アセスメント～歯科衛生計画立案 クリティカル思考にて再検討	1. 歯科衛生アセスメントから歯科衛生計画立案までをクリティカル思考をもって自身の意見を述べるができる。 2. 皆と協調しながら歯科衛生アセスメントをもとに歯科衛生計画の立案ができる。	
2	保護者対面実習10 歯科衛生アセスメント～歯科衛生計画立案 クリティカル思考にて再検討	1. 歯科衛生アセスメントから歯科衛生計画立案までをクリティカル思考をもって自身の意見を述べるができる。 2. 皆と協調しながら歯科衛生アセスメントをもとに歯科衛生計画の立案ができる。	
3	保護者対面実習13 歯科衛生アセスメント～歯科衛生計画立案 歯科衛生介入計画一覧完成	1. 歯科衛生アセスメントから歯科衛生介入計画までの一覧を完成することができる。 2. 班の皆と協調しながら歯科衛生アセスメントをもとに歯科衛生介入計画の立案ができる。	
4	保護者対面実習16 歯科衛生評価・再計画	1. 歯科衛生介入した結果について適切な評価と適切な再計画が立案できる。 2. 班の皆と協調しながら評価、再計画の立案ができる。	
5	保護者対面実習17 歯科衛生評価・再計画	1. 歯科衛生介入した結果について適切な評価と適切な再計画が立案できる。 2. 班の皆と協調しながら評価、再計画の立案ができる。	
6	保護者対面実習18 歯科衛生評価・再計画	1. 歯科衛生介入した結果について適切な評価と適切な再計画が立案できる。 2. 班の皆と協調しながら評価、再計画の立案ができる。	
7	保護者対面実習19 歯科衛生評価・再計画	1. 歯科衛生介入した結果について適切な評価と適切な再計画が立案できる。 2. 班の皆と協調しながら評価、再計画の立案ができる。	
8	保護者対面実習20 歯科衛生評価・再計画	1. 歯科衛生介入した結果について適切な評価と適切な再計画が立案できる。 2. 班の皆と協調しながら評価、再計画の立案ができる。	
9	保護者対面実習21 歯科衛生評価・再計画	1. 歯科衛生介入した結果について適切な評価と適切な再計画が立案できる。 2. 班の皆と協調しながら評価、再計画の立案ができる。	
10	保護者対面実習22 歯科衛生評価・再計画	1. 歯科衛生介入した結果について適切な評価と適切な再計画が立案できる。 2. 班の皆と協調しながら評価、再計画の立案ができる。	
11	保護者対面実習23 歯科衛生評価・再計画	1. 歯科衛生介入した結果について適切な評価と適切な再計画が立案できる。 2. 班の皆と協調しながら評価、再計画の立案ができる。	
12	保護者対面実習26 歯科衛生評価 症例発表準備	1. これまで実施発表に備え、配布資料を作成することができる 2. 班の皆と協調しながら発表の準備を整えることができる。	
13	保護者対面実習27 歯科衛生評価 症例発表準備	1. これまで実施発表に備え、配布資料を作成することができる 2. 班の皆と協調しながら発表の準備を整えることができる。	
14	保護者対面実習28 症例発表会	1. 介入した計画から評価、再計画までを班の皆と協力しわかり易く発表することができる。 2. 発表した内容に対しての質問や指摘について省察し仮定を立てることができる。	
15	保護者対面実習29 症例発表会	1. 介入した計画から評価、再計画までを班の皆と協力しわかり易く発表することができる。 2. 発表した内容に対しての質問や指摘について省察し仮定を立てることができる。	

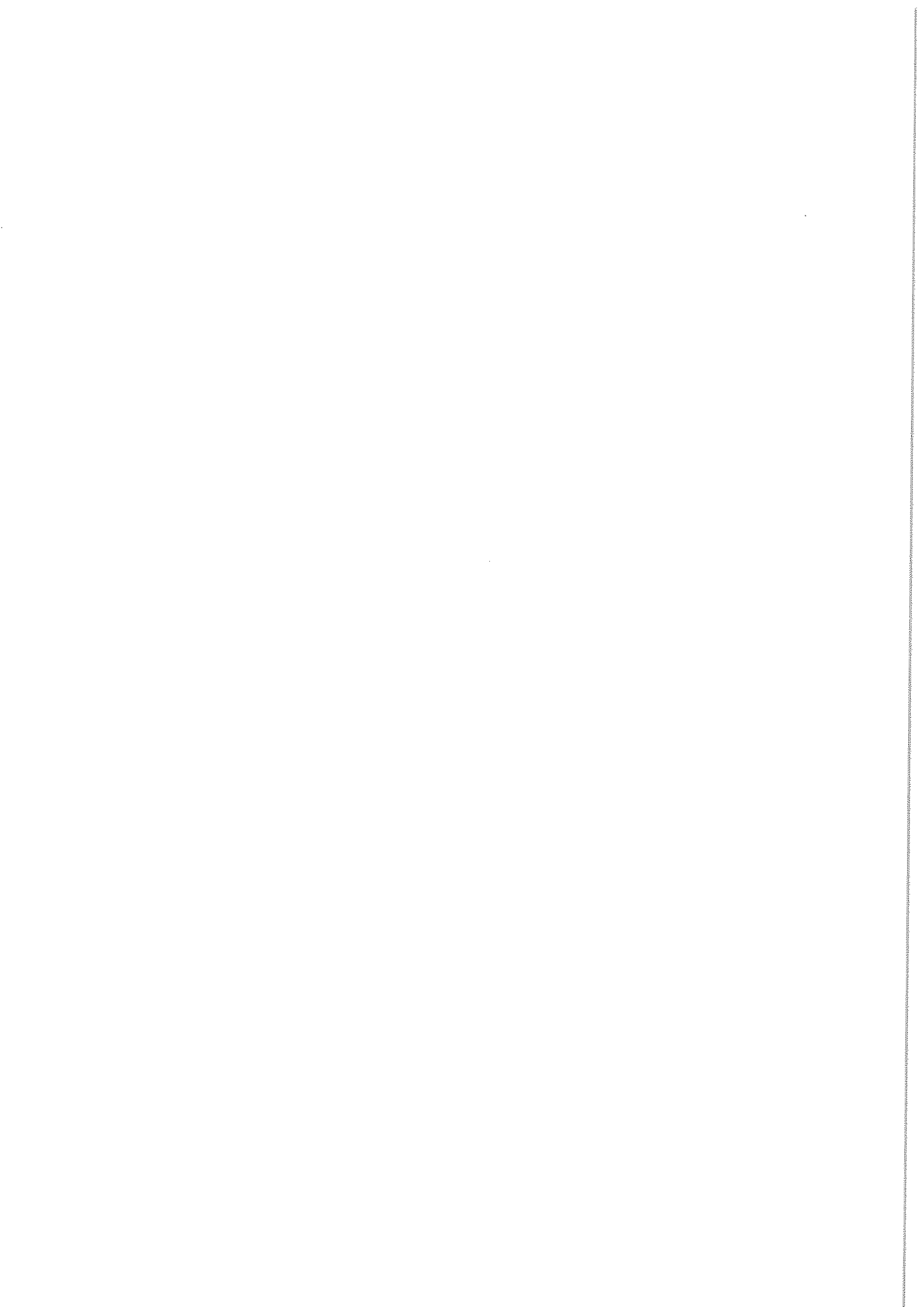


# 【 医療倫理 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	伊藤明彦	実務経歴	(一社)熊本県歯科医師会会長。歯科医師。歯科診療所院長。
授業との関連性	歯科医師会会長の重責を担う立場から医療人としての倫理感について講義する。		
講師名	牧 正仁	実務経歴	本学院学院長。歯科医師。医学博士。歯科診療所副院長。
授業との関連性	本学院学院長の立場から重責を担う立場として医療人としての倫理感について講義する。		
講師名	秋山 清	実務経歴	本学院副学院長。歯科診療所院長。
授業との関連性	歯科医師としてこれまでの臨床歯科医療での経験を踏まえ、患者中心の医療や歯科衛生士として必要な倫理感について講義する。		
履修学年・学期	1年前期	授業方式	講義
単位数	1単位(15時間)	授業回数	8

授業目標	1. 医療人として自分の使命を確認し、どのようにすればそれが果たせるか気持ち行動を確認、修得する。 2. 新しい医の倫理の原則を学ぶとともに、歯科衛生士に求められる職業人としての心構えやインフォームドコンセントに基づいた患者対応、医療現場で必要となるコミュニケーションやその基礎となる行動科学を学ぶ。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	最新「歯科医療倫理」 笠原幸子著 医歯薬出版KK		
参考文献	マンガで学ぶ生命倫理 児玉 聡著 KK化学同人		
履修上の注意	1. 医療人としてだけでなく、人として自分の倫理感に照らし合わせながら、自分の中で消化し取り入れてゆく。 2. 素直で純粋な心で学ぶ。 3. 将来の様々な場面で正しい行動をとれるように学ぶこと。 4. 聞いたことを自分の中で消化し取り入れる。 5. 私語の禁止。 6. 素直な気持ちで聴く。		
回	授業計画	到達目標	
1	(伊藤明彦) 一般の心構え 医療人としての心構え	1. 自分を見つめ直し、使命を果たす力を習得する。 2. 社会貢献について考える。色々な患者さんの背景を考える力を習得する。 3. 患者と向かい合う姿勢(心と態度)を習得する。 4. 守秘義務と世の中とのかかわり方を習得する。	
2	(牧 正仁) 歯科衛生士としての倫理観	1. 患者に対してのいたわりをもって接することができる。 2. プライバシーの厳守ができる。 3. 医療人としての身だしなみができる。 4. 自己の健康管理ができる。	
3	(秋山 清) なぜ医療倫理を学ぶのか ○伝統的な医の倫理 ○新しい医の倫理(医療倫理) ○患者中心の医療	1. 時代とともに変化してきた医の倫理について学び、歯科衛生士として必要な倫理感を身につけ、医療倫理、患者中心の医療とは何かを理解する。	
4	(秋山 清) 医療倫理に関する規範とバイオエシックス(生命倫理学)、研究と医療倫理	1. 医療従事者の職業倫理に関する規範、患者の権利、人を対象とする医学研究の倫理、生命倫理学、生と死に関する倫理、医療技術の発達に伴う問題を理解する。	
5	(秋山 清) インフォームド・コンセント	1. インフォームドコンセント・インフォームドチョイスなどについて説明できる。 2. これらの倫理的意義、倫理的要求について述べる事ができる。 3. セカンドオピニオンについて説明できる。	
6	(秋山 清) QOL、クオリティ・オブ・ライフ (生活の質)	1. 歯科医療に於けるQOLの向上について説明ができ、歯科衛生士としてQOLにどのようにかわるかを理解する。	
7	(秋山 清) 行動科学	1. 生活行動に於ける中で保健行動とは何か。また患者をどのように理解するかを学ぶ。	
8	(秋山 清) コミュニケーション 総まとめ(試験対策)	1. 歯科衛生士として個々の患者及び他職種とのチームアプローチについてコミュニケーションをどのようにとるかを説明できる。	



# 【 歯科臨床総論 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	緒方克哉	実務経歴	歯科医師。歯科診療所院長。本学院教務委員。
授業との関連性	歯科医師としてこれまでの臨床歯科医療の経験を通して、臨床歯科医療の一連の流れについて講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	「歯科とは」「歯科医師とは」「歯科衛生士とは」何かを理解していく。また、初めて耳にする言葉、態勢について、まずは耳に慣れてもらうように学習する。
------	--

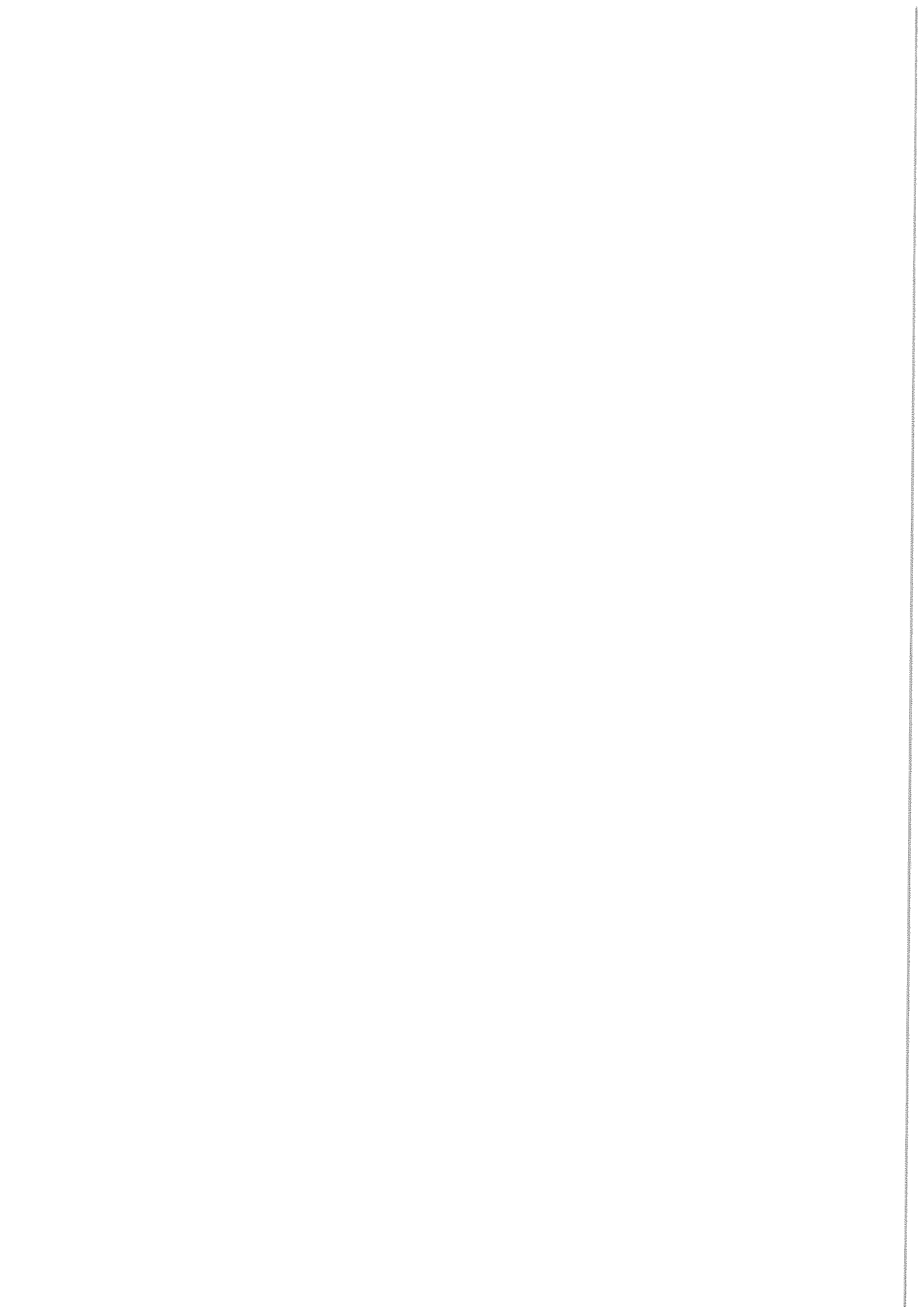
評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	「歯科衛生士のための歯科臨床概論」 石川達也著 医歯薬出版KK 「イラストで学ぶ デンタルオフィス入門」 対馬ゆか 他 著 医歯薬出版KK 「歯科衛生士臨床のすべて(ハンックパート)」Antonella Tani Botticelli著 エルパ社
------	---

参考文献	
------	--

履修上の注意	必要に応じ、パワーポイント、模型を使用します。
--------	-------------------------

回	授業計画	到達目標
1	歯科医療について	①医療と診療の意味を理解する。 ②歯科臨床とは何か理解する。 ③インフォームドコンセントについて理解する。 ④歯科医療の特異性を理解する。 ⑤歯科診療における歯科衛生士業務について理解する。
2	前回の授業の小テスト1 歯科患者について	歯科を受診する患者の種類・心理・対応について理解する。
3	前回の授業の小テスト2 歯科疾患の概要	歯・口腔内における異常・疾患について理解する。
4	歯科診療所について	歯科衛生士としての歯科診療所について理解する。
5	前回の授業の小テスト3 歯科診療の流れについての概要	歯科診療所を受診した患者さんへの診療の流れの概要について理解する。
6	前回の授業の小テスト4 歯科保存治療の概要(歯科保存治療)	「う蝕」の代表的な治療について理解する。
7	前回の授業の小テスト5 歯科保存治療の概要(歯内療法)	歯髄診断と「神経をとる」治療について理解する。
8	前回の授業の小テスト6 歯科保存治療の概要(歯周治療①)	①歯周疾患について理解する。 ②歯周治療の流れについて理解する。
9	歯科保存治療の概要(歯周治療②)	歯周治療における歯科衛生士の役割について理解する。
10	歯科保存治療の概要(歯周治療③)	歯周治療における歯科衛生士の役割について理解する。
11	前回(歯周治療①②③)の授業の小テスト7	歯周治療における歯科衛生士の役割について理解する。
12	歯科補綴治療の概要① 歯科補綴治療の概要②	歯科治療の代表である補綴について、治療の流れを理解する。 歯科補綴治療の「補綴の種類」について、模型を観察し理解する。
13	前回(歯科補綴治療①②)の授業の小テスト8 小児歯科治療の概要 矯正歯科治療の概要	小児の特徴と小児および保護者への対応法について理解する。 矯正歯科治療における不正咬合の種類、資料について理解する。
14	前回(小児歯科・矯正歯科治療)の授業の小テスト9 口腔外科における治療の概要	①口腔外科とは何か理解する。 ②口腔外科と歯科衛生士の対応、補助について理解する。
15	総括	教科書に沿って一連の歯科治療を振り返る。



# 【 保存修復学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	金本良久	実務経験	歯科医師。九州大学歯学部第一保存科を経て歯科診療所院長。
授業との関連性	大学保存科在籍と臨床歯科医師としての経験を踏まえ、直接修復、間接修復などの手順、基礎知識、歯科衛生士の役割について講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

**授業目標** 教科書を基に日常歯科臨床と結びつけつつ、保存修復学の基礎について学ぶ。

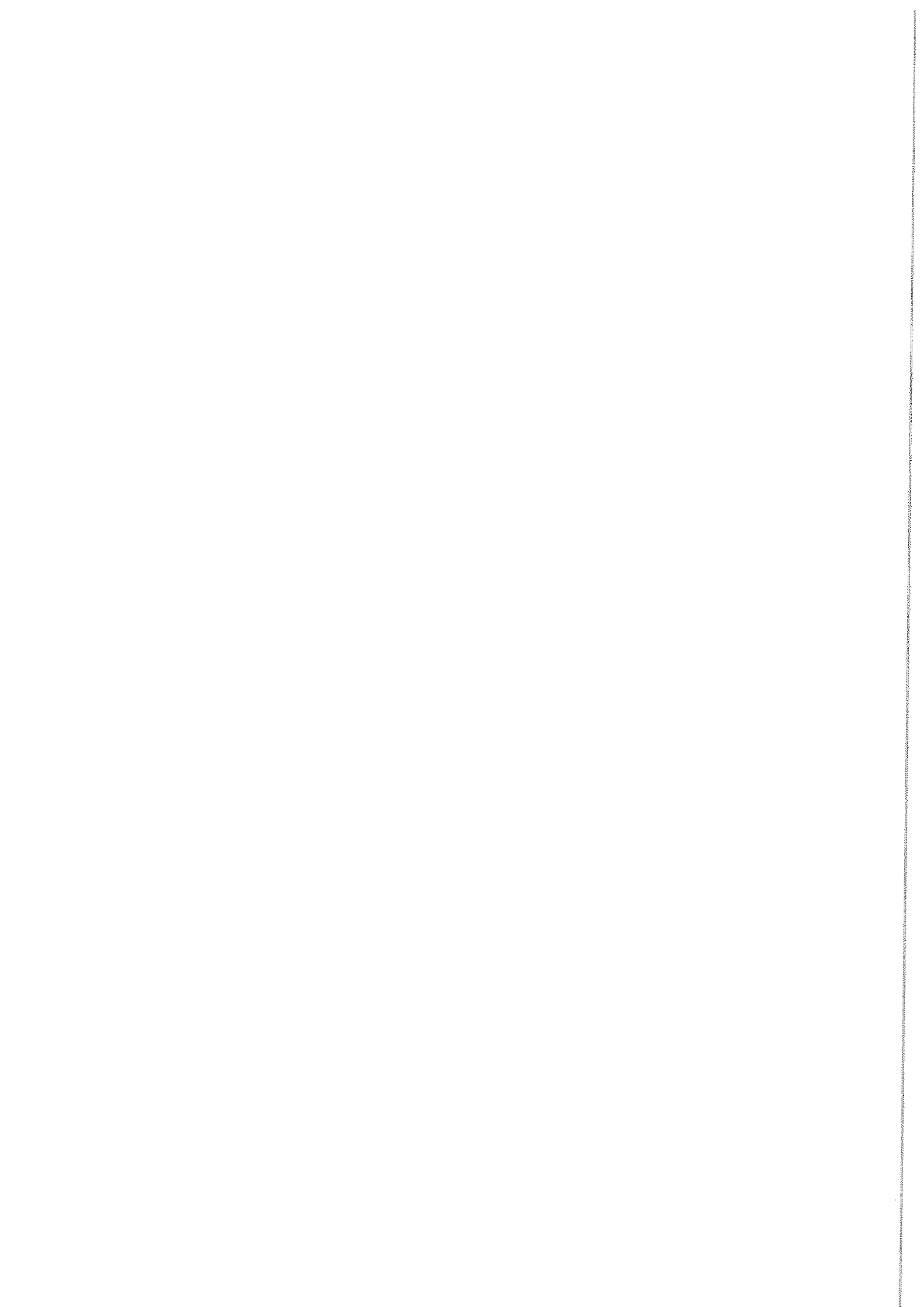
**評価方法** 定期試験(100点満点)

**教科書名** 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 千田 彰著 医歯薬出版KK

**参考文献**

**履修上の注意**

回	授業計画	到達目標
1	歯の保存療法の種類 口腔検査(歯および歯周組織)	歯科保存学の役割と歯および歯周組織検査を理解する。
2	保存修復の概要	保存修復学全般について理解する。
3	直接法修復①	直接法修復について理解する。
4	直接法修復②	直接法修復について理解する。
5	間接法修復①	間接法修復について理解する。
6	間接法修復②	間接法修復について理解する。
7	保存修復における歯科衛生士の役割①	検査、修復の手順および注意点を理解する。
8	保存修復における歯科衛生士の役割②	検査、修復の手順および注意点を理解する。





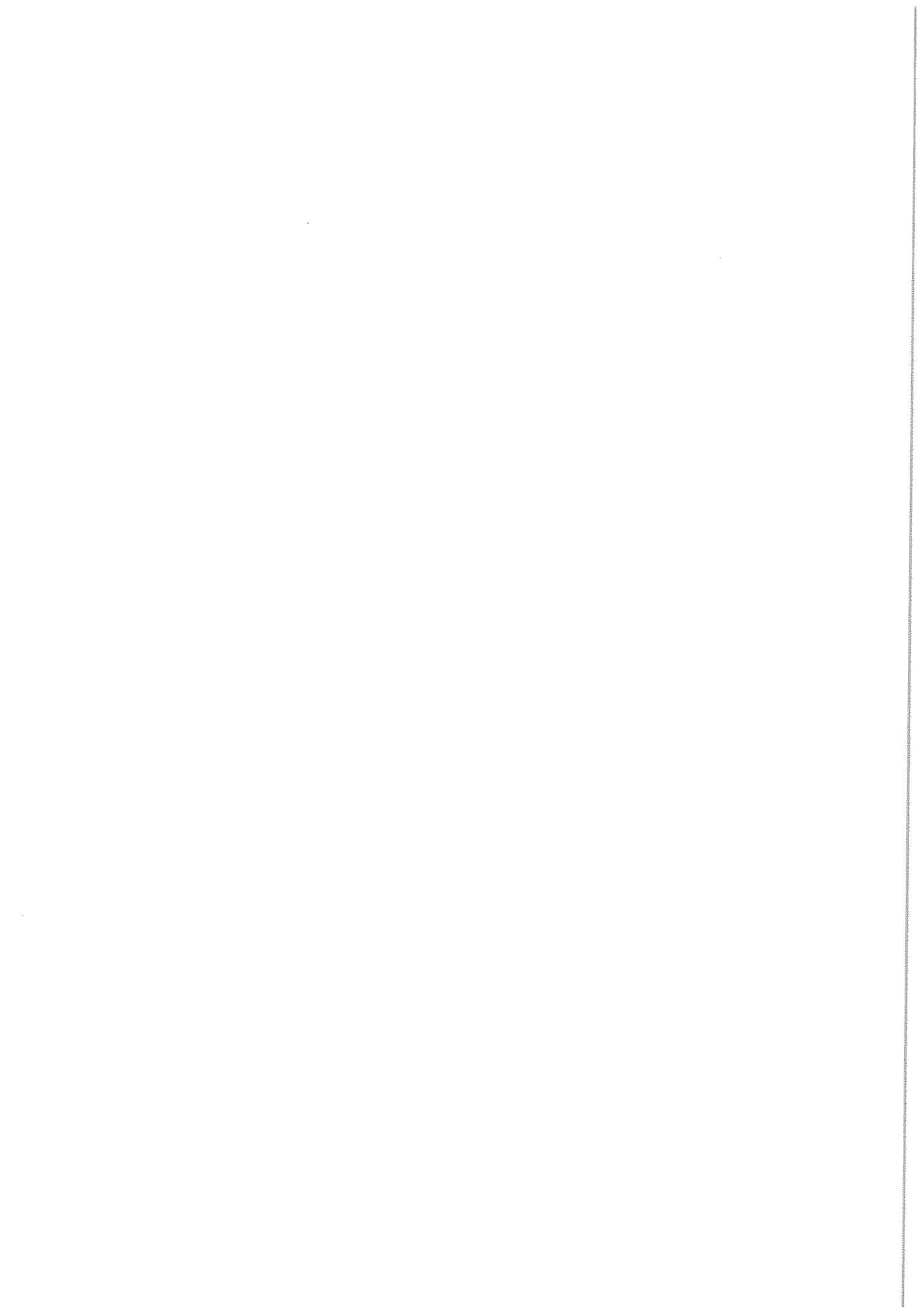
# 【 歯内療法学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	船津雅彦	実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。
授業との関連性	臨床歯科医師としての経験を踏まえ、歯内療法の基礎知識と歯科衛生士の役割について講義する。		

履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	歯内療法学の目的及び診断とその処置法を理解する。	
評価方法	定期試験(90点)、授業中の質問に対する答え(10点)	
教科書名	最新「歯の硬組織 歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 千田 彰著 医歯薬出版KK	
参考文献	授業中に配るプリント	
履修上の注意	前回の授業を復習して、次回の授業の予習をすること。	
回	授業計画	到達目標
1	歯内療法学とは何か。 歯髄保存療法とは何か。 歯髄除去療法とは何か。	歯内療法の目的と診断及び処置方法を理解する。 歯髄を保存する意味とその処置方法を理解する。 歯髄を除去する意味とその処置方法を理解する。
2	歯内療法における歯科衛生士の役割とは何か。	歯科衛生士には、初診で来院した患者さんの状況を把握して、その情報を歯科医師に伝える重要な役目がある。歯内療法においてのその手順と方法を理解する。
3	根管形成・根管洗浄・根管充填とは何か。	抜髄・感染根管治療の各ステップと、それら処置に用いる器具の名称、使用目的について理解する。
4	1. 2. 3回の理解度を確認する。	前回までの内容を理解して、歯内療法を一連の流れで理解する。
5	歯内療法における安全対策とは。 歯の外傷とは何か。 外科的歯内療法の種類・適応症及び処置法について	治療の際、起こりえる偶発症・トラブルに対する対処法・予防法について理解する。 歯の外傷の分類・処置方法・事故時の患者さんへの対処法を理解する。 外科的歯内療法の種類・適応症及び処置法について理解する。
6	歯内療法の診断から根管充填までの流れを理解する。	それぞれのステップで必要な知識が有り、必要な器具の準備ができるか確認する。
7	歯内療法のケーススタディー	患者さんからの情報(問診)から必要な検査を行い、処置の準備ができるかを確認する。 授業でわからないところを質問する。自分のわからないところを書いて提出する。
8	歯内療法全般の学生からの質問に答える。	今まで分からなかったところ、誤解していたところを解決する。



【 歯周療法学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	東 克章	実務経歴	歯科医師。歯学博士。日本歯周病学会指導医、専門医。東京医科歯科大学第二保存学教室入局を経て歯科診療所院長。
授業との関連性	日本歯周病学会の指導医、専門医の立場から正常な歯周組織や歯周病についての基礎知識、治療法、更に歯科衛生士の役割について講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	1. 歯周病とはどのような病気を健康な歯周組織と比較することによって理解する。 また、それらの知識を活用して患者さんの指導法を学ぶ。 2. 組織病理、発生等の基礎知識を通して歯周病の原因、治療メンテナンスについて理解する。 3. 歯周治療のゴールを知る。
------	--

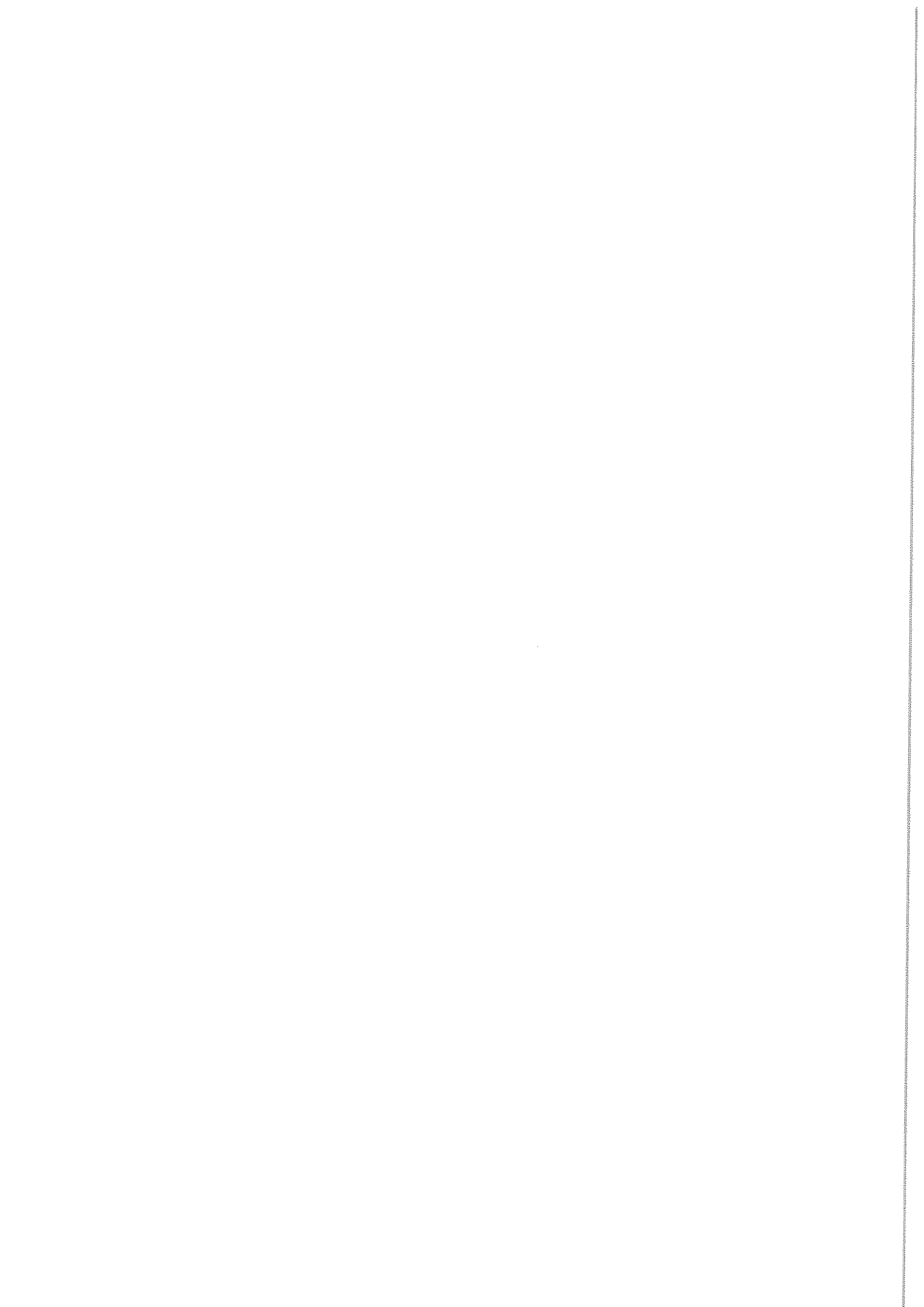
評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	最新「歯周病学」 伊藤公一著 医歯薬出版KK
------	------------------------

参考文献	プロフェッショナルマニュアル 歯科衛生士臨床のすべて ベーシックパート Antonella Tani Botticelli 著 エルバ
------	--

履修上の注意	1. 講義に集中すること 2. 講義内容はノートをとること 3. できるだけ予習、復習をしておくこと
--------	--

回	授業計画	到達目標
1	I 編 歯周治療の基礎知識 1章 歯科治療とは	歯周病になると具体的にはどうなるのか、歯周治療で現在はどこまで歯を残すことができるかを知る。
2	I 編 2章 正常な歯周組織の構造と機能(1)	歯周組織の構造がどのようになっているかをイメージすることができる。
3	I 編 2章 正常な歯周組織の構造と機能(2)	歯周組織の構造と名称を自分自身で図示することができるようになる。
4	I 編 3章 歯周病の分類と原因	歯肉炎と歯周炎の違い 原因は何か 歯周医学について理解する。
5	I 編 まとめ 小テスト	3章までの理解度を自ら把握し、更に理解を深める。
6	II 編 歯周治療の実際 1章 歯周治療の進め方	歯周治療の基本的な進め方を理解し、その流れを説明できる。
7	II 編 2章 歯周病の検査	歯周組織検査のそれぞれの意味を理解し、健康からどれだけ破壊されているかを知る。
8	II 編 3章 歯周基本治療	歯周基本治療の目的と手段について説明できる。
9	II 編 4章 歯周外科治療	歯周外科処置の目的、適応症、種類、使用する器材を理解する。
10	II 編 まとめ 小テスト	II 編の歯周外科治療までの全体の理解度をチェックする。
11	II 編 5章 歯周治療としての口腔機能回復 6章 メンテナンス	歯周治療としてのリハビリテーションやメンテナンスの目的と方法について理解する。
12	II 編 歯周治療における歯科衛生士の業務 1章 歯周治療における歯科衛生士の役割①～③	歯周治療における歯科衛生士の業務を理解し、その役割がいかに大きいかを自覚する。
13	III 編 1章 ④スケーリング・ルートプレーニング ⑤歯周外科治療	スケーリング・ルートプレーニングと歯周外科についてその内容の理解を深める。
14	III 編 1章 ⑥口腔機能回復治療 ⑦メンテナンス、SPT ⑧診療室と器具・器材の管理	リハビリテーションとメンテナンスについてその内容の理解を深める。 質の高い診療室と器具器材の管理の仕方と重要性について理解する。
15	III 編 まとめ 小テスト	III 編 5章から8章までの理解度をチェックする。 また、全編にわたっても再チェックを行う。



# 【 歯科補綴学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	西野 隆一	実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。
授業との関連性	臨床歯科医師として、顎口腔機能の低下や失われた機能を回復し維持するための補綴処置や歯科衛生士の役割について講義する。		

講師名	(愛歯)渡邊裕士	実務経験	歯科技工士。歯科技工所に在籍し教育マネージャーとして活躍。
授業との関連性	大手歯科技工所に勤務し自らも歯科技工士として補綴物製作にあたりながら後輩への指導を實踐している視点から、顎口腔機能の低下や失われた機能を回復し維持するための補綴処置や歯科衛生士の役割について講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義・技工物製作見学	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	------------	-----	-----------	------	----

授業目標	<p>〈西野先生〉 顎口腔機能について理解するとともに、障がいがある場合に補綴により機能、形態、審美を回復し維持するための診断、治療、術後管理について学習する。</p> <p>〈渡邊先生〉 補綴装置の分類・特徴を理解・整理することで、補綴治療の意義と目的への理解を深める。 補綴装置の仕組み・構造と使用材料を理解することで、補綴治療の実際への理解を深める。 補綴物の製作過程を学ぶことで、補綴治療の実際における歯科衛生士の役割を理解する。</p>
------	---

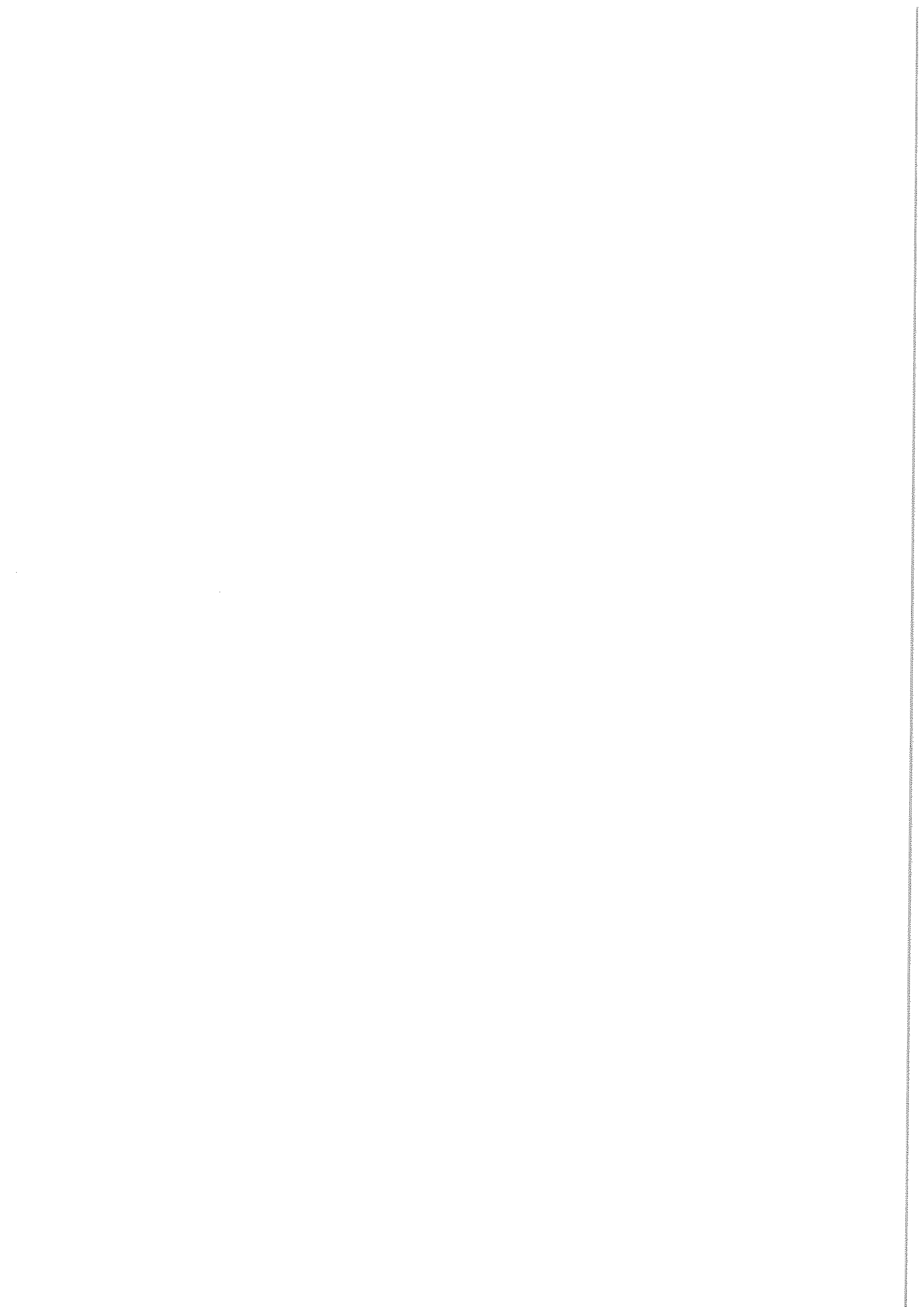
評価方法	定期試験(100点満点)・提出物…小社(愛歯)作成試験への質疑・回答とワークシート記入
------	---

教科書名	「歯科補綴」 赤川安正著 医歯薬出版KK
------	----------------------

参考文献	第3版 歯科補綴学専門用語集 (日本補綴学会編) 医歯薬出版
------	--------------------------------

履修上の注意	<p>〈西野先生〉 歯科補綴学を理解してもらうことが目標ですが、国家試験を意識して、教科書と問題を中心に行います。黄色のマーカーと、赤のボールペンを用意しておいて下さい。</p> <p>〈渡邊先生〉 小社(愛歯)見学プログラム進行とワークシート記入により、学習を深め、その評価を行いたい為黄色のマーカーと赤・黒のボールペンをご持参願います。</p>
--------	--

回	授業予定	到達目標
1	補綴治療の意義と目的	①補綴の意義と目的を理解する。 ②歯科衛生士の役割について説明できる。
2	補綴歯科治療の基礎知識	歯列の形態と位置的関係、顎口腔系の機能、咬合について説明できる。
3	歯の欠損による障がいと補綴	欠損に伴う障害と補綴の意味について説明できる。
4	クラウン治療の実際	クラウン治療の種類と治療ステップについて説明できる。
5	ブリッジ治療の実際	支台装置とポンティックの選択、特徴および製作法を概説できる。
6	局部床義歯治療の実際①	局部床義歯治療の種類と治療ステップについて説明できる。
7	補綴歯科治療における検査・診断	医療面接について説明できる。スタディモデルによる検査について説明できる。咬合検査を説明できる。
8	インプラント治療の実際	インプラント治療の方法とステップについて説明できる。
9	補綴治療に用いられる器材、材料	補綴治療に使用する器材の種類と使い方について説明ができる。
10	検査・診断時の業務	補綴の検査の方法と意義について説明できる。各種検査で用いる器材の名称と用途を説明し、準備ができる。
11	治療時の業務	歯科補綴治療の各ステップで準備するものと、補助内容を説明できる。
12	(愛歯にて)補綴物の製作過程	補綴物の仕組み・構造・使用材料について説明できる。
13	(愛歯にて)部分床義歯、総義歯の製作過程	有床義歯による欠損補綴処置について説明できる。
14	(愛歯にて)補綴物製作の見学1 (歯科技工の流れと、その使用材料・器材)	補綴物製作過程の実際と必要な材料・器材を理解する。
15	(愛歯にて)補綴物製作の見学2 (歯科技工の流れ 従来法とCAD/CAM技工)	補綴物製作過程の実際において必要な加工プロセスの従来技法とデジタル技法を理解する。



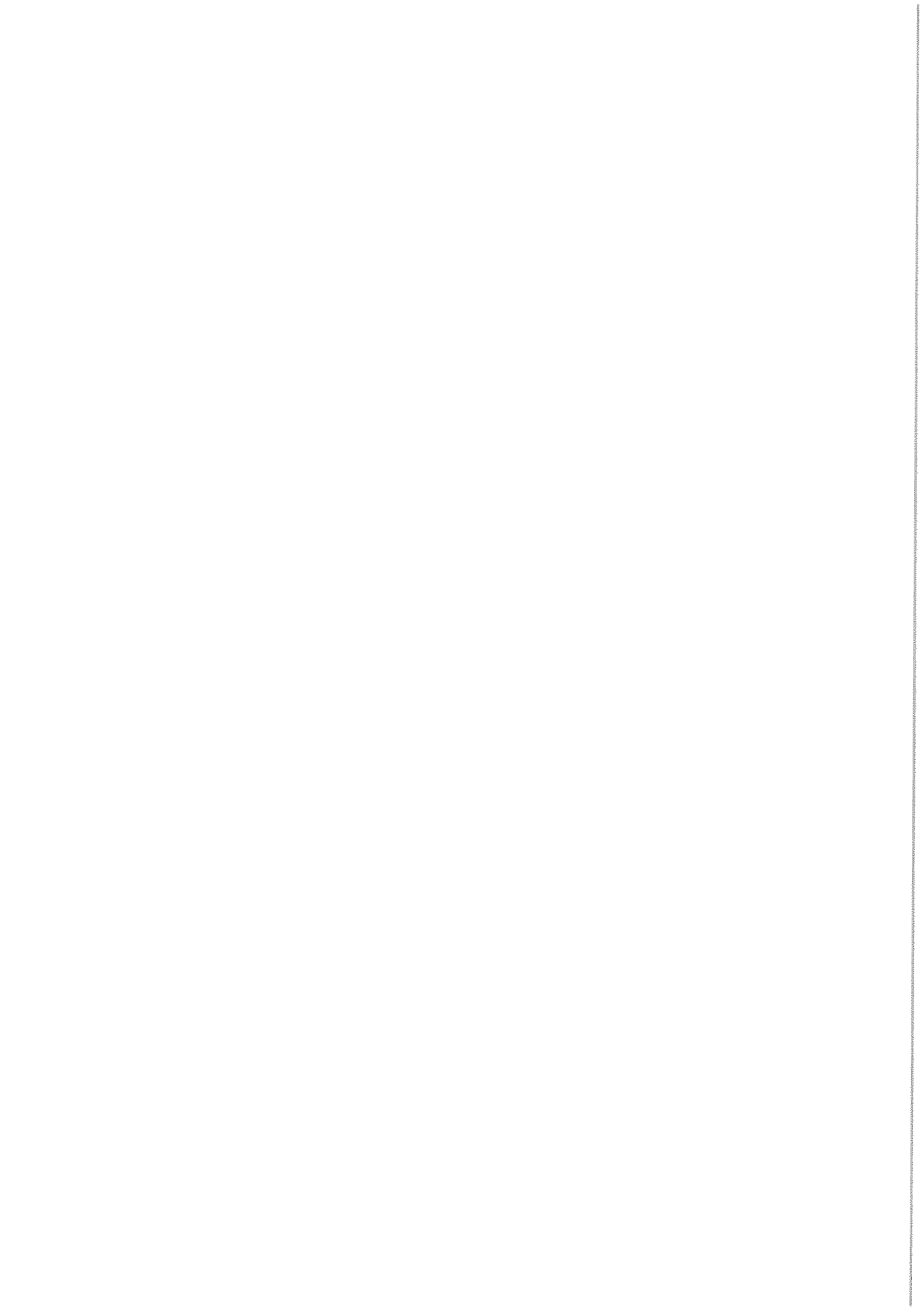
# 【 歯科矯正学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	村田英俊	実務経験	歯科医師。九州大学歯学部歯科矯正学教室入局、歯科診療所に勤務。
授業との関連性	大学にて矯正歯科を専門に研究し現在矯正専門医として日々診療にあたっている経験を踏まえ、歯科矯正治療の目的や治療方法、予後の管理や歯科衛生士の役割について講義する。		

履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科矯正学についての基本的な事項を説明、理解させることによって、将来、歯科衛生士となった時に患者さんへ対する助言、説明ができるようにする。	
評価方法	定期試験(100点満点)	
教科書名	最新「歯科矯正」 氷室利彦著 医歯薬出版KK	
参考文献		
履修上の注意		
回	授業予定	到達目標
1	歯科矯正学概論及びアングルの不正咬合の分類法について	①歯科矯正学とは何か説明できる。 ②歯科矯正治療の目的について説明できる。 ③アングルの不正咬合の分類について、正確に説明できる。
2	成長・発育について一般的な考え方、上下顎の成長・発育の違い、歯列の成長発育について	①人の成長発育(臓器ごとの分類等)が説明できる。 ②上下顎骨の成長・発育について簡単に説明できる。 ③歯列の成長発育(霊長空隙、ターミナルプレーン、リーウェイスペース等)について意味及び必要性を説明できる。
3	正常咬合と不正咬合における定義と分類について	①咬合の種類(中心咬合位、中心位、下顎安静位等)について説明できる。 ②正常咬合の条件や種類について説明できる。 ③不正咬合の種類と意味について説明できる。
4	不正咬合の原因について 歯科衛生士として、患者さんや保護者に説明できるようにする。	①不正咬合の原因について一般的原因と局所的原因について分類し列挙、説明することができる。 ②アーチリングスディスクレパンシーについて説明できる。
5	不正咬合の予防と口腔習癖の説明および習癖防止装置について	①口腔習癖の種類と不正咬合への影響について説明できる。 ②習癖除去装置の用途について説明できる。
6	矯正治療の生物力学について 矯正力、歯の移動、歯の移動様式など理解させる。	①矯正力の種類を列挙できる。 ②歯の移動と組織の反応について説明できる。 ③歯の移動様式の種類と作用を説明できる。
7	矯正診断に関する知識について 診断に用いる資料や頭部X線規格写真について説明する。	①矯正治療の診断に必要な資料を列挙できる。②症例分析、特に頭部X線規格写真の計測に必要な主要ポイントを説明できる。
8	矯正治療に用いる器具について 器具名や使用目的について理解させる。	①矯正治療に用いる各種器具名や使用目的について説明できる。
9	矯正装置の種類と保定について	①矯正装置の種類と使用目的について説明できる。 ②保定とは何か、保定装置の種類を列記できる。
10	歯科矯正治療の実際 乳歯列期	乳歯列期の矯正治療の特徴について理解できる。
11	歯科矯正治療の実際 混合歯列期	混合歯列期の矯正治療の特徴について理解できる。
12	歯科矯正治療の実際 永久歯列期 成人矯正治療について説明する。	①永久歯列期の矯正治療の特徴について理解できる。 ②成人矯正治療の特徴と限界について理解できる。
13	歯科矯正治療における歯科衛生士の役割 資料～準備～診療補助～消毒	歯科矯正治療における歯科衛生士の役割について説明できる。
14	矯正治療全般についてのまとめ ①	不正咬合の治療意義と診断および治療法を概念を理解できる。また、分からないことを質問し理解できる。
15	矯正治療全般についてのまとめ ②	これまでに習った内容を再確認できる。

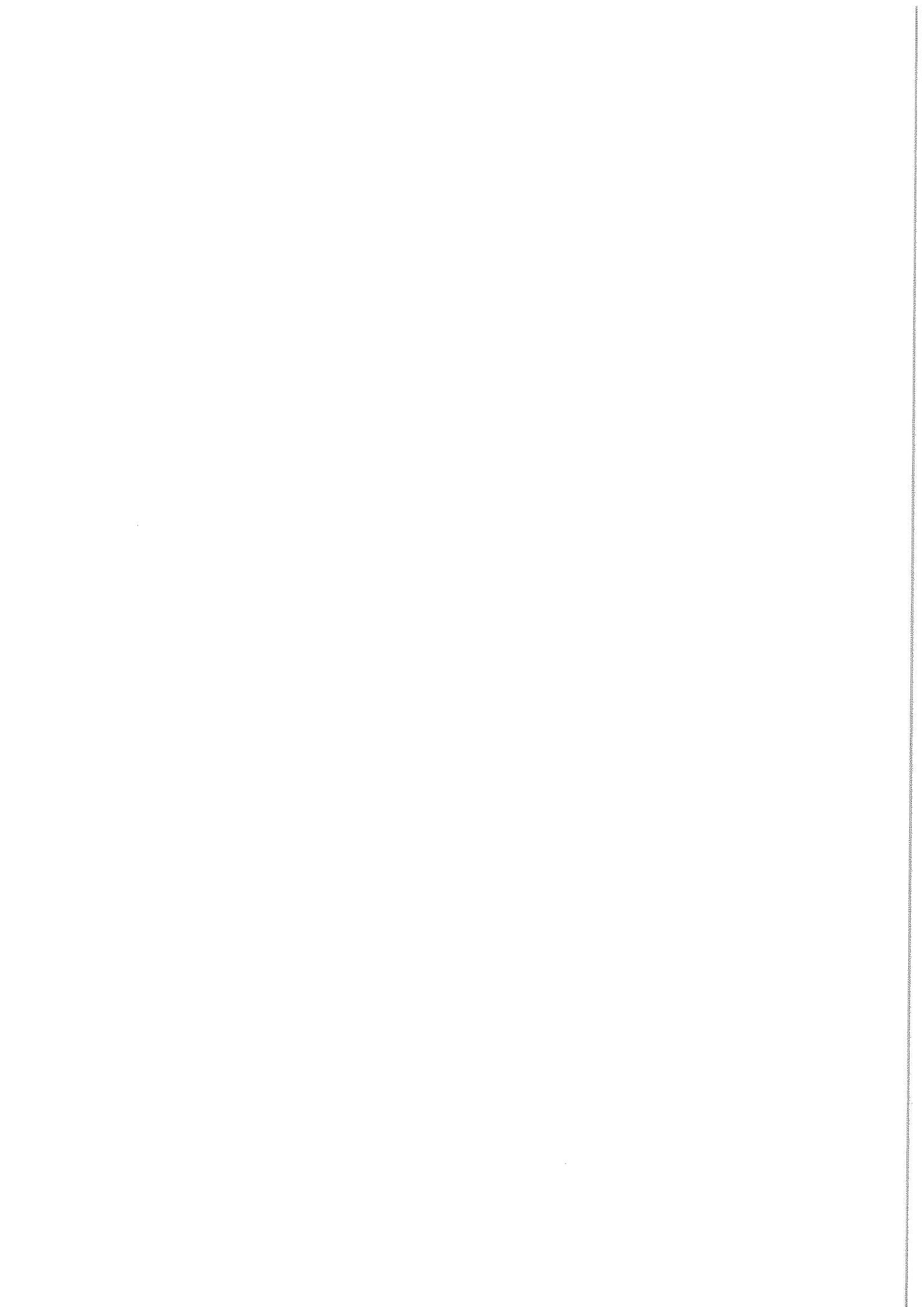




# 【 口腔外科学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	川口 翔	実務経験	歯科医師。熊本大学大学院生命科学研究部歯科口腔外科学分野博士課程。		
授業との関連性	歯科口腔外科医としての様々な研究と臨床経験を踏まえ、顎・口腔領域に発現する疾患や口腔外科診療における歯科衛生士の役割について講義する。				
履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)
授業回数	15				
授業目標	口腔外科の基礎知識及び临床上必要となる関連知識の習得を目指す。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	「口腔外科・歯科麻酔」 山根源之著 医歯薬出版KK				
参考文献					
履修上の注意					
回	授業計画	到達目標			
1	口腔外科の概要 顎・口腔領域の先天異常と発育異常	①口腔外科領域の主な疾患と概要について説明できる。 ②口腔外科における歯科衛生士の役割を理解する。 ③口腔領域の先天異常と発育異常について簡単に説明できる。			
2	顎・口腔領域の損傷および機能障害	口腔領域の損傷について説明できる。			
3	口腔粘膜病変	口腔粘膜疾患の主な疾病を挙げ、それぞれの疾患について簡単に説明できる。			
4	顎・口腔領域の化膿性炎症 顎・口腔領域の嚢胞性疾患	顎、口腔領域の炎症・嚢胞について分類し説明できる。			
5	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患	口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患について分類し、説明できる。			
6	唾液腺疾患	唾液腺疾患について説明できる。			
7	口腔領域の神経疾患	口腔領域の神経疾患について説明できる。			
8	口腔外科診療の実際	口腔外科診療の流れについて理解する。			
9	歯科治療と歯科麻酔①	患者管理について理解する。			
10	歯科治療と歯科麻酔②	局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔について理解する。			
11	口腔外科、歯科麻酔の臨床における歯科衛生士のかかわり①	手術各論について理解する。			
12	口腔外科、歯科麻酔の臨床における歯科衛生士のかかわり②	手術各論について理解する。			
13	まとめ①	学習確認 手術イメージビデオ等			
14	まとめ②	学習確認 手術イメージビデオ等			
15	まとめ③	学習確認 手術イメージビデオ等			



# 【 小児歯科学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	森奈千子	実務経験	歯科医師。福岡歯科大学小児歯科教室入局、歯科診療所副院長。
授業との関連性	長年の小児歯科医としての経験を踏まえ、小児口腔疾患やう蝕予防、歯科衛生士の役割りについて講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	小児歯科医療は病気に対する治療や予防に限らず、健全な小児を育成するという目的を持っている。そのため保健学、予防歯科学の知識も重要となる。胎生期から成人にいたる間の小児の正常な口腔領域の発育を促し、これを阻害する口腔疾患について種類と治療を知ることによって、歯科衛生士が小児のライフステージに応じた対応方法、口腔衛生指導、う蝕予防、小児口腔疾患及び障害児の診療補助業務および疾患の予防を理解することを目標とする。また小児歯科診療における歯科衛生士の役割の大きさも理解することを目標とする。
------	---

評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	最新「小児歯科」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版KK
------	----------------------------------

参考文献	新小児歯科学 第3版 クインテッセンス出版株式会社 2009年
------	---------------------------------

履修上注意	教科書に沿った講義を臨床スライド、ビデオを用いて行う。しっかりと講義を聴き、ノートをとること。評価は期末試験で行うが、出席率・授業中の態度の悪い者は減点するので注意するように。
-------	--

回	授業計画	到達目標
1	小児歯科学概論 心身の発育 1	発育段階と口腔の変化を説明できる。 発育の概念と分類を説明できる。
2	心身の発育 2	年齢と身体発育の特徴を説明できる。 生理的年齢、器官の発育を説明できる。 摂食・嚥下機能の発達について説明できる。
3	小児の生理的特徴 顔面頭蓋の発育	バイタルサインと生理的特徴を説明できる。 薬剤処方と薬物療法を説明できる。 脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化を説明できる。 脳頭蓋の発育の特徴を説明できる。 顔面頭蓋の発育の特徴を説明できる。
4	歯の発育とその異常	乳歯・幼若永久歯の特徴を説明できる。 歯の発育段階を説明できる。 歯の発育時期と形成異常を説明できる。 乳歯・永久歯の萌出時期と順序を説明できる。 歯の萌出異常を説明できる。
5	歯列・咬合の発育と異常	歯列・咬合の発育段階を説明できる。 各歯列期の特徴を説明できる。 ヘルマンの咬合発育段階を説明できる。 歯列・咬合の異常を説明できる。 口腔習癖に起因する不正咬合を説明できる。
6	小児の歯科疾患 1	う蝕の原因を説明できる。 乳歯う蝕の特徴、罹患型、好発部位、為害性を説明できる。 幼若永久歯のう蝕の特徴を説明できる。
7	小児の歯科疾患 2	小児にみられる歯周疾患を説明できる。 小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患を説明できる。
8	小児期の特徴と歯科的問題点	乳幼児期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患を説明できる。 学童期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患を説明できる。 思春期小児の特徴、留意点と特徴的歯科疾患を説明できる。
9	小児歯科における診療体系 1	患者・保護者と歯科医師・歯科衛生士との関係を説明できる。 歯科診療室における小児の態度と行動について説明できる。 年齢別にみた小児の行動と対応法を説明できる。 歯科治療時の対応法について説明できる。
10	小児歯科における診療体系 2	薬剤使用による治療時の対応法を説明できる。 小児歯科診療とその特徴を説明できる。 小児歯科診療における原則を説明できる。 母親教室について説明できる
11	小児の歯科における診療体系 3	小児歯科における麻酔法を説明できる。 小児の歯冠修復を説明できる。 小児の歯内療法を説明できる。 小児の外科的処置について説明できる。
12	小児の歯科における診療体系 4	小児の外科的処置について説明できる。 咬合誘導を説明できる。 リコール(定期健診)を説明できる。
13	障害児の歯科治療	障害児における歯科対応法を説明できる。 主な障害とその全身的・歯科的特徴を説明できる。 障害児への対応法を説明できる。 小児の摂食・嚥下障害の特徴を説明できる。

回	授業計画	到達目標
14	小児歯科診療における歯科衛生士の役割1	<p>診察・検査の目的と歯科衛生士の役割を説明できる。  医療面接時の歯科衛生士の役割を説明できる。  小児歯科における特徴的な器材の準備を説明できる。  プラークコントロールの意義を説明できる。  フッ化物の応用・小窩裂溝填塞法について説明できる。  食生活指導の概略を説明できる。</p>
15	小児歯科診療における歯科衛生士の役割2	<p>診療補助と歯科衛生士の役割を説明できる。  診療に必要な器具・材料の取り扱いと特徴及び注意事項を説明できる。  口腔保健管理について説明できる。  診療室・待合室・受付の管理について説明できる。</p>

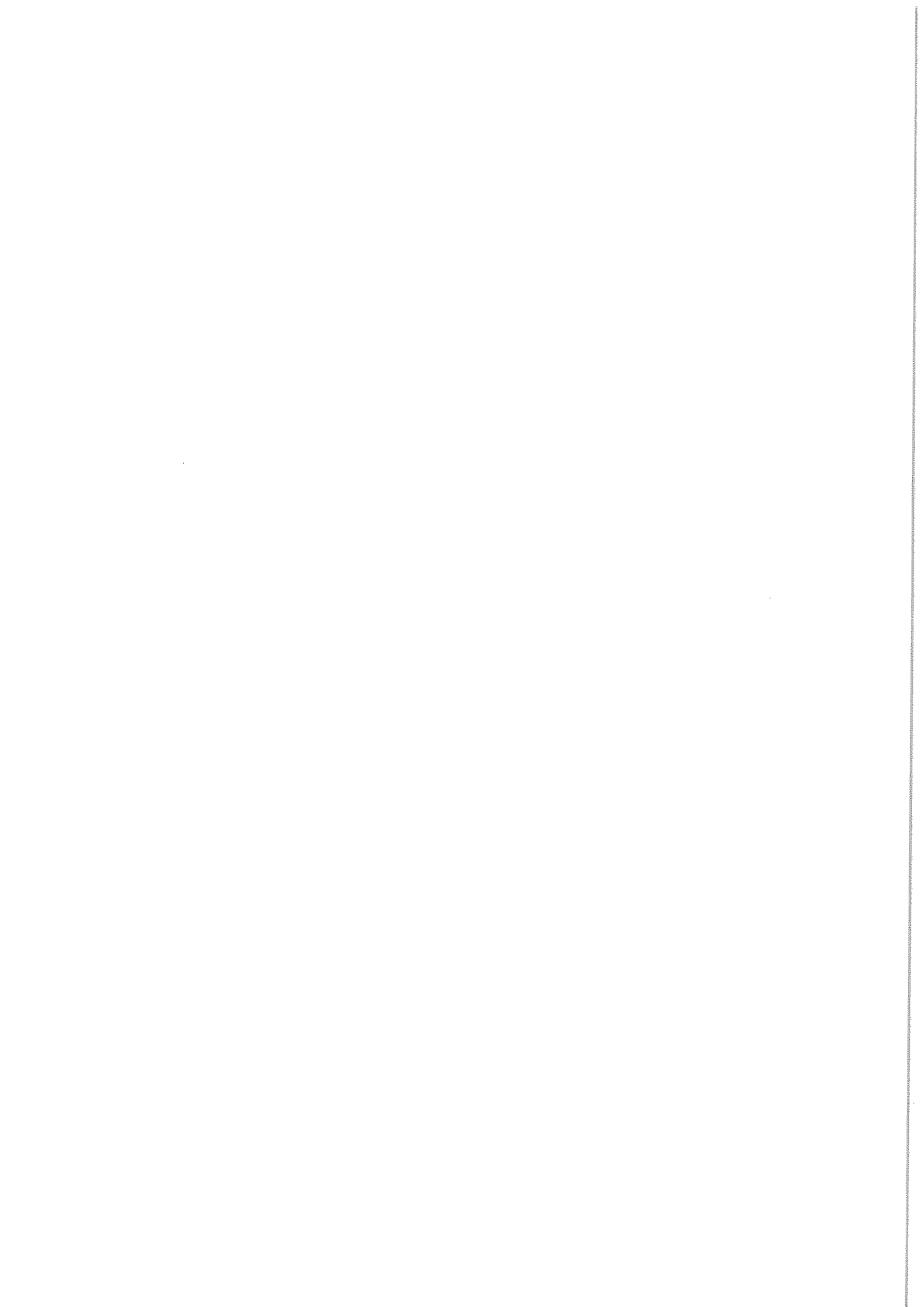
【 障害者歯科学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	山川摩利子	実務経験	歯科医師。歯学博士。日本障害者歯科学会指導医。東京医科歯科大学障害者歯科治療部医員、熊本市立熊本市市民病院歯科、熊本市東区保健子ども課勤務。
授業との関連性	日本障害者歯科学会指導医としての経験を活かし、障害を持つ児・者を取り巻く社会環境や障害の種類・特徴、また歯科医療の関わりや歯科衛生士の役割について講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

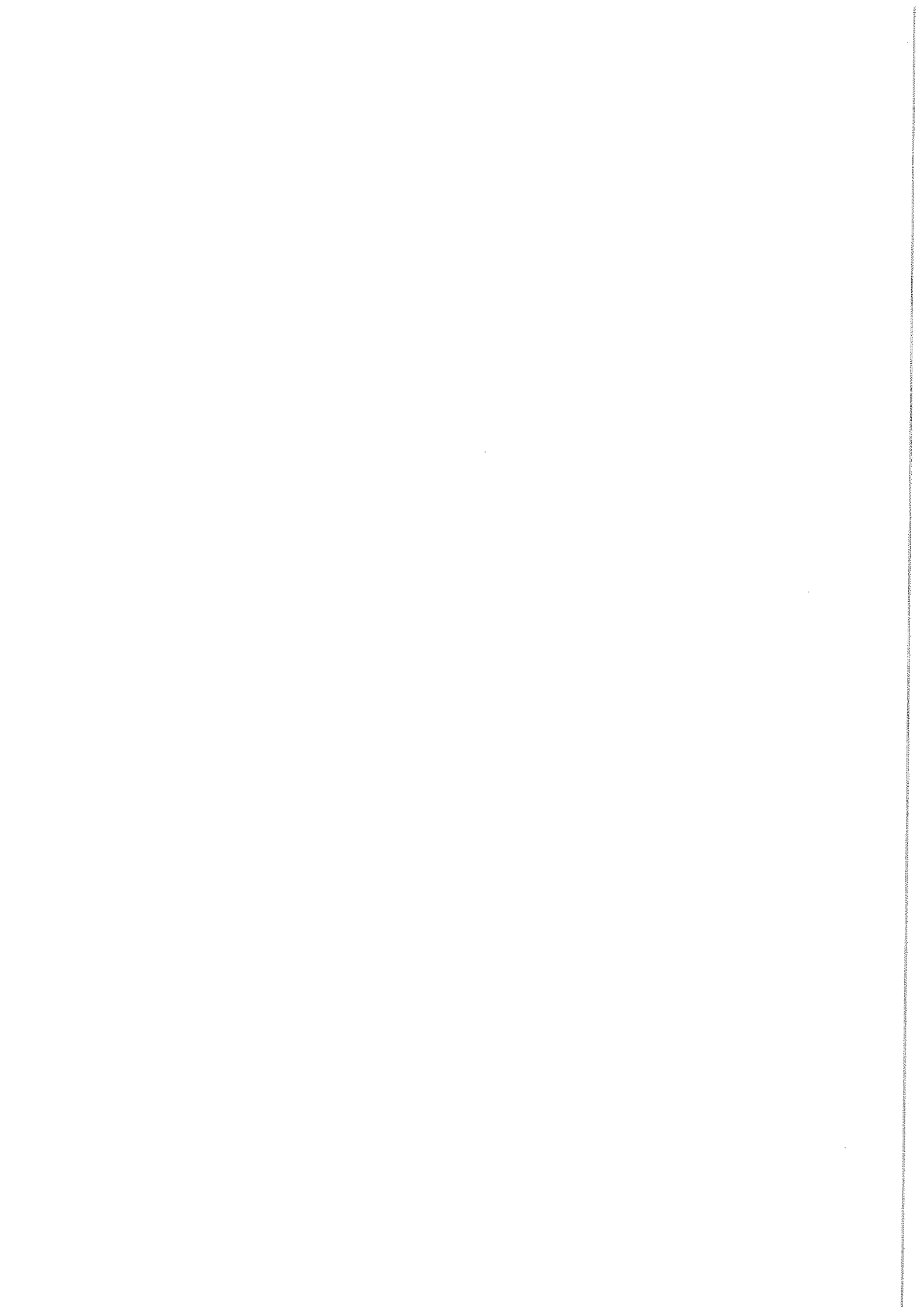
授業目標	障害を理解し、障害を持つ児・者を取り巻く社会環境を理解する。そのうえで、将来、歯科医療人として当たり前の診療行為を提供するために必要な知識を習得する。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	「障害者歯科 第二版」 向井美恵著 医歯薬出版株式会社		
参考文献	スペシャルニーズデンティストリー-障害者歯科 第二版 日本障害者歯科学会編 医歯薬出版株式会社		
履修上の注意	パソコン、プロジェクターを使用します。補助資料のプリントを配布する予定です。		
回	授業計画	到達目標	
1	第1章 障害の概念 ①歯科医療におけるスペシャルニーズ ②障害の分類 ③生活機能に特別な支援を要する人のQOL ④ノーマライゼーションとバリアフリー ⑤スペシャルニーズの発生とその受容 ⑥障害のある人と医療・福祉制度の仕組み	①歯科医療におけるスペシャルニーズを説明できる。 ②国際生活機能分類を説明できる。 ③障害児・者のQOLが説明できる。 ④ノーマライゼーションとバリアフリーを説明できる。 ⑤障害のある人と福祉制度について説明できる。 ⑥障害者歯科医療の仕組みが説明できる。	
2	第2章 歯科医療で特別な支援が必要な疾患 ①精神発達・心理的発達と行動障害 1 精神遅滞(知的障害) 2 広汎性発達障害 3 注意欠陥/多動性障害(ADHD) 4 学習障害(LD)	①精神遅滞(発達障害を含む)と関連する疾患・障害を説明できる。 ②DSM-5に基づく、障害名の変更について説明できる。 ③精神遅滞のある人への対応と口腔の特徴を説明できる。	
3	②運動障害(神経・筋系疾患) 1 脳性麻痺 2 重症心身障害 3 筋ジストロフィー 4 脊髄損傷 5 関節リウマチ 6 脳血管障害 7 筋萎縮性側索硬化症 8 その他の障害	①運動障害に関連する疾患・障害を説明できる。 ②運動障害のある人への対応と口腔の特徴を説明できる。	
4	③感覚障害 1 視覚障害 2 聴覚障害 3 嚥唾 4 その他の障害 ④音声言語障害 ⑤精神および行動の障害 ⑥その他 障害のある人への虐待	①感覚障害について説明できる。 ②感覚障害のある人への対応と口腔の特徴を説明できる。 ③精神障害に関連する疾患・障害を説明できる。 ④精神障害のある人への対応と口腔の特徴を説明できる。	
5	第3章 障害者の歯科医療と行動調整 ① コミュニケーションの方法 ② 行動療法 ③ 体動のコントロール ④ 薬物的行動調整法	①障害のある人とのコミュニケーション法について説明できる。 ②障害者歯科で応用される行動調整法について説明できる。 ③行動療法における歯科衛生士の役割を説明できる。	
6	第4章 健康支援と口腔衛生管理 ①障害者本人や介助者が行う口腔ケアへの支援 ②専門的口腔ケア ③特別な配慮が必要な患者の口腔衛生管理	①障害のある人の口腔のケアを説明できる。 器質的口腔ケアと機能的口腔ケアについて説明できる。 ②専門的口腔ケアを説明できる。 ③障害や疾患に応じた口腔衛生管理について説明できる。	
7	第5章 リスク評価と安全管理 ①障害者歯科におけるリスク評価 ②障害別のリスクと対応 ③医療安全管理体制 ④感染制御体制	①障害者歯科におけるリスクについて説明できる。 ②障害者歯科におけるリスク評価について説明できる。 ③医療機関における安全管理の概要を説明できる。 ④障害者歯科における感染対策の基本を説明できる。 ⑤障害者歯科における感染予防対策の留意点を列挙することができる。	
8	第7章 地域における障害者歯科 ①障害者歯科と地域医療連携 ②障害者歯科と関連職種 ③保健・医療・福祉のネットワーク ④一次医療機関における障害者歯科 ⑤二次医療機関における障害者歯科 ⑥三次医療機関における障害者歯科	①障害者歯科と関連する職種について理解し、歯科衛生士の対応について説明できる。 ②一次医療機関と高次医療機関の役割を理解し、それぞれにおける歯科衛生士の役割について説明できる。	



# 【 高齢者歯科学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	尾上 宏	実務経験	歯科医師。日本先進インプラント医療学会専門医。松戸歯学部放射線学教室非常勤助手、歯科診療所開設。		
授業との関連性	長年の臨床歯科医としての経験を踏まえ、超高齢社会における高齢者歯科医療や高齢者の歯科疾患や診療時の注意点について講義する。				
履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)
					授業回数 8
授業目標	超高齢社会に突入しています。口腔ケア等による口腔環境の改善が全身疾患の罹患リスクを低減させる事が一般的な常識となっています。その口腔改善に重要な役割をなす歯科衛生士としての自覚を身につけ、高齢者と歯科の関わりを理解し、いかにQOL向上に関与していくかその対応を考える。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	最新「高齢者歯科」 戸原 玄著 医歯薬出版KK				
参考文献	映画「バッチ・アダムス」 渡辺和子著「置かれた場所で咲きなさい」				
履修上の注意	1. 私語の禁止 2. 同級生への迷惑行為をしない。				
回	授業計画			到達目標	
1	高齢者の現状			社会における高齢者の立つ位置を述べる事ができる。	
2	高齢者の健康と疾病			高齢者の健康像や疾病について正確な知識を列記できる。	
3	高齢者の口腔			高齢者の口腔の特徴について正確な知識を列記できる。	
4	高齢者と薬剤			高齢者が主に常用している薬剤の特徴や注意について正確に列記できる。	
5	高齢者の歯科診療における歯科衛生士の役割			高齢者の歯科診療における歯科衛生士の役割を理解し、その対応を述べる事ができる。	
6	高齢者の歯科診療の実際と歯科診療の補助			一般の歯科治療との違いを述べる事ができる。	
7	要介護高齢者の現状			介護事業の現実とそれへの対応について簡単に述べる事が出来る。	
8	要介護高齢者と歯科衛生士			要介護高齢者へのアプローチを列記できる。	





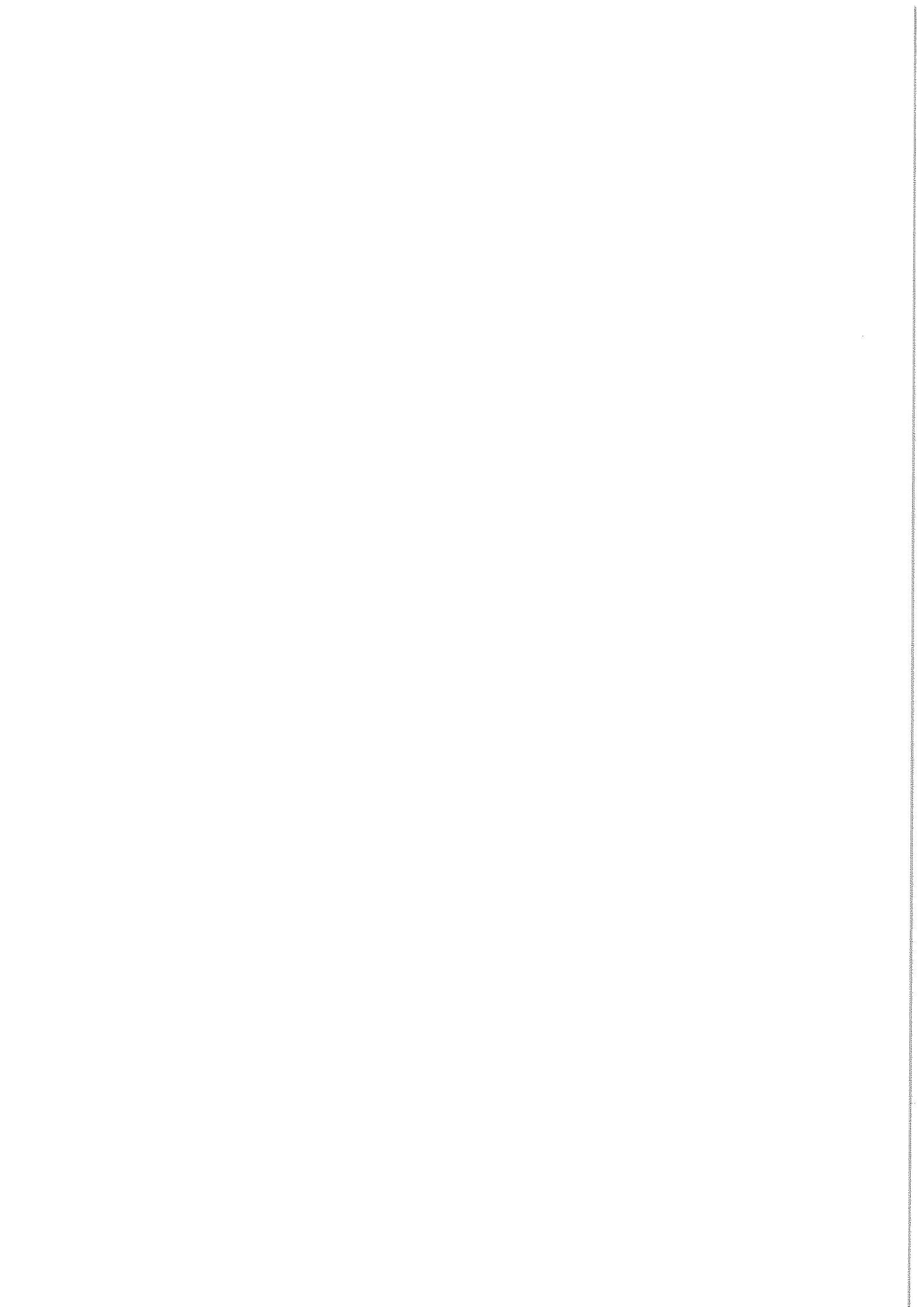
# 【 歯科口腔放射線学 】 令和2年度 授業シラバス

日本歯科衛生士専門学院

講師名	瀬々良介	実務経歴	歯科医師。日本歯科放射線学会放射線認定医。口腔病院画像診断部長。福岡歯科大学臨床准教授。
授業との関連性	日本歯科放射線学会放射線認定医、また口腔病院における画像診断部長の経験を踏まえ、歯科放射線の知識、画像診査法と画像診断について、また歯科衛生士の法的役割について講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義・実技	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	---

授業目標	歯科衛生士として必要な歯科放射線の知識を習得する。特に歯科放射線診療における適切な補助、放射線防護を行うための基礎知識および画像診査法と画像診断学の基本を習得し歯科医療に大いに貢献できる歯科衛生士を育成することを目標とする。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	「歯科衛生士テキスト わかりやすい歯科放射線学」、飯久保正弘ほか、学建書院		
参考文献	最新「歯科放射線」岡野友宏著 医歯薬出版KK		
履修上の注意	積極的に学び取ろうとする姿勢で臨んでください。また、講義中の私語は厳禁。		
回	授業計画	到達目標	
1	歯科放射線学序論(歯科放射線学の概要、歯科放射線学の役割、エックス線の発見) 目標: 歯科放射線学の概要を理解し、本教科を学ぶ意義や必要性を理解する。	歯科放射線学の概要を把握し歯科衛生士として本教科を学ぶ意義や必要性を述べることができる。	
2	放射線物理学(放射線とその性質など)[放射線とは何か。(細項目: 電磁波、エックス線)、エックス線の発生(細項目: 発生原理、エックス線管の構造)、エックス線と物質の相互作用(細項目: エックス線の減弱)、エックス線画像の形成(細項目: エックス線透過像、エックス線不透過像)] 目標: エックス線の性質やエックス線画像の形成を理解する。	エックス線の性質やエックス線画像の形成について説明できる。	
3	放射線生物学、放射線防護(放射線の人体への影響と防護)[生物へ与える影響(細項目: 早期障害、晩期障害、確定的影響、確率的影響)、放射線防護の基本概念(細項目: 被爆のカテゴリー、放射線防護の体系)、放射線防護の実際(細項目: 医療従事者の被爆軽減、患者の被爆軽減)] 目標: 放射線の人体への影響と防護の重要性を理解する。	放射線の人体への影響や放射線防護について説明できる。	
4	エックス線撮影法(1)[口内法撮影(細項目: 二等分法、平行法、咬翼法、咬合法、口内法エックス線写真の正常解剖)] 目標: 口内法撮影の各撮影法を理解する。	口内法撮影の各撮影法の特徴と手技を説明できる。	
5	エックス線撮影法(2)[パノラマエックス線撮影法(細項目: パノラマエックス線撮影の原理、短所、長所、パノラマエックス線写真の正常解剖)] 目標: パノラマエックス線撮影法を理解する。	パノラマエックス線撮影法の特徴と手技を説明できる。	
6	エックス線撮影法(3)[その他の画像検査法(細項目: 頭部エックス線規格撮影、顎関節撮影、CT、MRI、超音波検査)] 目標: その他の画像検査法を理解する。	頭部エックス線規格撮影、顎関節撮影、CT、MRI、超音波検査の特徴を説明できる。	
7	写真処理法[写真機材(細項目: エックス線フィルム、増感紙、カセット)、写真処理(細項目: 現像、定着、水洗、乾燥)、デジタル化(細項目: IP方式、CCD方式)] 目標: 写真処理法を理解する。	エックス線写真の処理法を説明できる。	
8	エックス線写真の整理、エックス線写真の読影およびまとめ[口内法エックス線写真の正常解剖と病変、パノラマエックス線写真の正常解剖と病変、写真の整理(マウント)] 目標: 口内法エックス線写真を見て撮影部位を認識する。基本的な病変のエックス線像を理解する。	エックス線写真の整理(マウント)ができる。基本的な病変のエックス線所見を説明できる。	



# 【 歯科予防処置法 I 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	大塚めぐみ	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院副教務主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		
講師名	西口真美	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		

履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義・演習・実技	単位数	4単位(120単位)	授業回数	60
---------	-------	------	----------	-----	------------	------	----

授業目標	(前期)口腔の2大疾患である「う蝕」と「歯周疾患」の予防の重要性を理解し、継続管理を行うために必要な知識、技術、態度を身につける。 (後期)予防処置法の使用器具の取り扱いと操作の基本を理解するために、必要な知識、技術を修得する。
------	---

評価方法	定期試験(100点満点) 項目ごと実技試験
------	-----------------------

教科書名	最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版 医歯薬出版株式会社
------	--

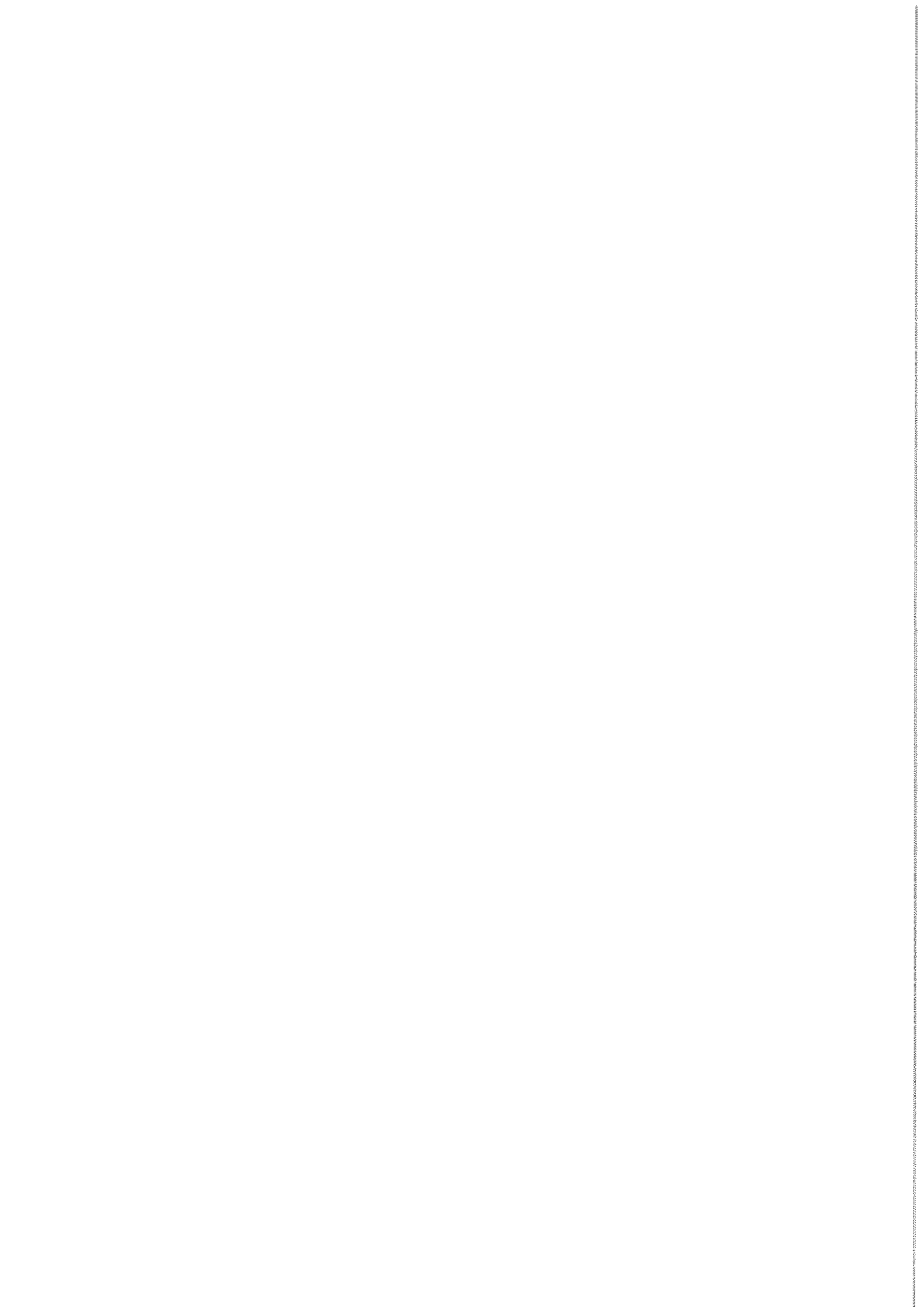
参考文献	①最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 ②新歯科衛生士教本 歯科予防処置 医歯薬出版株式会社 ③歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 医歯薬出版株式会社 ④最新 歯科衛生士教本 保健生態学 第2版 医歯薬出版株式会社 ⑤最新 歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 医歯薬出版株式会社
------	---

履修上の注意	①予習を必ず行い講義・実習に臨むこと。プリントを事前に配布します。 ②授業の復習は必ず行うこと。 ③実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 ④到達目標は履修状況において変更することがあります。
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	(講義)Ⅱ編 1章 ①口腔・口腔周囲の構造②歯周組織 Ⅲ編 2章 ①口腔の器質的問題の把握 ②口腔の機能的問題の把握 口腔の基礎知識1 口腔の構造・歯周組織	口腔の構造、名称および歯式について理解する。
2	(講義)Ⅱ編 1章 ③歯冠と歯根の形態②口腔の機能 口腔の基礎知識2 歯周組織・口腔の機能・小テスト	口腔の構造を理解したうえで、口腔の機能や摂食嚥下の流れの概要を理解する。
3	(講義)Ⅱ編 2章 ①口腔内の付着物・沈着物	①口腔内の付着物、沈着物の種類と成分が説明できる。 ②プラークの形成過程と成分を説明できる。 ③歯石の形成過程と成分を説明できる。
4	(講義)Ⅱ編 2章 ②う蝕	う蝕がどのように起こるのか、またう蝕の特性について理解する。
5	(講義)Ⅱ編 2章 ③歯周病 2章 う蝕と歯周病の基礎知識小テスト	歯周組織を理解したうえで、歯周病とはどのような病気か、原因や進行のメカニズムを理解する。
6	(講義)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握 診査用具の把持法・使用方法(エキスプローラー・プローブ)	歯周診査用器材の使用法、特徴について理解する。
7	(講義)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング 手用スクレーラー・機械的スクレーラーの概要	①各種スクレーラーの種類と使用目的を説明できる。
8	(講義)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング シクルスクレーラーの概要・把持法 診査用器材とスクレーラー概要小テスト	シクルスクレーラーの把持法を修得する。
9	(実技)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング シクルスクレーラー机上操作(前腕回転運動)	シクルスクレーラーを用いて、前腕回転運動の操作ができる。
10	(実技)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング シクルスクレーラー机上操作(手根関節運動)	シクルスクレーラーを用いて、手根関節運動の操作ができる。
11	(実技・演習)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング 基本設定 ポジショニングについて 人工歯石の取り扱い	①スクレーリング操作時のポジション・姿勢を理解することができる。 ②人工歯石を歯牙に的確に塗布することができる。
12	(実技)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング エキスプローリング・ミラー操作	ヒト口腔内をミラーで確認し、直視できない部位の投影、また排除の必要性などを理解し、操作できる。
13	(実技)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング ファントムシクルスクレーリング1	ファントムを用いて、歯石除去時のポジショニング、ライティング、スクレーラーの操作方法、ミラーテクニックなど基本的なスクレーリングをブロックごとに理解し操作ができる。
14	(実技)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング ファントムシクルスクレーリング2	同上
15	(実技)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング ファントムシクルスクレーリング3	同上
16	(実技)Ⅲ編 3章 ①スクレーリング・ルートプレーニング ファントムシクルスクレーリング4	同上

回	授業計画	到達目標
17	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 超音波スケーラー・エアスケーラーについて	各種スケーラーの特徴、使用方法、操作方法が説明できる。
18	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 超音波スケーラー・エアスケーラーでの偶発事故	安心・安全に院内実習に取り組むことができるように、偶発事故の予防と対策について理解を深め説明できる。
19	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントムシックルスケーリング(復習)	各部位に適したポジションでスケーリングとミラー操作を行い、取り残しの確認ができる。
20	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントムシックルスケーリング 204SD取り扱い	シックルスケーラー204SDの特徴を理解し操作できる。
21	(講義・演習)Ⅱ編 2章 う蝕と歯周病の基礎知識 位相差顕微鏡の基礎知識と取り扱いについて	①位相差顕微鏡の取り扱いが適切にできる。 ②位相差顕微鏡を用いて口腔内の状態を説明できる。
22	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング 超音波スケーラー・エアスケーラーの取り扱い	超音波・エアスケーラーの基本的な取扱いが行えるように各々の特徴を理解し、セッティングができる。
23	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(エアスケーラー・ハンドスケーラー)実習 上顎 1回目	これまでに履修した口腔内洗浄、パキュウム操作、ハンドスケーリングに超音波・エアスケーリングを加え、ファントムにて一連の流れを理解し操作ができる。
24	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(エアスケーラー・ハンドスケーラー)実習 上顎 2回目	同上
25	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(エアスケーラー・ハンドスケーラー)実習 上顎 3回目	同上
26	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(超音波スケーラー・ハンドスケーラー)実習 下顎 1回目	同上
27	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(超音波スケーラー・ハンドスケーラー)実習 下顎 2回目	同上
28	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング ファントム縁上スケーリング(超音波スケーラー・ハンドスケーラー)実習 下顎 3回目	同上
29	(講義)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・口腔内精密検査1	患者の口腔内の状態を的確に観察し、記録することができる。
30	(講義)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・口腔内精密検査2	歯周組織の健康度を判断するための一助である各種歯周組織検査を理解し説明できる。
31	(実技)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・口腔内精密検査3プロービング操作ファントム実習	患者の口腔内の状況を把握するために、ファントムの口腔内の状態を観察、検査し記録することができる。
32	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察 1人目	①患者の口腔内の健康状況を把握するために、患者の口腔内の状態を的確に観察することができる。 ②相互にて実習し実習し、その手技および結果から口腔内状況を理解できる。
33	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察 2人目	同上
34	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察 3人目	同上
35	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレットスケーラーの把持法、使用方法について	スケーリング・ルートプレーニングを確実に実践するためにキュレットスケーラーの特徴や使用目的を理解する。
36	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレットスケーラー机上操作	①キュレットスケーラーの部位別種類と特徴が判断できる。 ②キュレットスケーラーの挿入角度と操作角度の違いがわかり操作できる。 ③キュレットスケーラーの操作方法を説明し実施できる。
37	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング エキスポローリング・ポジション・キュレット操作	各部位に応じたポジショニングでエキスポローリング、スケーリング・ルートプレーニングができる。
38	(実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作1	キュレットスケーラーの特徴を把握し、各部位に合わせたスケーラーを選択し操作することができる。

回	授業計画	到達目標
39	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作2	同上
40	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作3	同上
41	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作4	同上
42	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作5	同上
43	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作6	同上
44	(講義)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング シャープニング1	刃の原形を維持しながら、もとの切れ味に復元することができるよう正しいシャープニング方法を習得できる。
45	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング シャープニング2	同上
46	(試験)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作実技試験	指示された歯牙を間違えることなく、正確なポジショニング、適切なスケーラーを用い、歯肉溝内の歯石を除去できる。
47	(試験)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング キュレット操作実技再試験	指示された歯牙を間違えることなく、正確なポジショニング、適切なスケーラーを用い、歯肉溝内の歯石を除去できる。
48	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング・ルートプレーニング エキスポーリング・シクル・キュレット操作復習	各部位に適したポジションでエキスポーリング、スケーリング・ルートプレーニングとミラー操作を行い、取り残しの確認ができる。
49	(講義)Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕に関する検査 う蝕活動性試験とは	う蝕活動性試験の必要な知識について理解する。
50	(演習)Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕に関する検査 う蝕活動性試験①	①齶蝕活動性試験の有効性、種類がわかり、正しい操作でテストを行うことができる。 ②患者へ説明、予防するために情報の収集ができる。 ③患者に適した予防プログラムを立てることができる。
51	(演習)Ⅲ編 2章 ⑧分析のためのデータ 4. う蝕に関する検査 う蝕活動性試験②	同上
52	(実習)Ⅲ編 2章 歯科衛生セメントとしての情報収集と情報処理 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的問題の把握 口腔内観察・精密検査 上顎 1人目	患者の口腔内の健康状況を把握するために、各種口腔内精密検査を相互にて実習し、その手技および結果から口腔内状況を理解する。
53	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的 問題の把握 口腔内観察・精密検査 上顎 2人目	同上
54	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的 問題の把握 口腔内観察・精密検査 上顎 3人目	同上
55	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的 問題の把握 口腔内観察・精密検査 下顎 1人目	同上
56	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的 問題の把握 口腔内観察・精密検査 下顎 2人目	同上
57	(実習)Ⅲ編 2章 ⑥口腔の器質的問題の把握⑦口腔の機能的 問題の把握 口腔内観察・精密検査 下顎 3人目	同上
58	(講義・演習)Ⅲ編 3章 ③フッ化物の応用 フッ化物総論・実験	フッ化物応用を実践するために、フッ化物局所応用の手順について理解する。また、フッ化物の毒性についても理解する。
59	(演習)Ⅲ編 3章 ③フッ化物の応用 フッ化物の基礎知識1	講義・実習前の事前学習として、各文献を参考に、フッ化物によるう蝕予防処置法を理解する。
60	(講義) 歯科予防処置分野 まとめ 模擬試験解説	①歯科予防処置に関する知識の再確認ができる ②修得できていない分野を確認することができる



# 【 歯科予防処置法Ⅱ 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	大塚めぐみ	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院副教務主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		
講師名	西口真美	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		

履修学年・学期	2年前後期	授業方式	講義・演習・実技	単位数	2単位(90時間)	授業回数	45
---------	-------	------	----------	-----	-----------	------	----

授業目標	(前期)臨床実習に対応するために、学院内実習を通して技術、及び患者への対応を修得する。 (後期)現場における歯科衛生士の役割と業務を理解し、実践力を養うために、様々な場面に 対応できる能力を身につける。
------	---

評価方法	定期試験(100点満点) 項目ごと実技試験
------	-----------------------

教科書名	①最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 ②よくわかる歯科衛生過程 医歯薬出版株式会社
------	---

参考文献	①最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 ②新歯科衛生士教本 歯科予防処置 医歯薬出版株式会社 ③歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 医歯薬出版株式会社 ④最新 歯科衛生士教本 保健生態学 第2版 医歯薬出版株式会社 ⑤最新 歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 医歯薬出版株式会社 ⑥最新 歯科衛生士教本 歯科機器 医歯薬出版株式会社
------	---

履修上の注意	①予習を必ず行い講義・実習に臨むこと。プリントを事前に配布します。 ②授業の復習は必ず行うこと。 ③実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 ④到達目標は履修状況において変更することがあります。
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	(講義・演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物の基礎知識	①フッ化物の代謝の過程を理解することができる。 ②急性中毒の症状を述べることができる。 ③慢性中毒の症状を述べるができる。
2	(講義)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物歯面塗布法	①フッ化物の効果的な塗布時期と対象歯を理解する。 ②フッ化物歯面塗布の薬剤の種類がわかる。 ③フッ化物歯面塗布の術式を理解することができる。
3	(講義)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物洗口の特徴	①フッ化物洗口法の種類を理解することができる。 ②フッ化物洗口法の対象者がわかる。 ③フッ化物洗口法実施に関する注意事項を理解できる。
4	(講義)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物配合歯磨剤・ライフステージ別のフッ化物局所応用・まとめテスト	①フッ化物配合歯磨剤の種類を述べるができる。 ②フッ化物配合歯磨剤の応用方法を理解することができる。 ③フッ化物配合歯磨剤の効果的な使い方を理解することができる。
5	(講義・演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物について1 溶液測定・中毒量算出	①フッ化物の正しい取扱いと安全な使用量がわかる。 ②フッ化物綿球塗布法の術式を説明することができる。 ③フッ化物塗布後の注意事項を説明することができる。
6	(講義)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物について2 中毒量算出・フッ化物洗口液の調整	同上
7	(講義)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 PTC・PMTGについて1	バイオフィルムを物理的に取り除くためにはどのような器材があるか理解し、それぞれの目的、種類を理解する。
8	(講義)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 PTC・PMTGについて2 エアフロー・サブソニックブラシ 超音波スケーラー・エアスケーラー(復習)	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択を理解できる。
9	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物洗口法の作製・使用法 イオン導入器の取扱い	イオン導入法の術式を理解し、機器の操作、注意や配慮すべき点を理解する。
10	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物綿球塗布法	①フッ化物の正しい取扱いと安全な使用量がわかる。 ②フッ化物綿球塗布法の術式を説明することができる。 ③フッ化物塗布後の注意事項を説明することができる。
11	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 上顎(エア)・下顎(超音波)右側	①適切な超音波・エアスケーラーの操作ができる。 ②術式を理解しスムーズに操作ができる。
12	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 上顎(エア)・下顎(超音波)中央	同上
13	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章①スケーリング 縁下スケーリング 上顎(エア)・下顎(超音波)左側	同上
14	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 正常模型 上顎/下顎 PTC	ファントムを用いて、操作部位に応じた適切な器材が選択でき、またPTCが適切に操作できる。
15	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 正常模型 上顎/下顎 コードレスハンドピースPTC	正常な歯列の口腔内にてコードレスハンドピースの使用方法を理解することができる。
16	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 歯列不正模型 上顎/下顎 PTC	歯列不正な口腔内にてコードレスハンドピースの使用方法を理解することができる。
17	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し～サブソニックブラシ操作実習 示説・1人目	器材の使用目的を理解したうえで、ブラシを的確に歯面に当て染め出し部分を落とし、PTCをよりデリケートに行う操作を習得する。

回	授業計画	到達目標
18	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し～サブソニックブラシ操作実習 2人目・3人目	同上
19	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 歯面清掃器実習 エアフロー 示説・1人目	①歯面研磨・歯面清掃の目的と特徴を踏まえ、適切な器材を選択し操作できる。
20	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 歯面清掃器実習 エアフロー 2人目・3人目	同上
21	(講義)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝充填塞法 小窩裂溝充填塞法総論・フッ化ジアンミン銀総論	①小窩裂溝充填塞法の作用機序と適応症を理解し手順を説明できる。 ②フッ化ジアンミン銀溶液の特徴・作用機序・注意事項・取扱い方
22	(演習)Ⅲ編 3章⑤小窩裂溝充填塞法 小窩裂溝充填塞法剖面スケッチ	①小窩裂溝充填塞法を術式に沿って行うことができる。 ②酸処理面の状況を観察し説明することができる。 ③充填状態を確認し評価することができる。
23	(演習)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用 フッ化ジアンミン銀 指・布への着色	フッ化ジアンミン銀溶液の作用について理解を深めるとともに、患者および術者の皮膚や手指ならびに衣類を汚染した場合の処置
24	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝充填塞法 ラバーダム使用小窩裂溝充填塞法・フッ化ジアンミン銀塗布	ラバーダム防湿及び小窩裂溝充填塞法について術式を理解し、必要な器材の取り扱い及び充填塞法を習得する。
25	(相互実習)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝充填塞法 フッ化ジアンミン銀塗布実習・ラバーダム防湿使用小窩裂溝充填塞法 示説・1人目	ラバーダム防湿及び小窩裂溝充填塞法・フッ化ジアンミン銀塗布法について一連の術式を理解し、必要な器材や材料の的確な取り扱い及び操作方法を学ぶ。
26	(相互実習)Ⅲ編 3章④フッ化物の応用⑤小窩裂溝充填塞法 フッ化ジアンミン銀塗布実習・ラバーダム防湿使用小窩裂溝充填塞法 2人目・3人目	同上
27	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章①スケーリング キュレットスケーリング 復習	各部位に適したポジションでエキスポーリング、スケーリング・ルートプレーニングとミラー操作を行い、取り残しの確認ができる。
28	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し・PTC(コードレス使用)1・2人目	口腔内の状況に応じた研磨用器具を選択し、対象者に配慮した確実なPTCの一連の操作を実践することができる。
29	(相互実習)Ⅲ編 3章②歯面研磨・歯面清掃 染め出し・PTC(コードレス使用)3人目	同上
30	(相互実習)Ⅲ編 2章②口腔内の情報収集 口腔内観察～口腔内精密検査2 高齢者模擬患者 示説・1人目	日頃は同級生という若い世代で実習しているが、高齢者模擬患者にみためた症例の口腔内を観察、精密検査ができる。
31	(相互実習)Ⅲ編 2章②口腔内の情報収集 口腔内観察～口腔内精密検査2 高齢者模擬患者 2人目・3人目	同上
32	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 エアスケーリング～PTC(上顎)1人目	基礎実習とファントム実習で履修した技術により、患者・補助者・術者のそれぞれの立場での心構えを持ち、模擬症例ごとに事前学習し対応法についてイメージトレーニングして臨むことができる。
33	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 エアスケーリング～PTC(上顎)2人目	同上
34	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 エアスケーリング～PTC(上顎)3人目	同上
35	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 超音波スケーリング～PTC(上顎)1人目	同上
36	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 超音波スケーリング～PTC(上顎)2人目	同上
37	(相互実習)Ⅲ編 3章①スケーリング②歯面研磨・歯面清掃 超音波スケーリング～PTC(上顎)3人目	同上
38	(講義) 歯周疾患とう蝕の指数	口腔内の状態を評価するために、歯周疾患とう蝕の状態を数値化し、その変化を観察できる。
39	(講義)歯周病に関連する検査 う蝕活動性試験③	①う蝕活動性試験の結果から、前回と比較した分析ができる。 ②患者への説明、予防するためのプログラムをたてることができる。
40	(講義・演習) う蝕活動性試験④	同上
41	(講義・演習) ダイアグノデントペン取り扱い	カリエスの進行状態を数値化し、う蝕の状態を患者にわかりやすく説明することができる。
42	(講義) う蝕抑制効果評価とスクリーニング	①う蝕活動性試験の有効性、種類を述べることができる。 ②スクリーニング検査に使用する検査法の信頼性の指標の説明ができる。 ③敏感度および特異度を計算できる。
43	(講義・演習) 予防プログラム①う蝕カリオグラム	う蝕レーダーチャート、歯周病レーダーチャートに結果を入れ口腔内の問題点を読み取るすることができる。
44	(講義・演習) 予防プログラム②歯周疾患	同上
45	(講義)歯科予防処置法 模擬試験 解説	①歯科予防処置に関する知識の再確認ができる ②修得できていない分野を確認することができる



# 【 歯科予防処置法Ⅲ 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

※旧課程 現3年生のシラバスとなります

講師名	大塚めぐみ	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院副教務主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		
講師名	西口真美	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、歯科予防処置法に係る基礎知識や予防技術、患者管理について講義・実習する。		

履修学年・学期	3年前後期	授業方式	講義・演習・実技	単位数	1単位(40時間)	授業回数	20
---------	-------	------	----------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科衛生士という専門職としての実技能力を高めるために、今まで学んだ知識、技術を踏まえ、歯科衛生士業務についてさらに理解を深め、患者管理、予防業務の知識、技術を修得する。対象者の問題を科学的な思考をもって解決するために歯科衛生過程の基本的な考え方や展開する方法を修得する。
------	---

評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

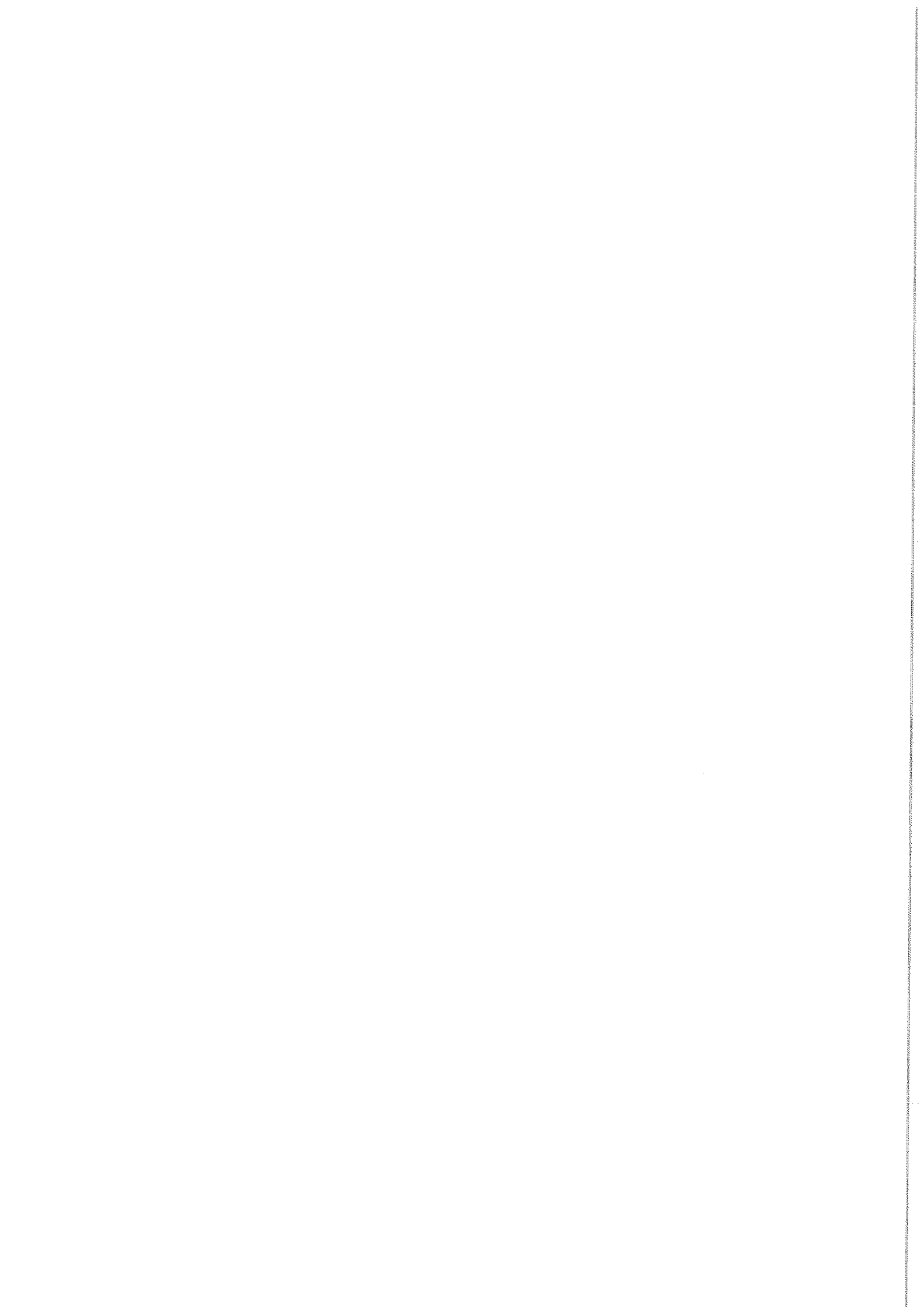
教科書名	①最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 ②よくわかる歯科衛生過程 医歯薬出版株式会社
------	---

参考文献	①最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 ②新歯科衛生士教本 歯科予防処置 医歯薬出版株式会社 ③歯科衛生士のためのう蝕予防処置法 医歯薬出版株式会社 ④最新 歯科衛生士教本 保健生態学 第2版 医歯薬出版株式会社 ⑤最新 歯科衛生士教本 歯周病学 第2版 医歯薬出版株式会社 ⑥最新 歯科衛生士教本 歯科機器 医歯薬出版株式会社
------	---

履修上の注意	①予習を必ず行い講義・実習に臨むこと。プリントを事前に配布します。 ②授業の復習は必ず行うこと。 ③実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 ④到達目標は履修状況において変更することがあります。
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	(講義・実技)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 PMTc操作 前歯部	エパチップの使用目的を再確認し準備から操作法について説明ができる。
2	(実技)Ⅲ編 3章 ①スケーリング エキスプローリング～キュレットスケーラー操作(復習)	1. エクスプローリング、スケーリング、ルートプレーニングまでの一連の操作がスムーズに行うことができる。 2. インストルメントの管理ができる。
3	(演習)Ⅱ編 2章 ①口腔内の付着物・沈着物 位相差顕微鏡の取り扱い	位相差顕微鏡を用いた効果的な患者教育が実施できる。
4	対面実習OR	1. 患者情報を収集するにあたり、注意すべきことを理解することができる。
5	対面実習OR	同上
6	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング 1人バキューム 上顎 スケーリング～歯面研磨	機械的歯面清掃法の応用として、口腔内に応じた適切な器材を選択し、スケーリングとバキューム操作が一人で実施できる。
7	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング 1人バキューム 下顎 スケーリング～歯面研磨	同上
8	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章 ①スケーリング 拡大鏡の取り扱い・拡大鏡使用でのSRP・シャープニング	1. 拡大鏡を使用し、より精度の高いスケーリング・ルートプレーニングを実施できる。 2. 手用スケーラーの操作方法、シャープニングについて復習し自身の履修度を確認できる。
9	(実技・ファントム実習)Ⅲ編 3章⑤小窩裂溝填塞法 ラバーダム使用小窩裂溝填塞法(復習)	ラバーダム防湿及び小窩裂溝填塞法について術式を理解したうえで、必要な器材の取り扱い及び填塞を実施できる。
10	(実技)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 サブソニックブラシ操作(上顎)復習	器材の使用目的を理解したうえで、ブラシを的確に歯面に当て染め出し部分を落とし、PTCをよりデリケートに操作できる。
11	(実技)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 サブソニックブラシ操作(下顎)復習	同上
12	(実技)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 エアフロー・PTC	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択及び操作ができる。
13	(実技)Ⅲ編 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 エアフロー・PTC	口腔内に応じた適切な歯面研磨、歯面清掃を修得するための器械選択及び操作ができる。
14	(実技)Ⅲ編 2章 ③口腔内の情報収集 3章 ②歯面研磨・歯面清掃 歯面研磨・CPIプローブ操作・ファーケーションプローブ実習	患者の口腔内の状況を把握するために、患者の口腔内の状態を的確に観察し、情報を収集することができる。
15	(相互実習・演習)Ⅲ編 2章 ③口腔内の情報収集 口腔内観察・染め出し・介入計画立案・記録	患者の口腔内を確実に観察し歯肉の状態や等を把握したうえで、患者と会話をしながら時間内にできる介入計画を立案し実施する。
16	(演習)Ⅲ編 3章 ④フッ化物の応用 フッ化物の応用(復習)症例に応じた準備器材	1. 症例に応じてフッ化物応用の器材が準備できる。 2. フッ化物の取り扱いを正確に行うことができる。
17	(相互実習)Ⅲ編 2章 ③口腔内の情報収集 口腔内観察・染め出し・PTC	患者の口腔内の状況を把握するために、患者の口腔内の状態を的確に観察し、記録することができる。
18	(相互実習)Ⅲ編 2章 ③口腔内の情報収集 口腔内観察・口腔内精密検査(上顎)CPIプローブ(復習)	①口腔内観察・精密検査が適確な器材の操作方法で実施できる。 ②CPIプローブの目的を理解し、操作できる。
19	(相互実習)Ⅲ編 2章 ③口腔内の情報収集 口腔内観察・口腔内精密検査(下顎)(復習2)	口腔内観察・精密検査が適確な器材の操作方法で実施できる。
20	(模擬試験・講義) 歯科予防処置法 模擬試験解説	模擬試験にて、いままで学んだ内容の理解度を知る。

\*ファントム実習か相互実習かは状況により変更することもあります。



# 【保健指導法Ⅰ】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	岩切恵子	実務経験	歯科衛生士。栄養コンシェルジュ二つ星。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務主任。		
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する。また、栄養コンシェルジュ二つ星として学生の食生活指導も行う。				
履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義・演習・実技	単位数	2単位(60時間)
授業回数	30				
授業目標	歯科保健指導とは、個々の生活行動を健康維持増進に向かい保健行動へと変容させることである。卒業後において歯科衛生士として臨床及び地域歯科保健活動の中で対象者への適切な支援の実践ができるよう基礎知識、技術や健康に関する行動変容のあり方を学ぶ。また、自身の口腔内でも口腔健康管理が実績できるようになる。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	授業計画に記載されている教本は以下番号の書籍を示す <①>「歯科予防処置論・歯科保健指導論」可児徳子 他 著 医歯薬出版 <②>「オーラルヘルスケア事典」麻賀多美代著 学建書院 <③>「歯科衛生学総論」藤原愛子著 医歯薬出版				
参考文献	高齢者とのグッドコミュニケーション(中村千賀子) 歯ブラシ辞典 (松田裕子) 歯科保健関係統計資料 その他、授業の中で紹介します。				
履修上の注意	時間に余裕がある時は、確認小テストを実施するので毎回の復習を行うこと。 新聞の医療に関する記事は毎日チェックすること。 シラバスはあくまで予定であり、皆さんの理解度により変更もあります。				
回	授業計画			到達目標	
1	<①>P2～第1章 歯科保健指導の概要Ⅰ 1.歯科保健指導の必要性 2.歯科保健指導の定義 3.歯科衛生士法における位置づけ 4.健康教育、行動科学、行動変容 5.個人を対象とする歯科保健指導 6.集団を対象とする歯科保健指導			1.保健指導の必要性について説明できる。 2.歯科保健指導が名称独占であることを説明できる。 3.生活行動、保健行動、行動変容の言葉の意味を各々説明できる。 4.個人を対象とする歯科保健指導を行うために必要な学びを理解できる。 5.集団を対象とする歯科保健指導にどのような場面があるか説明できる。	
2	<①>P8～ 1.健康の概念(歯科衛生学にて履修済み) ①健康の定義 ②プライマリヘルスケア ③ヘルスプロモーション ④健康管理 2.日本の健康推進施策 ①健康日本21 3.予防の概念			1.WHOの健康の定義について説明できる。 2.健康とは何か、自身の考えを述べるができる。 3.プライマリヘルスケアについて説明できる。 4.ヘルスプロモーションの定義、目標実現のための5つの活動を列記できる。 5.健康教育とヘルスプロモーションの違いを説明できる。 6.口腔健康管理の概念を説明できる。 7.口腔ケアと口腔健康管理の違いを説明できる。	
3	<①>Ⅱ編 第1章 P16～ <②>P4～ (歯科予防処置にて履修済) 1.口腔の基礎知識 2.口腔の機能 3.摂食・嚥下の仕組み Ⅲ編 2章 口腔内の情報収集 次回の演習の説明			1.口腔内の名称と役割、特徴を理解する。 2.口腔の正常像を理解する。 3.口腔の機能について説明できる。 4.摂食、嚥下のしくみを簡単に説明できる。	
4	<①>P131 Ⅲ編第2章 自己の口腔内観察 検査項目 1.口腔周囲 2.歯 3.口腔粘膜の観察 4.舌の観察 5.歯肉の観察			1.自己の口腔内状況を観察し、名称と部位の確認を行う。 2.各々の部位の名称を漢字で正確に書くことができる。 3.正常像と比較した自身の口腔粘膜の状況を把握する。	
5	<①>P86 4章 保健行動支援のための基礎知識 <③>P26～ 行動変容に関連する理論 ①健康信念モデル ②学習理論(オペラント条件づけ) ③社会的認知理論(自己効力感) ④変化のステージモデル			1.健康信念モデルを説明できる。 2.学習理論の3つの基本的要素を列記できる。 3.社会的認知理論(自己効力感)とは何か説明できる。 4.行動変容ステージを列記しそれぞれの意味を説明できる。	
6	<③> P22～ 1.ICF国際生活機能分類 2.EBM 3.批判的思考2.ヒューマンニーズ理論 ①マズローの欲求階段理論 ②ヒューマンニーズ概念モデル			1.ICFとICIDHの違いを説明できる。 2.EBMとは何か説明できる。 3.批判的思考とは何か説明できる。 4.ヒューマンニーズとは何か説明できる。 5.マズローの欲求階層理論について説明できる。 6.DarbyとWalshのヒューマンニーズ概念の4項目を列記できる。	

回	授業計画	到達目標
7	<p>&lt;①&gt;P44～3章 食生活指導の基礎知識 &lt;②&gt;P178～ ※栄養素の役割、働き、消化吸収については栄養指導で履修する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.国民の健康課題</li> <li>2.エネルギー、栄養素、食品摂取の変遷</li> <li>3.近年の食生活の特徴</li> <li>4.食品とう蝕誘発性</li> <li>5.う蝕予防のための食品の摂取方法</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.食生活・食習慣の背景を知り現代の問題点を説明できる。</li> <li>2.国民のエネルギー、栄養素の摂取変化について簡単に説明できる。</li> <li>3.近年の食生活の特徴(問題点)について説明できる。</li> <li>4.う蝕が生活習慣病である理由を説明できる。</li> <li>5.しよ糖とう蝕の関係について説明できる。</li> <li>6.食品のう蝕誘発性を示す指数について説明できる。</li> <li>7.う蝕予防のための食品摂取方法を説明できる。</li> </ol>
8	<p>&lt;①&gt;P77～食生活指導の基礎知識 &lt;②&gt;P178～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.歯周病と食生活</li> <li>2.酸蝕症と食生活</li> <li>3.咀嚼と食品</li> <li>4.特別用途食品と保健機能食品</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.歯周病患者へ食事摂取の指導内容を列記できる。</li> <li>2.酸蝕症患者への食事摂取の指導内容を列記できる。</li> <li>3.咀嚼の目的、効用について説明できる。</li> <li>4.「特別用途食品」「保健機能食品」「歯に信頼マーク」とは何か説明できる。</li> </ol>
9	<p>&lt;①&gt;P138～Ⅲ編 2章 オーラルヘルスケア事典P169～ ブラーク 歯垢染色法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.歯垢染色剤の使用法と特徴</li> <li>2.歯垢染色剤の所要条件</li> <li>3.色素の種類</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.歯垢染色剤の使用目的について説明できる。</li> <li>2.歯垢染色剤の使用法と特徴を列記できる。</li> <li>3.歯垢染色剤の所要条件を列挙し種類について分類列記できる。</li> <li>4.染色時の注意事項を説明できる。</li> </ol>
10	<p>&lt;①&gt;P156～ 分析のためのデータ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.指標 口腔衛生状態の指標</li> <li>1.(PCR)O'Leary のブラークコントロールレコード (演習) 各自歯垢染色後PCRによる記録</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.(PCR)オレリーのブラークコントロールレコードの特徴を理解する。</li> <li>2.PCRの判定基準、計算方法を列記することができる。</li> <li>3.判定時の注意点を述べるができる。</li> </ol> <p>(演習時)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.自身の口腔内染色が正確にできる。</li> <li>2.PCRの記録及び評価が適切にできる。</li> <li>3.評価に基づき自身の口腔清掃の反省点を改善することができる。</li> </ol>
11	<p>&lt;①&gt;P156～ 1.OHI (DI CI)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.OHIとは何か説明できる。</li> <li>2.OHI-DIとOHI-CIの違いを説明できる。</li> <li>3.ブラークと歯石の判定基準をそれぞれ述べるができる。</li> <li>4.OHIの計算方法を修得する。</li> </ol>
12	<p>&lt;①&gt;P157～ 1.OHI-S (DI-S・CI-S)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.OHI-Sとは何か説明できる。</li> <li>2.OHI-SとOHIの違いを説明することができる。</li> <li>3.OHI-Sの対象歯を列記するができる。</li> <li>4.OHI-Sの計算方法を説明できる。</li> </ol>
13	<p>&lt;①&gt;P264～4章 歯科衛生介入としての歯科保健指導 &lt;②&gt;P16～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.口腔衛生管理に関わる指導 ブラッシング (1)歯ブラシ ①手用ブラシの構造 ②毛先の形状と適応例 ③歯ブラシの毛の硬さに影響する因子 ④理想的な歯ブラシの具備すべき条件 ⑤歯ブラシの管理と交換時期</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.歯ブラシの各部の名称が言える。</li> <li>2.歯ブラシの特徴、利点、欠点を知る。</li> <li>3.刷毛の種類と利点、欠点を説明できる。</li> <li>5.毛先の硬さに影響する因子を列記できる。</li> <li>6.理想的な歯ブラシの具備すべき条件を説明できる。</li> <li>7.歯ブラシ使用後の管理について説明ができる。</li> <li>8.歯ブラシの交換時期について説明できる。</li> </ol>
14	<p>&lt;①&gt;P269～ &lt;②&gt;P18～ ブラッシングの方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.歯ブラシの把持法</li> <li>2.各種ブラッシング法 毛先を使う方法と脇腹を使う方法</li> <li>3.適切な歯磨き圧について説明できる。</li> <li>4.毛先を使う方法 I ①水平法 ②垂直法 ③スクラッピング法</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.ブラッシングの特徴に応じた歯ブラシの持ち方がわかる。</li> <li>2.歯ブラシの毛先と脇腹を用いたブラッシング法を列記できる。</li> <li>3.適切な歯磨き圧について説明できる。</li> <li>4.毛先を使う各種ブラッシング法と適応症を説明できる。</li> </ol>
15	<p>&lt;①&gt;P269～ &lt;②&gt;P18～ 毛先を使う方法 II</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①フォーンズ法 ②1歯ずつの縦磨き法</li> <li>③パス法</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.毛先を使う各種ブラッシング法と適応症を説明できる。。</li> </ol>
16	<p>&lt;①&gt;P272～ &lt;②&gt;P19～ 脇腹を使う方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ローリング法 ②パス改良法</li> <li>③スティルマン法 ④チャーターズ法</li> </ol> <p>総まとめ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.脇腹を使う各種ブラッシング法と適応症を説明できる。</li> </ol>

回	授業計画	到達目標
17	<p>&lt;①&gt;P274～ &lt;②&gt;P24～ その他の清掃方法 補助清掃用具について【グループ学習1回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②デンタルフロス ③ジェット水流洗口機 ④インターデンタルブラシ ⑤舌ブラシ ⑥義歯ブラシ・義歯清掃剤 ⑦タフトブラシ ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨吸引機能付き歯ブラシ</p>	<p>各種補助清掃用具についてのグループ学習 1.班員と積極的に協力し与えられた課題について限られた時間内で理解しながら資料を作成することができる。 2.各種清掃用具(剤)の特徴と使用目的を説明することができる。 3.症例と各種清掃用具を用いた清掃効果について理解する。 4.各種清掃補助用具の使用方法が説明でき、適切に実践できる。</p>
18	<p>&lt;①&gt;P274～ &lt;②&gt;P24～ その他の清掃方法 補助清掃用具について【グループ学習2回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②デンタルフロス ③ジェット水流洗口機 ④インターデンタルブラシ ⑤舌ブラシ ⑥義歯ブラシ ⑦タフトブラシ ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨吸引機能付き歯ブラシ</p>	<p>各種補助清掃用具についてのグループ学習 1.班員と積極的に協力し与えられた課題について限られた時間内で理解しながら資料を作成することができる。 2.各種清掃用具(剤)の特徴と使用目的を説明することができる。 3.症例と各種清掃用具を用いた清掃効果について理解する。 4.各種清掃補助用具の使用方法が説明でき、適切に実践できる。</p>
19	<p>&lt;①&gt;P274～ &lt;②&gt;P24～ その他の清掃方法 補助清掃用具について【グループ学習3回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②デンタルフロス ③ジェット水流洗口機 ④インターデンタルブラシ ⑤舌ブラシ ⑥義歯ブラシ ⑦タフトブラシ ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨吸引機能付き歯ブラシ</p>	<p>各種補助清掃用具についてのグループ学習 1.班員と積極的に協力し与えられた課題について限られた時間内で理解しながら資料を作成することができる。 2.各種清掃用具(剤)の特徴と使用目的を説明することができる。 3.症例と各種清掃用具を用いた清掃効果について理解する。 4.各種清掃補助用具の使用方法が説明でき、適切に実践できる。</p>
20	<p>&lt;①&gt;P274～ &lt;②&gt;P24～ その他の清掃方法 補助清掃用具について【発表1回目】 ①電動歯ブラシ・音波ブラシ・超音波ブラシ ②デンタルフロス ③ジェット水流洗口機</p>	<p>課題として与えられた補助清掃用具について、特徴、使用目的、使用方法、使用時の注意点を解り易く説明することができる。 (発表10分、質疑5分)</p>
21	<p>&lt;①&gt;P274～ &lt;②&gt;P24～ その他の清掃方法 補助清掃用具について【発表2回目】 ④インターデンタルブラシ ⑤舌ブラシ ⑥義歯ブラシ</p>	<p>課題として与えられた補助清掃用具について、特徴、使用目的、使用方法、使用時の注意点を解り易く説明することができる。 (発表10分、質疑5分)</p>
22	<p>&lt;①&gt;P274～ &lt;②&gt;P24～ その他の清掃方法 補助清掃用具について【発表2回目】 ⑦タフトブラシ ⑧スポンジブラシ・巻綿子 ⑨吸引機能付き歯ブラシ</p>	<p>1.課題として与えられた補助清掃用具について、特徴、使用目的、使用方法、使用時の注意点を解り易く説明することができる。 (発表10分、質疑5分) 2.質問を受け適切に答えられなかった質問事項の理解ができ、補足の説明ができる。 3.教員による質疑、補足説明、復習を受けることで補助清掃用具の理解を深めることができる。</p>
23	<p>&lt;①&gt;P274 Ⅲ編4章 デンタルフロス &lt;②&gt;P178～ デンタルフロスの使用方法 フロッシング相互実習(上顎)</p>	<p>上顎におけるフロッシング操作 1.フロスの把持法を修得する。 2.フロスの挿入と操作方法を修得する。 3.歯肉溝や歯周ポケット内の清掃が的確に出来る技術を修得する。 4.患者に苦痛を与えないような自身の体位、患者の設定の仕方を修得する。</p>
24	<p>&lt;①&gt;P274 Ⅲ編4章 デンタルフロス &lt;②&gt;P178～ フロッシング相互実習(下顎)</p>	<p>下顎におけるフロッシング操作 1.フロスの把持法を修得する。 2.フロスの挿入と操作方法を修得する。 3.歯肉溝や歯周ポケット内の清掃が的確に出来る技術を修得する。 4.患者に苦痛を与えないような自身の体位、患者の設定の仕方を修得する。</p>
25	<p>&lt;①&gt;P274 Ⅲ編4章 デンタルフロス &lt;②&gt;P178～ フロッシング相互実習(上下顎)</p>	<p>全顎におけるフロッシング操作(復習) 1.フロスの把持法を修得する。 2.フロスの挿入と操作方法を修得する。 3.歯肉溝や歯周ポケット内の清掃が的確に出来る技術を修得する。 4.患者に苦痛を与えないような自身の体位、患者の設定の仕方を修得する。</p>

回	授業計画	到達目標
26	<①>P303～IV編 1章 <②>P100～ P70～ ライフステージに対応した歯科衛生介入 I 1.生涯を通じた歯科保健対策の概要 2.妊産婦期における歯科衛生介入 ①一般的特徴 ②口腔の特徴	1.生涯を通じた歯科保健サービスを理解するため、各対象に応じた歯科的特徴、歯科的問題を列記できる。 2.生涯を通じた歯科保健サービスにおいて行政が関わる具体策や実施のねらいを知る。 3.妊産婦期における一般的特徴を列記できる。 4.妊産婦期における口腔の特徴を説明できる。
27	<①>P303～IV編 1章 <②>P100～、P70～ ライフステージに対応した歯科衛生介入 I 2.妊産婦期における歯科衛生介入 ③歯科衛生介入 ④栄養指導	1.妊産婦期におけるプロフェッショナルの目標を学び実践に生かすことができる。 2.妊娠初期、中期、後期の母体の変化や目標、対策について知る。 3.つわりの症状がある時の口腔清掃のポイントを学び説明できる。 4.妊産婦期の栄養管理について学ぶ。
28	<①>P314～ <②>P70～ 乳児期における歯科衛生介入 ①一般的特徴 ②口腔の特徴 ③歯科衛生介入 ④栄養指導	1.乳児期の主な身体的発育について年齢と特徴を列記できる。 2.乳児期の口腔内状況について年齢と萌出部位を列記できる。 3.乳児期のプロフェッショナルの目標を学び、指導に生かすことができる。 4.離乳食の進め方を説明することができる。 5.食行動と食機能の発達について説明できる。
29	P324 IV編 1章 幼児期における歯科衛生介入 ①一般的特徴 ②口腔の特徴 ③歯科衛生介入 1歳6か月健康診査における保健指導 3歳児健康診査における保健指導	1.幼児期の主な身体的発育について年齢と特徴を列記できる。 2.幼児期の口腔内状況について年齢と萌出部位を列記できる。 3.幼児期のプロフェッショナルの目標を学び、指導に生かすことができる。 4.1歳6か月歯科健康診査と口腔保健指導の内容を知り実践に生かすことができる。 5.3歳児歯科健康診査と口腔保健指導の内容を知り実践に生かすことができる。
30	P330～ IV編 1章 幼児期における歯科衛生介入 ④食生活の特徴と栄養、間食 (小テスト) ライフステージに対応した歯科衛生介入	1.幼児期の前期並びに後期の口腔内の状況と食生活指導のポイントを述べるができる。 2.これまでに履修したライフステージの歯科衛生介入の学びについて小テストを通して復習し理解を深めることができる。

【保健指導法Ⅱ】 令和2年度 授業シラバス

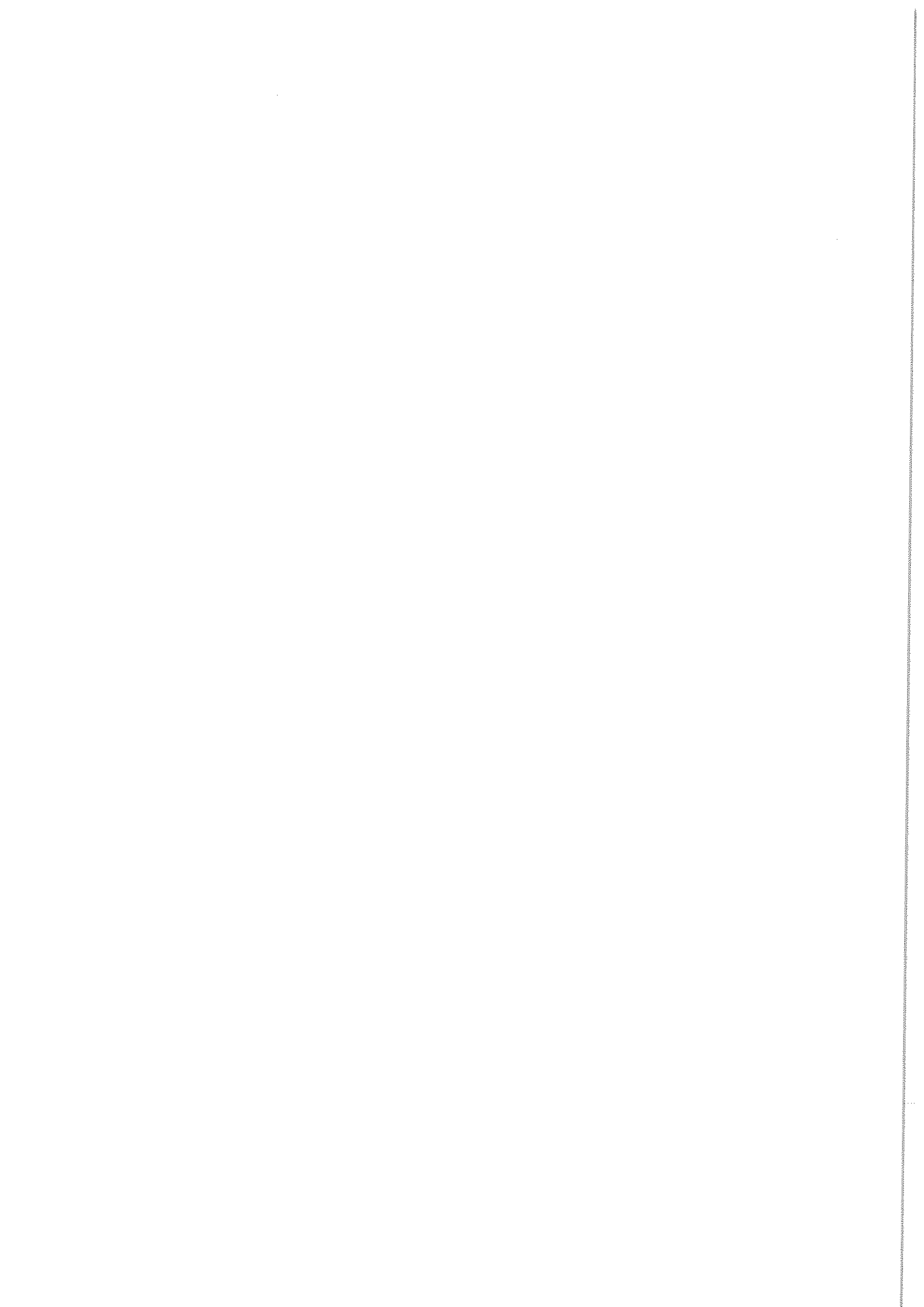
熊本歯科衛生士専門学院

講師名	岩切恵子	実務経験	歯科衛生士。栄養コンシェルジュ二つ星。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する。また、栄養コンシェルジュ二つ星として学生の食生活指導も行う。		
履修学年・学期	2年前後期	授業方式	講義・演習
		単位数	2単位(60時間)
		授業回数	30
授業目標	歯科保健指導とは、個々の生活行動を健康維持増進に向かい変容させることである。卒業後において歯科衛生士として臨床及び公衆歯科衛生活動の中で対象者に寄り添った適切な支援等ができるよう基礎知識、技術を学ぶ。また、2年次は特に超高齢社会における歯科医療の重要性や多様な全身疾患を持った高齢者、介護を要する対象者への係わり方や健康に関する行動変容への指導を学ぶ。また、自身の口腔内でも口腔管理ができるようになる。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	歯科予防処置論・歯科保健指導論 可児徳子 他 著 医歯薬出版 「オーラルヘルスケア事典」 麻賀多美代著 学建書院		
参考文献	高齢者とのグッドコミュニケーション 中村千賀子 著 歯科保健関係統計資料		
履修上の注意	新聞の医療に関する記事は毎日チェックすること。 シラバスはあくまで予定であり、皆さんの理解度により変更もあります。		
回	授業計画	到達目標	
1	シラバスの説明 対象別保健指導 学童期の歯科保健指導①	1. 学童期の身体の発達を説明できる。 2. 学校保健制度の概要について理解し、歯科衛生士の役割、活動場面を把握する。 3. 学童期における口腔内の状況を説明できる。 4. 学童期の歯科保健指導のポイントを説明できる。	
2	対象別保健指導 学童期の歯科保健指導②	1. 学童期(小学生)の歯科保健指導のポイントを説明できる。 2. 学童期(中・高校生)の歯科保健指導のポイントを説明できる。	
3	対象別保健指導 青年期の歯科保健指導	1. 青年期の一般的特徴を説明できる。 2. 青年期の口腔の特徴を説明できる。 3. 青年期の歯科保健指導のポイントについて説明できる。	
4	対象別保健指導 成人期の歯科保健指導① 歯科的な問題 歯周疾患のある患者への歯科保健指導	1. 成人期の生活の背景を理解する。 2. 口腔内の特徴を述べることができる。 3. 各種補綴物にあった歯科保健指導のポイントが説明できる。	
5	対象別保健指導 成人期の歯科保健指導② 禁煙指導	1. 禁煙指導の必要性について説明できる。 2. 喫煙者の口腔に現れる状態を説明できる。 3. 禁煙指導の進め方について知る。 4. 口腔清掃指導と禁煙サポートについて説明できる。 5. 歯科衛生士が行う禁煙指導を想定し行うことができる。	
6	対象別保健指導 高齢期の歯科保健指導① 高齢期の身体的特徴 歯科的な問題 口腔内の特徴	1. 清潔な口腔が何故QOLに繋がるのか説明できる。 2. 高齢者の身体的特徴や口腔の特徴について説明できる。	
7	対象別保健指導 高齢期の歯科保健指導② 基本的な口腔清掃	1. 義歯の取扱いについて説明できる。 2. 義歯安定剤、義歯洗浄剤の特徴や取扱いについて説明できる。 3. 高齢者の口腔清掃時のポイントについて説明できる。	
8	対象別保健指導 高齢期の歯科保健指導③ 口腔乾燥症とその対応 まとめ	1. 口腔乾燥症の定義と原因を説明できる。 2. 口腔乾燥症の対処法を説明できる。 3. 口腔乾燥症の対処としての唾液腺マッサージについて説明、指導ができる。	
9	対象別保健指導 高齢期の歯科保健指導④ 予備 まとめ	前回の続き 高齢期のまとめ	
10	対象別保健指導 介護を要する人への歯科保健指導① 要介護高齢者の一般的特徴 日常生活自立度(寝たきり度)判定基準 口腔内の特徴	1. 要介護高齢者の特徴について簡単に説明ができる。 2. 障害高齢者の日常生活自立度判定基準(寝たきり度)を説明できる。 3. 認知症高齢者の日常生活自立判定基準を説明できる。	
11	対象別保健指導 全身疾患別グループ学習① ①脳血管疾患 ②虚血性心疾患 ③高血圧症 ④ALS ⑤うつ病 ⑥パーキンソン病 ⑦認知症 ⑧肝炎 ⑨糖尿病 ⑩骨粗しょう症とBP製剤 ⑪慢性腎臓病(CKD)	1. 自身が担当した疾患の特徴を説明できる。 2. 自身が担当した疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明できる。 3. 自身が担当した疾患の歯科治療上の注意点を説明できる。	
12	対象別保健指導 全身疾患グループ学習② ①脳血管疾患 ②虚血性心疾患 ③高血圧症 ④ALS ⑤うつ病 ⑥パーキンソン病 ⑦認知症 ⑧肝炎 ⑨糖尿病 ⑩骨粗しょう症とBP製剤 ⑪慢性腎臓病(CKD)	1. 自身が担当した疾患の特徴を説明できる。 2. 自身が担当した疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明できる。 3. 自身が担当した疾患の歯科治療上の注意点を説明できる。	
13	対象別保健指導 全身疾患グループ学習③ ①脳血管疾患 ②虚血性心疾患 ③高血圧症 ④ALS ⑤うつ病 ⑥パーキンソン病 ⑦認知症 ⑧肝炎 ⑨糖尿病 ⑩骨粗しょう症とBP製剤 ⑪慢性腎臓病(CKD)	1. 自身が担当した疾患の特徴を説明できる。 2. 自身が担当した疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明できる。 3. 自身が担当した疾患の歯科治療上の注意点を説明できる。	

回	授業計画	到達目標
14	対象別保健指導 全身疾患グループ学習発表、質疑応答①	1. まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2. 各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3. 各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4. 各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5. 疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べることができる。 6. 疑問点について質問し理解することができる。
15	対象別保健指導 全身疾患グループ学習発表、質疑応答②	1. まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2. 各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3. 各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4. 各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5. 疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べることができる。 6. 疑問点について質問し理解することができる。
16	対象別保健指導 全身疾患グループ学習発表、質疑応答③	1. まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2. 各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3. 各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4. 各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5. 疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べることができる。 6. 疑問点について質問し理解することができる。
17	対象別保健指導 全身疾患グループ学習発表、質疑応答④	1. まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2. 各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3. 各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4. 各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5. 疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べることができる。 6. 疑問点について質問し理解することができる。
18	対象別保健指導 全身疾患グループ学習発表、質疑応答 予備	1. まとめた内容をわかりやすく説明することができる。 2. 各疾患について、疾患の特徴を説明することができる。 3. 各疾患の治療方法、投薬の種類と現状を説明することができる。 4. 各疾患の歯科治療上の注意点がわかる。 5. 疾患別の口腔衛生指導のポイントを具体的に述べることができる。 6. 疑問点について質問し理解することができる。
19	対象別保健指導 全身疾患についてのまとめ	これまで発表された全身疾患について確認復習を行い理解を深める。
20	症例別口腔衛生指導 グループ学習① ①片麻痺などで上手に磨くことができない方 ②認知症患者 ③がん患者 ④口腔機能の低下している方 ⑤出血傾向のある方 ⑥口腔カンジダ症患者 ⑦矯正治療中の方 ⑧インプラント装着の方 ⑨口腔乾燥症患者	1. 各症状を持つ患者への具体的な対応、口腔清掃指導方法がわかる。 2. 指導上特に注意しなければならない点を説明できる。 3. 各症例について理解を深める。
21	症例別口腔衛生指導 グループ学習② 同上のグループにて調べ学習	1. 各症状を持つ患者への具体的な対応、口腔清掃指導方法がわかる。 2. 指導上特に注意しなければならない点を説明できる。 3. 各症例について理解を深める。
22	症例別口腔衛生指導 グループ学習③ 同上のグループにて調べ学習	1. 各症状を持つ患者への具体的な対応、口腔清掃指導方法がわかる。 2. 指導上特に注意しなければならない点を説明できる。 3. 各症例について理解を深める。
23	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答①	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明することができる。 2. 指導上の注意点がわかる。
24	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答②	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明することができる。 2. 指導上の注意点がわかる。
25	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答③	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明することができる。 2. 指導上の注意点がわかる。
26	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答④	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明することができる。 2. 指導上の注意点がわかる。
27	症例別口腔衛生指導 グループ学習発表、質疑応答⑤	1. 他の班が調べた症状の患者についても具体的な口腔清掃指導を説明することができる。 2. 指導上の注意点がわかる。



回	授業計画	到達目標
28	対象別保健指導 介護を要する人への歯科保健指導② ①自力で口腔清掃が可能な方 ②介助の必要な方 体位の設定 介護予防(口腔機能の維持・向上)、まとめ	1. 要介護高齢者の口腔清掃時の体位やケアの方法、注意等について説明できる。 2. 介護予防における歯科衛生士の役割について説明できる。 3. 介護を要する人への歯科保健指導に係る重要な項目の復習をし理解の再確認をすることができる。
29	特別な介護を要する方への口腔保健管理 がん患者への口腔健康管理①	1. がんの基本的な知識を理解する。 2. がんの治療法について簡単に説明することができる。 3. がん治療患者の口腔内に現れる症状について説明できる。 4. 口腔清掃方法を説明できる。
30	特別な介護を要する方への口腔保健管理 がん患者への口腔健康管理② これまでのまとめ	1. 症状に応じた口腔清掃方法を説明できる。



# 【保健指導法Ⅲ】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	岩切恵子	実務経歴	歯科衛生士。栄養コンシェルジュ二つ星。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として人の健康教育に係る保健指導の基礎知識、行動変容への関わりや技術について講義、演習する。また、栄養コンシェルジュ二つ星として学生の食生活指導も行う。		
講師名	野中友紀子	実務経歴	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士・教育委員。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士さらには教育委員として、人の口腔健康管理実践のための科学的根拠に基づいた知識や技術、適切な支援や介入方法について講義・演習する。		

履修学年・学期	3年前後期	授業方式	講義・演習	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	-------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科保健指導とは、個々の生活行動を健康維持増進に向かい変容させることである。卒業後において歯科衛生士として臨床及び公衆歯科衛生活動において対象者への適切な支援や介入ができるよう基礎知識、技術を学び、健康に関する行動変容への指導を学ぶ。また歯科衛生過程の学習においては、口腔保健の視点から、予防歯科や健康増進を図るため、科学的根拠に基づいた知識や技術を応用し、情報の収集から解釈分析を行い、それを基に歯科衛生介入計画を立案でき実践することができるようになる。また実践したこと最終の評価を行うことを学ぶ。
------	--

評価方法	定期試験(100点満点)・提出物(記録方法)
------	------------------------

教科書名	歯科予防処置論・歯科保健指導論 可児徳子 医歯薬出版KK オーラルヘルスケア事典 麻賀多美代著 学建書院 保健生態学 宮崎秀夫著 医歯薬出版KK
------	--

参考文献	口腔保健管理 可児徳子著 医歯薬出版KK 歯科衛生ケアプロセス 佐藤陽子著 医歯薬出版KK
------	--

履修上の注意	新聞の医療に関する記事は毎日チェックすること。 歯科衛生過程演習の前は、科学的根拠に基づいた必要な知識を必ず各自で調べておく。
--------	--

回	授業計画	到達目標
1	(野中友紀子) 保護者対面実習反省会 歯科衛生過程(情報処理)演習1	1. 保護者対面実習での自身の説明内容と手技を振り返ることができる。 2. 他班の説反省点を情報共有し振り返ることができる。 3. 歯科衛生アセスメントの立案ができる。 4. 収集したSOデータをヒューマンニーズ理論に分類することができる。
2	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習2	1. 歯科衛生アセスメントの立案ができる。 2. 収集したSOデータをヒューマンニーズ理論に分類することができる。 3. ニーズ分類した際の解釈、分析内容を説明することができる。 4. 歯科衛生アセスメント内容を書面化することができる。
3	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習3	1. 問題点とその原因を抽出することができる。 2. 対象者の情報となる資料を準備することができる。 3. 全てのニーズの関連を考え歯科衛生診断文を作成することができる。 4. 歯科衛生診断文までを書面化することができる。
4	(野中友紀子) 全体ワーク 歯科衛生過程(情報処理)演習4	1. 歯科衛生アセスメント内容を見直すことができる。 2. 歯科衛生診断文を作成することができる。 3. 歯科衛生介入の優先順位付けができる。 4. 自身の考えを積極的に発言することができる。 5. 他者の話を傾聴しクリティカルシンキングで思考できる。
5	(野中友紀子) 全体ワーク 歯科衛生過程(情報処理)演習5	1. 専任の助言をもとにアセスメント内容を改善することができる。 2. 歯科衛生診断文を作成することができる。 3. 歯科衛生介入の優先順位付けができる。 4. 自身の考えを積極的に発言することができる。 5. 他者の話を傾聴しクリティカルシンキングで思考できる。 6. 見直した内容を書面化することができる。
6	(野中友紀子) 全体ワーク 歯科衛生過程(情報処理)演習6	1. 自身の考えを積極的に発言することができる。 2. 他者の話を傾聴しクリティカルシンキングで思考できる。 3. 自己評価チェックシートの評価ができる。 4. 専任へ対象者情報と合わせアセスメント表を提出することができる。
7	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習7	1. 専任の助言をもとにアセスメント内容を改善することができる。 2. 歯科衛生診断文を完成することができる。 3. 問題解決のための長期目標を立案することができる。 4. 長期目標達成の期間を立案することができる。
8	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習8	1. 問題の原因を解決するために短期目標を立案することができる。 2. 短期目標達成の期間を立案することができる。 3. 短期目標の達成のために歯科衛生介入計画を立案することができる。 4. 歯科衛生介入計画においてO-Pを必ず立案することができる。 5. 歯科衛生介入計画においてC-PとE-Pを区別し立案することができる。 6. 歯科衛生介入計画内容を書面化することができる。

回	授業計画	到達目標
9	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習9	1. 歯科衛生介入の必要性を説明することができる。 2. 専任へ歯科衛生介入計画内容を説明することができる。 3. 専任の助言をもとに歯科衛生介入計画内容を見直すことができる。
10	(岩切恵子) 個人保健指導 1年生への口腔衛生指導の概要説明	1. 対象者への口腔衛生指導の概要を知る。 2. 自身の役割分担を確認する。
11	(岩切恵子) 個人保健指導 問診とは何か。 第一回目指導原稿案作成	1. 患者情報を得るための効果的な手法を説明できる。 2. 効果的な第1回目の指導原稿案を概要に沿って作成できる。
12	(野中友紀子) 歯科衛生過程(情報処理)演習10	1. 専任へ歯科衛生介入計画内容を説明することができる。 2. 全てのニーズの関係性を考慮し歯科衛生介入計画の立案ができる。 3. 自己評価チェックシートの評価ができる。 4. 歯科衛生介入時の書面化法(業務記録)の説明ができる。 5. 歯科衛生評価時の評価法の一例を説明できる。 6. 歯科衛生過程の実践での応用法を検討することができる。
13	(岩切恵子) 対象者把握 I 患者の行動観察と記録方法	1. 患者各々の事例に対して、患者の行動観察の推測ができる。 2. 事例に対して患者への理想的なアプローチ方法を推測し、適切に声をかけることができる。
14	(岩切恵子) 医療面接 I 問診と医療面接についての概要	1. 問診と医療面接の違い、目的について説明できる。 2. 医療面接の流れについて説明できる。 3. 開放型質問、中間型質問、閉鎖型質問について説明できる。 4. 医療面接時の注意点について説明できる。
15	(岩切恵子) 医療面接 II 模擬患者による医療面接	1. 患者が話しやすい雰囲気をつくることができる。 2. 医療面接の流れを実践することができる。 3. 適切な誘導、座位の指示ができる。 4. インタビューの際、開放型質問、中間型質問、閉鎖型質問を適宜活用することができる。 5. 患者の主訴や伝えたいことを正確に把握、記録することができる。

【 地域歯科保健活動Ⅰ 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	岩切恵子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、地域歯科保健活動の重要性や場面、介入方法について講義・演習する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義・演習	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	地域歯科保健とは何かを理解し、歯科衛生士が専門職として係わる場面と効果的な活動内容を把握する。また、一つの場面である幼稚園での集団指導を行うにあたり、各年齢別にシナリオや効果的な媒体を考え皆で協力し作成することができるようになる。
------	---

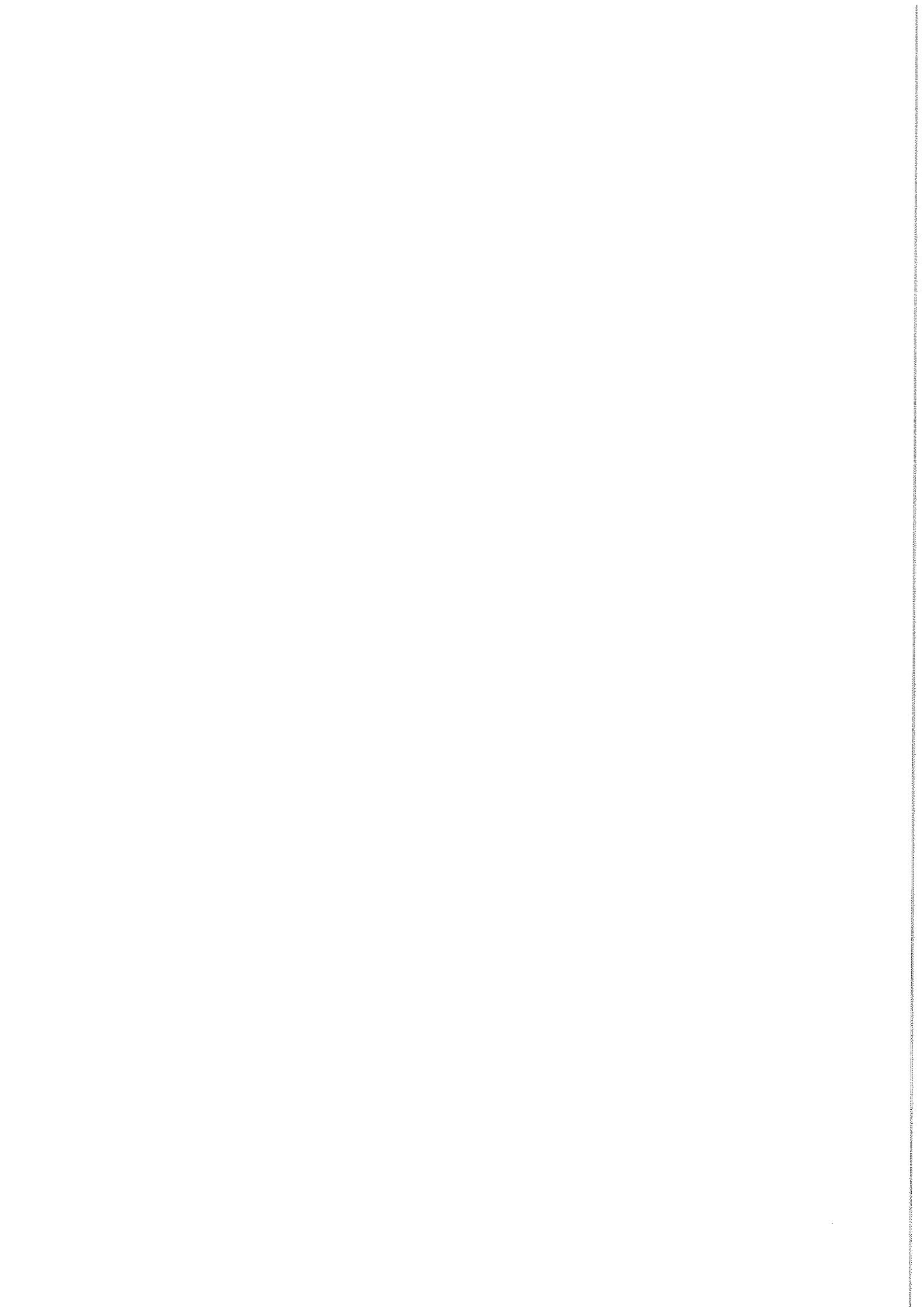
評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」可児徳子 他 著 医歯薬出版 「オーラルヘルスケア事典」麻賀多美代著 学建書院
------	---

参考文献	
------	--

履修上の注意	幼稚園指導のシナリオや媒体作製時では積極的に発言し、皆と協働でシナリオや媒体を完成させること。
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	V編 2章 P329～ 地域歯科保健活動 ①概要 ②集団指導用語 ③歯科衛生士が活躍する場面	1. 集団指導を行う場面と法的根拠を理解する。 2. 実際の指導対象者と指導の考え方を理解する。
2	発声・朗読法の基礎知識 幼稚園指導計画の立て方 ※プリント配布 集団指導オリエンテーション 幼稚園実習概要について 指導原稿案、媒体作製について	1. 集団指導時の発声、指導計画の立案方法を理解する。 2. 指導立案の為の行動の流れを理解する。 3. 幼稚園実習の概要について理解する。 4. 指導原稿案、媒体作製について個々の役割を理解する。 5. シナリオ班、媒体班の班分けを行い、それぞれで案を検討する。
3	集団指導法Ⅰ 指導原稿、媒体作製のための情報収集	指導原稿案、媒体作製のために対象者に適切な内容の情報を収集し、皆で検討する。
4	集団指導法Ⅱ 各担当分野での検討 指導原稿作成① 媒体作製①	1. 班長を中心に、対象者に応じた指導原稿案、使用する媒体作製について検討し案を作成する。 2. それぞれ検討した内容について専任に報告し、指示を仰ぎ改善を行う。
5	集団指導法Ⅲ 各担当分野での検討 指導原稿作成② 媒体作製②	同上
6	集団指導法Ⅳ 各担当分野での検討 指導原稿作成③ 媒体作製③	同上
7	集団指導法Ⅴ 各担当分野での検討 指導原稿作成④ 媒体作製④	同上
8	集団指導法Ⅵ 各担当分野での検討 指導原稿作成⑤ 媒体作製⑤	同上
9	集団指導法Ⅶ 各担当分野での検討 指導原稿作成⑥ 媒体作製⑥	同上
10	集団指導法Ⅷ 幼稚園別、クラス別 リハーサル①	作成したシナリオ、媒体を活用して、幼稚園クラス別に指導ができるよう役割分担をし、リハーサルをする。
11	集団指導法Ⅷ 幼稚園別、クラス別 リハーサル②	同上
12	集団指導法Ⅷ 幼稚園別、クラス別 発表① 2歳児(帯山代表) 3歳児(帯山代表・坪井幼稚園) 4歳児(帯山代表・坪井幼稚園)	1. 対象クラス別に当日の流れで指導を発表する。 2. 各発表した内容を評価、疑問点を記録する。
13	集団指導法ⅧⅠ 幼稚園別、クラス別 発表② 5歳児(帯山代表・坪井幼稚園) 帯山幼稚園特別支援クラス代表	同上
14	集団指導法ⅧⅡ シナリオ班、媒体班別反省会	各自が評価したものを各年齢別シナリオ班、媒体班に分け、良かった点、疑問点、改善点を全て整理する。
15	集団指導法ⅧⅢ シナリオ班、媒体班別反省発表会	1. 発表の評価、良かった点、疑問点、改善点を発表し、再度実習を行うまでの修正点を確認する。



# 【 地域歯科保健活動Ⅱ 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	岩切恵子	実務経歴	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、地域歯科保健の場面や介入の計画立案の手法について講義、演習する。		
講師名	野中友紀子	実務経歴	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士・教育委員。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士さらには教育委員として、人の口腔健康管理実践のための科学的根拠に基づいた知識や技術、適切な支援や介入方法について講義・演習する。		
履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義・演習
単位数	2単位(30時間)	授業回数	15

授業目標	(岩切)集団指導案に基づく演習を省察し改善ができる。また地域歯科保健の場面と内容について理解を深める。 (野中)老年期の歯周基本治療の症例をもとに、歯科衛生過程の考えで自身の思考過程を書面化することができる。さらに健康教育の場での応用法を説明することができる。また保護者対面実習にて歯科衛生過程を実践することで、その流れを把握することができるように講義・演習する。	
評価方法	定期試験(100点満点)	
教科書名	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 可児徳子 他 著 医歯薬出版 「オーラルヘルスケア事典」 麻賀多美代著 学建書院	
参考文献		
履修上の注意	(野中)事前課題は必ず切厳守とする。症例検討に必要な教本および文献は各自で準備しておくこと。	
回	授業計画	到達目標
1	(岩切担当) 幼児期の歯科保健指導 集団指導反省会 昨年度3月に各班発表し、各自が発表内容について意見を記録したが、休校により反省会まで終了しなかった。その為シナリオ及び媒体について皆の意見を基に見直しを行う。 ・シナリオ班→2歳、3歳、4歳、5歳、特別支援 ・媒体班→2歳、3歳、4歳、5歳、特別支援 1.上記それぞれ分かれ、個々の意見で関連する項目を抜き出しプリントに記入する。 2.改善点を皆で話し合う 3.評価平均値を算出する。	1.各自からの意見を分類し改善点を確認することができる。 2.発表できるようにまとめることができる。
2	(岩切担当) 発表 シナリオ班、媒体班の各班が以下をまとめて発表する。 ①評価平均値 ②良かった点 ③疑問点 ④改善方法 2.専任からの総評	1.まとめた内容を適切に発表することができる。 2.今後の改善点を把握し完成型を想定することができる。
3	(岩切担当) シナリオ、媒体の修正① ・各班、前回の省察により話し合いそれぞれ修正を行う。 ・各班長を中心に指導担当専任に報告し、指示を受けながら進める。	1.反省内容に基づき修正することができる。 ①シナリオは修正し入力することができる。 ②媒体は修正しより伝わりやすく作製することができる。
4	(岩切担当) シナリオ、媒体の修正② ・各班、前回の省察により話し合いそれぞれ修正を行う。 ・各班長を中心に指導担当専任に報告し、指示を受けながら進める。	1.反省内容に基づき修正することができる。 ①シナリオは修正し入力することができる。 ②媒体は修正しより伝わりやすく作製することができる。
5	(岩切担当) シナリオ、媒体の修正③ ・各班、前回の省察により話し合いそれぞれ修正を行う。 ・各班長を中心に指導担当専任に報告し、指示を受けながら進める。	1.反省内容に基づき修正することができる。 ①シナリオは修正し入力することができる。 ②媒体は修正しより伝わりやすく作製することができる。
6	(岩切担当) シナリオ、媒体の修正④ ・各班、前回の省察により話し合いそれぞれ修正を行う。 ・各班長を中心に指導担当専任に報告し、指示を受けながら進める。	1.反省内容に基づき修正することができる。 ①シナリオは修正し入力することができる。 ②媒体は修正しより伝わりやすく作製することができる。
7	(岩切担当) 新教本に基づく追加講義及び復習 ①地域歯科保健の評価 ②地域歯科保健活動のフィールド ③学校における歯・口の健康づくりのねらいと内容 ④発達段階に即した歯磨き指導の重点 ⑤事業所における定期健康診断と健康教育の例 ⑥地域支援事業における介護予防事業 2.地域歯科保健に関する練習問題	1.健康教育の目標を説明できる。 2.健康教育の進め方におけるPDCAサイクルを説明できる。 3.健康教育における受動的、能動的な方法を列記できる。 4.地域歯科保健の評価を説明できる。 5.学校における歯・口の健康づくりのねらいと内容のポイントを列記できる。 6.介護予防事業における歯科衛生士の役割を説明できる。 7.地域歯科保健活動についての問題を解説することができる。

回	授業計画	到達目標
8	歯科衛生過程の実践 老年期の歯周基本治療 症例配布(津田おと?) 歯科衛生アセスメント～歯科衛生計画立案 (長期目標・短期目標達成) 個人ワーク	1. 歯科衛生過程の基礎をもとに、臨床での応用例を説明することができる。 2. 歯科衛生過程の実践におけるアセスメントの重要性を説明することができる。 3. 臨床における歯科衛生アセスメントの概要を説明できる。 4. 模擬症例の歯科衛生アセスメント内容を書面化することができる。 5. 模擬症例の歯科衛生診断文を作成することができる。 6. 模擬症例の歯科衛生診断文にそった長期目標と短期目標の立案ができる。
9	歯科衛生過程の実践 老年期の歯周基本治療 症例配布(津田おと?) 歯科衛生アセスメント～歯科衛生計画立案 (長期目標・短期目標達成) グループワーク	1. 歯科衛生アセスメント内容をクリティカルシンキングし見直すことができる。 2. 歯科衛生診断文をクリティカルシンキングし見直すことができる。 3. 長期目標、短期目標をクリティカルシンキングし見直すことができる。 4. 自身の考えを積極的に発言することができる。 5. 他者の意見を傾聴することができる。
10	歯科衛生過程の実践 老年期の歯周基本治療 症例配布(津田おと?) 歯科衛生アセスメント～歯科衛生計画立案 (長期目標・短期目標達成) グループワーク	1. 歯科衛生アセスメント内容をクリティカルシンキングし見直すことができる。 2. 歯科衛生診断文をクリティカルシンキングし見直すことができる。 3. 長期目標、短期目標をクリティカルシンキングし見直すことができる。 4. 自身の考えを積極的に発言することができる。 5. 他者の意見を傾聴することができる。 6. 班でまとめた歯科衛生アセスメント内容を書面化することができる。 7. 期日までに提出することができる。
11	保護者対面実習ロールプレイ①A班 保護者対面実習説明資料媒体の作成	1. 保護者対面実習の流れを把握し必要器材を準備することができる。 2. 保護者対面実習での役割を把握し想定した歯科衛生介入ができる。 3. 保護者対面実習で対象者へ確認する事項を検討することができる。 4. 保護者対面実習で必要な説明用媒体を作成することができる。 5. 歯科衛生介入法の復習ができる。
12	保護者対面実習ロールプレイ②B班 保護者対面実習説明資料媒体の作成	1. 保護者対面実習の流れを把握し必要器材を準備することができる。 2. 保護者対面実習での役割を把握し想定した歯科衛生介入ができる。 3. 保護者対面実習で対象者へ確認する事項を検討することができる。 4. 保護者対面実習で必要な説明用媒体を作成することができる。 5. 歯科衛生介入法の復習ができる。
13	保護者対面実習A班 歯科衛生過程の臨床応用	1. 対象者へ配慮した歯科衛生介入ができる。 2. 対象者が安心できるよう実施内容を説明することができる。 3. 対象者を理解するために必要な情報の収集ができる。 4. 対象者の問題点と強みを引き出せる情報収集ができる。 5. 対象者の経時的変化に着目した聴取ができる。
14	保護者対面実習A班 歯科衛生過程の臨床応用	1. 対象者へ配慮した歯科衛生介入ができる。 2. 対象者が安心できるよう実施内容を説明することができる。 3. 対象者を理解するために必要な情報の収集ができる。 4. 対象者の問題点と強みを引き出せる情報収集ができる。 5. 対象者の経時的変化に着目した聴取ができる。
15	保護者対面実習1回目反省会 歯科衛生過程演習の導入	1. 保護者対面実習の流れと手技の振り返りができる。 2. 対象者の情報を解釈・分析することができる。 3. 他者と意見交換をしながらクリティカルシンキングできる。 4. 対象者の不足情報を挙げるができる。



# 【 地域歯科保健活動Ⅲ 】 令和3年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

※令和3年度開講のため講師は現在依頼中。内容も多少の変更あり。

講師名	岩切恵子 他	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士。本学院教務主任。
授業との関連性	全国歯科衛生士教育協議会専任教員認定歯科衛生士として、地域歯科保健の場面や介入の計画立案の手法、災害時の歯科衛生士の介入について講義、演習する。		

履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義・演習	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	1.高齢者や障害を持った方々への歯科保健活動計画を立案し臨地実習にて実践する。 2.災害発生時に歯科保健医療の専門職として、地域歯科保健活動が実践できるよう基本的な知識、技術を習得する。また本学院の役職員・学生間連携による支援計画を立案しながら心構えを学び、災害時活動マニュアルを完成させることを目標とする。毎年既存のマニュアルをグループワークにより更新していく。
------	---

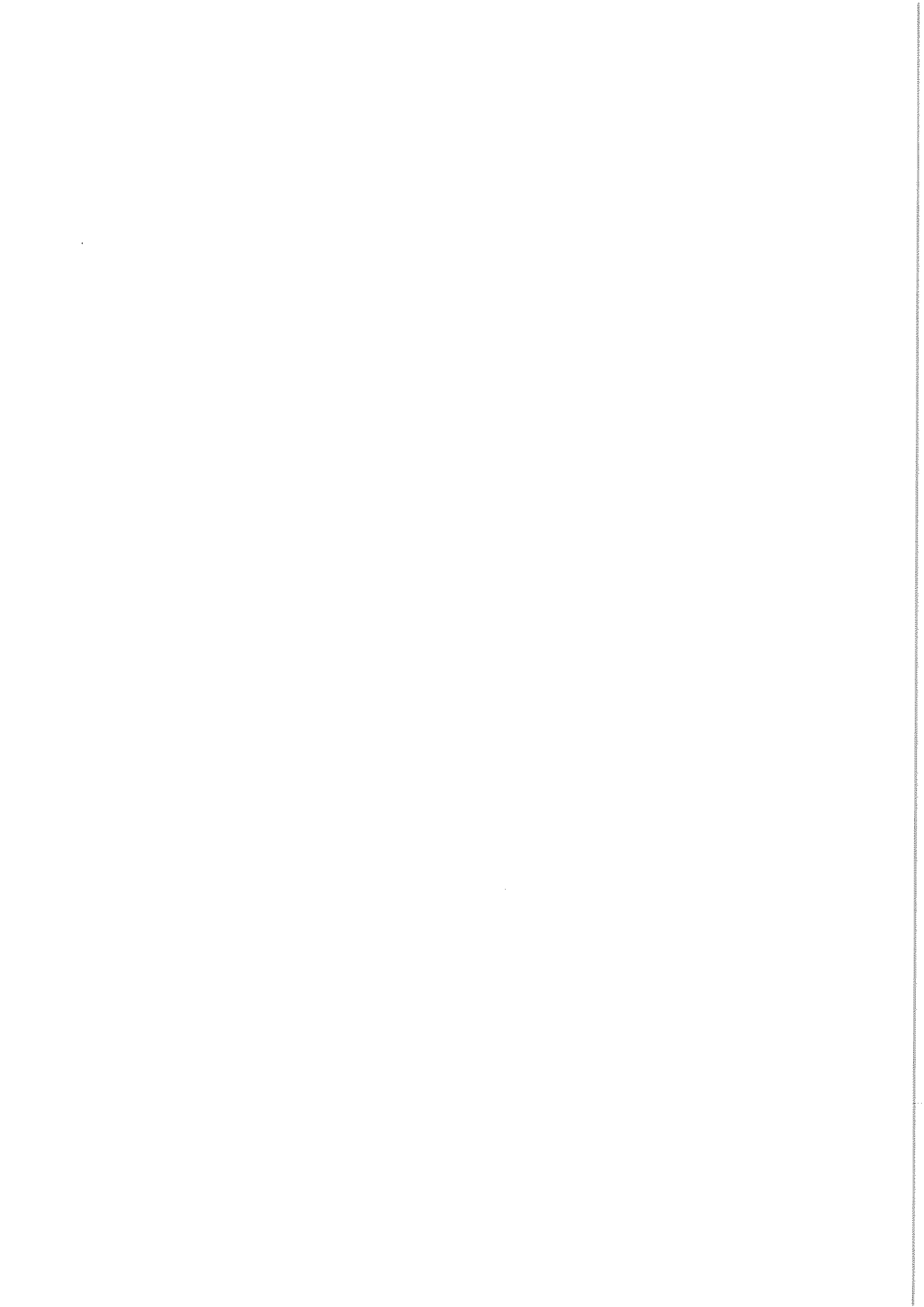
評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	「歯科予防処置論・歯科保健指導論」可児徳子 他 著 医歯薬出版 「オーラルヘルスケア事典」麻賀多美代著 学建書院
------	---

参考文献	
------	--

履修上の注意	グループワーク時は班員と協力し率先してマニュアルを作成すること。
--------	----------------------------------

回	授業計画	到達目標
1	高齢者に対する地域歯科保健活動1 実践に向けたオリエンテーション	地域歯科保健活動の一つである高齢者社会福祉施設において、保健活動を実践するためのオリエンテーション内容が理解できる。
2	高齢者に対する地域歯科保健活動2	地域歯科保健活動の一つの場面である高齢者社会福祉施設において、保健活動を実践するための計画が立案できる。
3	高齢者に対する地域歯科保健活動3	地域歯科保健活動の一つの場面である高齢者社会福祉施設において、保健活動を実践するための計画が立案できる。
4	障害者(児)に対する歯科保健活動1	地域歯科保健活動の一つの場面である障害者福祉施設において、保健活動を実践するための計画が立案できる。
5	障害者(児)に対する歯科保健活動2	地域歯科保健活動の一つの場面である障害者福祉施設において、保健活動を実践するための計画が立案できる。
6	依頼したい内容 (1)熊本県の立場から (2)自衛隊の立場から 大規模災害の定義・総論	左記について依頼中であり、今後打合せ立案する。
7	災害時の地域保健計画・地域防災計画計画 大規模災害支援活動 災害時健康危機管理支援チーム 災害と避難施設	
8	熊本地震時の医療、地域連携の活動紹介 避難所の開設と精神、心のケア など	
9	災害時歯科医療 歯科医師の立場から1 災害時に発生する歯科的問題 支援活動の目的と意義 など	
10	災害時歯科医療 歯科医師の立場から2 事例報告	左記について依頼中であり、今後打合せ立案する。
11	災害時歯科医療 歯科衛生士の立場から1 災害時に発生する歯科衛生士から見た歯科的問題 支援活動の目的と意義 など	
12	災害時歯科医療 歯科衛生士の立場から2 事例報告	災害時の歯科衛生士の活動について実践の在り方を学び心構えを持つ
13	災害時の歯科保健活動1 グループワーク1	災害時の歯科衛生士の活動についてこれまでに学んだ視点を踏まえ、分担内容について活動マニュアルを作成することができる。
14	災害時の歯科保健活動2 グループワーク2	災害時の歯科衛生士の活動についてこれまでに学んだ視点を踏まえ、分担内容について活動マニュアルを作成することができる。
15	災害時の歯科保健活動3 発表報告会	1. 完成できたマニュアルについて発表し、皆と内容を共有することができる。 2. 今後災害が発生した時に活用し、率先し活動することができる。



# 【 訪問保健指導法 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

※令和2年度より単位数、時間数変更

講師名	佐藤成美	実務経歴	熊本市歯会在宅訪問歯科衛生士を経て、歯科診療所訪問歯科衛生士として勤務。				
授業との関連性	熊本市歯会の在宅訪問歯科衛生士として長年活躍し、また現在も歯科診療所にて訪問歯科衛生士として実践している経験を踏まえ、訪問歯科の法的根拠や手法、注意点を講義、演習する。						
履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義・実技	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
授業目標	高齢者訪問歯科保健指導において、病院・施設・在宅での気道感染予防、及び口腔機能の維持・向上の為にオーラルマネージメント(口腔管理)の、知識技術を習得し、実践することができるようになる。						
評価方法	定期試験(100点満点)						
教科書名	1.「高齢者歯科」 戸原 玄著 医歯薬出版KK						
参考文献	①歯科衛生士のための訪問歯科ハンドブック(医歯薬出版)②歯科衛生士のための口腔機能管理マニュアル(日本歯科衛生士会)③口腔ケア基礎知識(日本口腔ケア学会)④5疾患の口腔ケア(医歯薬出版)⑤続5疾患の口腔ケア(医歯薬出版)⑥口腔乾燥症の臨床(医歯薬出版)⑦舌診入門(ヒューロン・パブリッシャーズ)⑧病気が見える7(メディックメディア)⑨介護現場で今日からはじめる口腔ケア(MCメディア出版)⑩実用介護事典						
履修上の注意	①教科書(授業予定に範囲記載)、事前に配布した資料(随時)で必ず予習をする。 ②授業内容は必ず復習する。 ③授業開始時には、演習等準備を終え全員着席しておく(トイレも必ずすませておく。) ④授業中の私語はしない。周りの真面目に学習している人に迷惑!解らないことがある時は講師に後で質問する。(口頭又は文書) ⑤授業欠席の場合、欠席授業内容のレポートを提出する。(期限は二週間とし、未提出の場合は定期試験に反映する)						
回	授業予定			到達目標			
1	高齢者訪問歯科診療・保健指導における歯科衛生士の役割、心構え			①高齢者訪問歯科保健指導の重要性を理解し説明することができる。 ②高齢者訪問歯科の現場の種類、注意することを理解し説明することができる。			
2	高齢者に対する口腔のケア			①高齢者の身体的・口腔の特徴を理解し説明することができる。 ②口腔管理の種類を理解し、説明することができる。 ③口腔のケアアセスメントの重要性を理解し説明することができる。			
3	有病高齢者への口腔ケア 多職種連携による口腔のケア			①有病高齢者の口腔管理の種類を理解し説明することができる。 ②有病高齢者口腔のケアの重要性、注意することを理解し説明することができる。 ③他職種の役割を理解し説明することができる。			
4	要介護高齢者への口腔のケア(1)			①要介護高齢者の特徴を理解し説明することができる ②口腔のケア算定の種類を理解し説明することができる。			
5	要介護高齢者への口腔のケア(2)			①口腔乾燥症の特徴と対応を理解し説明することができる。 ②認知症高齢者への対応を理解し説明することができる。			
6	口腔機能管理			①口腔機能管理の基本的概念を理解し、説明することができる。 ②様々な場所における歯科衛生士の口腔機能管理の実際を理解し、説明することができる。 ③口腔機能低下症について理解し説明することができる。			
7	口腔衛生管理 アセスメント 清掃器具の種類、使用法 巻綿子・開口器			①アセスメントの種類を理解し説明することができる。 ②清掃器具の種類を理解し、使用法を説明することができる。 ③巻綿子・ガーゼ巻開口器の使用法・作製方法を理解し説明することができる。			
8	口腔機能管理の実際			①口腔機能管理の重要性を理解し、説明することができる。 ②口腔機能低下症の症例について理解し、説明することができる。 ③口腔機能管理の実際を理解し、説明、実践することができる。			
9	口腔のケア 演習 I 巻綿子、ガーゼ巻開口器作成 吸引チューブ付き歯ブラシの作成 デントエラック			①巻綿子、ガーゼ巻開口器を作製し、作製方法を説明することができる。 ②吸引チューブ付き歯ブラシを作製し、作製方法を説明することができる。 ③デントエラックの使用法を理解する。			
10	口腔のケア演習 II 専門的口腔のケア相互実習 座位、車椅子 痲痺体験・痲疲のケア			①座位、車椅子の方への口腔のケアを相互に体験し、利用者の立場に立ち、ケア時の注意点を理解し説明することができる。 ②疑似痲痺を体験し、ケア方法を説明することができる。			

回	授業予定	到達目標
11	口腔のケア演習Ⅲ 専門的口腔のケア相互実習 吸引器を使用 口腔のケア拒否時の対応 義歯の着脱実習	①作成した吸引チューブ付き歯ブラシを使い、口腔のケアを相互に体験しケア時の注意点を理解し説明することができる。 ②口腔のケアに対する拒否がある場合の原因と対応を考え、理解し説明することができる。 ③マナボットで義歯の着脱を習得し、やり方を説明することができる。
12	口腔衛生管理	①前回までの講義、演習の反省、チェック項目の確認をする。 ②相互に反省点を共有し、具体的対策を考え、次の演習に生かすことができる。
13	A班口腔のケア演習Ⅴ 専門的口腔のケア相互実習 寝たきり B班 課題レポート自習	①寝たきりの方への口腔のケアを相互に体験し、利用者の立場に立ちケア時の注意点を理解し説明することができる。 ②課題に対するレポートを作成し授業終了後提出する。
14	B班口腔のケア演習Ⅴ 専門的口腔のケア 相互実習 寝たきり A班 課題レポート自習	同上
15	まとめ 超高齢社会における歯科の役割 看取りを見越したオーラルマネジメント	①前回までに学習した内容を振り返り復習をする。 ②超高齢社会における歯科の役割を理解し説明することができる。

# 【 栄養指導 I 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	松下みゆき	実務経歴	管理栄養士。衛生検査技師。保育士。熊本地域糖尿病療養指導士。
授業との関連性	地域糖尿病療養指導士でもある管理栄養士としての経験から食生活指導のための栄養素の消化吸収や基礎知識について講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	①健康維持のために、栄養の知識を学ぶ意義を知り、現代人の食物の摂取における栄養上の問題点を考える。 ②栄養素の消化・吸収、体内代謝、エネルギー代謝等の基本の知識を習得する。
------	---

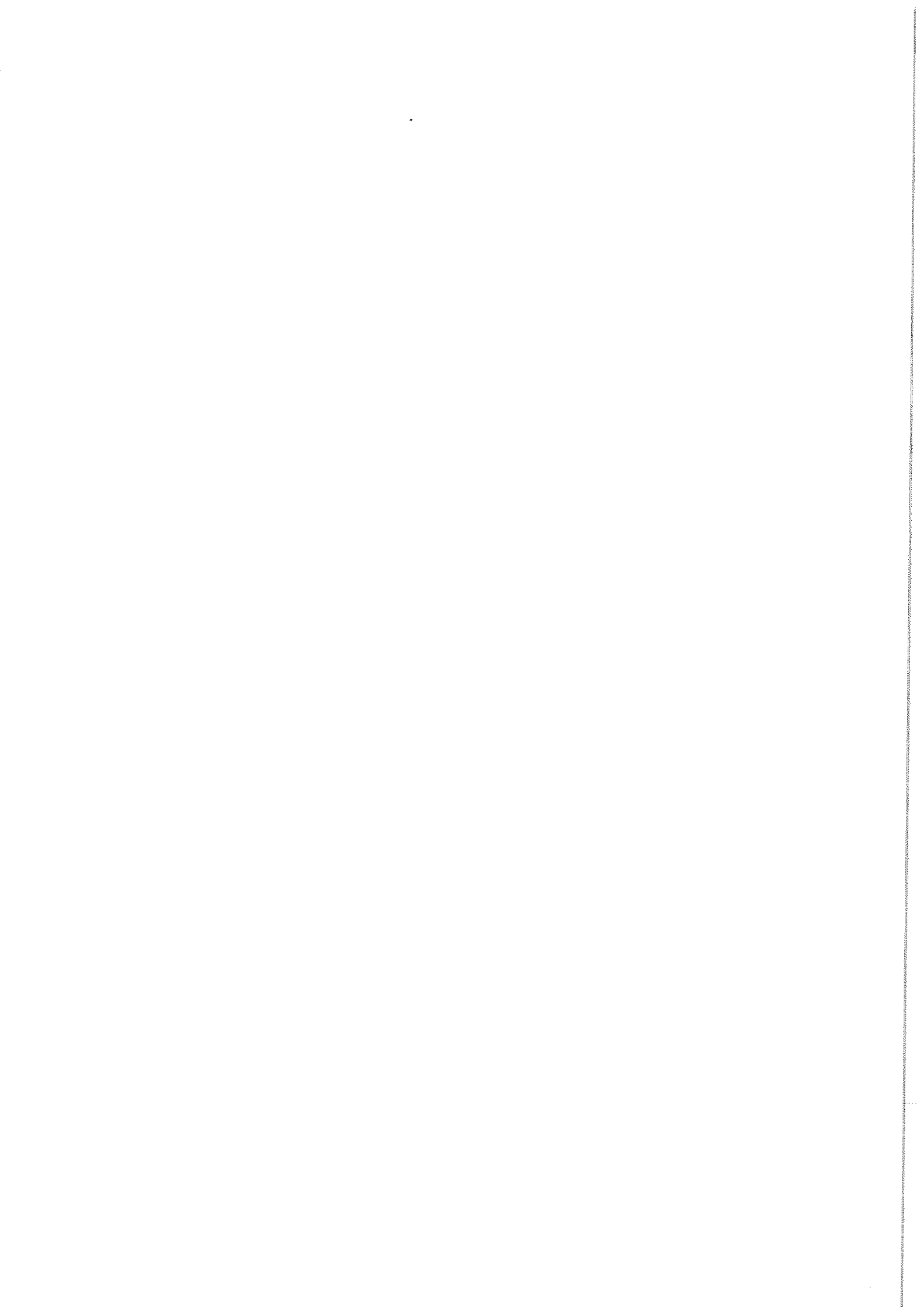
評価方法	定期試験(80点), 提出物(20点)
------	---------------------

教科書名	「人体の構造と機能2 栄養と代謝」高橋信博著 医歯薬出版KK 「食品標準成分表」全国調理師養成施設協会 編集発行
------	---

参考文献	NutritionCare「消化・吸収・代謝のしくみと栄養素のはたらき」山中英治編 メディカ出版 2016年 秋季増刊 自分で作る「生化学ワークノート」医学博士 中元伊知郎 メディカ出版
------	--

履修上の注意	授業中に小テストの実施または、終了後にレポート提出あり。提出物は評価に反映する。
--------	--

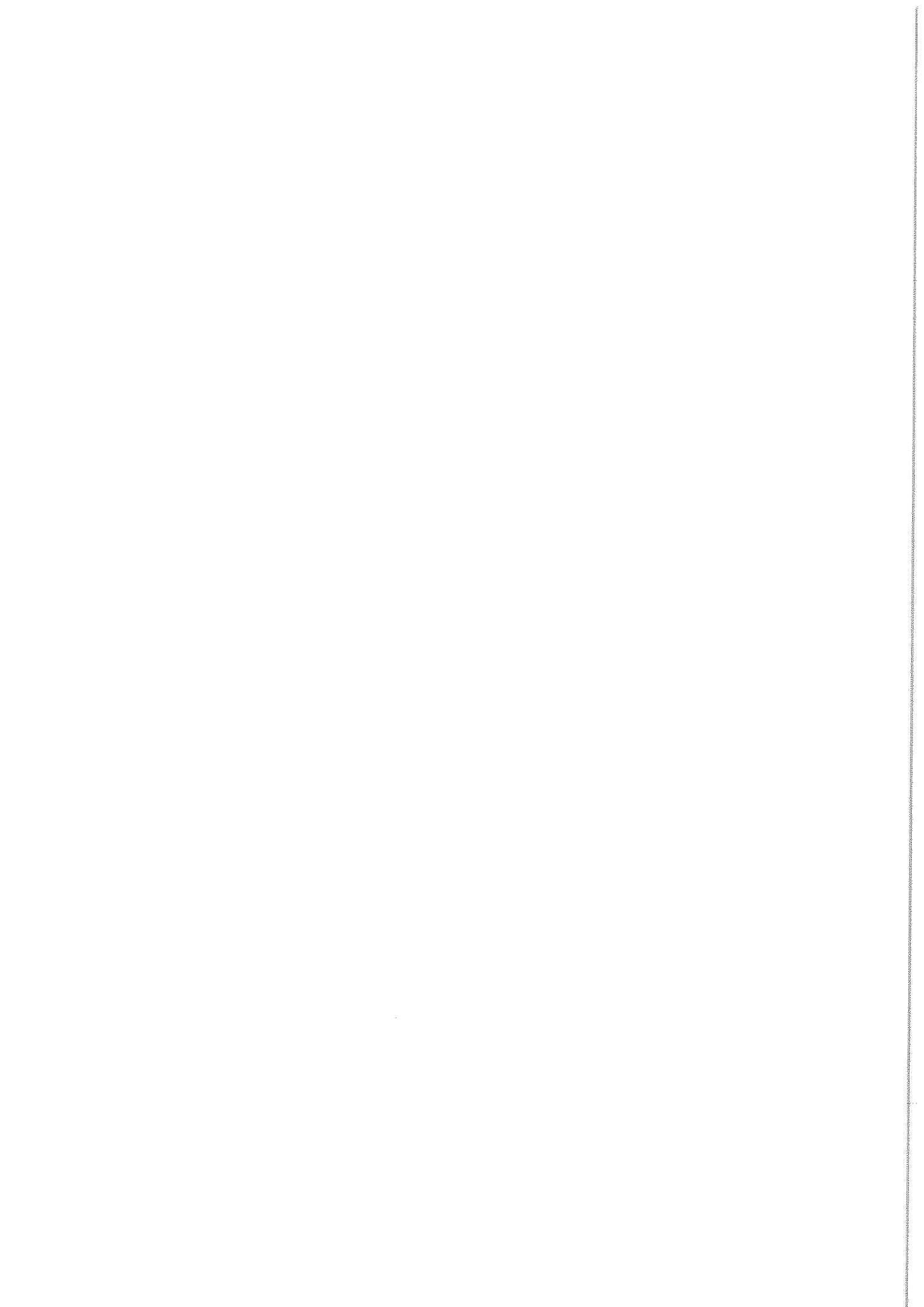
回	授業計画	到達目標
1	栄養の基礎知識 食生活と栄養	1. 栄養の知識を学ぶ理由を理解する。 2. 日本人の栄養摂取状況を知る。
2	栄養素の消化・吸収	1. 栄養素の消化・吸収の基本を知り、理解する。
3	栄養素の役割	1. 栄養素の相互作用、相互の影響について健康維持との関係を知る。
4	食事摂取基準 基礎代謝 エネルギー必要量	1. 食事摂取基準とは何かを知る。 2. 個人のエネルギー必要量の求め方、摂取量の評価法を知る。
5	日本人の食事摂取基準	1. 「日本人の食事摂取基準」を知り、理解する。
6	栄養素の働き 糖質の種類	1. 種類と働き、代謝について理解する。
7	栄養素の働き 糖質の栄養的意味	1. 種類と働き、代謝について理解する。
8	栄養素の働き タンパク質の種類	1. 種類と働き、代謝について理解する。
9	栄養素の働き タンパク質の栄養的意味	1. 種類と働き、代謝について理解する。
10	栄養素の働き 脂質の栄養的意味	1. 種類と働き、代謝について理解する。
11	栄養素の働き ビタミンの種類 水溶性ビタミン	1. 種類と働き、代謝について理解する。
12	栄養素の働き 脂溶性ビタミン	1. 種類と働き、代謝について理解する。
13	栄養素の働き ミネラルの種類 ミネラルの作用と欠乏・過剰症	1. 種類と働き、代謝について理解する。
14	栄養素の働き 個々のミネラルの作用と欠乏・過剰	1. 種類と働き、代謝について理解する。
15	栄養素の働き 水と食物繊維 1年のまとめ	1. 種類と働き、代謝について理解する。



# 【 栄養指導Ⅱ 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	松下みゆき	実務経歴	管理栄養士。衛生検査技師。保育士。熊本地域糖尿病療養指導士。		
授業との関連性	地域糖尿病療養指導士でもある管理栄養士としての経験から食生活指導のための栄養素の消化吸収や基礎知識について講義する。				
履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(30時間)
				授業回数	15
授業目標	①食生活と健康の関連について学び、栄養の知識を習得することで、歯科衛生士として果たすべき役割を理解する。 ②健康づくりに必要な栄養についての知識を高め、多職種との連携ができる歯科衛生士を目指す。 ③ライフステージ別の食事の大切さを理解する。				
評価方法	定期試験(80点), 提出物(20点)				
教科書名	「人体の構造と機能2 栄養と代謝」高橋信博著 医歯薬出版KK 「食品標準成分表」 全国調理師養成施設協会 編集発行				
参考文献	管理栄養士のための疾患・症状・身体のはたらきイラスト事典 本田圭子編著 メディカ出版				
履修上の注意	授業中に小テストの実施または、終了後にレポート提出あり。提出物は評価に反映する。				
回	授業計画			到達目標	
1	1年の復習 国民の健康と栄養の現状			1. 食生活の変遷と疾病構造の変化や国民栄養の現状を学び、そこから栄養に関する課題を考える。また、栄養と健康の関連を理解し、栄養指導の必要性を理解する。	
2	エネルギー必要量の理解と算出 食品標準成分表			1. 個人の推定エネルギー必要量の求め方を理解し、推定エネルギー必要量の算出ができるようになる。	
3	望ましい食生活 ○国民健康・栄養調査 ○健康日本21(第2次) ○食事バランスガイド			1. 国内での食生活改善の取り組みについて学び、理解する。	
4	望ましい食生活 ○特別用途食品制度 ○食育基本法・食育推進基本計画			1. 特別用途食品について理解する。 2. 食育基本法と食育推進基本計画について理解する。 3. 食品表示について理解する。	
5	食生活と健康 ライフステージ 乳児期、幼児期			1. 口腔機能の発達をふまえた離乳食や、幼児食の特徴を理解する。 2. 砂糖類の影響について理解する。	
6	食生活と健康 ライフステージ 学童期、思春期			1. 学童期や思春期の発育に必要な栄養について理解する。	
7	食生活と健康 ライフステージ 成人期、妊娠・授乳期			1. 成人期の食事管理の理解と、妊娠・授乳期の付加量について理解する。	
8	食生活と健康 ライフステージ 高齢期			1. 高齢期における栄養と調理の特性について理解する。 2. 嚥下困難への対応について知識を得る。	
9	病態と栄養 糖尿病			1. 疾病に関する病態の把握とその栄養管理について理解する。	
10	病態と栄養 肥満・脂質異常症			1. 疾病に関する病態の把握とその栄養管理について理解する。	
11	病態と栄養 高血圧症と心疾患			1. 疾病に関する病態の把握とその栄養管理について理解する。	
12	病態と栄養 腎疾患・腎不全			1. 疾病に関する病態の把握とその栄養管理について理解する。	
13	病態と栄養 低栄養・嚥下障害・その他の疾患			1. 疾病に関する病態の把握とその栄養管理について理解する。	
14	食べ物と健康 食品成分表 おいしさテクスチャー			1. 食べ物のおいしさについて理解を深める。 2. 食べ物の物性・テクスチャーについて理解し、噛むことと食品の物性を関連付けて考えられるようになる。	
15	食事環境・食事計画 献立作成 食生活指針			1. これまで学習したことを活用して献立を作成する。 2. 実際に献立作成を行うことによって、学習内容の理解を深め、実生活に生かすことができるようになる。	





講師名	植村博子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士専任教員認定歯科衛生士として、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		

講師名	五反知恵美	実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		

履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義・実技	単位数	3単位(90時間)	授業回数	45
---------	-------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	(前期)歯科衛生士として、診療補助業務に対応できるように技術及び患者への対応を修得する。 (後期)歯科衛生士として歯科診療補助業務に対応できるように知識、技術を修得する。
------	--

評価方法	定期試験(100点満点)、提出物随時
------	--------------------

教科書名	最新 歯科衛生士教本 歯科診療補助論 医歯薬出版株式会社
------	------------------------------

参考文献	最新 歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版 医歯薬出版株式会社
------	----------------------------------

履修上の注意	1. 予習を必ず行い講義・実習に臨む。 2. 授業の復習は必ず行うこと。 3. 実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 * 到達目標は履修状況において変更することがあります。
--------	--

回	授業計画	到達目標
1	ユニットの構造について1(取り扱い実習) *2階で演習がない班は教室にて課題学習	①歯科診療室にある歯科用ユニットの構造を理解し、歯科診療室にある歯科用ユニットを、患者を不安にさせずに操作できる
2	ユニットの構造について2 総論	①診療設備について説明ができる。 ②診療室の環境、整備について説明ができる。 ③共同動作のポジショニングについて説明ができる。
3	感染予防の概念	①医療人として感染予防について正しい知識を理解し説明ができる。
4	手指消毒の一般的手技	①医療人として手指を介しての微生物の伝播があることを理解し、手指消毒の目的を説明できる
5	カット綿・綿球・防湿ロール・綿栓作製	①臨床で頻用されている衛生材料の種類と用途を理解し、各種材料を的確かつ敏速に作製準備してスムーズな診療補助ができるようにする。
6	感染防止対策と消毒、滅菌①	①医療人として滅菌・消毒について正しい知識を理解し説明できる。
7	感染防止対策と消毒、滅菌②	①医療人として滅菌・消毒について正しい知識を理解し説明できる。
8	薬品・材料の管理、医療廃棄物の取り扱い	①薬品の取扱いについて理解し説明できる。 ②診療室から排出される廃棄物の分別、処理について理解し説明できる。
9	共同動作について1 総論①	①歯科診療を安全に効率よく行うために、必要な共同動作について理解し説明できる。 ②診療時における共同動作における補助を学び、診療がスムーズに進むようにフォーハンドシステムを理解し説明できる。
10	共同動作について1 総論②	①歯科診療を安全に効率よく行うために、必要な共同動作について理解し説明できる。 ②診療時における共同動作における補助を学び、診療がスムーズに進むようにフォーハンドシステムを理解し説明できる。
11	共同動作について2 患者誘導・ポジション・ライティング実習	①必要な知識を身に付け患者を安全にチェアまで誘導できる。 ②患者・術者・補助者の役割を疑似体験し役割と責任を理解し説明できる。 ③術者を側面的に助ける技術を修得できる。
12	共同動作について3 フォーハンドテクニック・バキューム操作	①診療時における共同動作における補助を学び、診療がスムーズに進むように口腔内洗浄とフォーハンドデッドデンティストリーを実施できる。
13	ミラー操作1	①ヒト口腔内をミラーで確認し、直視できない部位の投影、また排除の必要性などを理解し操作できる。
14	ミラー操作2	①ヒト口腔内をミラーで確認し、直視できない部位の投影、また排除の必要性などを理解し操作できる。
15	印象材取扱いについて	①各種印象材について、その特徴と用途、取扱い法を理解し説明できる。
16	印象材練和	①印象材を適切な計量で攪拌、練和、脱泡し、ひとまとめにできる。
17	印象材練和～盛り付け	①印象材を適切な計量で攪拌、練和、脱泡し、トレーへ盛り付けができる。

回	授業計画	到達目標
18	模型材料取扱いについて・石膏注入(上顎・下顎)	①印象への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。
19	印象採得1 片顎	①口腔内を観察し、片顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。
20	印象採得2 下顎	①口腔内を観察し、下顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。
21	印象採得3 上顎	①口腔内を観察し、上顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。
22	印象採得～模型作製①	①印象体への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。
23	印象採得～模型作製②	①印象体への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。
24	印象採得～模型作製③最終仕上げ	①印象体への石膏注入から模型調整までの手順を理解し、操作できる。
25	スタディモデル作製概要説明(トリミング・模型調整)	①印象採得後、気泡混入のない模型を作製し、平行模型作製の手順、模型の整理法を理解する
26	スタディモデル作製(台つけ)	①スタディモデルの作製方法を理解し、管理・保管までができる
27	印象採得(片顎)復習	①これまでの反省を踏まえ、口腔内を観察し、片顎トレーの選択、練和から印象採得までの手順を理解し、正確な印象採得ができる。
28	口腔内洗浄、パキューム操作(相互)1	①口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内にたまった水や唾液をパキューム操作を行い、患者の苦痛を軽減できる。
29	口腔内洗浄、パキューム操作(相互)2	①口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内にたまった水や唾液をパキューム操作を行い、患者の苦痛を軽減できる。
30	口腔内洗浄、パキューム操作(相互)3復習	①基礎実技試験の評価項目に沿って実習し振り返り後、未達成部分について各自が確認し操作できる
31	合着材取扱いについて	①合着材と接着材の性質、練和方法を理解し、説明できる。
32	ポリカルボ・グラスアイオノマーセメント・リン酸亜鉛セメント練和	①合着材の性質を理解し、各種セメントの練和ができる。
33	ポリカルボ・グラスアイオノマーセメント・リン酸亜鉛セメント練和復習	①リン酸亜鉛セメント・ポリカルボキシレートセメント・グラスアイオノマーセメントの取り扱い、特徴、用途を理解し練和操作ができる。
34	ポリカルボ・グラスアイオノマーセメント・リン酸亜鉛セメント練和試験	①各種セメントの標準的練和方法の確認をし、習熟度を確認する。
35	ポリカルボ・グラスアイオノマーセメント・リン酸亜鉛セメント練和再試験 *合格者は自主計画立案～自主練習	①各種セメントの標準的練和方法の確認をし、習熟度を確認する。
36	仮封について	①仮封の意義を理解し、各種仮封材の性質、特徴、用途を理解し説明できる。
37	仮封材取り扱い①テンポラリーストップング・水硬性仮封材・酸化亜鉛ユーゾールセメント・軟質レジン(机上)	①診療室における仮封の意義を理解し、各仮封材の机上での取扱いを習得する。
38	仮封材取り扱い②テンポラリーストップング・水硬性仮封材(ファントム)	②診療室における仮封の意義を理解し、水硬性仮封材・テンポラリーストップングのファントム上で取扱いを習得する。
39	仮封材取り扱い③酸化亜鉛ユーゾールセメント・軟質レジン(ファントム)	②診療室における仮封の意義を理解し、酸化亜鉛ユーゾールセメント・常温重合型軟質レジンのファントム上で取扱いを習得する。
40	寒天印象1(1級窩洞)	①寒天印象材とアルジネート印象材との連合印象についてその特徴および手順、材料の取扱い法を習得する。
41	寒天印象2(2級窩洞)	①寒天印象材とアルジネート印象材との連合印象についてその特徴および手順、材料の取扱い法を習得する。
42	ゴム質印象	①ゴム質印象材について特徴および手順を理解し、取扱い法を習得する。
43	ラバーダム防湿について・ラバーダム防湿操作1 ファントム1歯有翼	①ラバーダム防湿法の意義を理解し説明できる。 ②ラバーダム防湿の意義を理解し、迅速、確実に操作ができるように習得できる。
44	ラバーダム防湿操作2 ファントム1歯無翼	①ラバーダム防湿の必要性を理解し、有翼法との操作法の違いを理解し説明できる。
45	ラバーダム防湿操作2 ファントム数歯無翼	①ラバーダム防湿の必要性を理解し、操作法の違いを理解し説明できる。 ②操作法の違いを理解し、数歯露出の技術を習得できる。

# 【 歯科診療補助法Ⅱ 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	植村博子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士専任教員認定歯科衛生士として、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		
講師名	五反知恵美	実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		

履修学年・学期	2年前後期	授業方式	講義・実技	単位数	3単位(90時間)	授業回数	45
---------	-------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	(前期)歯科衛生士として、診療補助業務に対応できるように技術及び患者への対応を修得する。 (後期)歯科衛生士として歯科診療補助業務に対応できるように知識、技術を修得する。
評価方法	定期試験(100点満点)、提出物随時
教科書名	最新 歯科衛生士教本 歯科診療補助論 医歯薬出版株式会社
参考文献	最新 歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版 医歯薬出版株式会社

履修上の注意	1. 予習を必ず行い講義・実習に臨む。 2. 授業の復習は必ず行うこと。 3. 実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 * 到達目標は履修状況において変更することがあります。
--------	--

回	授業計画	到達目標
1	成形修復材について	①修復材の種類と特徴について述べるができる。
2	修復物の研磨について	①研磨用具の種類、研磨の目的を理解し術式を述べるができる。 ②ハンドピースへ研磨用具を取り付けることができる。
3	ガラスイオノマーセメント修復～修復物研磨	①ガラスイオノマーセメント修復の特徴と術式、隔壁用器材を理解し窩洞へ填塞できる。 ②研磨の意義を理解し、各種修復物の研磨ができる。
4	コンポジットレジン修復①(光重合レジン・ペースト)～修復物研磨	①コンポジットレジン修復の術式を理解し、酸処理材の取り扱いができる。 ②研磨の意義を理解し、各種修復物の研磨ができる。
5	コンポジットレジン修復②(光重合レジン・フロー)～修復物研磨	①光重合型レジン修復修復の特徴と術式、隔壁用器材を理解し窩洞へ填塞できる。 ②可視光線ライトの取り扱い方を修得できる。 ③研磨の意義を理解し、修復物の研磨ができる。
6	保存修復における歯科診療補助①成形修復	①各種修復法の流れに応じて準備ができる。
7	歯肉圧排、歯間分離、隔壁について	①歯肉排除法、歯間分離法、隔壁の目的を理解し、種類を述べることができる。
8	歯肉圧排、歯間分離、隔壁操作について	歯肉排除法、歯間分離法、隔壁の取り扱いを理解し、安全に操作できるようにする。
9	歯肉圧排(相互)	歯肉排除法の取り扱いを理解し、安全に操作できるようにする。
10	口腔外科における歯科診療補助1 器具の種類と用途①	口腔外科における歯科衛生士の役割について述べるができる。
11	口腔外科における歯科診療補助2 器具の種類と用途②	カートリッジ式注射器、替刃メス、縫合用器材の種類と用途を理解し、取扱い方を修得できる。
12	器具の受け渡し1	それぞれの目的に応じた準備や手渡しを、留意点を考えて行うことができる。
13	歯周治療における歯科診療補助①	歯周基本治療と歯周外科治療における歯科診療補助の役割について述べるができる。
14	歯周治療における歯科診療補助② GTR法・エムドゲイン	①組織再生誘導法、エムドゲインの目的・術式を理解し説明できる。
15	歯周治療における歯科診療補助③ 歯肉包帯	①歯肉包帯(歯周パック)の目的を理解し、準備と取扱い方を修得できる。
16	歯内療法における歯科診療補助①	①各種歯内療法の流れを説明できる。 ②各種歯内療法の流れに沿って使用器材の説明ができる。
17	歯内療法における歯科診療補助②	同上
18	口内法・口外法撮影の補助	①上下顎臼歯部における正確なX撮影ができるように撮影装置の位置づけができる。 ②適切な自動現像法を修得する。 ③パノラマ撮影の手順を理解できる。 ④撮影したフィルムをマウント整理し解剖学的指標で観察できる。
19	口内法・口外法撮影の補助	同上

回	授業計画	到達目標
20	口内法・口外法撮影の補助	同上
21	口内法・口外法撮影の補助	同上
22	口内法・口外法撮影の補助	同上
23	臨床実習(歯科矯正学分野)の事前学習課題説明・各自まとめ	矯正歯科医院の臨床実習を円滑に進めるために、必要な基礎的知識を各自調べ、理解できるようにする。
24	小児歯科における歯科診療補助(乳歯冠作製)	乳歯の歯冠修復の目的を理解し、乳歯用既製冠の手順に沿って作製できる。
25	口腔内写真撮影1(1人目) ビデオ学習(口腔内写真、画像処理説明含む)	①口腔内写真の意義を考え、各部位の撮影ができる。 ②アシスタントの役割を考え、口角鉤の把持、口腔内の乾燥ができる。
26	口腔内写真撮影1(2人目、3人目) ビデオ学習(口腔内写真、画像処理説明含む)	同上
27	口腔内写真撮影(復習)	口腔内状況が判断できる口腔内写真(資料)の作成ができる。
28	暫間被覆冠について(講義)	暫間被覆冠・仮着材を理解し、取り扱いの方法を理解する
29	暫間被覆冠作製①1歯既製冠	①暫間被覆冠の目的、種類、取り扱い、作製順序と準備する器具について理解する。 ②既製冠を用い暫間被覆冠を作製できる。
30	暫間被覆冠作製③筆積み法	常温重合レジンを用い筆積みにて暫間被覆冠を作製できる。
31	暫間被覆冠作製④直接法(単冠)	常温重合レジンを用い直接法にて暫間被覆冠を作製できる。
32	暫間被覆冠作製②ブリッジ～印象法	印象材を用いた方法でブリッジの暫間被覆冠を作製できる。
33	歯科補綴における歯科診療補助① 個人トレー作製	個人トレーの作製を学び、個人トレーを使用した印象採得ができる。
34	歯科補綴における歯科診療補助② 義歯	有床義歯の着脱の指導法と衛生管理を理解し、患者指導ができる。
35	歯科補綴における歯科診療補助② 咬合採得	クラウン、ブリッジ治療における流れを理解し、治療前、治療中、治療後の患者指導ができる。
36	その他の歯科材料について	リベース材、ティッシュコンディショナー、適合検査材の役割について理解し取り扱い方法を習得する。
37	寒天印象採得復習(相互)	顎模型上で実習した寒天印象採得が口腔内でスムーズに操作できる
38	口腔咽頭吸引(相互)	吸引の手順を理解し、安全かつ適切に吸引することができる。
39	症例に応じた歯科診療補助 (主に器材準備の確認)	各種治療の手順に沿った器材を準備することができる ①直接法修復(光重合型コンポジットレジン修復)②間接法修復(メタルインレー)③麻酔抜髄法④根管充填(側方加圧充填法)⑤部分床義歯治療⑥前歯部前装鑄造冠(既製冠を用いたテンポラリークラウン製作含む)⑦難抜歯
40	バキューム操作復習1	口腔内洗浄の目的を理解し、併せて口腔内にたまった水や唾液をバキューム操作を行い、患者の苦痛を軽減する。
41	印象採得復習(上下顎)	口腔内を見て、トレーの選択が出来、また練和から印象採得までの手順を、理解し、修得できるようにする。
42	静脈内採血	採血法の準備、手順を理解しトレーニングモデルを使用し採血できる。
43	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助1	全身疾患をもつ患者に対し、安全かつ確実に歯科診療補助を行うために、疾患の概要や口腔所見を理解し、診療での注意点を説明することができる。
44	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助2	同上
45	全身疾患を持つ患者と歯科診療補助3	同上

# 【 歯科診療補助Ⅲ 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

※旧課程 現3年生のシラバスとなります

講師名	植村博子	実務経験	歯科衛生士。全国歯科衛生士専任教員認定歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	全国歯科衛生士専任教員認定歯科衛生士として、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		

講師名	五反知恵美	実務経験	歯科衛生士。本学院専任教員。
授業との関連性	臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、歯科衛生士の専門学科目である歯科診療の補助業務について各治療方法や歯科材料の取り扱い等について講義、実習する。		

履修学年・学期	3年前後期	授業方式	講義・実習・実技	単位数	1単位(40時間)	授業回数	20
---------	-------	------	----------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科及び歯科衛生士の役割について理解を深めるために、学んだ知識と技術を統合して自らが学んでいける能力を構築する。
------	--

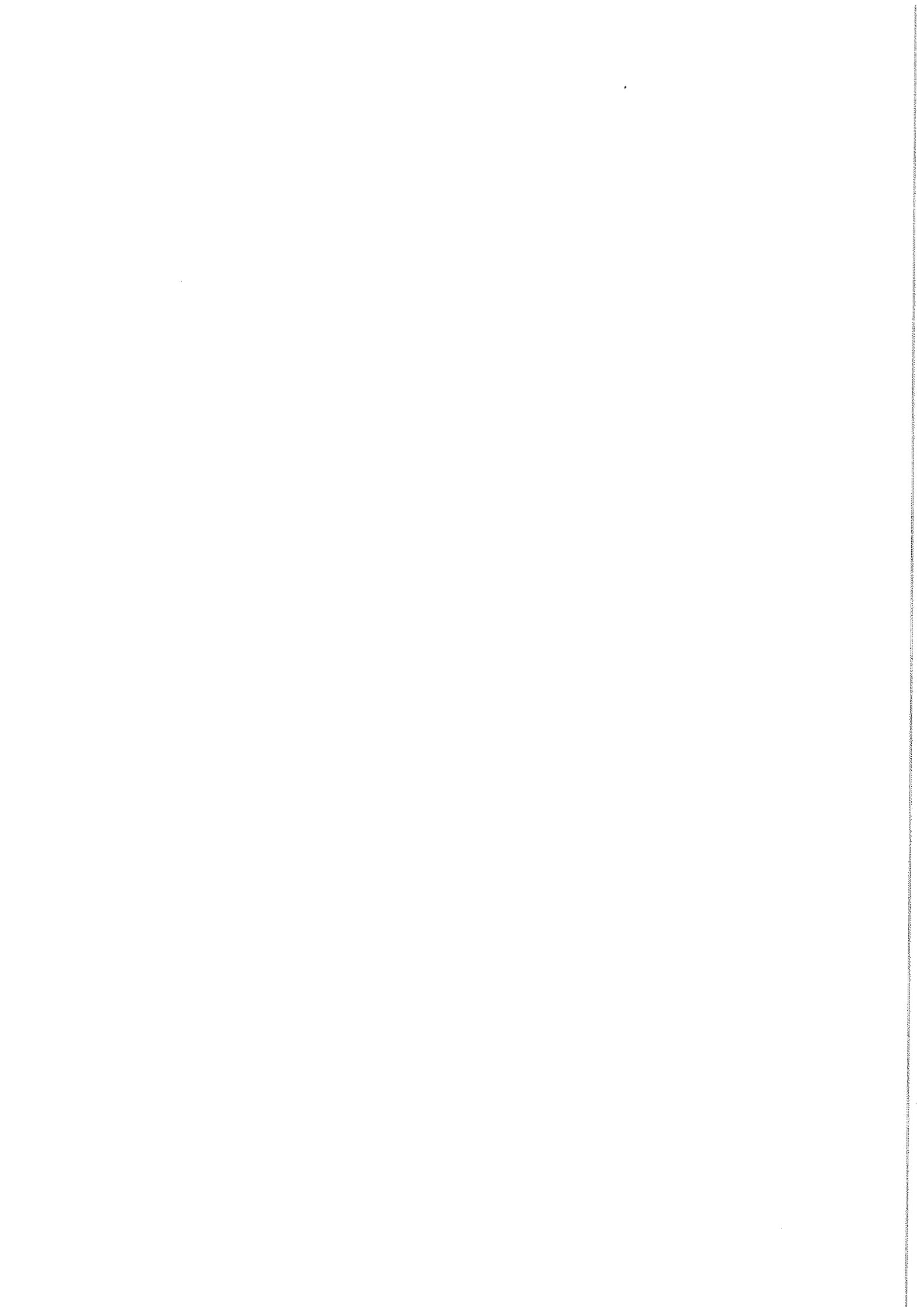
評価方法	定期試験(100点満点)※暫間被覆冠作製試験は、定期試験実施後に実施予定、提出物随時
------	--

教科書名	最新 歯科衛生士教本 歯科診療補助論 医歯薬出版株式会社
------	------------------------------

参考文献	最新 歯科衛生士教本 歯科診療補助論 第2版 医歯薬出版株式会社
------	----------------------------------

履修上の注意	予習を必ず行い講義・実習に臨む。 授業の復習は必ず行うこと。 実習は身だしなみをきちんと整えた上で取り組むこと。 到達目標は履修状況において変更することがあります。
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	口腔機能管理について(口腔機能発達不全症、口腔機能低下症)	①口腔機能発達不全症について理解し、評価法および指導内容を説明できる。 ②口腔機能低下症について理解し、評価法および指導内容を説明できる。
2	嚥下機能評価／車椅子移乗・義歯着脱(マナボット)	①嚥下機能評価について理解し実践できる。 ②安全・安楽に配慮しながら、車椅子に移乗し、目的の場所へ移送できる。 ③安全・安楽に配慮しながら、口腔内状況の確認、義歯の着脱ができる。
3	(自主練習)口腔内写真撮影	保護者対面実習にあたり、口腔内状況が判断できる口腔内写真(資料)の作成ができる。
4	(自主練習)暫間被覆冠・セメント練和	暫間被覆冠作製試験の要項を確認し、試験に向けて自主練習ができる。
5	暫間被覆冠(左上1)	模型上にあった暫間被覆冠を作製し、仮着ができる。
6	暫間被覆冠作製試験(左上1) →各種セメント練和試験	30分以内に模型上にあった暫間被覆冠を作製し、仮着ができる。
7	暫間被覆冠作製試験(左上1) →各種セメント練和試験	30分以内に模型上にあった暫間被覆冠を作製し、仮着ができる。
8	暫間被覆冠作製1(直接法)前歯～左上1～3ブリッジ	暫間被覆冠の目的、種類、取り扱い、作製順序と準備する器具について復習し作製できる。
9	ゴム質印象(相互)	顎模型上で実習したゴム質印象採得が口腔内でスムーズに操作できる
10	印象採得1 水平位操作(全顎)	口腔内観察後、的確にトレーを選択し練和から水平位での印象採得までの操作を対象者に不快感を与えないよう配慮しながら行うことができる。
11	器具の受け渡し2	コンポジットレジン修復の器具の受け渡しのタイミングを理解し、臨床において活用される共同動作ができる。
12	セメント取り扱い(接着性レジンセメント)	接着性レジンセメントの性質を理解し、臨床での取扱い方法を修得する。
13	酸化亜鉛ユージノールセメント練和 (用途別①仮封用、②覆髄用)～受渡し(2人1組)	酸化亜鉛ユージノールセメントの用途別における取り扱い法を修得し指導ができる。
14	印象採得2(寒天印象採得 コア) 超硬石膏注入	①寒天印象材とアルジネート印象材を用いたコアの連合印象の手順と材料の取扱いができる。 ②印象採得後、気泡混入のない模型を作製できる。
15	印象採得2(寒天印象採得 コア) 超硬石膏注入	同上
16	保護者対面実習オリエンテーション	①1回目の問題点を2回目の患者対面実習に向けて課題を踏まえ、介入実施記録(SOAP形式)の記載方法の確認できる。介入計画の立案ができる。
17	保護者対面実習オリエンテーション	介入計画の確認ができる。
18	保護者対面実習ロールプレイ③1	①患者対面実習の介入場面を想定し、習得した知識や技術の確認ができる。 ②患者役からの意見を聞き、問題点や課題を探ることができる。
19	保護者対面実習ロールプレイ③2	対面実習に必要な器材と資料の準備ができる。
20	保護者対面実習	歯科衛生過程に沿って立案した介入計画で介入し評価できる。



# 【 歯科材料学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	清村龍朗	実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。
授業との 関連性	臨床歯科医師としての長年の経験を踏まえ、歯科診療に用いる歯科材料の基礎知識と取り扱いについて講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	歯科医療従事者として知っておくべき材料の知識や歯科衛生士としての作業並びにその結果に関わることについての知識と取扱いを学ぶ。
------	--

評価方法	定期試験(92点)・出席点8点(1回欠課1点減点) *授業の1/3以上の欠席は試験の受験資格なし
------	--

教科書名	「歯科材料」 末瀬一彦著 医歯薬出版KK
------	----------------------

参考文献	
------	--

履修上の 注意	私語禁止
------------	------

回	授業計画	到達目標
---	------	------

1	歯科材料と歯科衛生士 歯科材料の基礎知識	①歯科医療と歯科材料の進歩を概説できる。 ②歯科材料の特性を添付文書から読み取ることが出来る。 ③歯科処置の中で使用される材料の特性を理解した上で取り扱うことが出来る。 ④歯科材料の素材を説明できる。 ⑤歯科材料・無機材料・有機材料の一般的特徴を説明できる。 ⑥口腔内外で使用する歯科材料の性質を説明できる。 ⑦歯科材料の所要性質・評価について説明できる
---	-------------------------	---

2	DHIに関わる材料 印象材	①小窩裂溝充填塞材の種類をあげ、使用上の注意点を説明できる。 ②歯科臨床における印象採得の目的を説明できる。 ③印象材の種類と適応例を説明できる。 ④弾性印象材の成分・組成と硬化のメカニズムを説明できる。 ⑤印象採得時の印象材の変形の重要性を説明できる。
---	------------------	---

3	模型材料	①模型用材料として使用されるものを説明できる。 ②石膏の種類と用途を説明できる。 ③石膏の取扱い・一般的性質を説明できる。 ④石膏の硬化反応・混水比を説明できる。 ⑤石膏の硬化時間に与える事象を説明できる。 ⑥石膏の硬化膨張と吸水膨張に与える事象を説明できる。
---	------	---

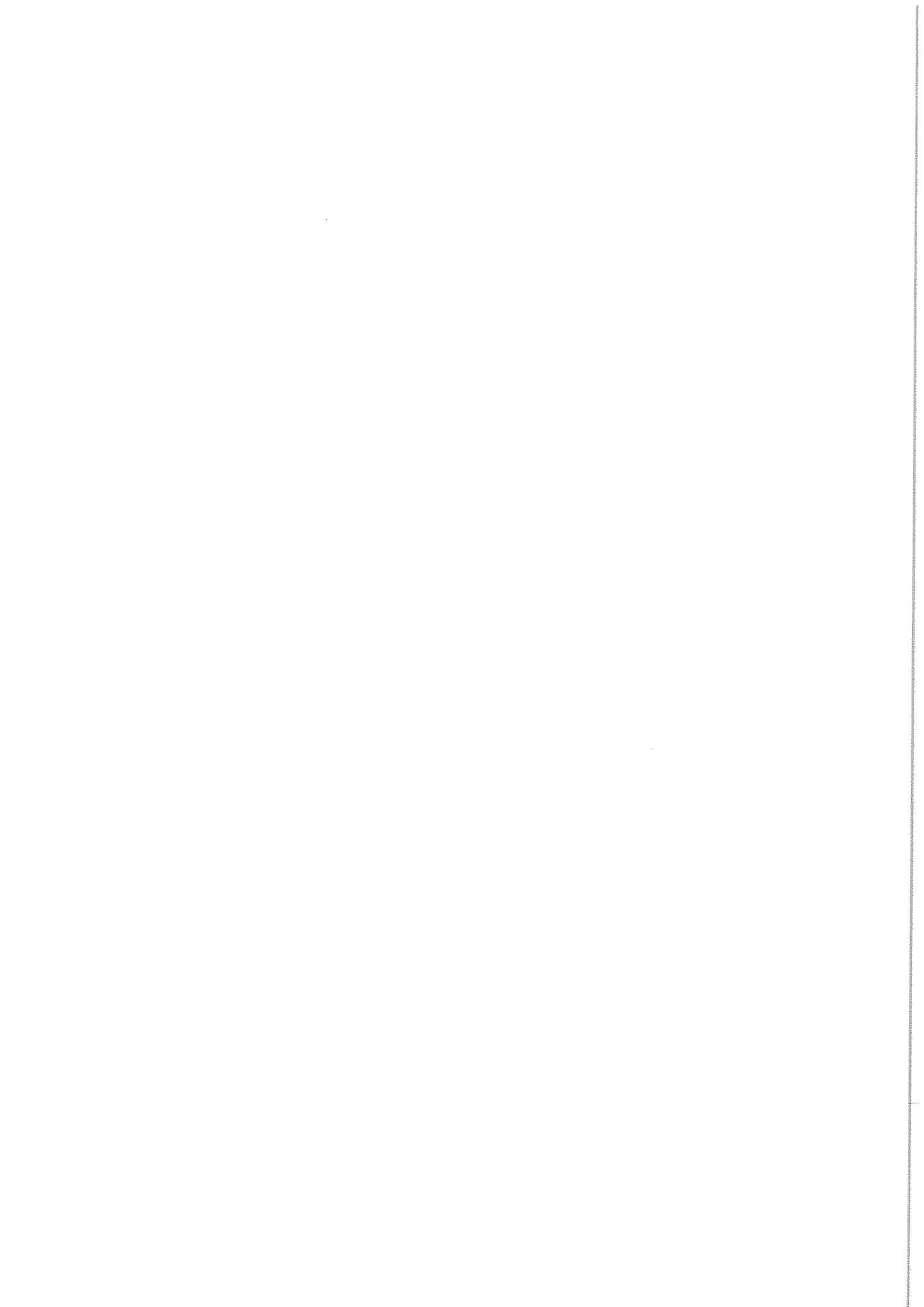
4	合着材・接着材	①合着材・接着材の種類と成分及び特性を説明できる。 ②合着材・接着材の所要性質を説明できる。 ③合着材の組成と硬化反応及び特徴を説明できる。 ④接着性レジンセメントの組成と硬化反応及び特徴を説明できる。
---	---------	--

5	成形修復材	①成形修復材の種類と用途を説明できる。 ②成形修復材の取扱いを説明できる。 ③成形修復材の成分・組成と硬化機構を説明できる。 ④成形修復材の歯質との接着機構を説明できる。
---	-------	--

6	仮封材・暫間修復材・仮着セメント	①仮封材の種類と用途を説明できる。 ②仮封材の取扱いを説明できる。 ③仮封材の組成と特徴を説明できる。 ④暫間修復について説明できる。 ⑤暫間修復に使用される種類・材料を説明できる。 ⑥仮着用セメントの目的を説明できる。 ⑦仮着用セメントの種類を説明できる。
---	------------------	---

7	WAX・金属・セラミックス	①ワックスの種類と用途を説明できる。 ②ワックスの性質を説明できる。 ③歯科で使用する金属の安全性について説明できる。 ④歯科で使用する金属の性質を説明できる。 ⑤歯科で使用する合金の種類と用途を説明できる。 ⑥セラミックスについて概説、用途・性質を説明できる。 ⑦セラミックスの用途・性質を説明できる。 ⑧乳歯の被覆冠を列挙できる。 ⑨乳歯用既製金属被覆冠の目的を説明できる。 ⑩歯周パックの目的と性質を説明できる。
---	---------------	--

8	保存材料・矯正	①ホワイトニングに使用される材料を説明できる。 ②人工歯の種類を説明できる。 ③義歯床の種類を説明できる。 ④ブリッジ・インプラントに使用される材料を説明できる。 ⑤義歯用裏装材を説明できる。 ⑥CAD/CAMに使用される材料を説明できる。
---	---------	---





# 【 歯科器械学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	神山 敬	実務経験	歯科医師。歯科診療所副院長。
授業との 関連性	臨床歯科医師としての長年の経験を踏まえ、歯科器械の名称・用途や取り扱いについて講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	歯科器械の名称、形態などを把握し、それぞれの器械の用途を正しく理解する。医療事故を未然に防ぐための取り扱いの諸注意を認識する。自らが行う歯科予防処置などの診療行為においては正しい使用法を理解し、安全に使用しなければならない。歯科診療補助においては、歯科医師との絶妙な連携を図るために器械の特徴や構造を理解していなければならない。
------	--

評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

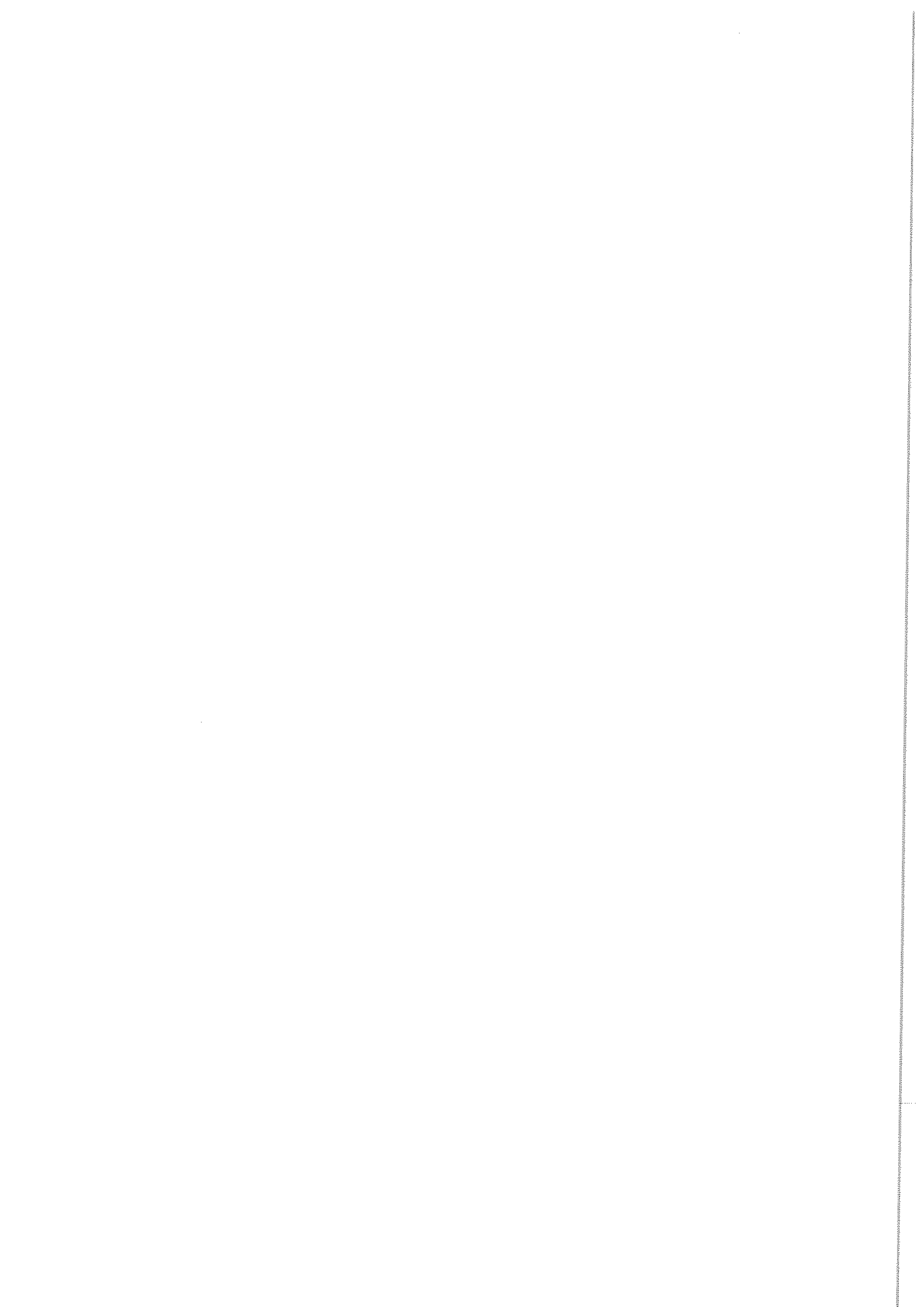
教科書名	「歯科器械」末瀬一彦 他 著 医歯薬出版KK
------	------------------------

参考文献	歯科器械のカatalog、実物の器材。講師が準備するプリント等。
------	----------------------------------

履修上の 注意	1. 他の教科と関連付けて、習ったことを復習する。 2. 歯科治療での目的や使用法など分からない事は直ぐ質問する。
------------	--

回	授業計画	到達目標
1	1章 歯科診療における器械の概説 2章 一般診療用器械 ①歯科用ユニット 2章 ②ユニット周辺の大型器械 ③マイクロスコープ、双眼ルーペ ④滅菌・消毒用器械 ⑤歯科用画像診断装置	・歯科医療器械の分類について説明できる。 ・歯科用ユニットの用途、特徴を説明できる。 ・歯科用ユニット周辺の大型器械の用途、特徴を説明できる。 ・歯科診療で使用するマイクロスコープ、双眼ルーペ、滅菌・消毒器械、歯科用画像診断装置、口腔内写真用器材の用途・特徴を説明できる。
2	4章 検査、診断、治療用器械 ①全身管理用器械 ②麻酔用器械 ③救急救命器械 ④歯及び口腔検査用器械 ⑤口腔機能検査用器械	・全身麻酔用器械や麻酔用器械、救急救命器械の用途、特徴を説明できる。 ・歯及び口腔検査用器械の用途、特徴を説明できる。 ・口腔機能検査用器械の用途、特徴を説明できる。
3	⑥切削用器械	・切削用器械の用途、特徴を説明できる。
4	⑦成形修復用器械 ⑧歯内療法用器械	・成形修復用器械の用途、特徴を説明できる。 ・歯内療法用器械の用途、特徴を説明できる。
5	⑨歯周治療用器械 ⑩印象採得用器械	・歯周治療用器械の用途、特徴を説明できる。 ・印象採得で使用される器材の用途、特徴を説明できる。
6	⑪歯冠修復用器械 ⑫有床義歯用器械	・歯冠修復用器材の用途、特徴を説明できる。 ・有床義歯用器械の用途、特徴を説明できる。
7	⑬口腔外科用器械 ⑭インプラント治療に関連する器械	・口腔外科用器械の用途、特徴を説明できる。 ・インプラント治療用器械を説明できる。
8	⑮矯正歯科用器械 ⑯小児歯科用器具 ⑰歯科訪問診療用器械 5章 歯科技工用器械 最後のまとめ	・歯科矯正で使用される器械の用途、特徴を説明できる。 ・小児歯科用器械の用途、特徴を説明できる。 ・歯科訪問診療用器械の用途、特徴を説明できる。 ・歯科技工室に設置される器械を説明できる。 ・歯科技工作業で使用される器械を概説できる。

備考) 第3章は歯科診療補助法で既に履修しているため自己学習となります。



# 【 感染予防学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	山名啓介	実務経験	歯科医師。熊本大学医学部付属病院歯科口腔外科勤務。
授業との関連性	病院勤務の歯科口腔外科医の経験を踏まえ、感染経路や対策について講義する。		

履修学年・学期	1年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	感染症および感染予防に関して正しい知識を修得し、自身にとって安全な医療行為ができるようにする。
------	---

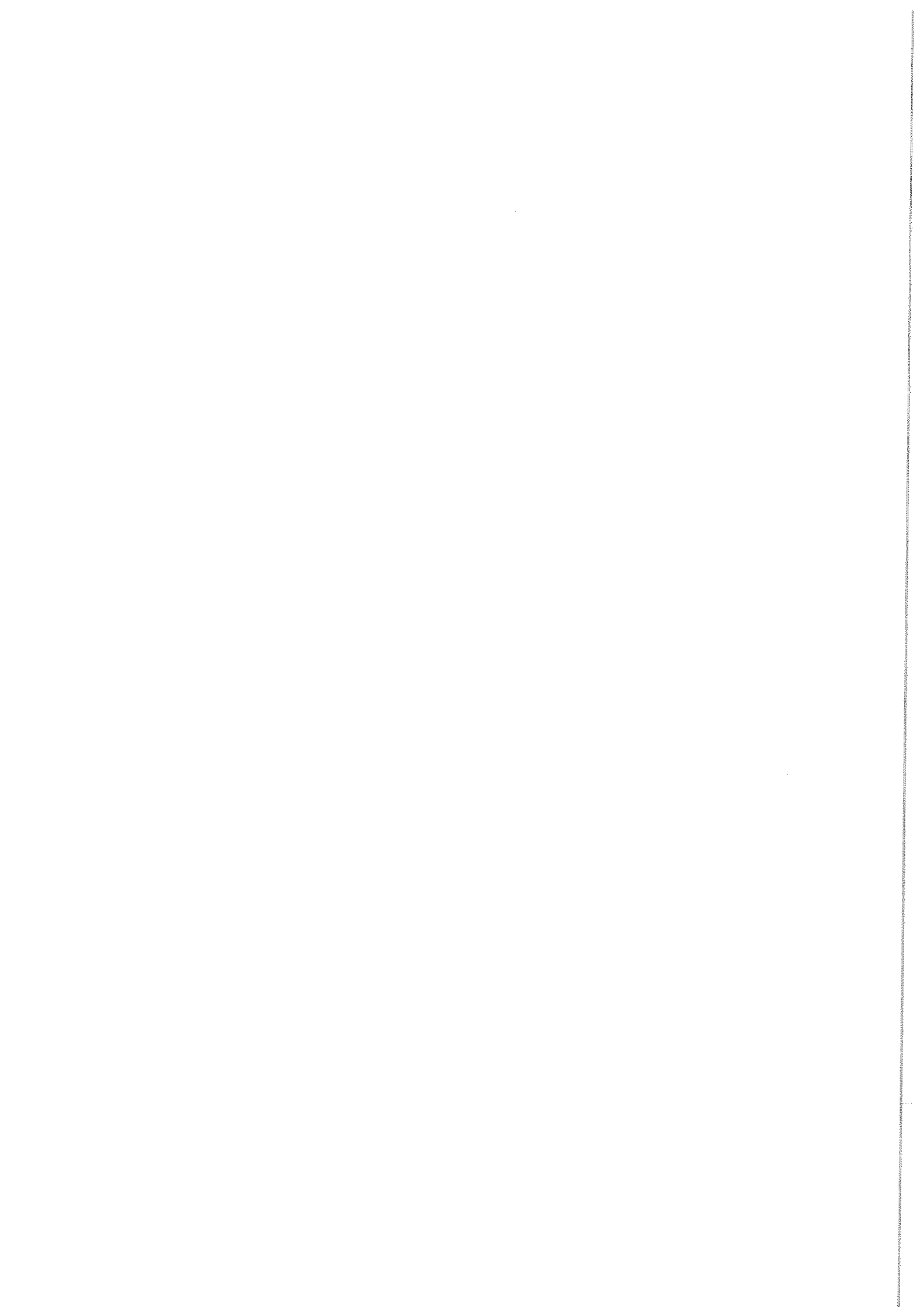
評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	講師資料 「感染対策マニュアル」 熊本歯科衛生士専門学校作成
------	-----------------------------------

参考文献	歯科医療における院内感染予防対策マニュアル
------	-----------------------

履修上の注意	配布するプリントを参照しながら特に重要である点を中心に説明していきます。
--------	--------------------------------------

回	授業予定	到達目標
1	感染予防学総論	感染予防学を学ぶ意義を理解する。
2	感染経路・院内感染症	①感染経路について説明できる。 ②院内感染症について理解する。
3	滅菌・消毒	①消毒・滅菌について説明できる。 ②消毒・滅菌法の種類および適応を理解する。
4	日和見感染・予防接種	①日和見感染症について理解する。 ②ワクチンの種類について理解する。
5	針刺し事故及び対策	針刺し事故の予防法および事故後の対応について理解する。
6	災害医療	①トリアージについて理解する。 ②災害時に歯科医療従事者ができる事について自分なりに考える事ができる。
7	口腔内の感染症	口腔内における感染症の特徴および原因菌について理解する。
8	まとめ	これまでに学習した内容について、大切なポイントを再認識する。



# 【 臨床検査 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	前城 学	実務経験	歯科医師。熊本大学医学部附属病院中央検査部医員。
授業との関連性	大学病院に勤務する歯科口腔外科医の経験を踏まえ、臨床検査の意義、検査方法、検査結果の判断や歯科衛生士の役割について講義する。		

履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義・実技	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	臨床検査の意義と目的、結果について理解を深める。
------	--------------------------

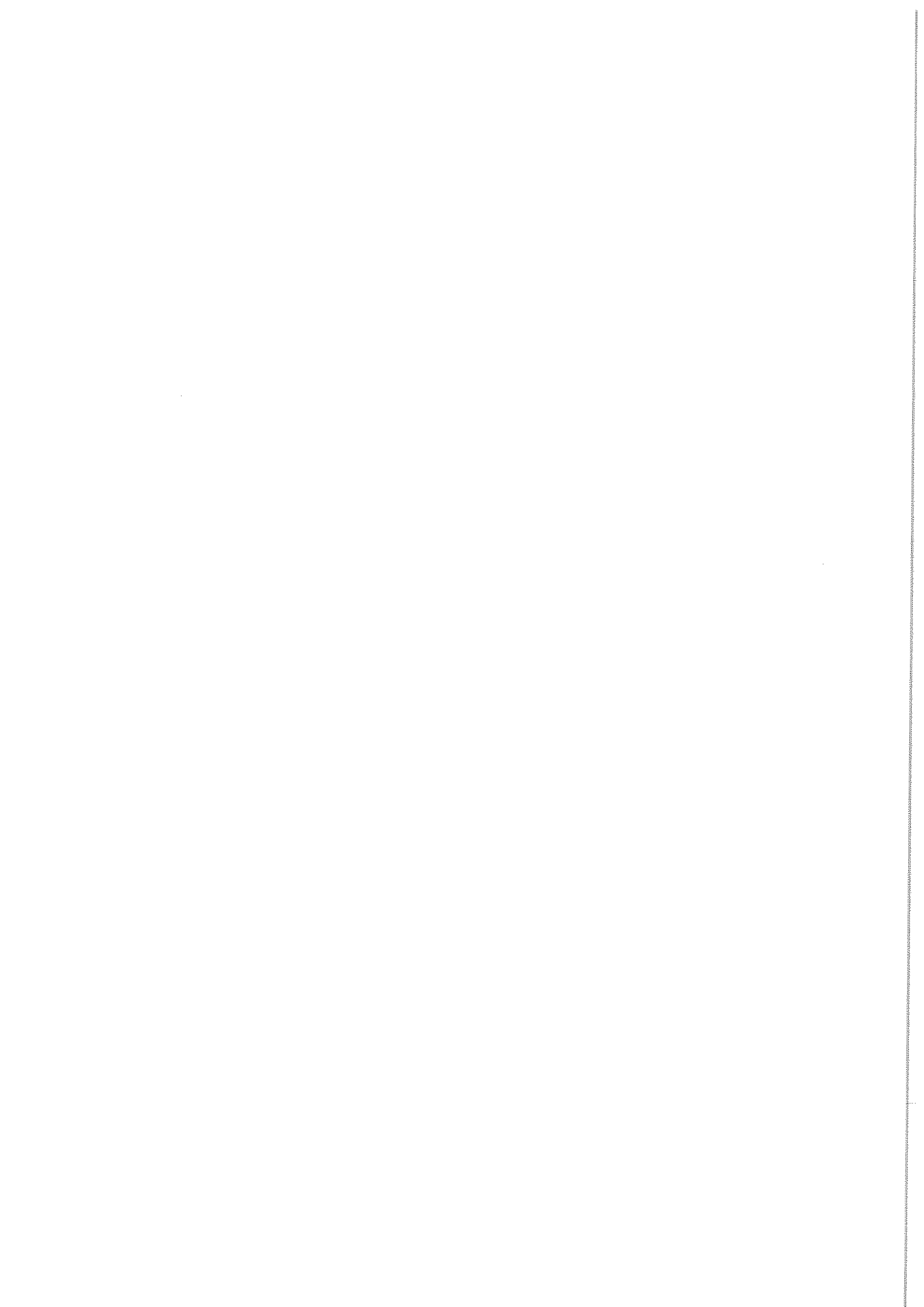
評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	最新「臨床検査」 井上 孝著 医歯薬出版KK
------	------------------------

参考文献	
------	--

履修上の注意	
--------	--

回	授業計画	到達目標
1	臨床検査 序説	検査の必要性の理解 臨床検査における倫理観の習得
2	臨床検査の種類 検査成績の読み方	生体検査と検体検査の理解
3	体温、脈拍、血圧検査	検査の測定法とバイタルサインの数値の理解
4	心機能、肺機能、筋電図、脳波	検査の目的と方法の理解
5	血液検査総論	血液検査の目的と方法の理解
6	血液凝固、線溶系検査	凝固の機序及び出血性素因についての理解
7	生化学検査	肝機能、腎機能を中心とした生化学検査についての理解
8	糖尿病検査、血液型検査	糖尿病の各種検査、血液型判定についての理解
9	感染症	炎症やウイルス感染についての理解
10	細菌検査、病理検査	検査についての理解
11	口臭、味覚、金属アレルギー検査	検査法についての理解
12	唾液、歯、歯周組織の検査	検査の種類、目的の理解
13	摂食・嚥下関連の検査	検査の種類、目的の理解
14	実習(採血、血圧、脈拍、心電図等)	手技の習得
15	テスト対策	復習、わからない箇所の質疑応答



# 【 医療保険事務 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学院

講師名	松岡拓治	実務経験	歯科医師。東京医科歯科大学歯学部冠矯正歯学講座入局。熊本県歯科医師会前理事。歯科診療所院長。
授業との関連性	臨床歯科医、熊本県歯科医師会前理事としての知識、経験を踏まえ、介護保険制度の概要、居宅や施設への訪問診療・口腔健康管理と介護保険の関わりについて講義する。		
講師名	反後雅博	実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。九州看護福祉大学非常勤講師。
授業との関連性	臨床歯科医としての経験を踏まえ、日常診療に係る医療保険制度の概要やコンピューターを活用した歯科診療について講義する。		
講師名	一瀬智美	実務経験	株式会社医療事務部勤務。
授業との関連性	医療事務としての長年の実績をもとに医療保険制度概要や診療報酬制度の基本的な知識について講義する。		
履修学年・学期	3年前期	授業方式	講義・演習
単位数	1単位(30時間)	授業回数	15

授業目標	<p>&lt;松岡拓治&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護保険の内容を理解する。</li> <li>2. 介護保険報酬請求の実務を行える。</li> <li>3. 居宅や施設での口腔ケアの実施にあたり、他職種との連携を図るための知識を獲得する。</li> </ol> <p>&lt;一瀬智美&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療保険制度の概要から診療報酬制度の基本的なしくみ、諸業務のよりどころとなっている法令との結びつき、請求・支払いの流れに至るまでの必要な知識を理解する。</li> </ol> <p>&lt;反後雅博&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療保険を理解する。</li> <li>2. 保険医療の実務を理解し、レセコンを使ってレセプトが発行できるようになる。</li> <li>3. 居宅や施設での口腔ケア等の実施にあたり、他職種との連携を踏むために必要な介護保険の知識を獲得する。</li> </ol>
------	---

評価方法	定期試験(100点満点)
教科書名	「歯科衛生士のための衛生行政社会福祉社会保険 第8版」末高武彦著 医歯薬出版 保険診療ハンドブック 熊本県歯科医師会
参考文献	厚労省のホームページ 介護支援専門員基本テキスト 新訂 医療事務の手引き 平成28年度版 社会保険研究所
履修上の注意	

回	授業計画	到達目標
1	(松岡拓治) 社会保険 P91～93 介護保険の基礎知識	基礎知識の獲得 高齢者の医療福祉の流れと介護保険を理解する。
2	(松岡拓治) 介護保険の基礎知識	基礎知識の獲得 居宅や施設への訪問診療と介護保険の関わりを理解する。
3	(松岡拓治) 介護保険の基礎知識	基礎知識の獲得 請求の実務を理解する。
4	(松岡拓治) 居宅、施設での口腔ケアと介護保険	居宅、施設での口腔ケアの流れと介護保険との関わりを理解する。
5	(松岡拓治) 介護保険の復習	ケアマネージャー資格試験を使用しての演習
6	(反後雅博) 社会保険制度 医療保険制度 P82～88	国家試験の内容を理解する。 医療保険の給付について理解する。
7	(反後雅博) 保険医療の実務 保険証の種類と記載内容の理解 手書きレセプト用紙の項目説明	国家試験問題の内容を理解する。 社会保険行政の組織と法規を理解する。
8	(一瀬智美) 保険医療制度と法規	国家試験の内容を理解する。 医療保険制度について理解する。
9	(一瀬智美) 診療報酬制度の基本的な仕組み 請求・支払いについて	国家試験の内容を理解する。 診療報酬制度の仕組みについて理解する。
10	(反後雅博) 保険診療のハンドブックを用いての説明	指導管理を理解する。
11	(反後雅博) 保険診療のハンドブックを用いての説明	各種交付文書等を理解する。 歯周治療の算定要件を熟知する。 ～SPTによるメンテナンスまで
12	(反後雅博) 保険診療のハンドブックを活用しての説明 レセプトの総括表の作成	レセプト請求の総括表を理解する。 医療事務の概略 各項目の説明と再確認

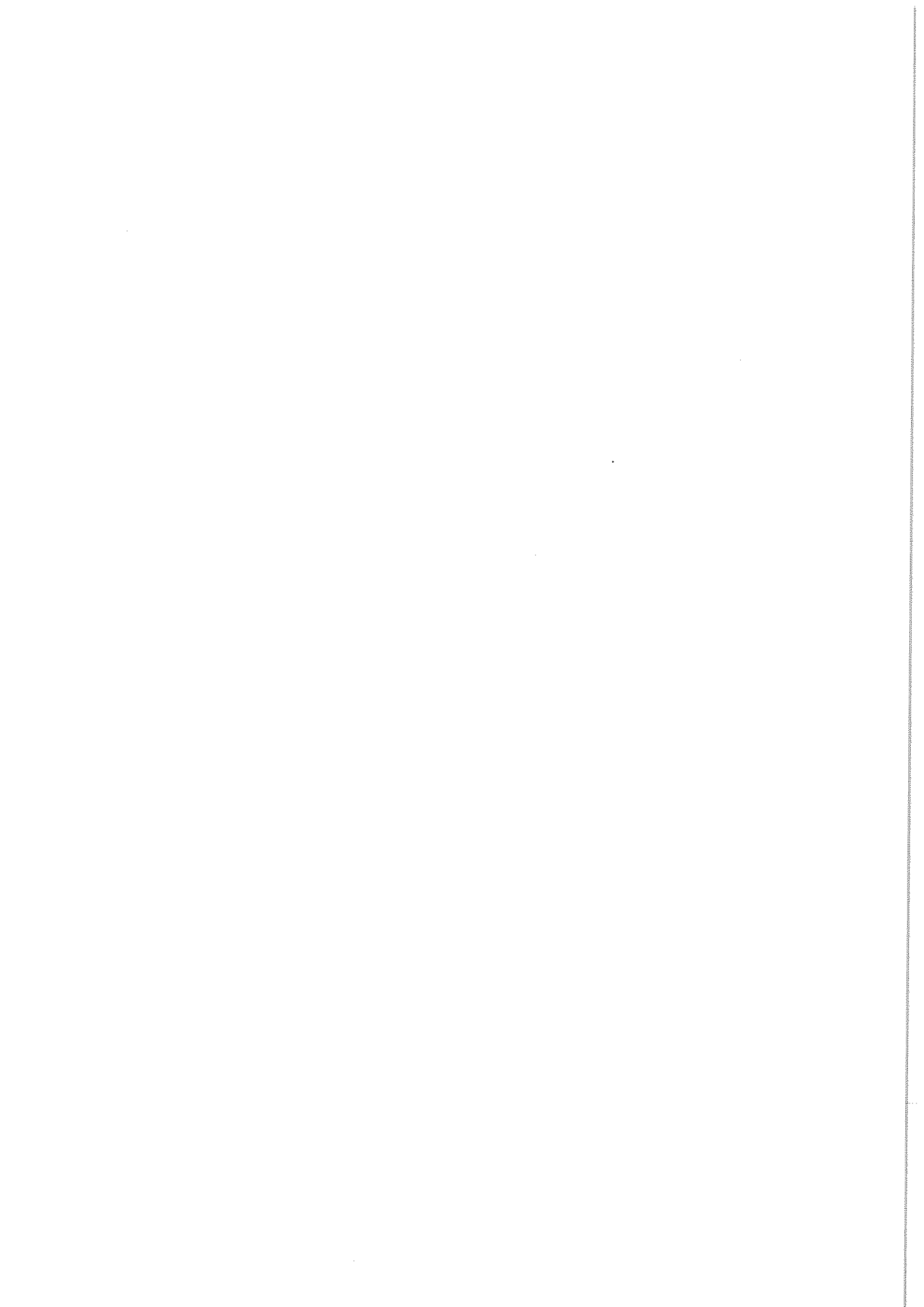
回	授業計画	到達目標
13	(反後雅博)、東和ハイシステム協力 レセコン操作演習①	レセコン操作について学ぶ①
14	(反後雅博)、東和ハイシステム協力 レセコン操作演習②	レセコン操作について学ぶ②
15	(反後雅博)、東和ハイシステム協力 レセコン操作演習③	レセコン操作について学ぶ③



【 介護技術法 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	吉田 司	実務経験	社会福祉士。介護支援専門員。介護福祉士。高齢者総合福祉センターに勤務。
授業との関連性	社会福祉士、介護福祉士としての長年の経験を踏まえ、社会福祉制度の概要や介護の知識や技術、態度について講義・演習する。		
履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義・実技
		単位数	1単位(30時間)
		授業回数	15
授業目標	歯科衛生士として専門的な歯科診療の補助において、高齢者の心身の状態を理解し、身体的ハンディを抱えた要介護者等へ対応できる基本的な介護技術、知識および態度を習得する。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	「高齢者の歯科診療 はじめの一步 介護・介助の基本スキル」内藤 徹 著 医歯薬出版KK		
参考文献	授業中に必要に応じて紹介します。		
履修上の注意	講義の前に教科書を熟読し、事前課題を済ませ講義に出席して下さい。 授業では講義の他、演習(実技)も実施していくので、それに対応できる服装で出席して下さい。		
回	授業予定	到達目標	
1	社会福祉制度とサービス 1. 社会福祉法について 2. 社会福祉制度におけるサービスについて	①社会福祉法の概要を理解できる。 ②社会福祉法における各サービス内容を理解できる。	
2	介護保険制度に関する知識 1. 介護保険制度について 2. 介護保険制度における各種サービスについて	①介護保険制度の仕組みを理解することができる。 ②介護保険制度を利用し、各種サービスを利用するまでの過程を理解することができる。	
3	訪問介護サービスに関する知識 1. 訪問介護サービスとは 2. 訪問介護の業務内容について 3. ホームヘルパーの資格について	①訪問介護サービスの意義を理解することができる。 ②業務内容は何か説明できる。 ③訪問介護に必要な資格とは何か説明できる。	
4	サービス利用者の理解 1. 高齢者の疾患の理解 2. 認知症の理解 3. 介護者の心理の理解	①高齢者の主な疾患と特徴を理解できる。 ②認知症の症状とその対応を覚える。 ③介護者の身体的・精神的な負担を理解できる。	
5	住環境整備の知識 1. 高齢者が安全に生活できる住環境の理解 2. 住宅改修について	①高齢者、障がい者にとって安全な住まいを整えるための基本視点を理解できる。 ②介護保険制度を利用した住宅改修を覚える。	
6	介護に関する知識と方法(衣生活) 1. 衣類の役割 2. 衣類の選択 3. 衣類介助	①衣類のいろいろな役割を理解する。 ②身体状況に適した衣類の選択を理解する。 ③高齢者への衣類介助の方法を習得する。	
7	歯科診療所・施設での要介護者への対応 1. 車椅子の操作方法 2. 移動・移乗の基本 3. 移乗の介助方法	①車椅子の操作方法及び介助の方法を習得する。 ②移動・移乗の基本的知識を理解する。 ③車椅子から診療チェアへの移乗。	
8	寝たきり高齢者への対応 1. 寝たきり高齢者の状態などの理解 2. 寝たきり高齢者の体位 3. 寝たきり高齢者の介助	①寝たきり高齢者の状態を理解する。 ②体位変換の方法を理解する。 ③起き上がり、移乗介助の方法を習得する。	
9	介護に関する知識と方法(食事) 1. 食事介助の基本 2. 食事介助の方法	①食事介助の基本的知識を理解する。 ②嚥下障がい、麻痺等のある高齢者への食事介助の方法を習得する。	
10	介護に関する知識と方法(排泄・身体保清) 1. 排泄介助の基本 2. 排泄介助の方法 3. 身体保清の理解 4. 入浴介助、身体清拭の方法	①排泄介助の基本的知識を理解する。 ②排泄介助の方法を習得する。 ③身体保清の基本的知識を理解する。 ④入浴介助、身体清拭の方法を習得する。	
11	視覚障がい・言語障がいのある人の介護技術 1. 視覚、言語障がいの原因と種類 2. コミュニケーション 3. 視覚障がい者の歩行介助	①視覚障がい・言語障がいの原因と種類を理解する。 ②コミュニケーションの方法及び対応を習得する。 ③視覚障がい者の介助の方法を取得する。	
12	要介護者の介護技術(演習) 1. 食事介助 2. 衣類介助	①演習を通じ食事介助の方法を習得する。 ②麻痺のある高齢者への衣類介助の方法を習得する。	
13	要介護者の介護技術(演習) 1. 車椅子の介助 2. 移動・移乗の介助	①車椅子の操作方法を習得する。 ②ベッド、車椅子、ユニット間の移乗介助を習得する。	
14	視覚障がい者の介護技術(演習) 1. 歩行介助 2. 誘導介助 3. 食事介助	①目的地までの歩行介助の方法を習得する。 ②椅子への誘導介助を習得する。 ③食卓にある食事内容の説明及び介助方法を習得する。	
15	要介護者の介護技術(演習まとめ) 1. 実践的な演習 2. 確認テスト(予定)	①車椅子での移動介助、移乗介助全般を歯科衛生士活動で対応できるように、ユニットを使用し、より実践的な介護技術を習得する。 ②定期テスト前に理解度を確認する目的で実施する。	



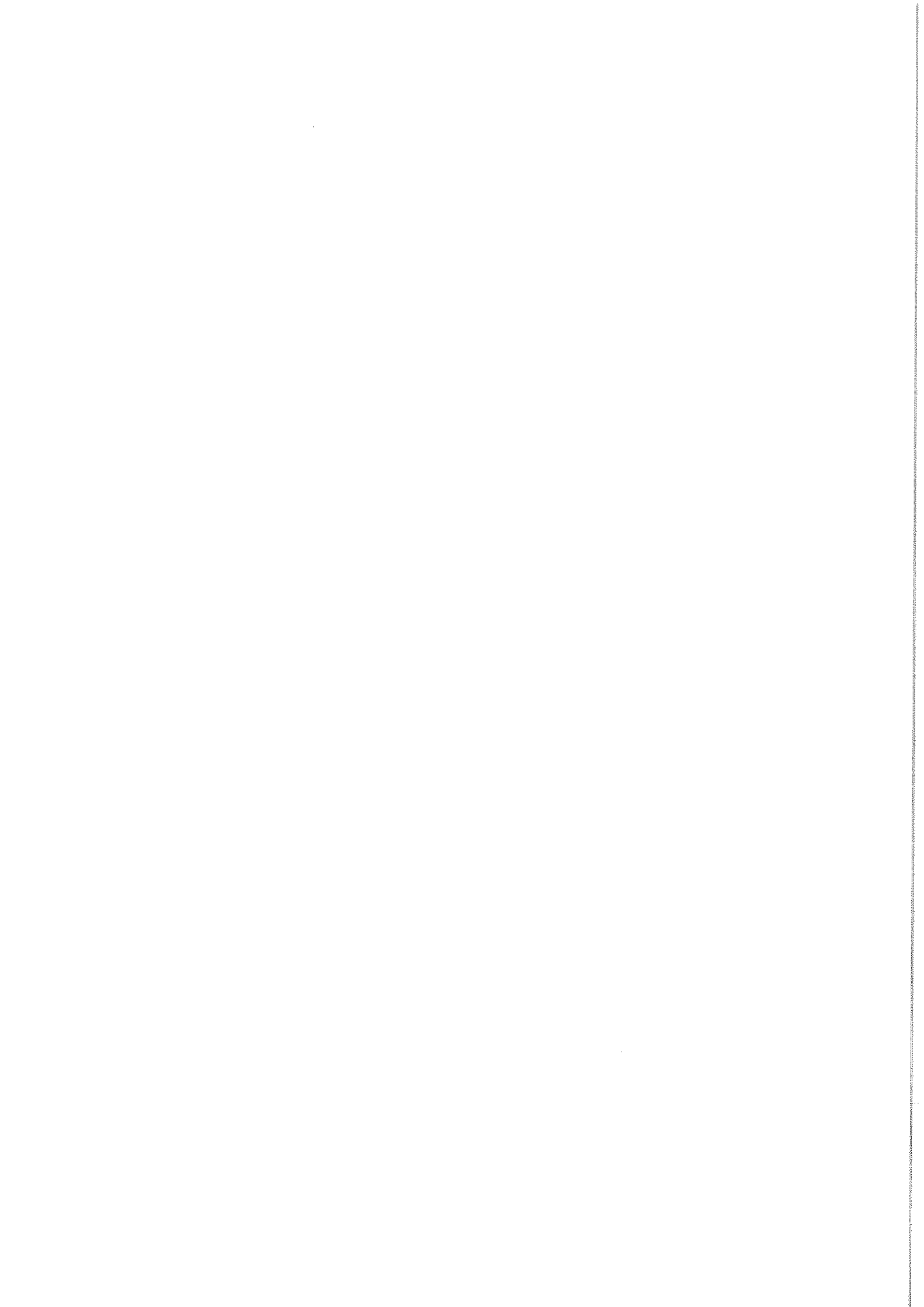
# 【 摂食機能訓練法 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	我那覇生純	実務経歴	歯科医師。摂食嚥下リハビリテーション学会認定士。歯科診療所院長。
授業との関連性	摂食嚥下リハビリテーション学会認定士としての知識や経験を踏まえ、摂食嚥下機能の基礎知識や評価方法、介入のし方、また多職種との連携について講義・演習する。		

履修学年・学期	2年後期	授業方式	講義・実技	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	----

授業目標	歯科衛生士の職業に対して、夢と希望と可能性を感じ、自らがそのミッションを果たして行くという想いを描けるようになる。 口腔機能に対するアプローチ、口腔リハビリテーションについて、知識と技術を学ぶ。 チーム医療の中で多職種との協働を果たす役割を知る。		
評価方法	定期試験(100点満点)		
教科書名	講師資料 最新歯科衛生士教本「高齢者歯科第2版」全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版		
参考文献	必要に応じて参考資料を準備して配布します。		
履修上の注意	初めて聞く言葉、用語に関心を持ち、予習して授業に臨み、集中して授業を聴き、復習を通して理解を深める。解らない事は講師を尋ねて質問をして理解する。		
回	授業計画	到達目標	
1	歯科衛生士の働き リハビリテーション医学とは 口腔のリハビリテーションとは 障がいのみかた チーム医療 高齢者の特徴とリハビリテーション上の問題点	在宅歯科医療・訪問歯科医療、病棟、介護施設、障がい者施設において、歯科衛生士に必要とされる口腔機能に対するアプローチに対して、知識、技術を学ぶスタート地点に立つ。	
2	口腔機能の評価方法について 観察 診察 スクリーニング	口腔機能の評価方法について学ぶ	
3	口腔リハビリテーションに必要とされる口腔生理学、口腔解剖学の理解 嚥下内視鏡(VE) 嚥下造影検査(VF)	摂食嚥下機能を理解する為に、口腔・咽頭・喉頭の解剖学と生理学を学ぶ。 嚥下造影検査(VF)、嚥下内視鏡検査(VE)についての理解をする。	
4	誤嚥と誤嚥性肺炎 誤嚥、窒息への対応	高齢者に多い誤嚥性肺炎についての原因、症状、治療法を理解する。歯科衛生士が関わり誤嚥性肺炎の予防について理解する。	
5	嚥下訓練について 間接訓練	嚥下訓練の間接訓練の方法と手技について相互実習を通して理解する。	
6	嚥下訓練について 直接訓練	食べ物を使い行う直接訓練について相互実習を通して理解する。	
7	在宅訪問歯科診療における摂食嚥下リハビリテーション	在宅における間接訓練と直接訓練の方法と実際の様子を理解する。	
8	小児の摂食嚥下リハビリテーション1	乳幼児の摂食機能についての理解を深める。	
9	小児の摂食嚥下リハビリテーション2	乳幼児、小児の口腔機能に対するリハビリテーションについて学び、バンケード法について相互実習を通して理解する。	
10	介護施設における摂食嚥下リハビリテーション	介護保険施設における間接訓練と直接訓練の方法と実際の様子を理解する。	
11	介護保険制度について	介護保険制度が出来た事の理解 介護保険施設とは、介護サービスの種類の理解 歯科医療に関わる介護保険サービスについて理解を深める。	
12	在宅患者へのリハビリテーションの実際	在宅で療養していく方々に関わる職種と一緒に教室に来て、実際の口腔機能に対するアプローチを見ながら、これからの歯科衛生士に求められる知識と技術を学ぶ。	
13	認知症の方へのアプローチ	歯科医療が認知症の方々にどのように関わり合えば良いのか、歯科衛生性としての関わり方について理解する。	
14	多職種との連携について ケアマネとの連携 管理栄養士との連携 薬剤師との連携 NSTについて	在宅、施設、介護施設において、また、地域の行政や関連機関との連携を通して、一人の患者に対してどのような支援が歯科衛生士として行えるのかを理解する。NSTにおける歯科衛生士の役割について理解する。	
15	まとめ これまでの講義の重要事項の確認 実際の現場における歯科衛生士の働き	実際の摂食嚥下訓練の様子と口腔リハビリ、歯科衛生士の活動の様子を紹介して、これから求められる歯科衛生士像を提示する。	



## 【 歯科衛生学実習・臨床実習 】 令和2年度 シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	臨床実習指導歯科医師、歯科衛生士	実務経験	各病院歯科口腔外科、各歯科診療所の歯科医師・歯科衛生士
授業との関連性	臨床歯科医師並びに臨床歯科衛生士としての豊富な経験を踏まえ、医療人の基本姿勢や歯科衛生士として必要な知識、技術について指導を行う。		

### 臨床実習の目的

1年次、見学を通し、歯科医療サービスの特徴や歯科衛生士の業務を理解し、将来の歯科衛生士像を明確にする。  
 その後、2年次において、基礎実習及びすでに履修している臨床歯科医学に基づき、歯科治療全体の流れを理解する。  
 また3年次においては、これまでに修得した臨床歯科医学の知識及び技術の各論を確実なものとするを目的とする。

### 臨床実習の評価

出席状況を評価し欠席の場合は補充実習を実施する。また各臨床実習施設にて評価表に基づき評価、今後の課題を明記していただき個々の学生に指導を行う。

名称	歯科衛生学実習	臨床実習 I
該当学年	1年生(第57期生)	2年生(第56期生)
日程	令和2年 9月7日(月)～令和2年9月11日(金)	令和2年 2月1日(月)～令和2年2月27日(土)
総日数	5日間	20日間
単位数(総時間)	1単位 (45時間)	4単位(180時間)
実習時間	8:30～17:30 (1日 9時間) * 昼食時間を含む	8:00～17:00 又は 8:30～17:30(1日 9時間) * 昼食時間を含む
実習機関及び学生割り振り	一般歯科医院・歯科口腔病院 1歯科医院 1～2名 * 但し、学生数により人数の変更や実習施設のお休みもあります。	一般歯科医院・歯科口腔病院 1歯科医院 2～3名 * 但し、学生数により人数の変更や実習施設のお休みもあります。
目的	見学を通し、歯科医療サービスの特徴や歯科衛生士の業務を理解し、将来の歯科衛生士像を明確にする。	1年次に学んだ基礎実習及び、すでに履修した臨床歯科医学に基づき、歯科治療全体の流れを理解する。
一般目標	(1)見学するに見合う態度と心構えを身につける。 (2)受付から処置、退出までの歯科医療の概要を学ぶ。 (3)歯科衛生士としての専門職を見学し、歯科医療における役割を理解する。	(1)診療の介助及び補助を学ぶ。 (2)環境、器材、材料等の整備ができる習慣を身につける。 (3)目標を達成するために、学習習慣を身につける。
行動目標	(1)見学するに見合う態度と心構えを身につける。 ①医療人として身だしなみは清潔・機能的である。 ②患者さんやスタッフに対して、挨拶ができる。 ③相手に応じた正しい言葉遣いができる。 ④謙虚な姿勢で実習に取り組むことができる。 ⑤わからないことを積極的に質問できる。 ⑥自己の健康管理ができる。 ⑦担当者に報告・連絡・相談ができる。 (2)受付から処置、退出までの歯科医療の概要を学ぶ。 ①見学内容の理解を深めるために、実習手帳に記録することができる。 ②わからないことは自分で調べ記録することができる。 (3)歯科衛生士としての専門職を見学し、歯科医療における役割を理解する。 ①歯科衛生士の歯科診療における役割を説明することができる。	(1)診療の介助及び補助を学ぶ。 ①対象者の心理を理解し、配慮ができる。 ②適切な診療器材を選択し、準備ができる。 ③対象者と望ましいコミュニケーションをとることができる。 (2)環境、器材、材料等の整備ができる習慣を身につける。 ①患者が快適な診療を受けられるように環境を整備することができる。 ②滅菌・消毒の意義を考えながら適切な方法で滅菌、消毒を行うことができる。 ③器械、器具、材料、薬品の用途を理解することができる。 ④医療廃棄物の取り扱いについて担当者の指導のもとに適切に処理することができる。 (3)目標を達成するために、学習習慣を身につける。 ①意欲的に取り組むことができる。 ②疑問点について列挙し、積極的に調べることができる。 ③疑問点についてわからないことは質問することができる。 ④必要な文献や資料を収集し、適切にまとめることができる。

(備考) 1. 歯科衛生学実習は臨床実習扱いではなく、学科目「歯科衛生学」の扱いになります。

名 称	臨床実習Ⅱ	
該当学年	3年生(第55期生)	
日 程	令和2年6月1日(月)～令和2年7月11日(土) / 令和2年9月28日(月)～令和2年12月11日(金)	
総日数	70日間	
単位数 (総時間)	14単位(630時間)	
実習時間	8:00～17:00 又は 8:30～17:30 (1日 9時間) * 昼食時間を含む	
実習機関 及び 学生割り振り	熊本大学病院 4名ずつ 上記以外の病院・歯科口腔病院 2名ずつ 一般歯科医院 1～2名ずつ 矯正歯科医院 1～2名ずつ * 但し、学生数により人数の変更や実習施設のお休みもあります。	
目的	・これまでに履修した臨床歯科医学の知識及び技術の各論を確実なものとする。 ・外来・入院患者に応じた対応を学び、対象者を包括的に評価、理解する能力を身につける。 ・歯科衛生士の担う役割を理解し、歯科診療、専門的口腔ケアを通じ、全身の健康維持増進、生活の質の向上に貢献できる能力を身につける。	
該当施設	一般歯科医院/矯正歯科医院	病院(歯科外来・病棟)/歯科口腔病院
一般目標	(1)医療職としての基本姿勢を身につける。 (2)学院内で修得した知識、技術を実践できる能力を身につける。 (3)予防処置・保健指導を実施するために必要な知識と技術を学ぶ。 (4)患者教育に必要な知識と技術を学ぶ。	(1)医療職としての基本姿勢を身につける。 (2)対象者の状態を包括的に把握し、健康段階に応じた生体機能の変化を理解する。 (3)予防処置・保健指導を実施するために必要な知識と技術を学ぶ。 (4)患者教育に必要な知識と技術を学ぶ。 (5)口腔保健の専門職としての役割と多職種との連携を学ぶ。
行動目標	(1)医療職としての基本姿勢を身につける。 ①自己の健康管理に努めることができる。 ②安心・安全な医療を理解し、感染予防に努めることができる。 ③与えられた業務に対して、報告・連絡・相談ができる。 ④自己を客観的に評価し、自ら向上するために、知識と技術の研鑽に努めることができる。 ⑤対象者と望ましいコミュニケーションをとることができる。 (2)学院内で修得した知識、技術を実践できる能力を身につける。 ①必要な器械、器具、材料、薬品の準備管理をすすめることができる。 ②診療の補助・介助業務ができる。 ③資料収集のための補助・介助業務ができる。 (3)予防処置・保健指導を実施するために必要な知識と技術を学ぶ。 ①口腔と全身疾患との関連を説明することができる。 ②正確な口腔内観察ができる。 ③記録の必要性を自覚し正確な記録ができる。 ④対象者へ適切な予防処置ができる。 ⑤対象者へわかりやすい保健指導ができる。 ⑥歯科衛生過程の流れを理解し実施できる。 (4)患者教育に必要な知識と技術を学ぶ。 ①対象者へ補綴物の取り扱いと装着後の指導ができる。 ②対象者へ外科手術前後の注意事項を説明できる。 ③口腔筋機能療法の介助ができる。 ④対象者へ矯正装置装着の取り扱い、撤去後の指導ができる。	(1)医療職としての基本姿勢を身につける。 ①自己の健康管理に努めることができる。 ②安心・安全な医療を理解し、感染予防に努めることができる。 ③与えられた業務に対して、報告・連絡・相談ができる。 ④自己を客観的に評価し、自ら向上するために、知識と技術の研鑽に努めることができる。 ⑤健康状態が変化しやすい疾病を持つ対象者の身体的・心理状態に配慮したコミュニケーションをとることができる。 (2)対象者の状態を包括的に把握し、健康段階に応じた生体機能の変化を理解する。 ①対象者の病期を理解し、疾患の特徴に応じた配慮ができる。 ②対象者に起こるインシデントを予測し、安全に対応できる。 ③周術期の対象者に与える侵襲を説明することができる。 (3)予防処置・保健指導を実施するために必要な知識と技術を学ぶ。 ①口腔と全身疾患との関連を説明することができる。 ②正確な口腔内観察ができる。 ③記録の必要性を自覚し正確な記録ができる。 ④対象者へ適切な予防処置ができる。 ⑤対象者へわかりやすい保健指導ができる。 ⑥歯科衛生過程の流れを理解し実施できる。 (4)患者教育に必要な知識と技術を学ぶ。 ①対象者へ補綴物の取り扱いと装着後の指導ができる。 ②対象者へ外科手術前後の注意事項を説明できる。 (5)口腔保健の専門職としての役割と多職種との連携を学ぶ。 ①個別性に合った口腔のケアのアセスメントを立案できる。 ②急性期・周術期・回復期・維持期・終末期の口腔のケアの必要性和手技の説明ができる。 ③口腔機能向上の手技の説明ができる。 ④口腔機能診断・訓練・評価の介助ができる。 ⑤チーム医療において歯科衛生士の役割を説明することができる。 ⑥多職種の役割を説明することができる。 ⑦多職種と積極的にコミュニケーションを図り連携をとることができる。

# 【 臨地実習 】令和2年度 シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	臨地実習指導担当者	実務経験	①各障害者施設、高齢者施設における社会福祉士、介護福祉士、保育士、作業療法士、歯科衛生士。 ②各区役所における歯科医師、歯科衛生士。 ③口腔保健センターにおける歯科医師、歯科衛生士。
授業との関連性	①各障害者施設、高齢者施設において各専門職の経験を活かし、さまざまな人の生き方、対象者の立場を尊重したコミュニケーションのあり方、口腔保健の支援ができる態度と技能を教育する。 ②各区役所での歯科医師、歯科衛生士などの経験を活かし、区役所保健子ども課の概要を理解し、多職種との連携における口腔保健サービスの展開を教育する。 ③口腔保健センターにおける歯科医師、歯科衛生士の経験を活かし障害の特徴を理解し、対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学び、専門的立場から対象者にあった口腔保健の支援ができるように教育する。		

項目	障がい者施設実習	高齢者施設実習
実施期間	3年次 令和2年8月17日(月)～9月2日(水) 施設によっては日程が変更の場合もあります。	
実習曜日	1人当り3日間(月～水曜日) 祭日を含む時は木曜日も実習	1人当り3日間(月～水曜日) 祭日を含む時は木曜日も実習
実習時間	8:30～17:00(7.5時間) ※施設によっては開始時間の 変更もあります。	8:30～17:00(7.5時間) ※施設によっては開始時間の 変更もあります。
時間数	22.5	22.5
施設数	5施設	5施設
単位数	1単位	
評価	出席状況を評価し欠席の場合は補充実習を実施する。また各臨床実習施設にて評価表に基づき評価、今後の課題を明記していただき個々の学生に指導を行う。	
目的	心身障がい者施設において、障がいの特徴を理解し、対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学ぶ。また専門的立場から心身の機能に合った口腔保健の支援をすることができる能力を養うことを目的とする。	高齢者施設の現場において、さまざまな人の生き方、対象者の立場を尊重したコミュニケーションのあり方を学ぶ。また、専門的立場から本人又は介助者へ口腔保健の支援が実践できる能力を養い、生活の質の向上に寄与する能力を身につけることを目的とする。
一般目標	(1)社会福祉に関して正しく理解し、幅広い社会観や人生観を養う。 (2)対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学ぶ。 (3)障がいの種類と特徴を学ぶ。 (4)日常生活介助の方法を修得する。 (5)専門的立場から口腔保健支援の態度と技能を学ぶ。	(1)社会福祉に関して正しく理解し、幅広い社会観や人生観を養う。 (2)対象者の立場を尊重したコミュニケーションのあり方を学ぶ。 (3)高齢者の身体及び生理の特徴を学ぶ。 (4)日常生活介助の方法を修得する。 (5)専門的立場から口腔保健支援の態度と技能を学ぶ。
行動目標	(1)社会福祉に関して正しく理解し、幅広い社会観や人生観を養う。 ①ノーマライゼーションの理念を的確に説明できる。 ②障がい者施設の種類と特徴を説明することができる。 ③施設で働く職種と業務(役割)を簡単に説明できる。 ④歯科に関わる福祉サービスについて簡単に説明できる。 ⑤他職種と連携のあり方を理解することができる。 (2)対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学ぶ。 ①対象者の立場を尊重した適切な対応、傾聴、受容ができる。 ②障がい者の対応に必要な声掛けやコミュニケーションがとれる。 (3)障がいの種類と特徴を学ぶ。 ①障がいの種類について説明することができる。 ②各種障がいについて身体的・精神的特徴について説明できる。 (4)日常生活介助の方法を修得する。 ①車椅子など生活支援用具の的確な操作ができる。 ②対象者の心身状態に合わせて食事介助ができる。 (5)専門的立場から口腔保健支援の態度と技能を学ぶ。 ①障がい者についての口腔保健管理に必要な情報が収集できる。 ②適切な環境と安全の確保ができる。 ③口腔内細部まで観察することができる。 ④障がい者に対する口腔ケアが実践できる。 ⑤口腔保健管理の必要性を述べることができる。 ⑥歯磨きの自立を援助することができる。	(1)社会福祉に関して正しく理解し、幅広い社会観や人生観を養う。 ①ノーマライゼーションの理念を的確に説明できる。 ②高齢者施設の種類と特徴を説明することができる。 ③施設で働く職種と業務(役割)を簡単に説明できる。 ④他職種と連携のあり方を理解することができる。 (2)対象者の立場を尊重したコミュニケーションのあり方を学ぶ。 ①対象者の立場を尊重した適切な対応、傾聴、受容ができる。 ②対象者に応じたスピードで話すことができる。 (3)高齢者の身体及び生理の特徴を学ぶ。 ①加齢に伴う身体の特徴を説明できる。 ②対象者の抱える疾病と特徴を簡単に説明できる。 (4)日常生活介助の方法を修得する。 ①車椅子など生活支援用具の的確な操作ができる。 ②対象者の心身状態に合わせて食事介助ができる。 (5)専門的立場から口腔保健支援の態度と技能を学ぶ。 ①高齢者についての口腔保健管理に必要な情報が収集できる。 ②口腔衛生時に適切な環境と安全の確保ができる。 ③口腔内細部まで観察することができる。 ④高齢者や介助者に対する口腔ケアが実施できる。 ⑤口腔保健管理の必要性を述べることができる。

項 目	区役所実習	口腔保健センター
実 施 期 間	令和2年8月17日(月)～8月31日(木)	令和2年6月2日(火)～月日()
実 習 曜 日	1人当り4日間(月～木曜日)	1人当り2日間(火・木曜日)
実 習 時 間	8:30～17:00(7.5時間)	9:00～17:30(7.5時間)
時 間 数	32	13
施 設 数	5施設(うち5施設受入れ未定)	—
単 位 数	1単位	
評 価	出席状況进行评估し欠席の場合は補充実習を実施する。また各臨床実習施設にて評価表に基づき評価、今後の課題を明記していただき個々の学生に指導を行う。	
目 的	<p>1. 地域における保健福祉サービスの拠点である区役所保健子ども課の概要を理解する。</p> <p>2. 多職種との連携における歯科保健サービスの展開を理解する。</p>	<p>地域医療としての口腔保健センターにおいて、障がいの特徴を理解し、対象者に応じたコミュニケーションのあり方を学ぶ。また、専門的立場から対象者にあつた口腔保健の支援ができる能力を養うことを目的とする。</p>
一 般 目 標 行 動 目 標	<p>(抜粋)</p> <p>(1) 区役所保健子ども課の概要を理解する。</p> <p>(2) 歯科口腔保健の推進に関する法律、地域保健法及び健康増進法に基づく保健福祉活動を理解する。</p> <p>(3) 全身の健康と口腔の健康の関連を理解し、総合的に対象者の状態を把握する能力を身につける。</p> <p>(4) 対象者に応じた話し方や言葉遣いを修得する。</p> <p>(5) 集団に対する健康教育の方法と技術を実践を通して身につける。</p> <p>(6) フッ化物についての有効性、安全性及び注意点を正しく理解する。</p> <p>(7) フッ化物塗布及び洗口法の各種実施方法を修得する。</p>	<p>(1) 障がいの種類と特徴を学ぶ。</p> <p>(2) 障がい者歯科における患者対応の困難性を理解し、それに対する歯科衛生士の行動調整法を学ぶ。</p> <p>(3) 障がい者への対応に必要な歯科衛生士としての態度、姿勢を学ぶ。</p> <p>(4) 口腔保健センターの特徴を学ぶ。</p> <p>(1) 障がいの種類と特徴を学ぶ。</p> <p>① 障害の種類・程度について説明することができる。</p> <p>② 障がいに応じて投与される主な服用薬剤の各種作用・副作用を述べることができる。</p> <p>(2) 障がい者歯科における患者対応の困難性を理解し、それに対する歯科衛生士の行動調整法を学ぶ。</p> <p>① 障害者の医療に対する理解と適応行動のの困難性を踏まえて声掛けができる。</p> <p>② 運動と姿勢抑制の困難性をふまえて治療時の歯科衛生士の補助ができる。</p> <p>③ 行動変容法の技法を説明できる。</p> <p>④ 体動コントロールの補助ができる。</p> <p>⑤ 精神鎮静法について説明できる。</p> <p>(3) 障がい者への対応に必要な歯科衛生士としての態度、姿勢を学ぶ。</p> <p>① 障がい者の家族、介護者から情報収集ができる。</p> <p>② 障がい者に対する口腔ケアが実践できる。</p> <p>③ 障害者歯科における業務記録の作成ができる。</p> <p>(4) 口腔保健センターの特徴を学ぶ。</p> <p>① 地域医療器官としての役割が説明できる。</p> <p>② 障がい者を取り巻く歯科医療環境を説明できる。</p>



# 【 総合歯科学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	各分野担当講師	実務経験	各歯科診療所歯科医師、歯科衛生士。大学教授。管理栄養士。本学院専任教員(歯科衛生士)。
授業との関連性	夫々の経験を活かし、これまで学んだ歯科衛生士としての必要な知識をさらに確認することで歯科衛生士国家試験に合格できるよう講義を行う。		

履修学年・学期	3年後期	授業方式	講義	単位数	5単位(150時間)	授業回数	75
---------	------	------	----	-----	------------	------	----

授業目標	広範囲にわたる歯科医療に関する知識を再確認し、歯科衛生士国家試験に合格できるための知識を習得することを目的とする。
------	---

評価方法	定期試験(220点満点) 歯科衛生士国家試験に合わせた出題とし132点以上を合格とする。
------	--

教科書名	各学科目の教本 国家試験のための問題集
------	---------------------

履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の前には、わからないことなどを確認し、講義は質問などをし積極的に受講すること。</li> <li>2. 事前に配布された問題等は、必ず解答し受講すること。</li> <li>3. 教本、ノート、問題集など指示されたものは忘れず持参すること。</li> <li>4. 歯科衛生士国家試験合格を目指し、講義で行われる小テスト等は良い点がとれるよう努力すること。</li> </ol>
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	(生理学分野) 口腔生理学分野国家試験直前対策	生理学に関する国家試験問題を解きながら大切なポイントを理解する。
2	(病理学分野) 第1章～第5章	病理学の大切なポイントを理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
3	(歯科補綴学分野) 歯科補綴学の概論	歯科補綴の概要について理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
4	(解剖学分野) 人体解剖学の総論 国家試験問題解説	人体解剖学の総論について再度確認する。 国家試験問題を解き、理解を深め、国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
5	(歯内療法学分野) 歯内療法学の概要と治療に使用する器械、器具の用途、使用目的等の理解と薬剤の理解	歯内療法学の概要と治療に使用する器械、器具の用途、使用目的等の理解と薬剤の理解 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
6	(高齢者歯科学分野) 高齢者の現状、健康と疾病、高齢者の口腔の特徴、高齢者と薬剤について、高齢者の歯科疾患と歯科衛生士の関わりについて	高齢者、高齢者歯科に関わる基礎知識を理解する。 国家試験に出題されている関連事項を理解する。
7	(障がい者分野) 国家試験問題の疑問点確認、復習	国家試験に関わる疑問点について理解する。
8	(歯科予防処置法分野) 歯科予防処置の概要、口腔の汚れ、歯・口腔の状態把握	口腔の汚れ、歯・口腔の状態把握の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
9	(栄養指導分野) 国試の麗人 8-1 生化学の解説 8-2 栄養素の解説	生化学の概要、栄養素について理解を深める。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
10	(口腔衛生学分野) 口腔衛生学テキスト第1章～4章 国家試験問題の解説 質疑応答	口腔衛生学の領域において、国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
11	(歯科臨床総論分野) 復習① 国家試験問題解説	歯科臨床総論に関する分野の理解を深める。 国家試験に関する問題を解き、重要ポイントを理解する。
12	(解剖学分野) 人体解剖学の各論 国家試験問題の解説	解剖学分野について過去の国家試験問題を解きながら出題の傾向を確認する。
13	(歯内療法学分野) 歯内療法に関する疑問点、不明な所の質疑応答と国家試験問題の解説	国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
14	(栄養指導分野) 国試の麗人 8-3 食生活 8-4 食生活指導の基礎	食生活、食事摂取指導の基礎について理解する。 国家試験に出題された問題を解き、再確認する。
15	(微生物学分野) 国家試験問題解説①	これまでに出版された国家試験の問題を解き理解力を身につける。
16	(歯周療法学分野) 歯周療法の概要	歯周療法の概要がわかる。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
17	(保存修復学分野) 保存修復各論	保存修復の各論について理解する。 国家試験に多く出題される大切なポイントを確認する。
18	(歯科診療補助法分野) 主要材料の種類、取り扱いと管理	主要材料の種類と取り扱いについて理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。

回	授業計画	到達目標
19	(歯科予防処置法分野) ブローピング、スケーラーの種類と用途、スケーリング 国家試験問題解説	ブローピング、スケーラーの種類、スケーリングの重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。
20	(歯科口腔放射線学分野) 過去の国家試験問題、予想問題の解説	過去の国家試験問題を解いて、国家試験に合格できる理解力を身につける。
21	(口腔衛生学分野) 口腔衛生学テキスト第1～4章 国家試験問題の解説	口腔衛生学分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。
22	(歯科衛生士概論分野) 歯科衛生士法と業務、歯科衛生士義務等について	歯科衛生士法について重要な項目を再度確認し理解する。
23	(生理学分野) 口腔生理学分野国家試験直前対策	生理学に関する国家試験問題を解きながら大切なポイントを理解する。
24	(歯科補綴学分野) 歯科補綴各論 各補綴物の長所、短所など	各補綴物の長所や短所を理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
25	(歯科予防処置法分野) 歯面研磨、PMTC	歯面研磨、PMTCについて再確認する。 国家試験に関する出題を解き大切なポイントを理解する。
26	(歯科臨床総論分野) 復習① 国家試験問題解説	歯科臨床総論に関する国家試験問題を解きながら大切なポイントを理解する。
27	(生理学分野) 生理学全般①	生理学において、国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
28	(歯牙解剖学分野) 歯科解剖学の再確認 歯牙 国家試験問題解説	歯牙解剖に関する出題基準を理解し、関連項目の理解を深める。 過去の国家試験問題を解き、大切なポイントを再確認する。
29	(歯牙解剖学分野) 歯科解剖学の再確認 歯周組織 国家試験問題解説	歯牙解剖に関する出題基準を理解し、関連項目の理解を深める。 過去の国家試験問題を解き、大切なポイントを再確認する。
30	(微生物学分野) 国家試験問題解説②	微生物学分野について重要なポイントを過去の問題を解きながら確認する。
31	(歯周療法学分野) 歯周治療 イニシャルプレパレーションの準備と補助 外科的歯周療法用器具の種類と説明	歯周治療、イニシャルプレパレーションの準備と補助、外科的歯周療法用器具と用途について理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
32	(保存修復学分野) 保存修復の概要について	保存修復の概要について理解する。 国家試験に多く出題される大切なポイントを確認する。
33	(歯科器械学分野) 各種診療器材① 国家試験問題の解説	歯科診療に用いる器材について名称と用途を理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
34	(歯科保健指導法分野) 対象把握 歯科衛生過程の進め方、生活自立度、 BDR指標 全身状態の把握	国家試験の出題基準である対象把握と全身状態把握のポイントを理解することができる。
35	(歯科口腔放射線学分野) 過去の国家試験問題、予想問題の解説	過去の国家試験問題を解き、予想問題を理解する。
36	(小児歯科学分野) 小児の発育 小児歯科疾患 国家試験練習問題	小児の発育、小児歯科疾患の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
37	(衛生公衆衛生学分野) 新しく変わった部分の解説 プリント解説 小テスト	衛生公衆衛生学分野において、新しく変更になったり、追加された項目について理解する。 国家試験によく出題される大切なポイントを確認する。
38	(病理学分野) 第6章～第8章	病理学分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
39	(歯科診療補助法分野) 保存治療時の診療補助 補綴治療時の診療補助	保存、補綴治療時の歯科診療補助分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
40	(保健指導法分野) 保健指導概要 保健教育 ヘルスプロモーション 国家試験のための練習問題と解説	保健指導の概要、ヘルスプロモーション、保健教育等言葉の意味を理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
41	(組織発生学分野) 組織発生学に関する補習講義 国家試験問題解説	組織発生学分野について概要を理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
42	(歯科材料学分野) 印象材、歯冠修復材	印象材、歯冠修復剤について理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。

回	授業計画	到達目標
43	(口腔外科学分野) 口腔外科疾患① 国家試験問題解答と解説	口腔外科疾患について理解する。 国家試験に多く出題される大切なポイントを確認する。
44	(生理学分野) 生理学全般②	生理学分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。
45	(口腔病理学分野) 歯の発育異常 う蝕 象牙質・歯髄・複合体の病変 国家試験問題	歯の発育異常、う蝕等の大切なポイントを理解する。 国家試験問題により、出題ポイントを認識する。
46	(歯科予防処置法分野) 小窩裂溝填塞、フッ化ジアンミン銀塗布	小窩裂溝填塞、フッ化ジアンミン銀塗布の重要なポイントについて再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。
47	(歯科診療補助法分野) 口腔外科治療時の診療補助 矯正歯科治療時の診療補助	口腔外科、矯正治療時の歯科診療補助について重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
48	(歯科衛生統計学分野) 2年次講義の復習② 国家試験問題演習	歯科衛生統計分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
49	(歯科器械学分野) 各種診療器材② 国家試験問題の解説残り	歯科診療に用いる器材について名称と用途を理解する。 国家試験に出題された問題を解き、復習をする。
50	(保健指導法分野) 歯・口腔の状態把握 歯垢染色剤 口腔汚染度評価 国家試験のための練習問題と解説	口腔の汚染度の確認手段、評価方法について再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。
51	(公衆歯科衛生学分野) 歯磨剤について 指数(特にCPI) 国家試験過去問、テキストに沿った解説補足	歯磨剤、統計指数について理解を深める。 過去の国家試験問題を解き関連する重要ポイントを理解する。
52	(薬理学分野) 総論 中枢神経系作用薬 末梢神経作用薬 呼吸・循環器作用薬	総論、中枢神経系作用薬、末梢神経作用薬、呼吸・循環器作用薬について大切なポイントを再確認する。 国家試験問題を解き知識を深める。
53	(小児歯科学分野) 小児期の特徴と歯科疾患 小児歯科における診療補助 国家試験問題解説	小児期の特徴と歯科疾患、小児歯科における診療補助について再確認する。 国家試験を解き解説を理解する。
54	(衛生公衆衛生学分野) 小テスト解説 プリント解説(残り) ポイントチェック	小テストを解説することで重要なポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
55	(歯科診療補助分野) 小児歯科治療時の診療補助 エックス線写真撮影時の診療補助	小児歯科治療時およびエックス線写真撮影時の診療補助について再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
56	(保健指導法分野) 口腔清掃用具の知識 補助清掃用具の知識 ブラッシング法 国家試験のための練習問題と解説	口腔清掃用具、補助清掃用具、ブラッシングの方法の利点、欠点について再確認する。 保健指導法に関する国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
57	(組織発生学分野) 組織発生学に関する補習講義 国家試験問題	組織発生学分野の重要ポイントを再確認する。 組織発生学に関する国家試験に出題されたポイントを理解する。
58	(歯科材料学分野) 合着材、接着材、仮封材	合着材、接着材、仮封材について理解する。 国家試験に関する大切なポイントを確認する。
59	(生化学分野) 糖質、脂質、タンパク質の代謝 歯・口の生化学	糖質、脂質、タンパク質の代謝について再確認する。また、歯、口の生化学についても理解する。 国家試験問題を解き大切なポイントを認識する。
60	(口腔外科学分野) 口腔外科疾患② 国家試験問題解答と解説	口腔外科疾患について理解する。 国家試験に多く出題される大切なポイントを確認する。
61	(口腔病理学分野) 根尖性歯周組織の病変 辺縁部歯周組織の病変 口腔癌 のう胞 顎骨病変 他 国家試験練習問題	根尖性歯周組織の病変、辺縁部歯周組織の病変、口腔癌、のう胞、顎骨病変について再確認する。 国家試験問題を解き、大切なポイントを理解する。
62	(口腔解剖学分野) 口腔解剖学のポイント 解説	口腔解剖学の大切なポイントを過去の問題を解きながら再確認する。
63	(口腔解剖学分野) 国家試験問題集の質疑応答	口腔解剖学に関する国家試験問題を解きながら大切なポイントを理解する。

回	授業計画	到達目標
64	(歯科衛生統計学分野) 2年次講義の復習① 国家試験問題演習	歯科衛生統計分野の重要ポイントを再確認する。 国家試験に出題された大切なポイントを理解する。
65	(摂食機能訓練法分野) 国家試験問題解説①	重要なポイントを過去の問題を解きながら確認する。
66	(保健指導法分野) 対象別歯科保健指導 全身疾患と歯科保健指導 国家試験のための練習問題と解説	対象別歯科保健指導、全身疾患と保健指導の具体的内容について再度確認する。 国家試験に出題された内容を解き出題傾向を理解する。
67	(公衆歯科衛生学分野) 歯科疾患実態調査 健康日本21 国家試験に出やすいグラフの確認読み取り テキストに沿った解説と補足	歯科疾患実態調査、健康日本21、グラフに関する理解を深める。 国家試験に出題された重要なポイントを再確認する。
68	(薬理学分野) 止血材 抗炎症薬 ビタミン ホルモン 消毒薬 化学療法薬 腐食・収斂薬	薬理学に関する重要なポイントを再確認する。 国家試験に出題された問題の傾向と対策を確認する。
69	(衛生行政社会福祉分野) 衛生行政の概要とポイント整理	衛生行政の概要がわかる。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
70	(衛生行政社会福祉分野) 社会保障・社会福祉の概要とポイント	社会保障と社会福祉について理解する。 国家試験に出題される大切なポイントを確認する。
71	(歯科矯正学分野) 歯科矯正の総論 不正咬合の種類と原因	不正咬合の種類や原因について過去問題を解きながら理解を深める。
72	(歯科予防処置法分野) う蝕活動性試験、う蝕予防処置法の基礎知識、フッ化物歯面塗布	う蝕活動性試験、う蝕予防処置の各方法、フッ化物の応用について再確認する。 国家試験に出題された問題を解きポイントを理解する。
73	(歯科診療補助法分野) 臨床検査法 救急蘇生法	臨床検査、救急蘇生時の診療補助について再確認する。 国家試験に出題される大切なポイントを理解する。
74	(生化学分野) 歯の構成成分 唾液 歯の堆積物 国家試験問題解説	歯の構成成分、唾液、歯の堆積物について再確認する。 過去の国家試験問題を解き、重要なポイントを理解する。
75	(歯科矯正学分野) 歯科矯正の各論 各不正咬合の処置法と使用器材 など	矯正歯科学についての国家試験問題を確認し、重要なポイントを確認する。

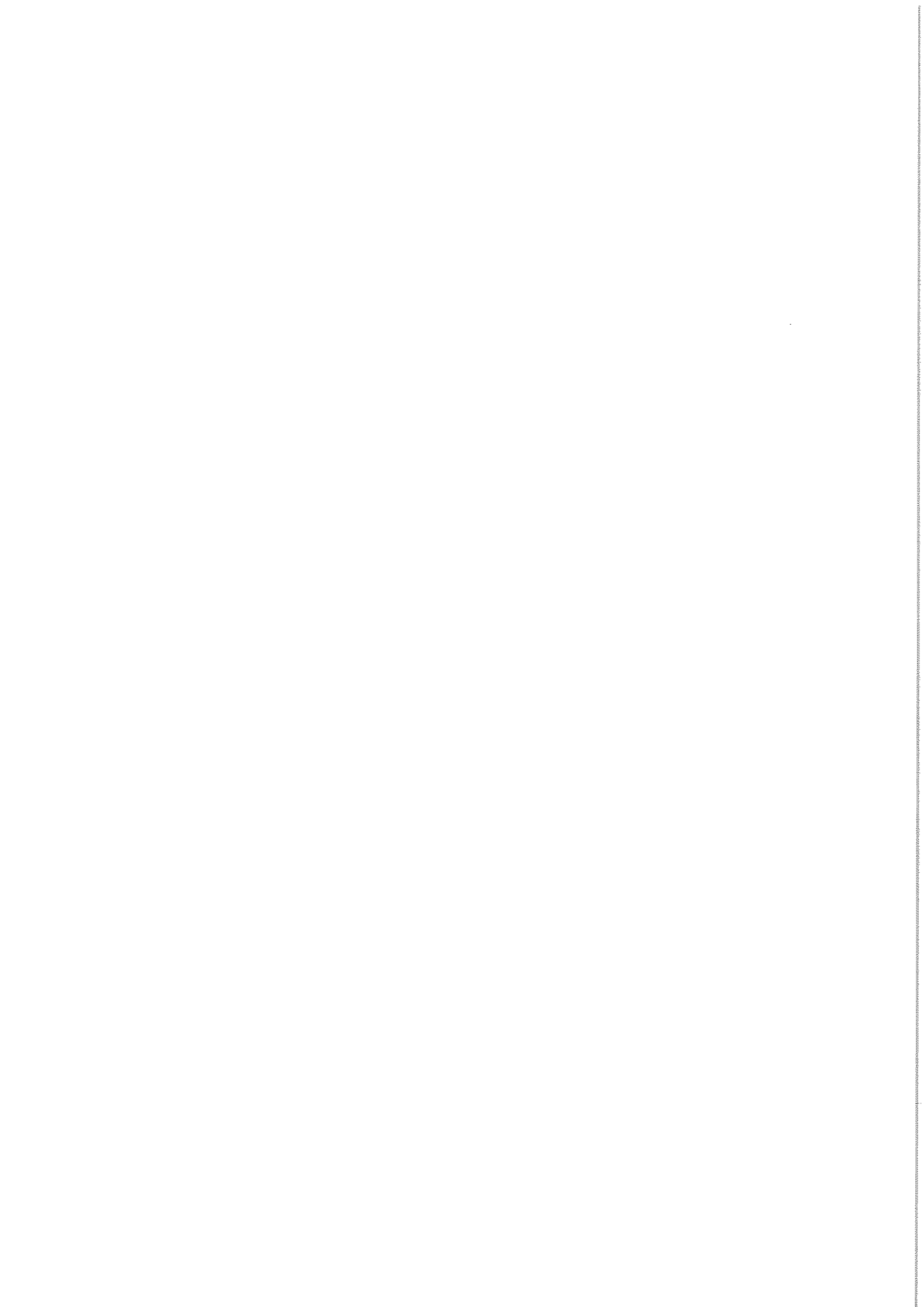
# 【 接遇 I 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	橋本ゆかり	実務経験	中学校英語教員一級免許。高等学校英語教員二級免許。日本航空や大学などで接遇講師。
授業との関連性	日本航空CAや大学の接遇講師の経験を踏まえ、社会人として必要な身だしなみ、マナー、言葉遣いなどについて講義・演習する。		
講師名	山本直子	実務経験	保育士。幼稚園教諭二種免許。企業などで接遇の講師を務めている。
授業との関連性	企業の接遇講師の経験を踏まえ、社会人として必要な身だしなみ、マナー、言葉遣いなどについて講義・演習する。		
履修学年・学期	1年前後期	授業方式	講義、実技
		単位数	2単位(60時間)
		授業回数	30
授業目標	ビジネス社会で働く上で必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力を身につける。		
評価方法	定期試験(90点)、提出物(レポートなど)(5点)、ロールプレイ(5点)など総合的に評価		
教科書名	①歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション (株式会社 ウイネット)		
参考文献	講師資料／①実社会で求められるビジネスマナー (株式会社 専門教育出版) ②実践ビジネスマナー (株式会社 ウイネット) ③歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション (株式会社 ウイネット)		
履修上の注意	①資料をファイルするための「接遇専用ファイル」を用意する。 ②意思表示をはっきりする。 ③授業中の挨拶や返事、姿勢などの基本動作を常に意識しきちんと行う。 ④ロールプレイを積極的に行う。 ⑤理解度確認と伝える力をつけるため、毎回、授業のまとめを書き提出する。		
回	授業計画	到達目標	
1	(1～10回までは橋本ゆかり先生) 接遇マナーの5つの基本 ①第一印象の重要性 ②始業・終業のあいさつ ③返事の仕方 ④遅刻・中座のマナー ⑤職員室の入退室のマナー	①接遇の大切さを理解する。 ②第一印象の重要性を理解する。 ③正しい姿勢で始業、終業のあいさつができる。 ④元気な声で返事ができる。 ⑤遅れてきたとき、中座するとき、職員室の入退室で、きちんとあいさつができる。	
2	身だしなみの基本 表情は思いやりを表す ①声でも「おもてなし」 ②ヴォイストレーニング(滑舌の練習) ③スマイルトレーニング	①非言語的コミュニケーションの重要性を知る。 ②正しい口の開け方、声の出し方を知る。 ③正しく、気持ちの良い声であいさつや話ができる。 ④滑舌練習で、正しくきちんと伝わる話し方を知る。 ⑤応対に重要な素敵な笑顔ができるようになる。 ⑥好感をもたれる身だしなみ、化粧、立ち振る舞いができる。	
3	①廊下のマナー ②階段のマナー ③ドアのマナー ④エレベーターでのマナー ⑤職場でのマナー	①様々なシーンで気持ちの良いあいさつができる。 ②きちんとした立ち方、座り方、歩き方などの基本姿勢ができる。 ③様々なシーンでの立ち居振る舞いを知る。 ④出る人と入る人の優先順位を理解し実践できる。	
4	来客対応の流れ ①受付～名刺の受け渡し～誘導・方向の指示し方～ドアの開閉～お茶の出し方～見送り ②席次	①来客対応の流れを知る。 ②物の受け渡し、名刺の授受の基本を知る。 ③誘導の仕方、方向指示の仕方、ドアの開閉の仕方、階段の上り下りなど様々なシーンでの立ち居振る舞いを知る。 ④様々な状況での上座下座を知る。	
5	敬語の基本① ①敬語の復習(尊敬語・謙譲語・丁寧語)	①尊敬語と謙譲語の違いを理解し、使い分けができる。 ②間違った尊敬語と謙譲語を指摘し、訂正することができる。 ③内部と外部の呼称の使い分けができる。	
6	敬語の基本② ①クッション言葉 ②職場用語、接客用語 ③否定表現、肯定表現、依頼形	①クッション言葉を使用した言い回しを学ぶ。 ②仕事の現場でよく使用する言葉遣いを知る。 ③同じ言葉でも、言い方が変われば伝わり方が変わることを知る。 ④依頼形や肯定語などで話すことができるようになる。	
7	様々な場面での言葉遣い ①使ってはいけない言葉遣い ②好ましい言い回し ③陳謝の言葉、依頼するときの言葉	①様々な場面の応対において、最適な言葉遣い、言い回しを考える。 ②相手に、より真意が伝わる言い回しを知る。 ③陳謝や依頼時の誠意が伝わる言い方を学ぶ。	
8	電話対応の基本 ①かけ方のポイント ②受け方のポイント ③名乗らないとき、聞き直すとき、聞き取りにくい時、携帯電話のとき など	①電話対応の基本を知り、実践できる。 ②様々な場面での受け答え方を知る。 ③電話で話すときの声のトーンや大きさ、スピードなどが適切にできる。	
9	電話対応の応用 ①名指し人がいない場合の応対 ②伝言を受けるときのポイント ③伝言メモの取り方、処理の仕方	①名指し人がいない場合の様々な応対ができるようになる。 ②伝言受時のメモの取り方、復唱の仕方を知る。 ③伝言メモを実際にかくことができる。 ④名指し人不在時に何が必要なのかを確実に知る。	

回	授業計画	到達目標
10	まとめ ①接遇に対する自分の考えをまとめる ②今後の目標を設定する	①1年間学んだことを通して、接遇に対する考えを整理する。 ②目標を設定し、有言実行していけるよう相互激励する。
11	(11～30回までは山本直子先生) 接遇マナーの心構え1 ①気持ちの良い挨拶の仕方 ②挨拶時の声の出し方 ③「知行一致」と「体得」	①「接遇」の意味や具体的内容を知り、日常生活の中で具体的に実践する。 ②自己紹介するときのポイントを知り、できるようになる。 ③自己紹介の方法とメリットを知り、お互いをより深く知る。
12	接遇マナーの心構え2 ①マナーとエチケットの違い ②身だしなみとおしゃれの違い ③私たちの身だしなみは？	①マナーとエチケットの違い、身だしなみとおしゃれの違いを知り自らを振り返る。 ②「接遇」の本質を知る。 ③身だしなみとはなんなのか、身だしなみのポイントを知り、学院生活に生かす。
13	接遇マナーの心構え3 ①気持ちの良いコミュニケーション ②非言語的コミュニケーションの色々 立ち居振る舞いを見直す ③身だしなみの基本	①コミュニケーションに不可欠な気持ちの良い挨拶ができるようになる。 ②様々な場面での非言語的コミュニケーションを知り、日常生活で意識して行動できるようになる。
14	自らを知る ①タイプ別診断 ②感情と行動の傾向を知り、他者とのコミュニケーションのポイントを考える	①感情と行動の傾向を知り、他者とのコミュニケーションのポイントを考える。
15	言葉遣い1 ①正しい敬語 ②敬語の分類(尊敬語・謙譲語・丁寧語・丁寧語・美化語)	①正しい敬語の基本を知る。 ②尊敬語、謙譲語などをワークを通して正しく使うことができるようになる。
16	言葉遣い2 ①敬語の使い分け	①ワークシートを通して、様々な敬語の使い分けを理解する。
17	言葉遣い3 ①様々な言い回し(肯定形、依頼形、マイナスプラス法、サンドイッチ法ほか) ②相手に伝わる言い方	①言い回しを変えることで、同じ内容でも伝わり方が変化することをワークを通して知る。 ②ロールプレイを通して、同じ言葉遣いでも言い方の違いで伝わり方が変わることを知る。
18	言葉遣い4 ①敬語の総復習(ワーク)	①これまでの授業内容の理解度ををはかる。 ②不足部分を認識し、意識して使えるようになる。
19	来客対応1 ①名刺とは ②名刺の取り扱い方、名刺交換の仕方 ③来客対応の手順(受付～名刺の授受～誘導)	①名刺の役割、取扱いで気を付けることなどを知り、実際に授受を体験する。 ②来客対応の一連の流れをロールプレイで経験する。
20	来客対応2 ①来客対応の手順(お茶の接待～見送り) ②対応時の様々な言葉かけ ③ビデオ視聴	①美味しいお茶の入れ方、スマートなお茶の出し方、接待時のポイントを知る。 ②心が伝わる環境設営、声掛けを考える。 ③ビデオを視聴し、現場での動き方を確認する。
21	来客対応ロールプレイ<練習> <受付～名刺の授受～誘導～お茶の接待～見送り>	①お客様、受付、上司、とそれぞれの役割を経験することにより、より気持ちの良い、スムーズな対応を体感する。 ②実際に行うことにより、自分の所作を確認する。
22	来客対応ロールプレイ<実践> <受付～名刺の授受～誘導～お茶の接待～見送り>	①お客様、受付、上司、とそれぞれの役割を経験することにより、より気持ちの良い、スムーズな対応を体感する。 ②実際に行うことにより、自分の所作を確認する。
23	電話対応1 ①電話の仕組み ②電話対応の心構え ③電話対応の流れ ④取次の練習	①電話対応の基本を知り、実践できる。 ②様々な場面での受け応え方を知る。 ③電話で話すときの声のトーンや大きさ、スピードなどが適切にできる。
24	電話対応2 ①不在時の様々な電話対応 ②こんなときどうする？	①名指し人に取り次げない場面での様々な対応を知る。 ②文章を読まなくても言えるようになる。 ③声には表情も態度も必要であることを体験する。
25	電話対応3 ①職場での様々な電話対応 ②伝言の受け方・伝え方 ③伝言メモの書きかた ④間違い電話の対応	①様々な場面での対応の仕方、言葉遣いを知る。 ②ロールプレイで実際に体験する。 ③自分の声を聞いて、さらに気持ちの良い電話対応を目指す。
26	電話対応4 ①電話のかけ方 ②かける時の気遣い	①電話をかけるときのポイントを知る。 ②かけるときの気遣いを考える。

回	授業計画	到達目標
27	電話対応5 ①自分の声を確認する ②ロールプレイ(2人組)	①2人組で名指し人が不在の場合のロールプレイをする。 ②自分の対応を実際に聴き、言い方・話し方・言葉遣い・口調・スピードなどを確認する。
28	ビジネス文書 ①文書の受発信 ②宛名の書きかた ③手紙の書きかた	①手紙の組み立て方や書きかたを知る。 ②お礼状を実際に書いてみる。 ③手紙を書くときの様々なポイントを確認する。
29	指示・命令の受け方 聴き方	①聞き上手の基本と共感することの重要性を理解する。 ②業務遂行の基本である指示命令の受け方を知る。 ③指示命令→報告のロールプレイを通して自分の足りない部分を知る。
30	報告・連絡の仕方 説明の仕方	①業務遂行の基本である指示命令の受け方、報告連絡相談の仕方を知る。 ②学院生活でもきちんとした報告連絡相談ができるようになる。 ③指示命令→報告のロールプレイを通して、自分が足りていないところを確認し、実践する。





【 接遇Ⅱ 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	山本直子 実務経験 保育士、幼稚園教諭二種免許、企業などでの接遇講師。		
授業との関連性	企業の接遇講師の経験を踏まえ、社会人として必要な身だしなみ、マナー、言葉遣いなどについて講義・演習する。		
履修学年・学期	2年前後期	授業方式	講義、実技
		単位数	2単位(60時間)
		授業回数	30
授業目標	社会人として、また歯科医院で働く医療人として求められるコミュニケーション能力を身につける。		
評価方法	定期試験(90点)、提出物(レポートなど)(5点)、ロールプレイ(5点)など総合的な評価		
教科書名	①歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション (株式会社 ウイネット)		
参考文献	講師資料/①歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション (株式会社 ウイネット) ②コミュニケーション技法 (株式会社 ウイネット)		
履修上の注意	①資料をファイルするための「接遇専用バインダー」を用意する。 ②習ったことを必ず実践する。 ③丁寧な挨拶や気持ちの良い返事、美しい姿勢など、基本動作をきちんと行う。 ④意思表示をはっきりする。 ⑤ロールプレイは積極的に行う。		
回	授業計画	到達目標	
1	<言葉遣い>の復習1 ①敬語テスト ②社内外での使い分け ③おかし敬語の色々	①敬語のパターンを確認する。 ②即座に使えるようになる。 ③巷で使用されている間違った敬語を確認する。	
2	<言葉遣い>の復習2 ①クッション言葉 ②依頼形 ③肯定表現 ④意向に添えない場合の代案	①敬語が使えるだけでなく、好感を持っていただける言い回し、言い方ができるようになる。	
3	様々な場面での言葉遣い ①使ってはいけない言葉遣い ②好ましい言い回し ③陳謝の言葉、依頼するときの言葉	①否定語や曖昧語を使わないようにして話すことができる。 ②同じ言葉でも伝わる言い方ができるようになる。 ③依頼形や肯定語などで話すことができるようになる。 ④陳謝や依頼時のきちんとした言い方を知る。	
4	<電話対応>の復習1 ①電話の受け方 ②電話のかけ方 ③伝言メモの取り方 ④わからない時の答え方	①電話の基本を復習し、必ずできるようになる。 ②5W3Hを覚え、メモを素早く取れるようになる。 ③様々な場面での受け答えを知る。 ④ビデオ視聴の中で、自ら回答を見つける。	
5	<電話対応>の復習2 ①電話対応のロールプレイ	①数パターンの電話対応を実際にロールプレイにより自分の対応の特徴を知る。	
6	<電話対応>の復習3 現場での様々な場面での電話対応 ①場所の問い合わせ ②予約 ③予約の変更・キャンセル ④患者様以外からの電話	①様々な場面での電話対応を考える。 ②敬語の使い方、言葉遣いは間違っていないか、言い回しは優しいか、的確かなど、グループで知恵を出し合い、完成させる。	
7	<電話対応>の復習4 現場での様々な場面での電話対応 <前回の解答>	①好ましい話し方を知る。 ②なぜその言い方が必要なのか、患者感情を考える。	
8	来客対応ロールプレイ<練習> <受付～名刺の授受～誘導～お茶の接待～見送り>	①お客様、受付、上司、とそれぞれの役割を経験することにより、さらに気持ちの良い、スムーズな対応を体感する。 ②練習により所作を洗練させる。	
9	来客対応ロールプレイ<実践①> <受付～名刺の授受～誘導～お茶の接待～見送り>録画	①実際に人前で行うことにより自分の所作を確認する。 ②他人の実技を見ながら、自己を振り返る。	
10	来客対応ロールプレイ<実践②> <受付～名刺の授受～誘導～お茶の接待～見送り>確認・フィードバック	①自己の実技を振り返り、良く出来たところや不足を確認する。 ②他者のアドバイスを受け、今後の鍛錬の糧にする。	
11	<ビジネス文書>の復習1 ①文書について ②文書の作成と取扱い ③社外文書の形式 ④ビジネス文書用語	①文書の役目や文書の流れ、種類などを知り、きちんとした文書作成と管理ができるようになる。 ②ビジネス文書で使用する言い回しや決まりを知る。	
12	<ビジネス文書>の復習2 ①文書の受発信 ②ファイリングの仕方 ③手紙の書き方 ④宛名の書き方 ⑤郵便の知識	①手紙の組み立て方や書き方を知る。 ②お礼状を実際に書いてみる。 ③手紙を書くときの様々なポイントを確認する。 ④普通郵便以外にも様々な用途に応じた郵送形態があることを知る。	
13	職場外での様々なマナー ①冠婚葬祭のマナー	①冠婚葬祭時のマナーを知り、実践できるようになる。	

回	授業計画	到達目標
14	職場外での様々なマナー ①訪問と面談のマナー ②接待のマナー	①訪問前の準備や挨拶の仕方、留意点を知る。
15	職場外での様々なマナー ①食事のマナー ②乗り物のマナー	①プライベート、及びオフィシャルで食事をする時のマナーの目的とポイントを知る。 ②乗り物の席次をはじめ、様々な場面での席次を理解する。
16	<執務の基本>復習 ①指示命令の受け方 ②報告連絡の仕方 ③整理整頓の仕方	①実習時の指示・命令や報告・連絡を想定し、ロールプレイする。 ②整理整頓の基本を確認し、日常生活に活かす。
17	受容と共感のコミュニケーション ①受容と共感のスキル ②傾聴のスキル ③アサーティブなコミュニケーション	①受容的な反応、非受容的な反応を理解し、ロールプレイで体感し、その時の感情を経験する。 ②傾聴の姿勢や行動を知り、ロールプレイで確認する。 ③相手のご満足を得、信頼関係を築くためにはどの
18	苦情・クレーム対応の基本1 ①クレームのメカニズム ②クレームに対する心構え ③対応のステップと気を付けること ④要求に応えられない場合の対応	①クレームとは何か、対応の心構えを知る。 ②対応は日々の接遇につながっていることを認識する。 ③対応時の言葉遣いや表情、態度をビデオで確認する。
19	苦情・クレーム対応の基本2 ①要求に応えられない場合の対応 ②様々な謝罪の仕方 ③様々な提案の仕方	①実際の現場での対応を考える。 ②ロールプレイを通して、その対応が相手にとってどのようなかを確認する。
20	働く現場に必要な心構えと行動 ①チームの一員として仕事を進める ②チームワークのためのマナー ③叱られ方、謝り方	①チームの一員として業務を進める上での心構えと、必要な行動や対応を知る。 ②成長するために必要なアドバイスや注意を受けるときの心構えと
21	高齢の患者様、小児の患者様とのコミュニケーション ①小児の患者様対応のポイント ②高齢の患者様対応のポイント	①小児の患者に対して気を付けるべきポイントと合わせて、保護者に対する関わりも考える。 ②高齢になると身体的・精神的にどうなるのかを理解し、医療の現場でどのような配慮が必要か考える。
22	配慮ある支援が必要な患者様とのコミュニケーション ①視覚障害者とのコミュニケーション ②聴覚障害者とのコミュニケーション ③言語障害者とのコミュニケーション	①様々な障害についての理解を深め、医療の現場でどのような状況になるのかを知る。 ②障害をお持ちの方に対するそれぞれの配慮のポイントおよび心構えを学ぶ。
23	【現場での対応を考える】 電話対応 ①当日予約の電話対応 ②専門外の問い合わせ	①まず相手の要求がなんであるかを正しく見極める力を養う。 ②その先にある言葉にならない要求を探し出す。 ③その時の相手の感情を想像し、相手の満足を得、信頼関係を築く
24	【現場での対応を考える】 受付場面で1 ①歯科スタッフに求められる声掛けの場面 ②対応でよく使う基本表現	同上
25	【現場での対応を考える】 受付場面で2 ①初診の患者様の受付場面 ②診察券や保険証を忘れた場合	同上
26	【現場での対応を考える】 受付場面で3 ①何度も無断キャンセルする患者様 ②大幅に遅れた患者様	同上
27	【現場での対応を考える】 会計・予約時1 ①お待ちいただく ②会計時のやり取り ③予約と次回来院を促す	同上
28	【現場での対応を考える】 会計・予約時2 ①時間が合わないという患者様 ②多忙で来られないという患者様	同上
29	自己啓発と目標設定1 ①自己啓発とは ②目標設定の重要性 ③目標の立て方のポイント	①自己啓発とはなんなのかを知り、今後の人生に役立てる。 ②日々の生活、人生においても大変重要な目標設定の仕方やポイントを知り、実際に目標設定してみる。
30	まとめ ①目標と今後の決意	①目標を発表し、有言実行のために相互激励する。 ②他者の価値観や目標を知ることで自分を振り返る。

# 【 体育 I 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	若松壽子	実務経験	中学校教諭一級免許。高等学校教諭二級免許。高等学校講師。
授業との関連性	高等学校の体育教諭としての長年の経験を踏まえ、各自の生活習慣に運動を取り入れることを目標に実技を行う。		

履修学年・学期	1年前後期	授業方式	実技	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	-------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	健康・安全や運動についての理解と、生涯スポーツに親しむ資質や能力を育て、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。
------	--

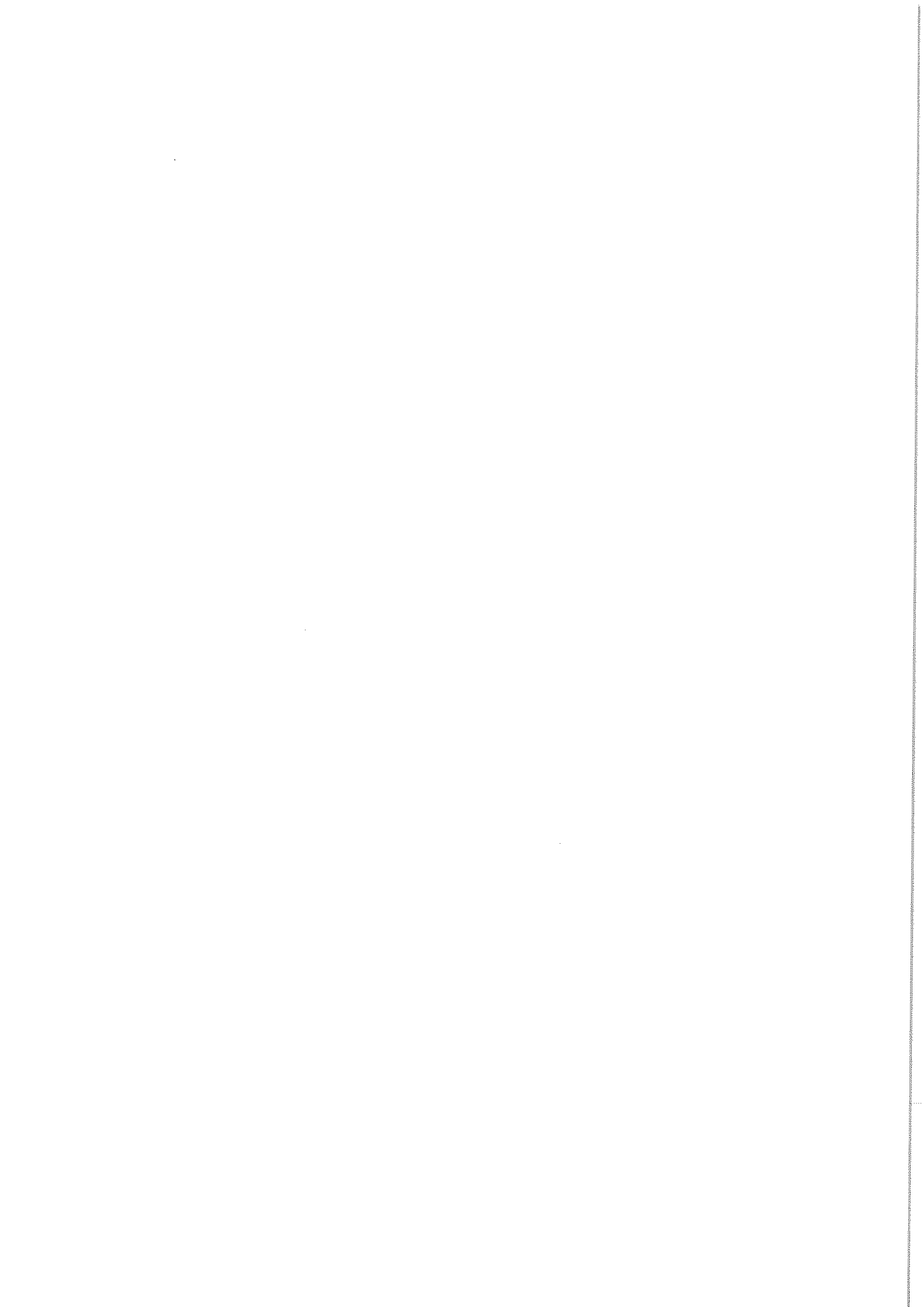
評価方法	出席状況
------	------

教科書名	なし
------	----

参考文献	なし
------	----

履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業には進んで自主性を持ち積極的に参加する。</li> <li>2. 体育の服装、体育館シューズの使用(見学者も同じ)</li> <li>3. 運動時は必ず束髪すること。</li> <li>4. 授業の準備や片付・清掃は全員で協力して行うこと。</li> </ol>
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	ソフトバレーボール ストレッチ ルール説明 班分け・練習	ボールの特性に慣れ、床にボールを落とさないように積極的に動いてパスを続けることができる。
2	ソフトバレーボール ストレッチ 練習・簡易ゲーム	チームの仲間と協力して楽しくゲームができるようになる。
3	1. 2年生合同 相談の上検討	未定
4	ソフトバレーボール ストレッチ 練習・簡易ゲーム	ゲームではチームの仲間と協力し楽しく積極的に動きラリーを続けることができる。
5	バレーボール(9人制) ストレッチ 班分け ルール説明 グループ練習・ゲーム	ソフトバレーボールの経験を生かし、声を掛け合いながら積極的に練習することができる。
6	バレーボール(9人制) ストレッチ グループ練習・ゲーム	積極的に動き、協力し練習やゲームができる。
7	バレーボール(9人制) ストレッチ グループ練習・ゲーム	積極的に動き、チームの仲間と協力し練習やゲームができる。
8	バドミントン ストレッチ 班分け(ダブルス)・練習	ネットをはさみラケットでシャトルを打ち合い得点することを競うネット型ゲームを理解し、パートナーと連携し自分の役割を理解しゲームに生かすことができる。
9	バドミントン ストレッチ 練習・ゲーム	パートナーを理解し連携して、自己の役割をゲームの中で生かすことができる。
10	バドミントン ストレッチ 練習・ゲーム	パートナーと協力して、練習やゲームができる。
11	バドミントン ストレッチ 練習・ゲーム	パートナーと協力して、練習やゲームができる。
12	バドミントン ストレッチ 練習・ゲーム	パートナーと協力して、練習やゲームができる。
13	種目選択 バドミントン、バレーボール 卓球、(できる範囲で)	選んだ種目の特性とルールを理解し楽しんで練習やゲームが積極的にできる。
14	種目選択 バドミントン、バレーボール 卓球、(できる範囲で)	選んだ種目の特性とルールを理解し楽しんで練習やゲームが積極的にできる。
15	種目選択 バドミントン、バレーボール 卓球、(できる範囲で)	選んだ種目の特性とルールを理解し楽しんで練習やゲームが積極的にできる。



# 【 体育Ⅱ 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

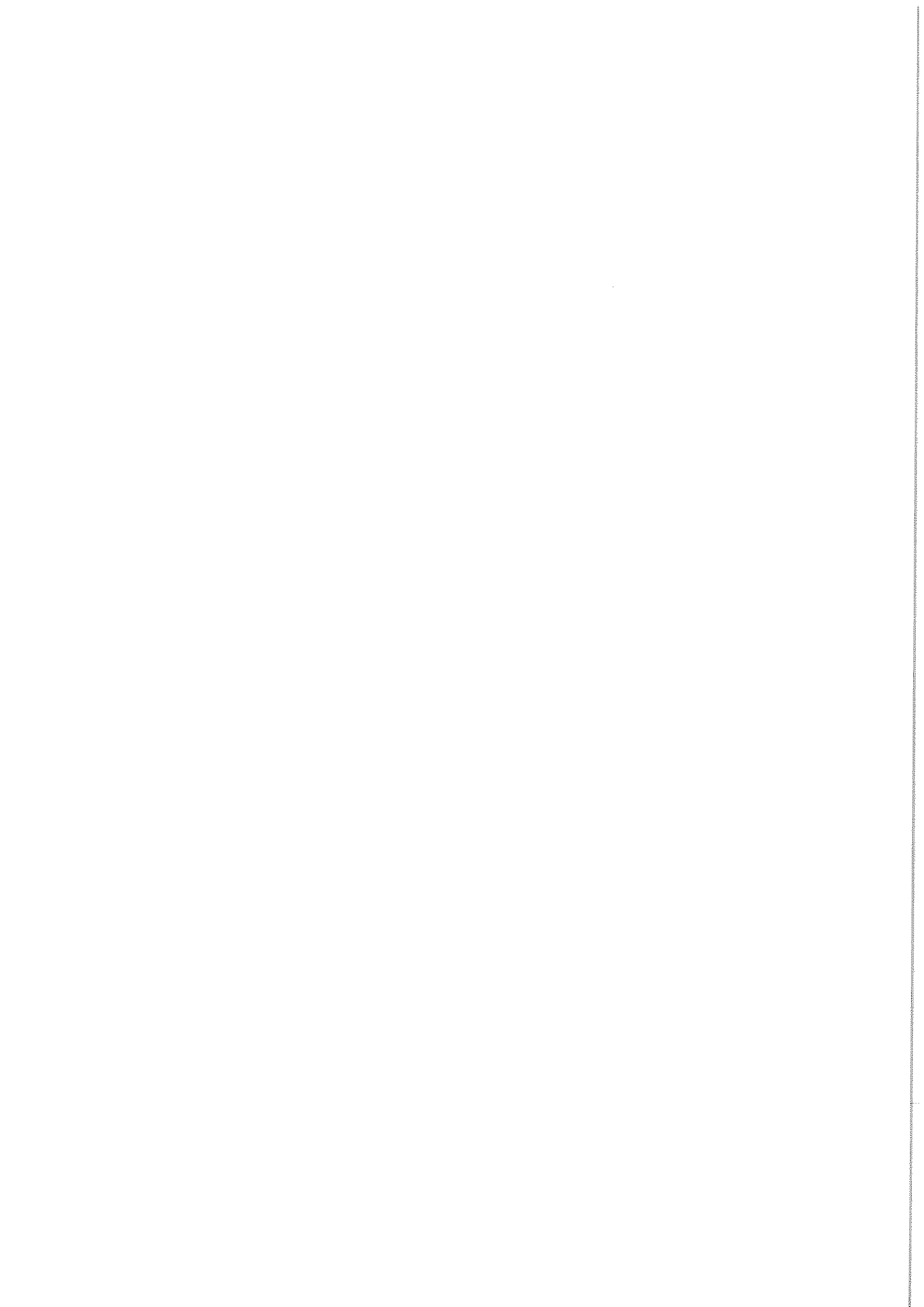
講師名	若松壽子	実務経験	中学校教諭一級免許。高等学校教諭二級免許。高等学校講師。
授業との関連性	高等学校の体育教諭としての長年の経験を踏まえ、各自の生活習慣に運動を取り入れることを目標に実技を行う。		

履修学年・学期	2年前後期	授業方式	実技	単位数	1単位(30時間)	授業回数	15
---------	-------	------	----	-----	-----------	------	----

授業目標	健康・安全や運動についての理解と、生涯スポーツに親しむ資質や能力を育て、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。
評価方法	出席状況
教科書名	なし
参考文献	なし

履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業には進んで自主性を持ち積極的に参加する。</li> <li>2. 体育の服装、体育館シューズの使用(見学者も同じ)</li> <li>3. 運動時は必ず束髪すること。</li> <li>4. 授業の準備や片付・清掃は全員で協力して行うこと。</li> </ol>
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	ソフトバレーボール ストレッチ ルール説明 班分け・練習	ボールの特性に慣れ、床にボールを落とさないように積極的に動いてパスを続けることができる。
2	ソフトバレーボール ストレッチ 練習・簡易ゲーム	チームの仲間と協力して楽しくゲームができる。
3	1. 2年生合同 相談の上検討	未定
4	ソフトバレーボール ストレッチ 練習・ゲーム	チームの仲間と協力して楽しくゲームができる。
5	バレーボール(9人制) ストレッチ 班分け ルール説明 グループ練習	ソフトバレーボールの経験を生かし、声を掛け合いながら積極的に練習することができる。
6	バレーボール(9人制) ストレッチ グループ練習・ゲーム	積極的に動き、協力し楽しくラリーを続けることができる。
7	バレーボール(9人制) ストレッチ グループ練習・ゲーム	積極的に動き、チームの仲間と協力し練習やゲームができる。
8	バドミントン ストレッチ 班分け(ダブルス)・練習	ネットをはさみラケットでシャトルを打ち合い得点することを競うネット型ゲームを理解し、パートナーと連携し自分の役割を理解しゲームに生かすことができる。
9	バドミントン ストレッチ 練習・ゲーム	パートナーを理解し連携して、自己の役割をゲームの中で生かすことができる。
10	バドミントン ストレッチ 練習・ゲーム	パートナーと協力して、練習やゲームができる。
11	バドミントン ストレッチ 練習・ゲーム	パートナーと協力して、練習やゲームができる。
12	バドミントン ストレッチ 練習・ゲーム	パートナーと協力して、練習やゲームができる。
13	種目選択 バドミントン、バレーボール 卓球、(できる範囲で)	選んだ種目の特性とルールを理解し楽しんで練習やゲームが積極的にできる。
14	種目選択 バドミントン、バレーボール 卓球、(できる範囲で)	選んだ種目の特性とルールを理解し楽しんで練習やゲームが積極的にできる。
15	種目選択 バドミントン、バレーボール 卓球、(できる範囲で)	選んだ種目の特性とルールを理解し楽しんで練習やゲームが積極的にできる。



# 【 隣接医学救急蘇生法 I 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	渡辺 洋	実務経歴	歯科医師。福岡歯科大学歯科麻酔講座医員。歯科診療所院長。
授業との関連性	大学病院歯科麻酔講座医員の経験を踏まえ、全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点について講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	2単位(30時間)	授業回数	15
---------	------	------	----	-----	-----------	------	----

**授業目標** 歯科衛生士として、全身疾患に関わる幅広い知識を習得する。

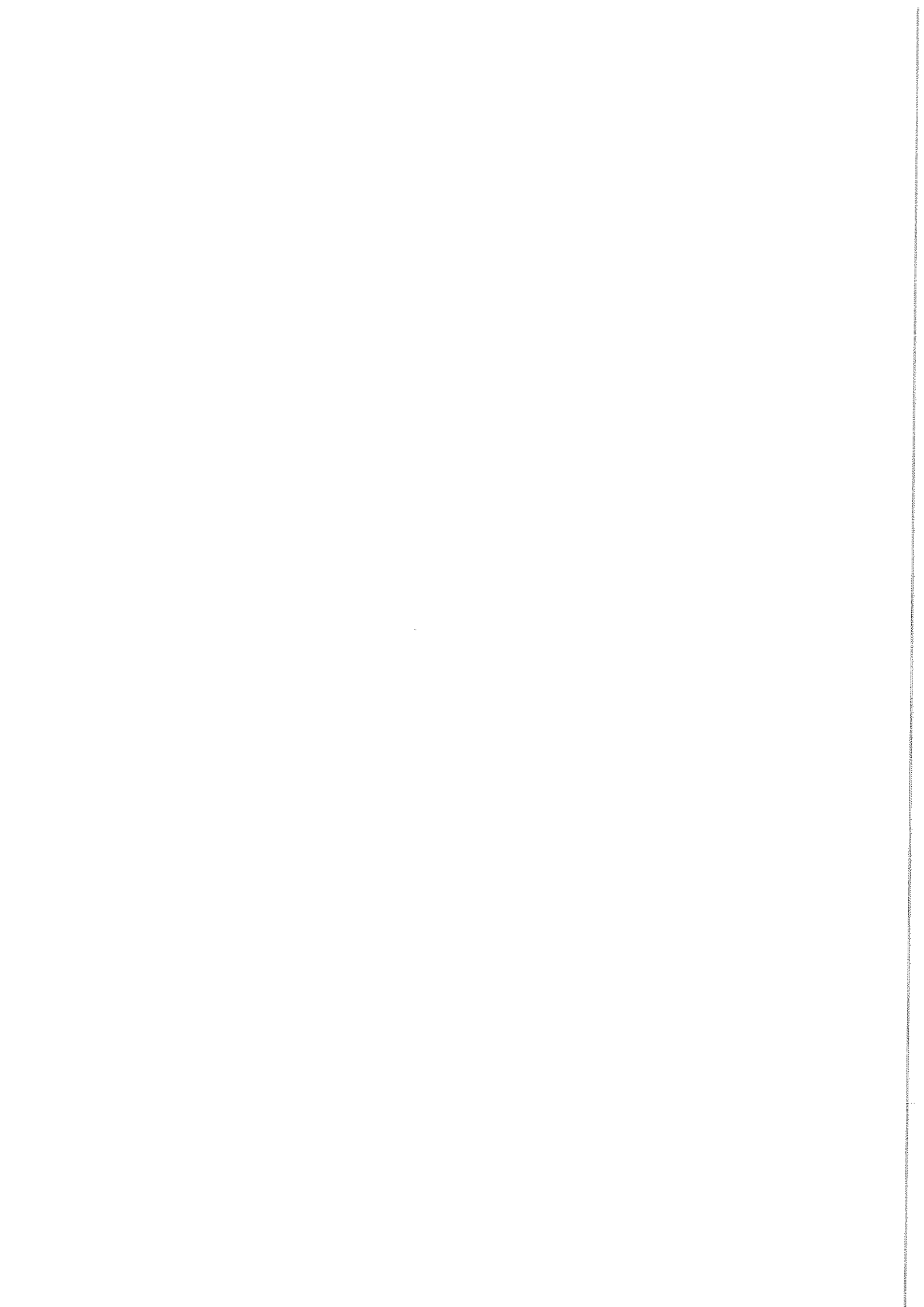
**評価方法** 定期試験(100点満点)

**教科書名** 「歯科衛生士版 改訂 全身管理と救急蘇生法」 渋谷 鈺著 学際企画  
「イラストでわかる歯科医学の基礎」 池尾隆著 永末書店

**参考文献**

**履修上の注意**

回	授業計画	到達目標
1	総論	①この学科目で学習する内容を理解する。 ②救急処置の重要性について理解する。 ③救急処置について歯科医行為と歯科衛生士法を理解する。 ④歯科診療室での全身疾患偶発症の主な原因を知る。
2	循環の生理・解剖	①心臓の構造と特性について理解する。 ②心電図とは何か説明できる。 ③体循環と肺循環について説明できる。
3	呼吸の生理・解剖	①呼吸とは何か説明できる。 ②呼吸器の構造と呼吸運動、呼吸の調節について理解する。 ③肺気量について説明できる。 ④肺胞のガス交換について理解する。
4	循環器系・呼吸器系の疾患	①循環器疾患並びに呼吸器疾患の主な疾患名とそれぞれの疾患の概要、症状について理解する。 ②歯科治療に際して注意すべきことについて理解する。
5	自律神経	①自律神経とは何か説明できる。 ②自律神経の分類と各々の働きを説明できる。
6	全身の検査と評価	①バイタルサインとは何か説明できる。 ②脈拍とは何か、観察部位、触知方法について説明でき測定できる。 ③脈拍の観察(数、リズム等)を説明できる。 ④呼吸の観察方法を説明できる。 ⑤血圧とは何か、血圧の測定方法、測定時の注意を理解し、測定ができる。 ⑥体温とは何か、測定部位と特徴、体温の正常と異常、影響する因子が説明できる。 ⑦意識レベルの観察方法、モニタリングについて理解する。
7	歯科治療と麻酔	①麻酔法の種類と特徴について理解する。 ②歯科用局所麻酔薬の種類と特徴、使用方法について理解する。 ③注射針の特徴について理解する。 ④笑気吸入法、静脈内鎮静法の特徴と方法について理解する。 ⑤鎮静法の適用と禁忌について理解する。
8	代謝系疾患	①糖尿病とは何か、症状等について理解する。 ②糖尿病患者への歯科治療時の注意点と歯周病リスクについて理解する。 ③甲状腺機能障害とは何か、症状等について理解する。 ④甲状腺機能障害患者への歯科治療時の注意点について理解する。
9	アレルギー疾患	①アレルギーの反応型を理解する。 ②薬物アレルギーについて理解する。
10	血液に係わる疾患	①血液疾患の種類と各々の症状について理解する。 ②血液疾患患者の歯科治療時の注意点を理解する。
11	歯科における薬剤	①歯科における薬剤の種類と使用上の注意点を理解する。 ②歯科治療における投薬時の注意点と服薬指導について理解する。
12	全身麻酔と救急蘇生	①全身麻酔とは何か、歯科における適応症を理解する。 ②全身麻酔薬の種類と特徴を理解する。 ③救急蘇生の概要について理解する。(詳細は3年次に履修)
13	一般臨床と全身疾患の係わりについて	一般臨床と全身疾患の係わりについて理解する。
14	口腔領域の解剖	口腔領域の解剖について理解する。
15	総括	これまで学習した内容を再度確認し、解らない所を質問し理解する。





講師名	狩野亘平	実務経験	医師。日本救急医学会認定 救急科専門医。病院勤務。
授業との関連性	病院救命救急センターの医師としての臨床経験を踏まえ、救急蘇生の基礎知識やバイタルサインなど全身状態の評価について講義を行う。		
講師名	山田周	実務経験	医師。病院救命救急センター勤務。
授業との関連性	病院救命救急センターの医師としての臨床経験を踏まえ、歯科診療時における全身的偶発症や注意が必要な患者の歯科治療について講義を行う。		
講師名	櫻井聖大	実務経験	医師。病院救命救急センター勤務。
授業との関連性	病院救命救急センターの医師としての臨床経験を踏まえ、麻酔法と一般的な救急処置について講義、演習を行う。		
講師名	北田真己	実務経験	医師。病院救命救急センター勤務。
授業との関連性	病院救命救急センターの医師としての臨床経験を踏まえ、救急蘇生の基礎知識について講義、演習を行う。		

履修学年・学期	3年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	1. 歯科診療において、患者様に起こり得る合併症とその対処法について理解できる。 2. 救急蘇生を行うべき状態に早期に気づき、適切に対処できる能力を身につける。
------	---

評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

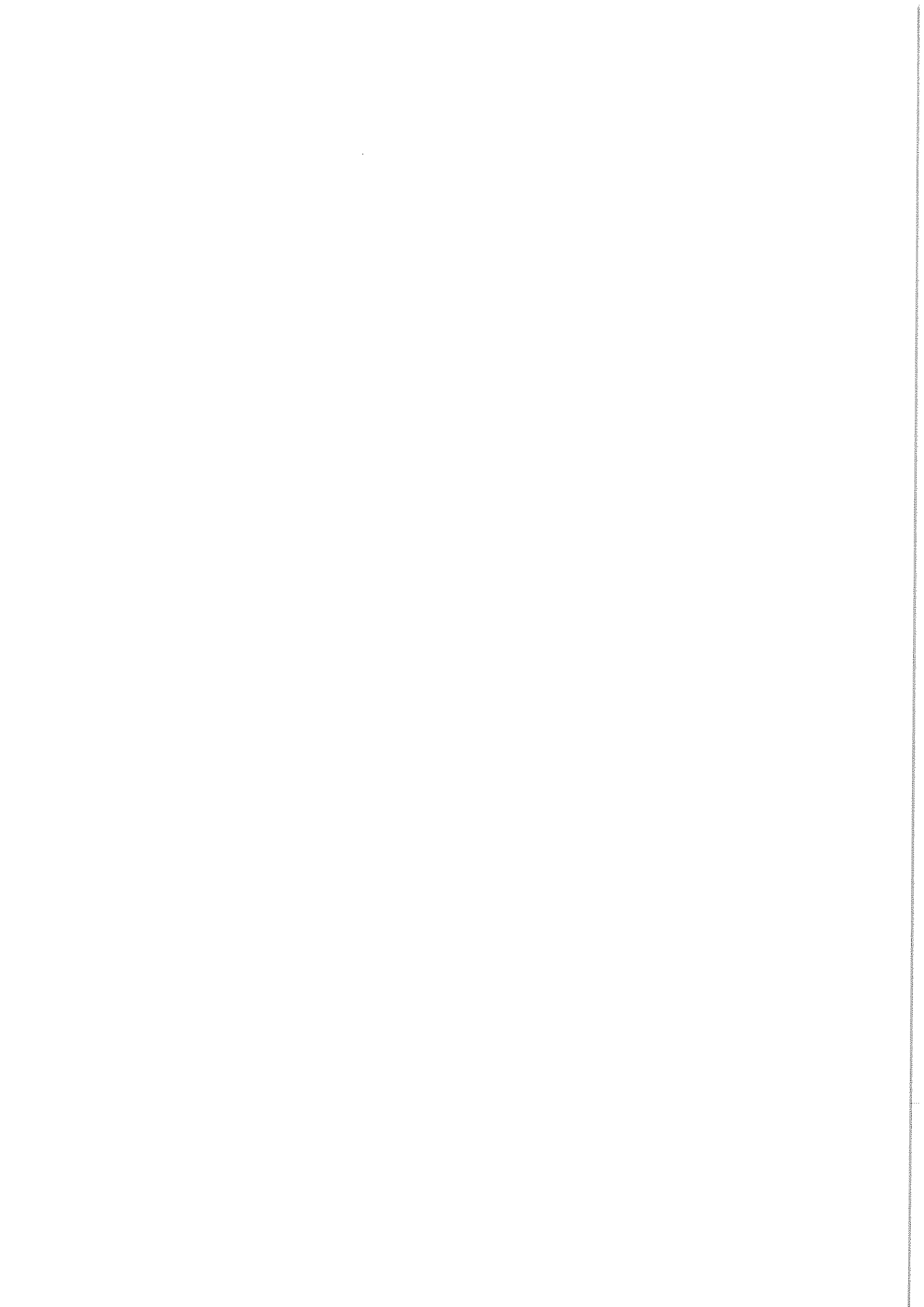
教科書名	「歯科衛生士版 改訂 全身管理と救急蘇生法」 渋谷 鈺著 学際企画
------	-----------------------------------

参考文献	
------	--

履修上の注意	
--------	--

回	授業計画	内容	到達目標
1	担当講師： 狩野亘平 第1章 序論 第2章 救急処置に必要な基礎知識	eラーニングコンテンツにて受講	1. 救急処置の重要性について理解できる。 2. 呼吸の生理・解剖について理解できる。 3. 循環の生理・解剖について理解できる。 4. 自律神経について理解できる。
2	担当講師： 狩野亘平 第3章 バイタルサイン 第4章 全身状態の評価		1. バイタルサインの要素(脈拍、呼吸、血圧、体温、意識)の評価方法とその意義について理解できる。 2. バイタルサインの測定機器と方法について理解できる。
3	担当講師： 山田 周 第5章 歯科診療時における全身的偶発症		1. 血管迷走神経性反射・過換気症候群・局所麻酔薬中毒・アレルギー・アドレナリン過敏症とその対処法について理解できる。 2. 局所麻酔時のその他の偶発症とその対処法について理解できる。
4	担当講師： 山田 周 第6章 全身疾患を有する患者の歯科治療(注意が必要な患者の歯科治療)		1. 歯科診療を行うにあたり特に注意を要する基礎疾患について理解できる。 (1)循環器系疾患 (2)呼吸器疾患 (3)内分泌・代謝系疾患 (4)その他の疾患
5	担当講師： 櫻井聖大 第7章 麻酔法 第9章 一般的な救急処置		1. 各種麻酔法について理解できる。(局所麻酔、精神鎮静法、全身麻酔法、はり麻酔など) 2. 外傷、熱傷に対する一般的な救急処置について理解できる。 3. 止血法について理解できる。
6	担当講師： 櫻井聖大 第8章 救急蘇生法		1. 救急蘇生法を行うにあたって必要な知識を身につける。(体位、患者搬送、加温・保温、心肺蘇生法、酸素療法、静脈路確保、点滴法、救急処置に必要な器具・器材・薬剤)
7	担当講師： 北田真己 救急蘇生法 講義・演習(レポート作成)		1. これまでに学んだ内容を与えられた課題に沿って、まとめることができる。
8	担当講師： 北田真己 前期試験		1. 前期講義の試験を実施し理解の程度を知る。

(備考) 令和2年度はコロナ感染拡大防止のため全て講師作成のeラーニングでの授業とする。



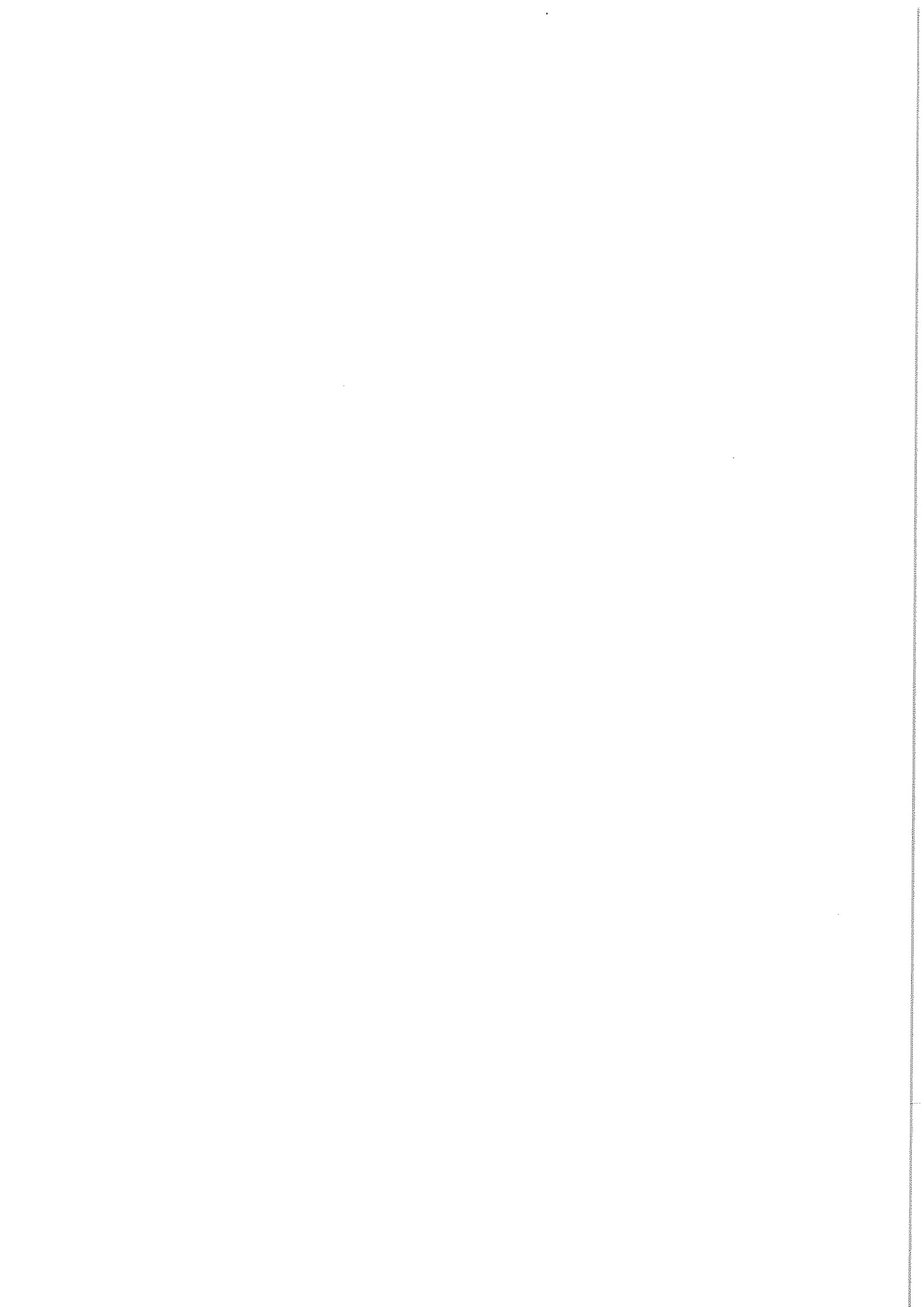
# 【 高齢者医学総論 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	澤 美穂	実務経歴	看護師。病院、診療所、介護老人保健施設勤務。
授業との関連性	看護師として診療所や介護老人保健施設で長年培った経験を踏まえ、加齢に伴う身体的・精神的・心理的特徴や高齢者に多い全身疾患について講義する。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	①高齢者の身体機能の特徴を知り、生理的な加齢が身体や心理に及ぼす影響や疾病について理解できる ②超高齢社会の現状を把握し、老化に伴って起こる全身状態、生活機能の状況を理解し、専門職としての観察や支援ができる	
評価方法	科目定期試験(80点)、レポート(20点)/100点	
教科書名	1.「高齢者歯科」 戸原 玄著 医歯薬出版KK	
参考文献		
履修上の注意	パワーポイントなどは使用せず、テキスト中心に授業を展開します。必要な内容は板書します。	
回	授業計画	到達目標
1	(Ⅱ編 第1・2章) 加齢に伴う身体機能の変化について理解できる	1. 老化に伴う高齢者の身体的特徴が理解でき列挙できる 2. 加齢に伴う各器官、各組織について説明できる
2	(第3章) 高齢者の精神的、心理的变化について理解できる	1. 老化に伴う高齢者の精神的、心理的特徴を理解し列挙できる 2. 高齢者に多いうつ、せん妄について説明できる 3. 高齢者とのコミュニケーション方法について理解し説明できる
3	(第3章) 高齢者に多い全身疾患、障害、口腔疾患について理解できる	1. 高齢者に多い疾患や障害について理解でき説明できる 2. 認知症の原因、種類、症状、診断、治療、認知症ケアについて理解し説明できる
4	(Ⅲ編 第1章) 高齢者の生活機能、認知機能について理解できる	1. 生活機能の評価項目や障害の分類、ICF、認知機能評価項目について理解し活用されてる場面のイメージができる
5	(第2章) 高齢者歯科と臨床検査の種類と関係性が理解できる	1. バイタルサインの種類が理解できる 2. 高齢者の病気の種類やその特徴が理解できる 3. 検査データが及ぼす観察項目が理解でき説明できる
6	(第3章) 高齢者の栄養状態について理解できる	1. 高齢者の低栄養について説明できる 2. 水分や栄養摂取の種類が説明できる
7	(第4章) 高齢者の薬剤服用について薬の副作用や服用状況などについて理解できるよう説明する	1. 高齢者の薬物代謝に影響する因子について説明できる 2. 高齢者の服用する薬剤の副作用について理解できる 3. 高齢者の服薬管理の問題点について説明できる
8	(まとめ・テスト) 〈高齢者医学総論〉 高齢者の全体的な特徴を知り歯科学に併せて観察の視点を養い歯科衛生士としての知識と技術が習得できるようになる	高齢者の医学総論 終了テスト



# 【 看護概論 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

講師名	成瀬信裕	実務経験	看護師。病院に勤務しながら看護専門学校にて指導。
授業との関連性	長年看護業務に係った経験や看護専門学校の非常勤講師として培った知識や技術をもって、歯科衛生士に必要な看護技術、コミュニケーションスキルや医療安全構築のための講義・演習を行う。		

履修学年・学期	2年前期	授業方式	講義・実技	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	-------	-----	-----------	------	---

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科衛生士に必要な基本的な看護知識の理解と看護技術のスキルを習得する。</li> <li>2. 人々の生活行動について、それらは健康とどのようにつながっているかを理解し、看護の視点から対象の健康問題を見出し、その上で対象者の生活行動を健康な状態に整える基本的な援助技術を学習する。</li> <li>3. 歯科衛生士の専門職業人として、人間関係の成立の基本となるコミュニケーションスキルを高める。</li> </ol>
------	---

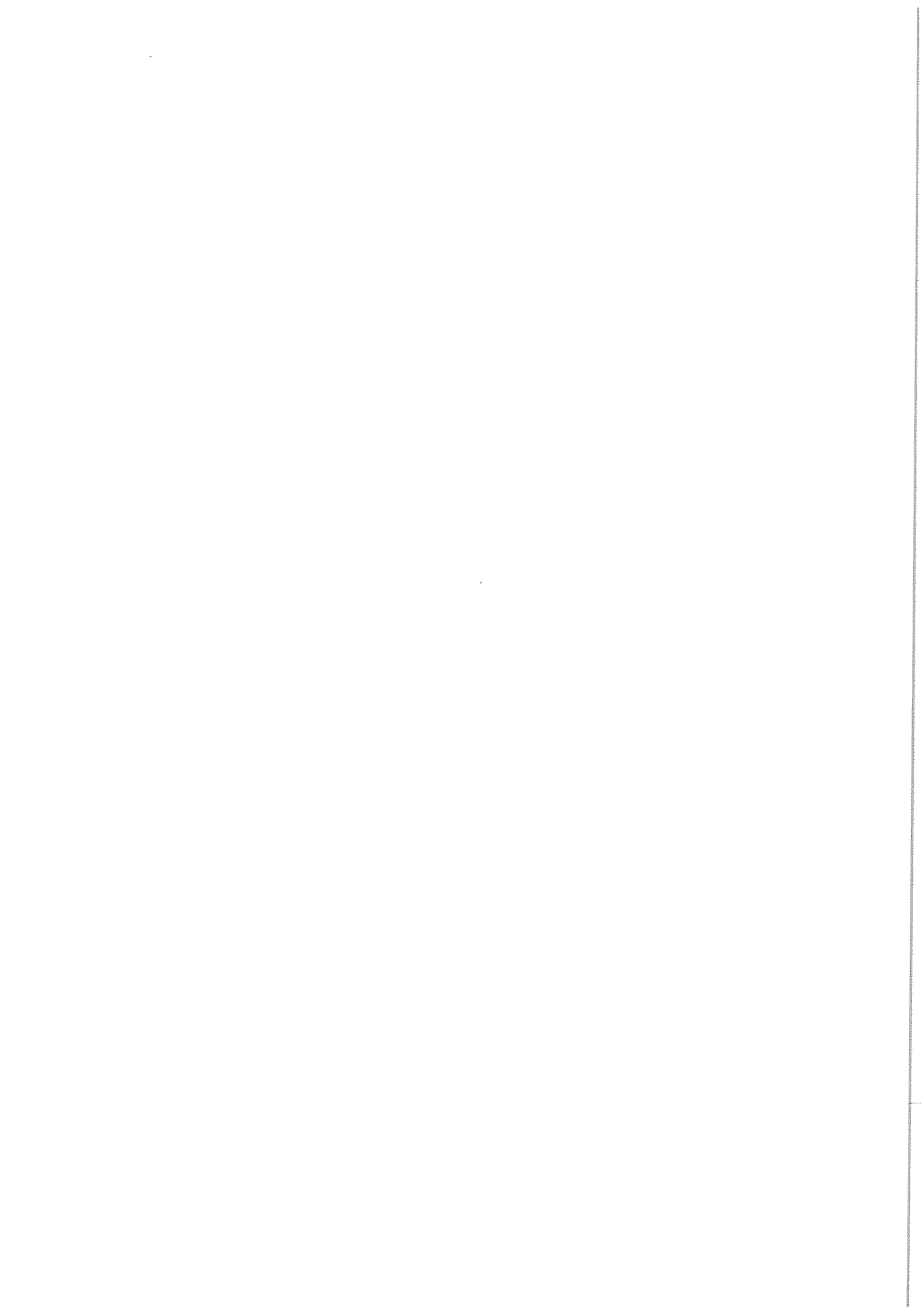
評価方法	定期試験80点 ・提出物4回(各4点) ・レポート評価(4点) 授業欠席者は別紙レポート提出(各4点) ・最終日レポート(加点評価)
------	--

教科書名	歯科衛生士のための看護学大意 柴原孝彦著 医歯薬出版
------	----------------------------

参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 湯楨ます 他 ナイチンゲール『看護覚え書』現代社</li> <li>2. 湯楨ます 他 ヘンダーソン『看護の基本となるもの』日本看護協会出版社</li> <li>3. 金井ひとえ 実践を創る 新看護学原論</li> <li>4. 金井一薫 ナイチンゲール看護論入門</li> <li>5. ビジュアル臨床看護技術</li> </ol>
------	---

履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯周病の病態生理と歯科衛生士の役割について5月7日までに自己学習しておいてください。</li> <li>2. 講義を進める中で、学生さんへの問いかけを多く行います。(間違いを恐れずに発言ください) 目的:考える時間を持つ、他の人の考えを聞き新たな気付きを得る。(脳への刺激と学習効果アップ)</li> <li>3. 講義終了毎に、授業の感想・質問など記載を依頼します。提出は次回講義前までをお願いします。</li> </ol>
--------	---

回	授業計画	到達目標
1	<b>【看護の概念】教科書P1～P23</b> 1. 看護の概念 看護の定義 看護の対象 看護の目標 看護の役割	1. 看護学の原点を知ることができる。 2. 看護とは何かの概念を理解し、歯科衛生士としての役割をイメージできる 具体的到達目標: 看護の視点で歯周病患者への関わりを述べるができる
2	<b>【歯科衛生士の役割】教科書P98～P112</b> 1. 病院における歯科衛生士の役割 2. 地域医療活動における歯科衛生士の役割 3. フリーカンファレンス 自分が思い描く歯科衛生士とは？	1. 病院や地域において、歯科衛生士としての役割を自分の言葉で表現できる 2. 看護概論の学びの中から、専門職業人の歯科衛生士として卒業後の目標を自由に記載してください レポート提出期限:最終講義日(加点評価レポート)
3	<b>【看護の技術】教科書P24～P59</b> 1. 前回の復習 看護について 2. 歯科衛生士が知っておくべき看護技術 ①バイタルサインについて ②採血について ③吸引および吸入について	1. 前回の復習:歯周病を看護の視点で述べるができる 2. バイタルサインの正常値と異常値の判断ができる 3. 採血に必要な解剖生理が解り、合併症を予測できる 4. 吸引に関する解剖生理が解り、合併症を予測できる (歯科衛生士の日常業務における予備知識の必要性和リスク予測の重要性を看護行為から学び取る)
4	<b>【看護の技術】教科書P24～P59</b> 1. 歯科衛生士が知っておくべき看護技術 ①バイタルサインの測定技術 ②採血の技術 ③吸引および吸入の技術 ④酸素療法について	1. バイタルサインの測定ができる 2. 採血の準備と手技の実践を模擬で経験する 3. 吸引の準備と手技の実践を模擬で経験する 4. 酸素療法の基礎知識を学び、正しい方法を判断できる 酸素療法時の患者観察ポイントを具体的に述べられる (手技の行為時と患者観察の重要性を学び取ることができる)
5	<b>【コミュニケーションスキル】</b> 1. 社会人・職業専門職として必要なコミュニケーションスキルについて グループワークによる体験学習 ※教科書に掲載されていない手法でコミュニケーションスキルを学ぶ	1. グループワークに積極的に参加できる 2. 自分自身の性格を自己評価できる 3. 他人の考えを尊重し、尋ねることができる 4. 傾聴・共感・協調性など、コミュニケーションスキルをグループワークの中で感じることができる
6	<b>【コミュニケーションスキル】</b> 1. 社会人・職業専門職として必要なコミュニケーションスキルについて グループワークによる体験学習 ※教科書に掲載されていない手法でコミュニケーションスキルを学ぶ	1. グループワークで学んだコミュニケーションスキルについて自分の言葉でまとめることができる 2. コミュニケーションスキルについて、自分の言葉で表現できる (多くのスキルを学ぶ中で、最低一つは身につける)
7	<b>【看護の実務】教科書P61～P97</b> 1. 歯科衛生士に必要な看護実務 患者の観察と記録 洗浄・消毒・滅菌 感染対策の基礎	1. 患者の観察方法と記録の仕方が解る 2. 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識を学ぶ 3. 模擬による患者の観察と記録が実践できる 4. 滅菌と消毒の違いが説明できる 5. 清潔ゾーンと不潔ゾーンの区別ができる
8	<b>【看護の実務】教科書P61～P97</b> 1. 歯科衛生士に必要な看護実務 感染対策および医療安全の基礎 感染対策および医療安全の実践 全体のまとめ	1. ガウンテクニックが実践できる 2. 1人でKYTが実践できる 3. チームリーダとしてKYTの実践ができる 4. 全体的な振り返りができる



# 【 最新歯科医学 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

※ 旧課程 現3年生のシラバス

講師名	三隅賢祐	実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。
授業との関連性	臨床歯科医師としての経験を踏まえ、ブラキシズム、睡眠時無呼吸症候群、スポーツ歯科の原因、また歯科衛生士としての対応などについて講義する。		
講師名	竹下憲治	実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。熊本県歯科医師会前理事。
授業との関連性	臨床歯科医師としての経験を踏まえ、歯科用レーザー治療の知識や歯科衛生士としての役割について講義する。		
講師名	川寄俊明	実務経験	歯科医師。歯学博士。日本顎咬合学会指導医。国際インプラント専門医学会認定医。歯科診療所院長。
授業との関連性	日本顎咬合学会指導医としての経験から、審美歯科の種類や方法、マイクロスコープの必要性について講義する。		
講師名	椿 誠	実務経験	歯科医師。国際インプラント学会 (icoifellowship) 国際認定医。福岡歯科大学付属病院第2口腔外科入局。歯科診療所院長。
授業との関連性	国際インプラント学会国際認定医として、最新のインプラント処置について基礎知識や歯科衛生士として術前術後の対応について講義する。		
講師名	赤尾浩彦	実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。熊本県歯科医師会前理事。
授業との関連性	熊本県歯科医師会前地域保健担当理事としての経験から「熊本県歯及び口腔の健康づくり推進条例」の内容や地域歯科保健活動での歯科衛生士の役割について講義する。		
講師名	石井洋一	実務経験	歯科医師。歯科診療所院長。熊本県歯科医師会理事。
授業との関連性	熊本県歯科医師会学校歯科担当理事として、学校保健安全法に定められた学校歯科保健の役割や歯科衛生士としての関わりについて講義する。		
講師名	太田文隆	実務経験	歯科医師。日本矯正歯科学会認定医。歯科診療所院長。熊本県歯科医師会医療連携委員会委員長。
授業との関連性	熊本県歯科医師会医療連携担当委員長として、歯・口腔と全身疾患との多職種連携や災害時連携について講義する。		

履修学年・学期	3年後期	授業方式	講義	単位数	1単位(15時間)	授業回数	8
---------	------	------	----	-----	-----------	------	---

授業目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最近の歯科医療の話題であるブラキシズム、睡眠時無呼吸症候群、スポーツ歯科について理解する。</li> <li>2. エアータービンやメスを使用するだけでなく、歯科用レーザーを使用して歯牙・軟組織及びインプラントに対して処置が可能であることを理解する。</li> <li>3. 4…近年の最新歯科医療とされている審美歯科治療に関して、治療法の種類や方法、またそれらの考え方を学び、最新とされている本質的には歯科治療の基本原則に則った処置を行うことが重要であるという事を学びとる。またそれらを行う際により精密な治療目的でマイクロスコープを応用することを学ぶ。</li> <li>5. インプラントについての基礎知識を理解する。</li> <li>6. 学校歯科とはいかなるものか、また、その意味とはあまり接する事のない所だが、地域保健に関しては大切な部分である事を理解する。</li> <li>7…熊本県歯及び口腔の健康づくり推進条例、う蝕予防対策としてのフッ化物応用、歯と全身疾患に関するさまざまな最新情報等について学び、卒業後において歯科衛生士として臨床及び公衆衛生活動の中で対象者への適切な指導ができるようになる。</li> <li>8…歯・口腔と全身疾患に関する様々な最新情報等について学び歯科衛生士として必要な知識を得る。</li> </ol>
------	---

評価方法	定期試験(100点満点)
------	--------------

教科書名	各講師作成資料
------	---------

参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. 4…How to Endodontics 寺内吉継著(クインテッセンス出版)</li> <li>エステティック クラシフィケーションズ 山崎長郎著(クインテッセンス出版)</li> <li>ペリオドンタル・マイクロサージェリー 鈴木真名著(クインテッセンス出版)</li> <li>Banded Porcelain Restorations P.Magne, Belser (クインテッセンス出版)</li> <li>6…生きる力をはぐくむ、学校での歯・口の健康づくり(文部科学省)</li> <li>明日からできる地域での予防歯科(NPO法人ウエルビーイング)他</li> <li>7…熊本県歯及び口腔の健康づくり推進条例</li> <li>フッ化物応用と健康-日本口腔衛生学会 フッ化物応用研究委員会編 口腔保健協会出版</li> <li>糖尿病治療のエッセンス 日本糖尿病対策推進会議・熊本型早産予防対策モデル事業</li> </ol>
------	---

履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>①国家試験出題基準から外れる領域もあるものの、歯科医療に携わる歯科衛生士として最新の歯科医学についての知識を得ることは大切である。教科書は用いず授業毎の資料を用いるためノートのみ用意すること。</li> <li>②一回のみの講義であり、眠らずに受講していただきたい。</li> <li>③事前にインターネット「歯周病 糖尿病」「歯周病 早産」のキーワードで検索しておく</li> </ol>
--------	--

回	授業計画	到達目標
1	(三隅賢祐)ブラキシズム・SAS・スポーツ歯科	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ブラキシズムの種類、対応法について説明できる。</li> <li>②睡眠時無呼吸症候群の原因、治療法について説明できる。</li> <li>③スポーツ歯科、マウスガードの役割、作成法について説明できる。</li> </ol>
2	(竹下憲治) 歯科用レーザー	<p>歯科用レーザーとは何か。レーザーの種類には何があるか。アシスタントの動き、患者の装備、安全に使用するために器具及び機器の使用法を理解する。</p>

回	授業計画	到達目標
3	(川寄俊明) 拡大鏡やマイクロスコープの使用目的 修復治療(審美的な)の手順 マイクロスコープを使った根管治療	拡大視野治療のメリットの理解 各処置内容の基本原則の理解
4	(川寄俊明) CBCTの活用 インプラント等、複雑な修復治療への応用	同上
5	(椿 誠) インプラントについての基礎知識	インプラント治療がどういう治療なのかを理解する。
6	(赤尾浩彦) 地域歯科保健	1. 熊本県歯及び口腔の健康づくり推進条例の内容を知るとともに条例の中の歯科衛生士の役割について理解する。 2. フッ化物の有効性・安全性について理解する。 3. 熊本県におけるフッ化物洗口事業の状況を知る。 4. 歯周病と全身疾患(特に糖尿病(DM)と早産との関係)を理解する。 5. 産業歯科、特に生活歯援プログラムについて理解する。
7	(石井洋一) 学校歯科の大切さと子ども達の口腔成長について	歯科の職業は色々な場面で重要な役割を担っている。あまり遭遇することが少ない学校歯科の保健を理解する。
8	(太田文隆) 歯・口腔と全身疾患について	歯・口腔と全身疾患の関係について理解し説明できる。



# 【 情報処理技術 】 令和2年度 授業シラバス

熊本歯科衛生士専門学校

※ 旧課程 現3年生のシラバス

講師名	園田謙市	実務経験	通信設備会社勤務。在宅訪問介護サービス会社取締役。		
授業との関連性	通信会社や在宅訪問介護サービス会社においての経験を踏まえ、歯科科衛生士として患者管理や患者教育用資料を作成するためのパソコン操作について講義・演習をする。				
履修学年・学期	3年前期	授業方式	講義・実技	単位数	1単位(30時間)
授業回数	15				
授業目標	授業で勉強した基礎知識を総括し、まとめ、説明及び発表ができる資料作成を目標とする。				
評価方法	定期試験(100点満点)				
教科書名	なし				
参考文献	関連教科書				
履修上の注意	なし				
回	授業予定			到達目標	
1	全体講義 自己紹介、PCの可能性、歯科医院とPC、その他			PC全体像がわかる。	
2	作ろう！ 問診表①			問診に必要な項目を洗い出し検討することができる。	
3	作ろう！ 問診表②			Wordの操作が理解でき、問診表を作ることができる。	
4	作ろう！ 問診表③			Wordの操作が理解でき、問診表を作ることができる。	
5	作ろう！ 問診表④			Wordの操作が理解でき、問診表を作ることができる。	
6	う蝕治療(予防)①			う蝕予防に関する情報を検索することができる。(1回目)	
7	う蝕治療(予防)②			う蝕予防に関する情報を検索することができる。(2回目)	
8	う蝕治療(予防)③			Power Pointの使い方がわかる。	
9	う蝕治療(予防)④			Power Pointを使って患者にわかりやすい説明用資料が作成できる。(1回目)	
10	う蝕治療(予防)⑤			Power Pointを使って患者にわかりやすい説明用資料が作成できる。(2回目)	
11	う蝕治療(予防)⑥			Power Pointを使って患者にわかりやすい説明用資料が作成できる。(3回目)	
12	う蝕治療(予防)⑦			Power Pointを使って患者にわかりやすい説明用資料が作成できる。(4回目)	
13	Excel集計の考え方と方法①			Excelを使って、表計算、表作成、集計等ができる。(1回目)	
14	Excel集計の考え方と方法②			Excelを使って、表計算、表作成、集計等ができる。(2回目)	
15	全体講義 総評 他			PCの活用と歯科との関連について理解する。	